

MX Component Version 3

オペレーティングマニュアル

MITSUBISHI



統合FAソフトウェア
MELSOFT

SW3D5C-ACT-J

● 安全上のご注意 ●

(ご使用前に必ずお読みください)

本製品のご使用に際しては、本マニュアルおよび本マニュアルで紹介している関連マニュアルをよくお読みいただくと共に、安全に対して十分に注意を払って、正しい取扱いをしていただくようお願いいたします。

本マニュアルで示す注意事項は、本製品に関するもののみについて記載したものです。シーケンサシステムとしての安全上のご注意に関しては、CPUユニットのユーザーズマニュアルを参照してください。

この「安全上のご注意」では、安全注意事項のランクを「 警告」, 「 注意」として区分してあります。



警告

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、死亡または重傷を受ける可能性が想定される場合。



注意

取扱いを誤った場合に、危険な状況が起こりえて、中程度の傷害や軽傷を受ける可能性が想定される場合および物的損害だけの発生が想定される場合。

なお、 注意に記載した事項でも、状況によっては重大な結果に結びつく可能性があります。いずれも重要な内容を記載していますので必ず守ってください。

本マニュアルは必要なときに読めるよう大切に保管すると共に、必ず最終ユーザまでお届けいただくようお願いいたします。

【設計上の注意事項】



警告

- パソコンから運転中のシーケンサに対するデータ変更、状態制御は常にシステム全体が安全側に働くようにシーケンサシステムの外部でインタロック回路を構成してください。
また、周辺機器からシーケンサCPUへのオンライン操作において、ケーブルの接続不良などによる交信異常発生時のシステムとして処置方法を取り決めておいてください。



注意

- パソコンを運転中のCPUユニットに接続して行うオンライン操作（特に強制出力、運転状態の変更）はマニュアルを熟読し、十分に安全を確認してから行ってください。
操作ミスにより機械の破損や事故の原因になります。

● 製品の適用について ●

- (1) 当社シーケンサをご使用いただくにあたりましては、万一シーケンサに故障・不具合などが発生した場合でも重大な事故にいたらない用途であること、および故障・不具合発生時にはバックアップやフェールセーフ機能が機器外部でシステム的に実施されていることをご使用の条件とさせていただきます。
- (2) 当社シーケンサは、一般工業などへの用途を対象とした汎用品として設計・製作されています。したがって、以下のような機器・システムなどの特殊用途へのご使用については、当社シーケンサの適用を除外させていただきます。万一使用された場合は当社として当社シーケンサの品質、性能、安全に関する一切の責任（債務不履行責任、瑕疵担保責任、品質保証責任、不法行為責任、製造物責任を含むがそれらに限定されない）を負わないものとさせていただきます。

- ・ 各電力会社殿の原子力発電所およびその他発電所向けなどの公共への影響が大きい用途
- ・ 鉄道各社殿および官公庁殿など、特別な品質保証体制の構築を当社にご要求になる用途
- ・ 航空宇宙、医療、鉄道、燃焼・燃料装置、乗用移動体、有人搬送装置、娯楽機械、安全機械など生命、身体、財産に大きな影響が予測される用途

ただし、上記の用途であっても、具体的に用途を限定すること、特別な品質（一般仕様を超えた品質等）をご要求されないこと等を条件に、当社の判断にて当社シーケンサの適用可とする場合もございますので、詳細につきましては当社窓口へご相談ください。

改 訂 履 歴

※取扱説明書番号は、本説明書の裏表紙の左下に記載してあります。

印刷日付	※取扱説明書番号	改 訂 内 容
2002年 4月	SH(名)-080274-A	初版印刷
2002年 6月	SH(名)-080274-B	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部修正</div> ご使用上の注意事項, 6. 14. 1項 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部追加</div> 6. 14. 2項
2002年 9月	SH(名)-080274-C	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部修正</div> 6. 14. 1項, 6. 14. 2項, 付2. 3
2003年11月	SH(名)-080274-D	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部修正</div> ご使用上の注意事項, 1. 1節, 2. 1. 6項, 2. 2. 1項, 2. 2. 2項, 6. 1. 1項, 6. 2. 2項, 6. 8. 2項, 8. 2. 1項, 8. 2. 2項, 8. 3. 1項, 8. 3. 2項, 8. 4. 2項, 8. 5. 2項, 8. 6. 1項, 8. 7. 2項, 8. 10. 1項, 8. 12. 2項, <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部追加</div> 総称・略称について, 6. 14. 2項, 8. 6. 2項, 8. 10. 2項
2003年12月	SH(名)-080274-E	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部修正</div> ご使用上の注意事項, 用語の意味と内容, 1. 1節, 2. 2. 1項, 6. 1. 2項, 6. 2. 2項, 6. 3. 1項, 6. 8. 1項, 6. 8. 2項, 6. 13節, 6. 14. 2項, 6. 15. 1項, 8. 2. 1項, 8. 2. 2項 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部追加</div> 総称・略称について, 2. 2. 2項, 6. 1. 1項, 付3. 4
2004年 6月	SH(名)-080274-F	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">機種追加</div> Q12PRHCPU, Q25PRHCPU, FX _{3uc} CPU <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">新規追加</div> 付7 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部修正</div> 6. 1. 1項, 6. 11. 1項, 6. 14. 2項, 付1, 付3. 4, 付8 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部追加</div> 総称・略称について, 2. 1. 3項, 2. 1. 4項, 2. 1. 5項, 2. 1. 6項, 2. 1. 7項, 2. 2. 2項, 2. 3節, 2. 4節, 3. 2節, 8. 2節, 8. 3節, 8. 4節, 8. 5節, 8. 6節, 8. 7節, 8. 8節, 8. 9節, 8. 10節, 8. 11節, 8. 12節, 8. 14節
2004年 8月	SH(名)-080274-G	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">新規追加</div> 8. 16節 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部追加</div> ご使用上の注意事項, マニュアルについて, 2. 1. 5項, 2. 2. 1項, 2. 2. 2項, 2. 3節, 5. 2. 2項, 6. 1. 1項, 6. 11. 1項, 8章
2004年10月	SH(名)-080274-H	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">一部修正</div> 第1章, 6. 2. 2項

印刷日付	※取扱説明書番号	改 訂 内 容
2005年 8月	SH(名)-080274-I	<p>機種追加</p> <p>FX3U CPU</p> <p>一部追加</p> <p>総称・略称について、2.2.1項、2.2.2項、2.3節、2.4節、5.1.4項、8.2.1項、8.2.2項、8.3.1項、8.3.2項、8.4.1項、8.5.1項、8.6.1項、8.7.1項、8.7.2項、8.8.1項、8.9.1項、8.10.1項、8.11.1項、8.12.1項、8.12.2項、8.14.1項、8.14.2項</p>
2006年11月	SH(名)-080274-J	<p>一部修正</p> <p>1.1節、2.1.6項、2.1.7項、2.2節、2.2.1項、2.2.2項</p>
2007年10月	SH(名)-080274-K	<p>機種追加</p> <p>Q02UCPU, Q03UDCPU, Q04UDHCPU, Q06UDHCPU</p> <p>新規追加</p> <p>2.1.8項、6.13節、8.13節、付8</p> <p>一部修正</p> <p>6.13節～6.15節→6.14節～6.16節、8.13節→8.14節、付8→付9</p> <p>一部追加</p> <p>ご使用上の注意事項、マニュアルについて、総称・略称について、2.1.1項～2.1.7項、2.2節、2.3節、2.4節、3.2.1項、3.2.2項、4.1節、5.1.2項、5.1.6項、5.2.2項～5.2.5項、6.4.1項、7章、8.2節～8.12節、8.15節～8.17節、付2.2～付2.5、付7</p>
2008年 6月	SH(名)-080274-L	<p>機種追加</p> <p>Q13UDHCPU, Q26UDHCPU</p> <p>一部修正</p> <p>ご使用上の注意事項、マニュアルについて、総称・略称について、2.1.1項～2.1.8項、2.2.1項、2.2.2項、2.3節、2.4節、4.1節、5.1.2項、5.1.6項、6.4.1項、6.13節、6.13.1項、7章、8.2.1項～8.13.2項、8.15.1項、8.15.2項、付2.2～付2.5、付3.4、付8、付8.1、付8.2</p>
2008年 9月	SH(名)-080274-M	<p>機種追加</p> <p>Q02PHCPU, Q03UDECPU, Q04UDEHCPU, Q06UDEHCPU, Q06PHCPU, Q13UDEHCPU, Q26UDEHCPU, QS001CPU</p> <p>新規追加</p> <p>6.3節、8.3.3項</p> <p>一部修正</p> <p>ご使用上の注意事項、総称・略称について、1.1節、2.1.2項～2.1.7項、2.2.1項、2.2.2項、2.4節、5.2.5項～5.2.7項、6.2節、6.4節～6.17節、7章、8.2.1項～8.15.2項、8.17.2項、付5、付7</p>

印刷日付	※取扱説明書番号	改訂内容
2008年12月	SH(名)-080274-N	<p>機種追加</p> <p>Q00UCPU, Q00UJCPU, Q01UCPU, Q10UDHCPU, Q10UDEHCPU, Q20UDHCPU, Q20UDEHCPU, FX3gCPU</p> <p>新規追加</p> <p>付10</p> <p>一部追加</p> <p>ご使用上の注意事項, 総称・略称について, 2.2.1項, 2.2.2項, 2.3節, 2.4節, 5.1.2項, 6.1.1項, 7章, 8.2.1項, 8.2.2項, 8.3.1項, 8.3.2項, 8.3.3項, 8.4.1項, 8.4.2項, 8.5.1項, 8.5.2項, 8.6.1項, 8.7.1項, 8.8.1項, 8.9.1項, 8.10.1項, 8.11.1項, 8.12.1項, 8.13.1項, 8.15.1項, 付3.4, 付9</p>
2009年12月	SH(名)-080274-0	<p>機種追加</p> <p>L02CPU, L26CPU-BT</p> <p>一部追加</p> <p>安全上のご注意, 製品の適用について, ご使用上の注意事項, マニュアルについて, 総称・略称について, 2.2.1項, 2.2.2項, 2.2.4項, 5.2.6項, 6.1.1項, 8.2節~8.13節, 8.15節, 8.17節, 付8.1</p>
2010年 5月	SH(名)-080274-P	<p>機種追加</p> <p>Q50UDEHCPU, Q100UDEHCPU, Q12DCCPU-V</p> <p>新規追加</p> <p>6.13節, 6.13.1項, 6.19節, 6.19.1項, 8.18節~8.19.2項</p> <p>一部修正</p> <p>6.13節~6.17節→6.14節~6.18節</p> <p>一部追加</p> <p>ご使用上の注意事項, マニュアルについて, 総称・略称について, 1.1節, 2.1.1項~2.1.8項, 2.2.1項~2.4節, 4.1節, 5.1.2項, 5.1.6項, 6.5.1項, 7章, 8.2.1項, 8.2.2項, 8.3.1項~8.3.3項, 8.4.1項, 8.4.2項, 8.5.1項, 8.5.2項, 8.6.1項, 8.6.2項, 8.7.1項, 8.7.2項, 8.8.1項, 8.8.2項, 8.9.1項, 8.9.2項, 8.10.1項, 8.10.2項, 8.11.1項, 8.11.2項, 8.12.1項, 8.12.2項, 8.13.1項, 8.13.2項, 8.15.1項, 8.15.2項, 8.17.2項, 付2.2~付2.5, 付7, 付8, 付9.3~付9.5</p>
2010年11月	SH(名)-080274-Q	<p>一部修正</p> <p>2.2.1項, 6.3.1項, 8.3.3項, 8.19.1項</p>

印刷日付	※取扱説明書番号	改 訂 内 容
2011年5月	SH(名)-080274-R	<div data-bbox="576 255 715 291" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">新規追加</div> <p data-bbox="571 309 1082 338">2. 1. 9項, 6. 4節, 6. 17節, 8. 3. 4項, 8. 14節</p> <div data-bbox="576 349 715 385" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一部修正</div> <p data-bbox="571 403 1414 616">6. 4節～6. 15節→6. 5節～6. 16節, 6. 16節～6. 19節→6. 18節～6. 21節, 7章, 8. 2. 1項, 8. 2. 2項, 8. 3. 1項, 8. 3. 2項, 8. 3. 3項, 8. 4. 1項, 8. 4. 2項, 8. 5. 1項, 8. 5. 2項, 8. 7. 1項, 8. 7. 2項, 8. 8. 1項, 8. 8. 2項, 8. 9. 1項, 8. 9. 2項, 8. 12. 1項, 8. 12. 2項, 8. 13. 1項, 8. 13. 2項, 8. 14節～8. 19節→8. 15節～8. 20節, 8. 16. 1項, 8. 16. 2項, 8. 20. 1項, 8. 20. 2項, 付9</p> <div data-bbox="576 629 715 665" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一部追加</div> <p data-bbox="571 683 1414 786">総称・略称について, 2. 1. 1項, 2. 1. 2項, 2. 1. 3項, 2. 1. 4項, 2. 1. 5項, 2. 1. 6項, 2. 1. 7項, 2. 1. 8項, 2. 2. 1項, 2. 2. 2項, 2. 3節, 5. 1. 6項, 8. 20. 2項, 付2. 5</p>
2013年5月	SH(名)-080274-S	<div data-bbox="576 799 715 835" style="border: 1px solid black; padding: 2px;">一部修正</div> <p data-bbox="571 853 916 882">6. 1. 1項, 6. 10. 1項, 6. 19. 1項</p>

本書によって、工業所有権その他の権利の実施に対する保証、または実施権を許諾するものではありません。また本書の掲載内容の使用により起因する工業所有権上の諸問題については、当社は一切その責任を負うことができません。

ご使用上の注意事項

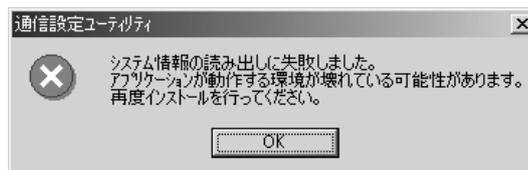
本項では下記の順序で注意事項の説明を行っています。

- ① 使用するOS, パソコンの注意事項
- ② インストール, アンインストール時の注意事項
- ③ シーケンサCPU関連の注意事項
- ④ 他MELSOFT製品使用時の注意事項
- ⑤ Ethernetユニット使用時の注意事項
- ⑥ CC-Linkユニット使用時の注意事項
- ⑦ MELSECNET(Ⅱ), MELSECNET/10, MELSECNET/H使用時の注意事項
- ⑧ 計算機リンクユニット, シリアルコミュニケーションユニット使用時の注意事項
- ⑨ モデム通信時の注意事項
- ⑩ プログラミング時の注意事項
- ⑪ Microsoft® Excel使用時の注意事項
- ⑫ Microsoft® Access使用時の注意事項
- ⑬ VBScript, ASP機能使用時の注意事項

使用するOS, パソコンの注意事項

- (1) Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0, Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System, Windows® XP, Windows Vista® およびWindows® 7使用時について
Administrator権限のないユーザでMX Componentを動作させる場合、以下の制約があります。
 - (a) 通信設定ユーティリティ
 - ・ 論理局番の作成, 変更, および削除が行えません。
 - ・ 通信設定のインポートが行えません。
 - ・ MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合, 起動できません。*1
 - (b) シーケンサモニタユーティリティ
 - ・ MX Component Version 3.00Aより前のバージョンで通信設定を行っている場合, 起動できません。*1
 - ・ デバイス登録モニタで, デバイス登録が行えません。
 - (c) 通信ボード
 - ・ CC-Link IEコントローラネットワーク, MELSECNET/H, MELSECNET/10, MELSECNET(Ⅱ), CC-Link, AF, CPUボードの各ユーティリティで, 各種設定が行えません。

*1: 以下のエラーメッセージが表示された場合、一度Administrator権限のあるユーザでユーティリティを起動・終了してください。
その後はAdministrator権限のないユーザでも、ユーティリティが起動できるようになります。



- (2) Microsoft® Windows® 95 Operating SystemにおけるEthernet通信, 計算機リンク通信およびCPU COM通信について
- (a) OSR2より古いバージョンのWindows® 95上でTCP/IPおよびUDP/IPを使用したEthernet通信を行うと、メモリーリークが発生します。
Windows® 95上で連続稼働を行う場合は、Windows® 95 OSR2以降を使用してください。
- (b) Windows® 95上では、計算機リンク通信およびCPU COM通信などのCOMポートを使用した通信を行うと、メモリーリークが発生しますので連続稼働は行わないでください。
- (3) Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System使用時の注意事項
MX Componentは、オペレーティングシステムによる「システムの復元機能」が無効な状態での使用は推奨されていません。
システムドライブの空き容量が200MB以下になると、オペレーティングシステムにより「システムの復元機能」が無効になってしまいますので、Windows® Meを使用する場合は、システムドライブに200MB以上の空き容量を確保してください。
- (4) パソコンのレジューム機能などについて
パソコンのレジューム機能・サスペンド設定・省電力機能・スタンバイモードを設定してシーケンサCPUと交信すると、交信エラーが発生することがあります。
そのため、シーケンサCPUと交信する場合は、上記機能の設定を行わないでください。
- (5) DEP(データ実行防止)機能による制限
Windows® XP Service Pack2以降、Windows Vista® およびWindows® 7使用時に、DEP機能による制限があります。
詳細については、“付9. DEP機能に関する制限事項”を参照してください。

インストール, アンインストール時の注意事項

- (1) インストールについて
- (a) 上書きインストールを行う場合は、すでにインストールされているフォルダと同じフォルダにインストールしてください。
- (b) MX Componentがインストール済みのパソコンにMELSECボードドライバやGX Developerをインストールすると、特定の経路(AJ71E71のASCIIパケットなど)を使用した通信が、受信エラーやデバイス番号エラーなどになる可能性があります。
これらの現象が発生した場合は、MX Componentを上書きインストールしてください。
- (2) 1台のDOS/Vパソコンに2種類のOSがインストールされているデュアルブートマシンでインストール, アンインストールを行う際の注意事項
Windows NT® Workstation 4.0 (以下OS1と略します。)とWindows® 95またはWindows® 98 (以下OS2と略します。)のデュアルブートマシンで、始めにOS1でMX Componentをインストールし、次にOS2で同じフォルダにMX Componentを上書きインストールした場合、以下の点に注意してください。
- (a) OS2側で先にMX Componentをアンインストールした場合、アンインストールを行っても各コントロールDLLやACTフォルダは削除されず、DOS/Vパソコン内に残ります。
各コントロールDLLやACTフォルダを削除するためには、OS1側でもアンインストールを行ってください。

(b) OS1側で先にMX Componentをアンインストールした場合、各コントロールDLLやACTフォルダは削除されます。

この場合、OS2側ではMX Componentが正常に動作しなくなったりアンインストールができなくなったりします。

OS2側のMX Componentを正常に動作させる、またはアンインストールを行うためには、OS2側で再度MX Componentをインストールしてください。

(3) スタートメニューについて

MX Componentをアンインストールした場合に、スタートメニューに項目が残ることがあります。

その場合は、DOS/Vパソコンを再起動してください。

シーケンサCPU関連の注意事項

(1) 伝送速度について

QCPU (Qモード) , LCPUおよびQCPU (Aモード) は、9600bps, 19200bps, 38400bps, 57600bps, 115200bpsが設定可能です。

バージョン9707B以降のQnACPUは、9600bps, 19200bps, 38400bpsに設定することができます。

その他のQnACPUは、9600bps, 19200bpsが設定可能です。

また、ACPU (A2USHCPU-S1を除く) , FXCPU, モーションコントローラCPUは9600bps固定です。(A2USHCPU-S1は19200bpsが設定可能)

(2) USB通信時の注意事項

シーケンサCPUと交信中にUSBケーブルの脱着、シーケンサCPUのリセットおよび電源のOFF/ONを頻繁に行うと、交信エラーが発生し復旧しない場合があります。

その場合は、USBケーブルを一度完全に抜いて5秒以上経過後に再度装着してください。

なお、本操作後も初回交信時にエラーとなる場合がありますが、2回目以降は正常に機能します。

(3) シーケンサCPUの時計データについて

(a) ACPU (モーションコントローラCPUを含む) では、シーケンサCPUがSTOP状態の場合にのみ実行可能です。

QCPU (Qモード) , LCPU, QCPU (Aモード) , QnACPUおよびFXCPUでは、シーケンサCPUがRUN状態でも実行可能です。

(b) A0J2HCPU, A2CCPU, A2CJCPUは時計機能を持たないため設定を行えません。

(c) ACPUは、時計設定用の特殊リレー “M9028” のON/OFF状態に関係なく設定を行うことができます。(ただし、実行後に特殊リレー “M9028” はOFFとなります。)

また、QCPU (Qモード) , LCPU, QCPU (Aモード) およびQnACPUは、時計設定用デバイス “SM1028” のON/OFF状態に関係なく設定を行えます。

(d) FXCPUはFX_{1N} (時計内蔵) , FX_{1NC} (時計内蔵) , FX_{1S} (時計内蔵) , FX_{2N} (時計内蔵) , FX_{2NC} (RTCカセット装着時) , FX₂ (RTCカセット装着時) , FX_{2C} (RTCカセット装着時) , FX_{3G} (時計内蔵) のみ設定可能です。

(e) 時計設定は、転送時間分の誤差が生じますのでご注意ください。

- (4) **Q4ARCPU使用時の注意事項**
2重化機能を使用しているQ4ARCPUへはアクセスできません。
- (5) **FXCPU使用時の制約事項**
- (a) FXCPU使用時のTNデバイス（タイマ現在値）およびCNデバイス（カウンタ現在値）へのアクセスは、デバイス番号199以前からデバイス番号200を越えてアクセスすることはできません。
 - (b) FXCPUは、シーケンサCPUとしてPAUSEスイッチを持たないため、SetCpuStatusでリモートPAUSEを指定するとエラーを返します。
 - (c) ユニットが存在しない先頭I/O番号を指定してWriteBuffer()メソッドを実行しても、エラーは返りませんので注意してください。
 - (d) FXCPUのインデックスレジスタ（Z,V）に対して、WriteDeviceBlock()で2点以上を連続して書き込むことはできません。（1点のみ書き込み可能です。）
- (6) **Q00UJ/Q00/Q00U/Q01/Q01U/Q02UCPU*1のシリアルコミュニケーション機能**
*1: 本項では、Q00UJ/Q00/Q00U/Q01/Q01U/Q02UCPUをシリアルコミュニケーション機能対応CPUと記載します。
下記の条件をすべて満たすときは、パソコンーシリアルコミュニケーション機能対応CPU間の通信速度は9600bpsです。
- ① 接続CPUのシリアルコミュニケーション機能が有効になっている。
 - ② パソコン側伝送速度設定とシリアルコミュニケーション機能対応CPU側伝送速度設定が異なっている。
- なお、通信速度を向上させたい場合は、パソコン側伝送速度とシリアルコミュニケーション機能対応CPU側伝送速度を一致させてください。
- (7) **Ethernetポート内蔵CPU使用時の注意**
MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中（Open中）にシーケンサCPUをリセットすると、それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。その場合は、MX Componentを使用するアプリケーション内でクローズ処理をしたあと、再度オープン処理を行ってください。
- (8) **QSCPU使用時の注意**
安全シーケンサシステムを保護するため、バッファメモリに対する書込み、デバイスに対する書込み・設定、時計データの書込みを行う関数は実行できません。

他MELSOFT製品使用時の注意事項

- (1) **GX Developerとの共存について**
E71ユニットによるEthernet通信時は、GX Developerと同時に同一ユニットを使用する場合、以下に示す設定を行ってください。
- (a) 通信設定ウィザード画面のプロトコルを“UDP/IP”に設定する。
 - (b) E71ユニットの交信設定スイッチの“SW2”をOFF（バイナリ使用）にする。
- (2) **GX Simulator通信時の注意事項**
モニタユーティリティ、通信設定ユーティリティおよびユーザプログラムを実行する際は、GX SimulatorおよびGX Developerが起動していることを確認してください。
また、ユーザプログラム実行中に、GX SimulatorおよびGX Developerを終了しないでください。
ユーザプログラムが正常に終了できなくなります。

Ethernetユニット使用時の注意事項

(1) TCP/IPコネクション確立中のシーケンサCPUリセット

MX Componentを使用してTCP/IPコネクション確立中（Open中）に、シーケンサCPUをリセットすると、それ以降の通信時に通信エラーや受信エラーが発生します。その場合は、MX Componentを使用するアプリケーション内でクローズ処理をしたあと、再度オープン処理を行ってください。

(2) Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔*1について

DOS/Vパソコンからクローズ処理(Close)を実行しても、Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない場合があります。このような原因の1つに、ケーブルの断線があげられます。

Ethernetユニットがクローズ処理(Close)を実行しない状態でDOS/Vパソコンからオープン処理(Open)を実行しても、Ethernetユニットが対象先生存確認を行い、Ethernetユニットのクローズ処理(Close)を実行するまでは、DOS/Vパソコンからのオープン処理(Open)は正常終了しません。

DOS/Vパソコンからオープン処理(Open)を早期に終了させたい場合は、Ethernetユニットの対象先生存確認間隔を短く設定してください。

(Ethernetユニットの対象先生存確認開始間隔は、デフォルトでは10分となっています。)

*1：E71では、AJ71E71-S3以降で設定可能です。

(3) Ethernetユニットの交換

Ethernet通信を行っている際、デバッグや故障などによりEthernetユニットを交換した場合は、他ノード（DOS/Vパソコン）側の再起動が必要となります。

(Ethernetアドレス（MACアドレス）が機器ごとに異なっているため)

(4) Qシリーズ対応Ethernetユニット使用時の同時アクセスについて

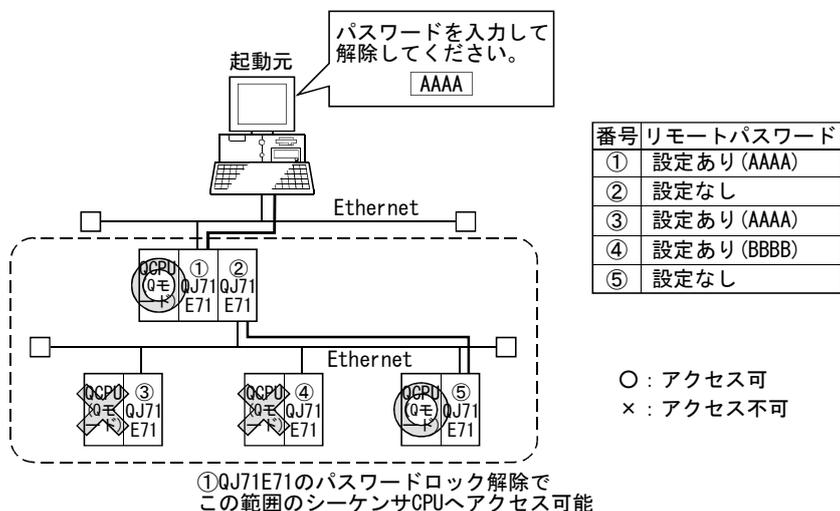
複数のDOS/Vパソコンから同一ユニットにTCP/IPプロトコルを用いて同時に通信を行う場合は、下記の条件を満たしてください。

- ・ シリアルNo. の上5桁が“02122”以降で機能バージョンB以降のQシリーズ対応E71ユニット(QJ71E71-100を除く)を使用する。
- ・ GX Developer Version 6.05F以降を使用して、Ethernetパラメータの[オープン方式]を“MELSOFT接続”に設定する。

(5) QJ71E71使用時のパスワードロック解除について

遠隔操作によりパスワードロックを解除できる範囲は、接続対象局までです。

下位階層側にもパスワードが設定されていると、下位の階層のシーケンサCPUと交信することはできません。



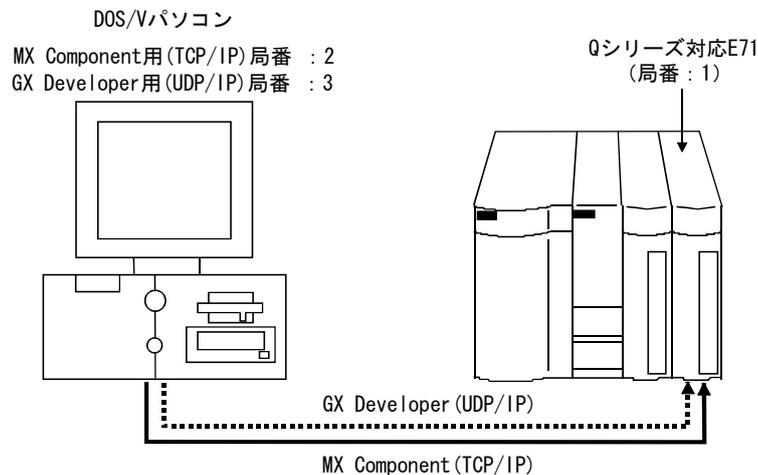
(6) Q4ARCPUを使用する場合について

Ethernet通信のUDP/IPプロトコルを使用する場合は、Q4ARCPUの製造年月が“0012”以降で、機能バージョンB以降の製品を使用してください。

(7) Ethernet通信について

- (a) QnACPU, AnUCPU, QCPU (Aモード) およびモーションコントローラCPUにE71経由でアクセスする場合、デバイス範囲はAnACPU相当となります。
- (b) Ethernet通信にてシーケンサCPUにアクセスする場合、シーケンサCPUの状態により関数が実行できない場合があります。
 - ① プロトコルがTCP/IPの場合 (対象ユニット: E71, QE71)
通信対象のシーケンサCPUがRUNのときのみ実行可能となります。
シーケンサCPUがRUN以外の場合は、エラーが返ります。
 - ② プロトコルがUDP/IPの場合 (対象ユニット: E71, QE71)
シーケンサCPUを1度RUNするまでは、実行することができません。
シーケンサCPUを1度もRUNしていない場合は、エラーが返ります。
- (c) Ethernet通信 (プロトコルがTCP/IPの場合) にCPUダウンまたはEthernetユニットのリセットが発生すると、通信回線が切断されます。
その場合は回線クローズ処理(Close)を実行後、再オープン処理(Open)を行ってください。
- (d) 1台のDOS/Vパソコンから2種類の通信方式 (プロトコル) を使用して1台のQシリーズ対応E71にアクセスを行う場合、TCP/IP用局番とUDP/IP用局番の2通りを設定する必要があります。ただし、MX Component Version 3以降とシリアル番号“05051”以降のQシリーズ対応E71を使用する場合は、TCP/IP用局番およびUDP/IP用局番を別々に設定する必要はありません。

(例) MX ComponentがTCP/IP, GX DeveloperがUDP/IPを使用する場合



MX Component用(TCP/IP)局番とGX Developer用(UDP/IP)用局番は、異なる局番に設定してください。
同一局番に設定すると、Ethernetユニット側でエラーが発生します。

(8) E71およびQE71のスイッチ設定について

E71およびQE71を使用したEthernet通信時に発生したエラーの、エラーコード下4桁がE71およびQE71のマニュアルに記載されていない場合、E71およびQE71のディップスイッチ(SW2)を確認してください。

ディップスイッチが正しく設定されていない場合、パケット形式(ASCII/バイナリ)に違いが発生するため、ユニットから返されたエラーコードを正しく認識できなくなります。

CC-Linkユニット使用時の注意事項

- (1) CC-Linkマスタ・ローカルユニットのソフトウェアバージョン
CC-Link通信, CC-Link G4通信 (AJ65BT-G4使用時のみ) で使用するCC-Linkマスタ・ローカルユニットは, ソフトウェアバージョン“N”以降を使用してください。
“M”以前のソフトウェアバージョンのユニットでは, 正常に動作しません。
- (2) CC-Link G4ユニットのソフトウェアバージョン
CC-Link G4通信 (AJ65BT-G4使用時のみ) で使用するCC-Link G4ユニットは, ソフトウェアバージョン“D”以降を使用してください。
“C”以前のソフトウェアバージョンのユニットでは, 正常に動作しません。

MELSECNET (II) , MELSECNET/10, MELSECNET/H使用時の注意事項

- (1) MELSECNET/10装着局からの経路について
AnNCPU, AnACPUに装着している場合は, MELSECNET(II)として認識されます。
接続局がAnNCPU, AnACPUの場合は, 経路ネットワークをMELSECNET(II)に設定してください。
また, 管理局にアクセスする場合は, 局番を“0”に設定してください。
- (2) MELSECNET (II) 経路時の注意事項
QnACPU, AnUCPU, QCPU (Aモード) およびモーションコントローラCPUにMELSECNET (II)経路でアクセスする場合, デバイス範囲はAnACPU相当となります。

計算機リンクユニット, シリアルコミュニケーションユニット使用時の注意事項

- (1) 計算機リンク通信について
 - (a) 計算機リンク接続時, 接続局がAnUCPUで計算機リンクユニットがUC24の場合, MELSECNET/10経路でAnNCPU, AnACPU, QnACPUにアクセスすると, リモート操作がエラーとなります。
 - (b) UC24およびC24以外の計算機リンクユニットでは, すべての接続でリモート操作“PAUSE”がエラーとなります。
 - (c) QC24は, ユニットが存在しない先頭I/0番号を指定してU*YGを讀出し/書込みするイリーガルケースに対し, ソフトウェアバージョンが“k”以前のユニットではエラーが返りませんので注意してください。
 - (d) UC24およびC24で, QnACPUを対象局とするすべての接続形態(直結/経路)で時計データ讀出し/書込みを実行すると, エラーが返ります。
 - (e) FX0N, FX1S, FX1N(C), FX2N(C), FX3G, FX3U(C)CPUで計算機リンク通信をする場合は, FX拡張ポートが必要です。
- (2) パソコンとシリアルコミュニケーションユニットを接続する際の注意事項
 - (a) QJ71C24-R2の機能バージョンAを使用する場合
MX Componentアプリケーションは, CH1またはCH2のどちらか一方しか使用できません。
また, GX Developer, GOTなどのMELSOFT製品が片方のチャンネルを使用している場合は, 他方のチャンネルを使用できません。
ただし, 機能バージョンBのQJ71C24-R2を使用している場合は, 両チャンネルが使用可能です。

- (b) AJ71QC24-R2, A1SJ71QC24-R2, AJ71QC24N-R2, A1SJ71QC24N-R2を使用する場合
MX Componentアプリケーションは、CH1のみ使用可能です。
CH2は使用できません。

モデム通信時の注意事項

(1) モデム通信時の他アプリケーションとの共存

モデム通信を行う場合、MX ComponentとGX Developerなどの他アプリケーションは、同時に通信を行うことはできません。

MX Componentでモデム通信を行う場合は、他アプリケーションでモデム通信を行わないようにしてください。

MX Componentと他アプリケーションを使用して同時にモデム通信を行った場合、通信エラー、電話回線の切断などの現象が発生します。

(2) 電話回線使用時の注意事項

- (a) キャッチホン回線は使用しないでください。

キャッチホン回線では、割込みの読出し音によりデータの乱れ、電話回線の切断などが発生する場合があります。

- (b) 親子電話への回線接続は行わないでください。

親子電話への電話回線接続中に子機などの受話器を上げた場合、電話回線が切断される恐れがあります。

- (c) 電話回線はアナログ2線式を使用してください。

デジタル回線を使用する場合、ターミナルアダプタを使用してください。

また、電話回線が4線式の場合、モジュラジャックの配線タイプにより回線接続できないことがあります。

4線式の場合は事前に接続テストを行い、接続可否を確認してください。

- (d) 通信プロトコルがNTT相当の電話回線を使用してください。

(3) 携帯電話、PHS使用時の注意事項

- (a) 携帯電話を使用して無線通信を行う場合のモデムについて

各メーカーによりモデムの名称が異なりますが、本マニュアルでは携帯電話用通信ユニットと総称します。

使用する携帯電話に合わせて、携帯電話用通信ユニットの機種を選択してください。

詳細は、ご使用の携帯電話会社へお問い合わせください。

- (b) PHSを使用して無線通信を行う場合のモデムについて

アナログ携帯電話接続アダプタを使用してください。

詳細は、ご使用のPHS電話会社へお問い合わせください。

- (c) 自動着信機能のない携帯電話について

自動着信機能のない携帯電話は、ANS/ORG/TEL切換えスイッチがある携帯電話用通信ユニットを使用してください。

ANS/ORG/TEL切換えスイッチのない携帯電話用通信ユニットを使用した場合、回線接続することができません。

なお、携帯電話会社および携帯電話の機種により回線接続の手順が異なります。

詳細は、ご使用のメーカーにお問い合わせください。

プログラミング時の注意事項

- (1) **サンプルプログラム, テストプログラム, サンプルシーケンスプログラムについて**
 - (a) **サンプルプログラム, テストプログラム**

サンプルプログラムは, ユーザプログラムを作成する際に参考にしていただくために添付しています。

また, テストプログラムは通信テストを行うために添付しています。

これらのご使用に関しては, お客様の責任においてご使用ください。
 - (b) **サンプルシーケンスプログラム**

MX Componentに添付しているサンプルシーケンスプログラムは, システム構成, パラメータの設定によって内容の変更が必要になります。

システムに最適な内容に修正してください。

また, サンプルシーケンスプログラムのご使用に関しては, お客様の責任においてご使用ください。
- (2) **通信中のプロセスの強制終了について**

複数のプロセスで同種のコントロールをオープンして通信を行っている場合, タスクマネージャなどによりプロセスを強制終了すると, 他プロセスが通信関数実行部分で停止することがあります。
- (3) **通信開始時のエラーについて**

通信診断ボタンの押下時, モニタ開始時, 各関数実行時などの通信開始時に, 設定されたタイムアウト値以内に通信エラーが発生する場合があります。

これらは, タイムアウトエラー以前にエラーが検出された場合です。

(例: 通信ケーブルが接続されていない, シーケンサ電源OFF時など)
- (4) **CheckDeviceString**

各ACTコントロールにはCheckDeviceStringメソッドがありますが, 使用しないでください。
- (5) **ActUMsgコントロール, ActUWzdコントロール**

MX Componentをインストールすると, ActUMsgコントロールおよびActUWzdコントロールが登録されますが, 使用しないでください。
- (6) **Act (ML) QJ71E71TCP, Act (ML) AJ71QE71TCP および Act (ML) AJ71E71TCP コントロール 使用時の注意事項**
 - (a) Openメソッド実行後, Closeメソッドを実行するまでに, Ethernetユニット装着局のシーケンススキャンタイム以上の間隔を置いてください。
 - (b) Closeメソッド実行後, 再度Openメソッドを実行するまでに最低500ms以上間隔を置いてください。
- (7) **Disconnect実行時の注意事項**

なんらかの原因によりDisconnectを実行しても電話回線が切断できない場合, 電話を掛けたモデムの電源を切り, 強制的に電話回線を切断するようにしてください。

(1) Windows® Me上でのExcelファイル複数起動の注意事項

コントロールオブジェクトが多数使用されているExcelファイルを複数実行した場合に、Windows® Meが停止してしまう現象が確認されていますのでご注意ください。

*本現象は、本製品に起因するものではありません。

(a) 本現象が確認されている条件

グラフィックドライバ : Matrox社製 MGA Mystiqueディスプレイドライバ
OS : Windows® Me(日本語版)
Excelファイルに貼り付けられているコントロール数 : BOOK全体で合計150個以上使用

<その他弊社で確認した機材(参考)>

コンピュータスペック

CPU : Pentium® 166MHz
メモリ : 64MB
ハードディスク : 8GB (空き容量6GB)

(b) 原因

Matrox社製MGA Mystiqueグラフィックカード用ディスプレイドライバを利用した際に発生していることが確認されています。

MGA Mystiqueグラフィックカード用ディスプレイドライバのVersion 4.12は、Windows® Meには対応していないためです。

(c) 同様の現象かどうかの判別方法

使用しているグラフィックドライバを標準VGAドライバに変更後、テンポラリフォルダに残されたテンポラリデータ(*.emf)を削除してください。

その後、複数のExcelファイルを起動してください。

標準VGAドライバに変更することにより本現象が発生しない場合は、同様の現象であると思われます。

(d) 対処方法

本現象が発生すると、システムのテンポラリフォルダにテンポラリデータ(*.emf)が残ってしまいます。

そのため、残ったテンポラリデータ(*.emf)を手動で削除する必要があります。システムのテンポラリフォルダは、通常“C:\Temp”にあります。

その後、下記のいずれかの対処を行ってください。

- ① Windows® Meに対応したグラフィックカードおよびディスプレイドライバを使用する。
- ② Excelファイルに貼り付けるコントロールオブジェクト数を減らす。

(2) EXCEL VBA使用時の注意事項

EXCEL VBAを使用したアプリケーションに、改ページプレビュー機能を設定しないでください。

メモリリークの発生、OS基本操作(ファイル操作、印刷など)の異常といった現象が発生する恐れがあります。

(3) Microsoft® Excel使用時の注意事項

(a) Excelにコントロールの貼り付けを行っても、貼り付かない場合があります。この現象は、Excelのキャッシュファイル(一時ファイル)が残っている場合に発生します。

その場合は、下記の手順にて操作してください。

- ① Excelを終了する。
- ② tempフォルダ*1のExcel8.0フォルダにある“*.exd”を削除する。*2
- ③ Excelを再起動する。

*1: tempフォルダは、OSによって場所が異なります。

*2: 該当フォルダ、ファイルが表示されていない場合は、フォルダオプションの設定ですべてのファイルとフォルダを表示するように設定してください。

- (b) ExcelではACTコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。
サイズを元に戻す場合は、ACTコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを“24”に設定し直してください。

Microsoft® Access使用時の注意事項

(1) Microsoft® Access使用時の注意事項

- (a) ACTコントロールをAccessフォームに貼り付けて、ACTコントロールのダブルクリックまたはプロパティ中のカスタムコントロールを選択すると以下のエラーメッセージが表示されますが、ACTコントロールの動作には影響はありません。
(他のエラーメッセージが表示される場合もあります。)



- (b) ACTコントロールを貼り付けてプロパティの表示を行った場合に、プロパティ名が途切れて表示される場合があります。
この現象は、プロパティの表示だけの問題のため、プロパティの機能については問題ありません。
- (c) AccessではACTコントロールのサイズ変更ができますが、MX Componentの動作には影響ありません。
サイズを元に戻す場合は、ACTコントロールのHeightプロパティとWidthプロパティを“24”に設定し直してください。

VBScript, ASP機能使用時の注意事項

(1) VBScript使用時のインターネット/イントラネットのセキュリティ

MX Componentには、インターネット/イントラネットのセキュリティ機能はありません。
セキュリティ機能が必要な場合は、ユーザにて設定を行ってください。

(2) Windows® 2000 Professional使用時に、ASPページとアプリケーション*1でCPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet (TCP/IP) 通信を行う場合の注意事項

ASPページが、アプリケーションより先にCPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet (TCP/IP) 通信のオープンを実行すると、アプリケーションでは、ASPページのクローズをするまで同一経路による通信ができなくなりますので、次の点に注意してください。

- (a) CPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet (TCP/IP) 通信のオープン、アプリケーションを先に実行するようにしてください。
アプリケーションにてオープン後は、クローズが実行されるまでは、アプリケーション、ASPページ共に通信が可能です。
- (b) ASPページでCPU COM通信、計算機リンク通信、CC-Link G4通信およびEthernet (TCP/IP) 通信のオープンを実行した場合は、必ずクローズを実行するようにしてください。

*1：アプリケーションとは、MXシリーズを利用して作成されたユーザアプリケーションおよびMELSOFT製品を示します。

はじめに

このたびは、三菱統合FAソフトウェアMELSOFTシリーズをお買い上げいただきまことにありがとうございます。ありがとうございました。

ご使用前に本書をよくお読みいただき、MELSOFTシリーズの機能・性能を十分ご理解のうえ、正しくご使用くださるようお願いいたします。

目次

安全上のご注意	A- 1
製品の適用について	A- 2
改訂履歴	A- 3
ご使用上の注意事項	A- 7
はじめに	A-18
目次	A-18
マニュアルについて	A-23
マニュアルの見方	A-24
総称・略称について	A-25
用語の意味と内容	A-28

1 概要 1- 1~1- 6

1.1 特長	1- 1
--------	------

2 システム構成 2- 1~2-37

2.1 システム構成一覧	2- 1
2.1.1 Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0使用時	2- 1
2.1.2 Windows® 95 Operating System使用時	2- 2
2.1.3 Windows® 98 Operating System使用時	2- 3
2.1.4 Windows® 2000 Professional Operating System使用時	2- 4
2.1.5 Windows® Millennium Edition Operating System使用時	2- 5
2.1.6 Windows® XP Professional Operating System使用時	2- 6
2.1.7 Windows® XP Home Edition Operating System使用時	2- 7
2.1.8 Windows Vista® Operating System使用時	2- 8
2.1.9 Windows® 7 Operating System使用時	2- 9
2.2 各通信形態を使用する場合のシステム構成	2-10
2.2.1 システム構成	2-10
2.2.2 各通信形態の詳細内容	2-12
2.3 動作環境	2-33
2.4 使用可能シーケンサCPU	2-36

3 操作手順 3- 1~3- 6

3.1 開発タイプの選択	3- 1
3.2 ユーザアプリケーションの作成手順	3- 2
3.2.1 Visual Basic® 6.0/Visual Basic® .NETを使用する場合	3- 2
3.2.2 Visual C++® 6.0/Visual C++® .NETを使用する場合	3- 3
3.2.3 VBAを使用する場合	3- 4
3.2.4 VBScriptを使用する場合	3- 5

3.3 シーケンサモニタユーティリティの操作手順	3- 6
--------------------------	------

4 ユーティリティの共通操作	4- 1~4- 4
-----------------------	------------------

4.1 ユーティリティを起動する	4- 1
4.2 ユーティリティを終了する	4- 3
4.3 バージョンを確認する	4- 4

5 ユーティリティの操作	5- 1~5-32
---------------------	------------------

5.1 通信設定ユーティリティ	5- 1
5.1.1 通信設定画面の操作	5- 2
5.1.2 一覧表示画面の操作	5- 3
5.1.3 通信テスト画面の操作	5- 4
5.1.4 通信設定のインポート画面の操作	5- 5
5.1.5 通信設定のエクスポート画面の操作	5- 6
5.1.6 通信設定ウィザード画面の操作	5- 7
5.1.7 回線設定画面の操作	5-12
5.2 シーケンサモニタユーティリティ	5-20
5.2.1 接続先設定画面の操作	5-20
5.2.2 デバイス一括モニタ画面の操作	5-23
5.2.3 バッファメモリモニタ画面の操作	5-25
5.2.4 デバイス登録モニタ画面の操作	5-27
5.2.5 デバイス書き込み画面の操作	5-29
5.2.6 時計設定画面の操作	5-30
5.2.7 電話回線接続、電話回線切断画面の操作	5-31

6 ユーティリティ設定タイプの通信設定例	6- 1~6-138
-----------------------------	-------------------

6.1 計算機リンク通信	6- 1
6.1.1 計算機リンクユニットの設定	6- 1
6.1.2 アクセスまでの手順	6- 9
6.2 Ethernet通信 (Ethernetインタフェースユニット使用時)	6-15
6.2.1 Ethernetユニットのスイッチ設定	6-15
6.2.2 アクセスまでの手順	6-16
6.3 Ethernet通信 (Ethernetポート内蔵CPU使用時)	6-30
6.3.1 アクセスまでの手順	6-30
6.4 Ethernet通信 (CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニット使用時)	6-35
6.4.1 アクセスまでの手順	6-35
6.5 CPU COM通信	6-39
6.5.1 アクセスまでの手順	6-39
6.6 CPU USB通信	6-43
6.6.1 アクセスまでの手順	6-43
6.7 MELSECNET(II)通信	6-47
6.7.1 アクセスまでの手順	6-47
6.8 MELSECNET/10通信	6-52
6.8.1 アクセスまでの手順	6-52
6.9 CC-Link通信	6-57
6.9.1 アクセスまでの手順	6-57
6.10 CC-Link G4通信	6-62
6.10.1 CC-Link G4ユニットのスイッチ設定	6-62
6.10.2 アクセスまでの手順	6-64

6.11	CPUボード通信	6-71
6.11.1	アクセスまでの手順	6-71
6.12	AF通信	6-77
6.12.1	アクセスまでの手順	6-77
6.13	GX Simulator通信	6-82
6.13.1	アクセスまでの手順	6-82
6.14	GX Simulator2通信	6-85
6.14.1	アクセスまでの手順	6-85
6.15	MELSECNET/H通信	6-88
6.15.1	アクセスまでの手順	6-88
6.16	CC-Link IEコントローラネットワーク通信	6-93
6.16.1	アクセスまでの手順	6-93
6.17	CC-Link IEフィールドネットワーク通信	6-98
6.17.1	アクセスまでの手順	6-98
6.18	Qシリーズバス通信	6-103
6.18.1	アクセスまでの手順	6-103
6.19	モデム通信	6-107
6.19.1	A6TEL, Q6TEL, QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0, Lシリーズ対応C24の スイッチ設定	6-107
6.19.2	アクセスまでの手順	6-110
6.20	ゲートウェイ機能通信	6-129
6.20.1	アクセスまでの手順	6-129
6.21	GOTトランスペアレント通信	6-134
6.21.1	アクセスまでの手順	6-134

7 プログラム設定タイプの通信設定例	7- 1~7- 2
---------------------------	------------------

8 アクセス可能デバイス・範囲	8- 1~8-84
------------------------	------------------

8.1	デバイスアクセス時の注意事項	8- 1
8.2	計算機リンク通信時	8- 2
8.2.1	アクセス可能デバイス	8- 2
8.2.2	アクセス可能範囲	8- 4
8.3	Ethernet通信時	8- 6
8.3.1	アクセス可能デバイス	8- 6
8.3.2	アクセス可能範囲(Ethernetインタフェースユニット使用時)	8- 8
8.3.3	アクセス可能範囲(Ethernetポート内蔵CPU使用時)	8-10
8.3.4	アクセス可能範囲(CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニット使用時)	8-12
8.4	CPU COM通信時	8-14
8.4.1	アクセス可能デバイス	8-14
8.4.2	アクセス可能範囲	8-16
8.5	CPU USB通信時	8-18
8.5.1	アクセス可能デバイス	8-18
8.5.2	アクセス可能範囲	8-20
8.6	MELSECNET (II) 通信時	8-22
8.6.1	アクセス可能デバイス	8-22
8.6.2	アクセス可能範囲	8-24
8.7	MELSECNET/10通信時	8-25
8.7.1	アクセス可能デバイス	8-25
8.7.2	アクセス可能範囲	8-27

8.8	CC-Link通信時	8-29
8.8.1	アクセス可能デバイス	8-29
8.8.2	アクセス可能範囲	8-32
8.9	CC-Link G4通信時	8-33
8.9.1	アクセス可能デバイス	8-33
8.9.2	アクセス可能範囲	8-35
8.10	CPUボード通信時	8-37
8.10.1	アクセス可能デバイス	8-37
8.10.2	アクセス可能範囲	8-39
8.11	AF通信時	8-40
8.11.1	アクセス可能デバイス	8-40
8.11.2	アクセス可能範囲	8-42
8.12	MELSECNET/H通信時	8-43
8.12.1	アクセス可能デバイス	8-43
8.12.2	アクセス可能範囲	8-45
8.13	CC-Link IEコントローラネットワーク通信時	8-47
8.13.1	アクセス可能デバイス	8-47
8.13.2	アクセス可能範囲	8-49
8.14	CC-Link IEフィールドネットワーク通信時	8-50
8.14.1	アクセス可能デバイス	8-50
8.14.2	アクセス可能範囲	8-52
8.15	Qシリーズバス通信時	8-53
8.15.1	アクセス可能デバイス	8-53
8.15.2	アクセス可能範囲	8-54
8.16	モデム通信時	8-55
8.16.1	アクセス可能デバイス	8-55
8.16.2	アクセス可能範囲	8-57
8.17	ゲートウェイ機能通信時	8-61
8.17.1	アクセス可能デバイス	8-61
8.17.2	アクセス可能範囲	8-61
8.18	GX Simulator通信時	8-62
8.18.1	アクセス可能デバイス	8-62
8.18.2	アクセス可能範囲	8-62
8.19	GX Simulator2通信時	8-63
8.19.1	アクセス可能デバイス	8-63
8.19.2	アクセス可能範囲	8-63
8.20	GOTトランスペアレント通信時	8-64
8.20.1	アクセス可能デバイス	8-64
8.20.2	アクセス可能範囲	8-66

付1 ルーチングパラメータの考え方	付- 1
付2 インターネット／イントラネット環境の立上げ方法	付- 3
付2.1 操作手順	付- 3
付2.2 使用可能なパソコンの条件	付- 4
付2.3 Webサーバのインストール方法	付- 5
付2.4 インターネットアクセスアカウントの設定	付- 6
付2.5 Webページの公開	付-14
付2.6 Webサーバに正常にアクセスできるかを確認する	付-18
付3 計算機リンク通信をする場合のRS-232ケーブルの配線例	付-19
付3.1 Aシリーズの場合	付-19
付3.2 QnAシリーズの場合	付-21
付3.3 Qシリーズの場合	付-23
付3.4 FXシリーズの場合	付-24
付4 マルチCPUシステムについて	付-25
付5 Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU使用時のネットワークユニットの装着 可能枚数について	付-26
付6 モデム通信時にアクセスできない場合のフロー	付-27
付7 二重化CPUへの対応について	付-28
付8 Windows Vista [®] およびWindows [®] 7で表示される警告メッセージについて	付-35
付8.1 警告メッセージの概要	付-35
付8.2 警告メッセージの抑止方法	付-36
付9 DEP(Data Execution Prevention: データ実行防止)機能に関する制限事項	付-42
付9.1 DEPとは	付-42
付9.2 発生する現象	付-42
付9.3 問題が発生するDEPの設定内容	付-43
付9.4 DEPの影響による問題を回避するための設定	付-44
付9.5 問題発生時の回避方法	付-51
付9.6 プロジェクトの種類の見分け方	付-60
付10 参考図書	付-61

マニュアルについて

本製品に関連するマニュアルには、下記のものがあります。
必要に応じて本表を参考にしてご依頼ください。

関連マニュアル

マニュアル名称	マニュアル番号 (形名コード)	標準価格
MX Component Version 3 オペレーティングマニュアル (スタートアップ編) MX Componentのインストール、アンインストールおよびオペレーティングマニュアル閲覧までの手順について説明しています。 (別売)	SH-080273 (13JV59)	¥1,000
MX Component Version 3 プログラミングマニュアル ACTコントロールのプログラミング手順、詳細説明およびエラーコードについて説明しています。 (別売)	SH-080275 (13JC10)	¥3,000
MELSECNET/10インタフェースボードユーザーズマニュアル (SW3DNF-MNET10/SW3NNF-MNET10対応) MELSECNET/10ボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800037 (13JQ63)	¥3,000
A70BD-J71AP23形MELSECNET(II)インタフェースボードユーザーズマニュアル (SW2DNF-MNET対応) MELSECNET(II)ボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-80020 (13JQ16)	¥1,000
A80BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW4DNF-CCLINK-B対応) CC-Linkマスタボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800172 (13JT46)	¥3,000
A80BD-J61BT13形CC-Linkシステムローカルインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW4DNF-CCLINK-B対応) CC-Linkローカルボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800173 (13JT47)	¥3,000
Q80BD-J61BT11N/Q81BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW1DNC-CCBD2-B対応) Q80BD-J61BT11N, Q81BD-J61BT11のシステム構成、性能仕様、機能、取扱い、配線およびトラブルシューティングについて説明しています。 (別売)	SH-080526 (13JP66)	¥3,000
A80BD-A2USH-S1形シーケンサCPUボードユーザーズマニュアル (SW1DNF-AUN-B対応) CPUボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-0800171 (13JT45)	¥3,000
A70BD-AF形Aバスインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW0DNF-AF対応) AFボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	IB-80011 (13JQ10)	¥1,000
MELSECNET/Hインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW0DNC-MNETH-B対応) MELSECNET/Hボードの特長、仕様、各部の名称と設定およびドライバのインストール、アンインストールなどについて説明しています。 (別売)	SH-080129 (13JT26)	¥3,000
CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボードユーザーズマニュアル (SW1DNC-MNETG-B対応) CC-Link IEコントローラネットワークボードのシステム構成、ソフトウェアパッケージのインストール、アンインストール、各ユーティリティの操作方法、アクセス可能範囲、デバイスおよびトラブルシューティングなどについて説明しています。 (別売)	SH-080690 (13JY31)	¥3,000
GX Simulator Version 7 オペレーティングマニュアル GX Simulatorでのデバイスメモリのモニタ、機械側の動作をシミュレーションするための設定、操作方法について説明しています。 (別売)	SH-080467 (13JV82)	¥3,000
GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル (共通編) GX Works2のシステム構成や、パラメータ設定、オンライン機能の操作方法など、シンプルプロジェクトと構造化プロジェクトに共通な機能について説明しています。 (別売)	SH-080730 (13JV90)	¥4,000

備考：MX Component Version 3 オペレーティングマニュアル (スタートアップ編) およびMX Component Version 3 プログラミングマニュアルは、ソフトウェアパッケージのCD-ROMにPDFファイルで格納されています。
単品でマニュアルを希望される場合は印刷物を別売で用意しておりますので、上記表のマニュアル番号 (形名コード) にてご用命願います。

マニュアルの見方

「マニュアルの見方」はMX Componentを使用する際の目的別に記載しています。
以下の内容を参考に本マニュアルをご使用ください。

- (1) **特長・ユーティリティー一覧を知りたいとき (1.1節)**
1.1節に特長を記載しています。
- (2) **システムの構成を知りたいとき (2.1節～2.2節)**
MX Componentを使用したシステム構成を記載しています。
- (3) **MX Componentの動作環境、使用可能なシーケンサCPUを知りたいとき (2.3節～2.4節)**
2.3節にMX Componentの動作環境、2.4節に使用可能なシーケンサCPUについて記載しています。
- (4) **MX Componentの操作手順を知りたいとき (第3章)**
第3章にMX Componentの操作手順を記載しています。
- (5) **ユーティリティーの操作方法を知りたいとき (第4章～第5章)**
第4章にユーティリティー共通の操作、第5章にユーティリティーごとの操作方法について記載しています。
ユーティリティーを使用する際は、本章をお読みください。
- (6) **ユーティリティー設定タイプの通信設定例を知りたいとき (第6章)**
第6章にユーティリティー設定タイプを使用した、各通信経路における設定例について記載しています。
- (7) **プログラム設定タイプの通信設定例を知りたいとき (第7章)**
第7章にプログラム設定タイプを使用した、各通信経路における設定例について記載しています。
- (8) **アクセス可能デバイス・範囲を知りたいとき (第8章)**
第8章にアクセス可能なデバイスおよびアクセス可能範囲について記載しています。

総称・略称について

本マニュアルでは、特に明記する場合を除き、下記に示す総称・略称を使って説明しています。

総称／略称	総称・略称の内容
MX Component	製品形名 SWnD5C-ACT(-J), SWnD5C-ACT-A(-JA) の総称製品名。 (n=バージョンを意味します。) -Aおよび-JAは複数ライセンス品を意味します。
DOS/Vパソコン	IBM PC/ATおよび互換機のDOS/V対応のパソコンの略称。(PC98-NXを含む。)
パソコンCPUユニット	株式会社コンテック製MELSEC-Qシリーズ対応パソコンCPUユニットの略称。
GX Developer	製品形名 SWnD5C-GPPW, SWnD5C-GPPW-A, SWnD5C-GPPW-V, SWnD5C-GPPW-VA の総称製品名。 (n=バージョンを意味します。) -Aは複数ライセンス品, -Vはバージョンアップ品を意味します。
GX Works2	製品形名 SWnDNC-GXW2 の総称製品名。(n=バージョンを意味します。)
GX Simulator	製品形名 SWnD5C-LLT, SWnD5C-LLT-A, SWnD5C-LLT-V, SWnD5C-LLT-VA の総称製品名。 (n=バージョンを意味します。) -Aは複数ライセンス品, -Vはバージョンアップ品を意味します。
MELSECNET(II) ボード	A70BD-J71AP23形MELSECNET(II) インタフェースボードの略称。
MELSECNET/10ボード	A70BD-J71QLP23/A70BD-J71QLP23G/A70BD-J71QBR13/A70BD-J71QLR23形MELSECNET/10インタフェースボードの略称。
MELSECNET/Hボード	Q80BD-J71LP21-25/Q81BD-J71LP21-25/Q80BD-J71LP21S-25/Q80BD-J71LP21G/Q80BD-J71BR11形MELSECNET/Hインタフェースボードの略称。
CC-Link IEコントローラネットワークボード	Q80BD-J71GP21-SX/Q80BD-J71GP21S-SX形CC-Link IEコントローラネットワークインタフェースボードの略称。
CC-Link IEフィールドネットワークボード	Q81BD-J71GF11-T2形CC-Link IEフィールドネットワークインタフェースボードの略称。
CC-Linkボード	A80BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボード, A80BD-J61BT13形CC-Linkインタフェースボード, Q80BD-J61BT11N形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボード, Q81BD-J61BT11形CC-Linkシステムマスタ・ローカルインタフェースボードの総称。
CPUボード	A80BD-A2USH-S1形シーケンサCPUボードの略称。
AFボード	A70BD-AF形Aバスインタフェースボードの略称。
AnNCPU	A0J2HCPU, A1SCPU, A1SCPUC24-R2, A1SHCPU, A1SJCPU, A1SJHCPU, A1NCPUCPU, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, A2CJCPU, A2NCPUCPU, A2NCPUCPU-S1, A2SCPUCPU, A2SHCPU, A3NCPUCPU, A1FXCPUの総称。
AnACPU	A2ACPUCPU, A2ACPUCPU-S1, A2ACPUP21/R21, A2ACPUP21/R21-S1, A3ACPUCPU, A3ACPUP21/R21の総称。
AnUCPU	A2UCPUCPU, A2UCPUCPU-S1, A2USCPUCPU, A2USCPUCPU-S1, A2USHCPUCPU-S1, A3UCPUCPU, A4UCPUCPUの総称。
QnACPU	Q2ACPUCPU, Q2ACPUCPU-S1, Q2ASCPUCPU, Q2ASCPUCPU-S1, Q2ASHCPUCPU, Q2ASHCPUCPU-S1, Q3ACPUCPU, Q4ACPUCPU, Q4ARCPUCPUの総称。
ACPU	AnNCPU, AnACPU, AnUCPUの総称。
QCPU (Aモード)	Q02CPUCPU-A, Q02HCPUCPU-A, Q06HCPUCPU-Aの総称。
QCPU (Qモード)	Q00JCPUCPU, Q00UJCPUCPU, Q00CPUCPU, Q00UCPUCPU, Q01CPUCPU, Q01UCPUCPU, Q02CPUCPU, Q02HCPUCPU, Q02PHCPUCPU, Q02UCPUCPU, Q03UDCPUCPU, Q03UDECPUCPU, Q04UDHCPUCPU, Q04UDEHCPUCPU, Q06HCPUCPU, Q06PHCPUCPU, Q06UDHCPUCPU, Q06UDEHCPUCPU, Q10UDHCPUCPU, Q10UDEHCPUCPU, Q12HCPUCPU, Q12PHCPUCPU, Q12PRHCPUCPU, Q13UDHCPUCPU, Q13UDEHCPUCPU, Q20UDHCPUCPU, Q20UDEHCPUCPU, Q25HCPUCPU, Q25PHCPUCPU, Q25PRHCPUCPU, Q26UDHCPUCPU, Q26UDEHCPUCPU, Q50UDEHCPUCPU, Q100UDEHCPUCPUの総称。
Ethernetポート内蔵QCPU	Q03UDECPUCPU, Q04UDEHCPUCPU, Q06UDEHCPUCPU, Q10UDEHCPUCPU, Q20UDEHCPUCPU, Q13UDEHCPUCPU, Q26UDEHCPUCPU, Q50UDEHCPUCPU, Q100UDEHCPUCPUの総称。
LCPU	L02CPUCPU, L26CPUCPU-BTの総称。
Ethernetポート内蔵CPU	Ethernetポート内蔵QCPU, LCPUの総称。
QSCPU	QS001CPUCPU(安全CPU)の略称。

総称／略称	総称・略称の内容
FXCPU	FX ₀ CPU, FX _{0s} CPU, FX _{0n} CPU, FX ₁ CPU, FX _{1n} CPU, FX _{1nc} CPU, FX _{1s} CPU, FX ₂ CPU, FX _{2c} CPU, FX _{2n} CPU, FX _{2nc} CPU, FX _{3c} CPU, FX _{3u} CPU, FX _{3uc} CPUの総称。
モーションコントローラCPU	A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU, A173UHCPU-S1, A273UHCPU, A273UHCPU-S3の総称。
C言語コントローラCPU	Q12DCCPU-Vの略称。
シーケンサCPU	QCPU (Qモード), LCPU, QSCPU, QCPU (Aモード), QnACPU, ACPU, FXCPU, モーションコントローラCPUおよびC言語コントローラCPUの総称。
C24	A1SCPUC24-R2, A1SJ71C24-PRF, A1SJ71C24-R2, A1SJ71C24-R4, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, AJ71C24-S6, AJ71C24-S8の総称。
UC24	AJ71UC24, A1SJ71UC24-R2, A1SJ71UC24-R4, A1SJ71UC24-PRFの総称。
QC24	AJ71QC24, AJ71QC24-R2, AJ71QC24-R4, A1SJ71QC24, A1SJ71QC24-R2の総称。
QC24N	AJ71QC24N, AJ71QC24N-R2, AJ71QC24N-R4, A1SJ71QC24N, A1SJ71QC24N-R2の総称。
QC24(N)	QC24, QC24Nの総称。
Qシリーズ対応C24	QJ71C24, QJ71C24-R2, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4の総称。
Lシリーズ対応C24	LJ71C24, LJ71C24-R2の総称。
FX拡張ポート	FX _{0n} -485ADP, FX _{2nc} -485ADP, FX _{1n} -485-BD, FX _{2n} -485-BD, FX _{3c} -485-BD, FX _{3u} -485-BD, FX _{3u} -485ADPの総称。
計算機リンクユニット (シリアルコミュニケーションユニット)	C24, UC24, QC24(N), Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24, FX拡張ポートの総称。 特にQC24(N), Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24を示す場合、シリアルコミュニケーションユニットと記載します。
E71	AJ71E71, AJ71E71-S3, A1SJ71E71-B2, A1SJ71E71-B5, A1SJ71E71-B2-S3, A1SJ71E71-B5-S3, AJ71E71N-T, AJ71E71N-B5, AJ71E71N-B2, AJ71E71N-B5T, AJ71E71N3-T, A1SJ71E71N-T, A1SJ71E71N-B5, A1SJ71E71N-B2, A1SJ71E71N-B5T, A1SJ71E71N3-Tの総称。
QE71	AJ71QE71, AJ71QE71-B5, A1SJ71QE71-B2, A1SJ71QE71-B5, AJ71QE71N-T, AJ71QE71N-B5, AJ71QE71N-B2, AJ71QE71N-B5T, AJ71QE71N3-T, A1SJ71QE71N-T, A1SJ71QE71N-B5, A1SJ71QE71N-B2, A1SJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N3-Tの総称。
Qシリーズ対応E71	QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-B5, QJ71E71-100の総称。
Ethernetユニット	E71, QE71, Qシリーズ対応E71の総称。
CC-Link IEフィールド ネットワーク Ethernetアダプタユニット	NZ2GF-ETB形CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニットの略称。
CC-Link G4ユニット	AJ65BT-G4形GPP機能用周辺機器接続ユニットおよびAJ65BT-G4-S3形GPP機能用周辺機器接続ユニットの総称。
A6TEL	A6TEL形モデムインタフェースユニットの略称。
Q6TEL	Q6TEL形モデムインタフェースユニットの略称。
Qシリーズ対応CM0	QJ71CM0形モデムインタフェースユニットの略称。
GOT	グラフィックオペレーションターミナルの略称。
GOT1000	グラフィックオペレーションターミナルGOT1000シリーズの略称。

総称／略称	総称・略称の内容
計算機リンク通信 (シリアルコミュニケーション通信)	計算機リンクユニットを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。 特にQC24(N), Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24を使用した通信では、シリアルコミュニケーション通信と記載します。
Ethernet通信	DOS/VパソコンとEthernetユニットまたはEthernetポート内蔵CPUを接続して通信を行う場合の略称。
CPU COM通信	DOS/VパソコンをシーケンサCPUのRS-232コネクタまたはRS-422コネクタに接続して通信を行う場合の略称。
CPU USB通信	DOS/VパソコンをQCPU (Qモード), LCPUのUSBコネクタに接続して通信を行う場合の略称。
MELSECNET(II)通信	MELSECNET(II)ボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
MELSECNET/10通信	MELSECNET/10ボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
MELSECNET/H通信	MELSECNET/Hボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	CC-Link IEコントローラネットワークボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	CC-Link IEフィールドネットワークボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CC-Link通信	CC-Linkボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CC-Link G4通信	CC-Link G4ユニットを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
CPUボード通信	CPUボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
AF通信	AFボードを使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
Qシリーズバス通信	パソコンCPUユニットを使用して、同一ベース上のシーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
GX Simulator通信	GX Simulatorと通信を行う場合の略称。
GX Simulator2通信	GX Work2のシミュレーション機能を使用して通信を行う場合の略称。
モデム通信	QC24N(AJ71QC24N-R4は除く), Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24, A6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応CMO, FXCPUを使用して、モデム経由でシーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
ゲートウェイ機能通信	GOTのゲートウェイ機能を使用して、シーケンサCPUおよび各社シーケンサと通信を行う場合の略称。
GOTトランスペアレント通信	GOTのトランスペアレント機能を使用して、シーケンサCPUと通信を行う場合の略称。
ユーティリティ設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用して、ユーザプログラムを作成する場合の略称。
プログラム設定タイプ	通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムを作成する場合の略称。
ACTコントロール	MX Componentが提供するActiveXコントロールの総称。
二重化CPU	Q12PRHCPU, Q25PRHCPUの総称。
二重化増設ベースユニット	Q65WRB形CPU・電源二重化システム用増設ベースユニットの略称。
Windows® 7	Microsoft® Windows® 7 Starter Operating System, Microsoft® Windows® 7 Home Premium Operating System, Microsoft® Windows® 7 Professional Operating System, Microsoft® Windows® 7 Ultimate Operating Systemおよび Microsoft® Windows® 7 Enterprise Operating Systemの総称。 ただし、32ビット版のみを指す場合は「Windows® 7 (32ビット版)」, 64ビット版のみを指す場合は「Windows® 7 (64ビット版)」と記載します。
Windows Vista®	Microsoft® Windows Vista® Home Basic Operating System, Microsoft® Windows Vista® Home Premium Operating System, Microsoft® Windows Vista® Business Operating System, Microsoft® Windows Vista® Ultimate Operating Systemおよび Microsoft® Windows Vista® Enterprise Operating Systemの総称。
Windows® XP	Microsoft® Windows® XP Professional Operating Systemおよび Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating Systemの総称。
Visual Basic® .NET	Microsoft® Visual Studio .NET 2003, Microsoft® Visual Studio 2005, Microsoft® Visual Studio 2008, およびMicrosoft® Visual Studio 2010の Visual Basicの総称。
Visual C++® .NET	.net Frameworkを使用してアプリケーションを作成する場合の略称。

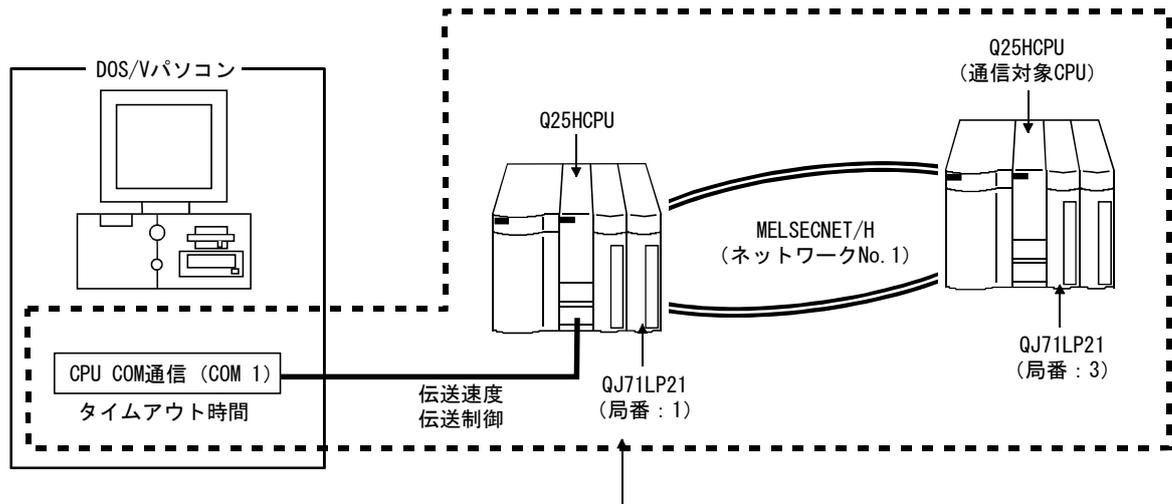
用語の意味と内容

本マニュアルで使用する用語の意味と内容について示します。

(1) 論理局番

通信回線をオープンさせるために必要な接続先情報を、通信設定ユーティリティを使用し1つのデータにまとめ、そのデータに論理的な番号を付けたものです。ユーティリティ設定タイプでのみ使用可能です。

(例) CPU COM通信時



通信対象CPUまでの接続先情報を1つのデータにまとめ、そのデータに論理局番を割り付けます。

(2) ユーティリティ設定タイプ

通信設定ユーティリティ（論理局番）を使用して、ユーザプログラムを作成します。

ユーザプログラムでは、通信設定ウィザードで設定した論理局番を指定するだけで、簡単に通信回線を接続することができます。

ActEasyIFとActMLEasyIFを使用します。

(3) プログラム設定タイプ

通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムの作成を行います。

各通信を行うためのACTコントロールの設定を、ユーザプログラム内部またはVisual Basic[®]、Visual C++[®]のプロパティページなどで設定を行います。

設定が必要となるプロパティは、各ACTコントロールにより異なります。

ActEasyIF、ActMLEasyIF以外のコントロールを使用します。

1 概 要

MX Componentは、DOS/Vパソコンからシーケンサへの通信を、通信プロトコルやユニットの知識なしに実現するツールです。

これまで面倒で複雑だったシリアル通信やEthernet通信のプログラム開発が、共通の関数を使用することによりとても簡単になりました。

本マニュアルで紹介するプログラム例を実際のシステムへ流用する場合は、対象システムにおける制御に問題がないことを十分検証ください。

1.1 特 長

MX Componentの特長を以下に示します。

(1) シーケンサに対する通信経路を幅広くサポート

シーケンサへの通信経路を幅広くサポートしていますので、ユーザに合わせたシステム構築が可能です。

(2) ユーザの開発効率を大幅に向上

MX Componentは、ウィザード形式の通信設定ユーティリティを用意しています。ユーザは画面上で対話形式の設定を行うだけで、通信を行いたいシーケンサCPUにアクセスするための通信設定が実現できます。

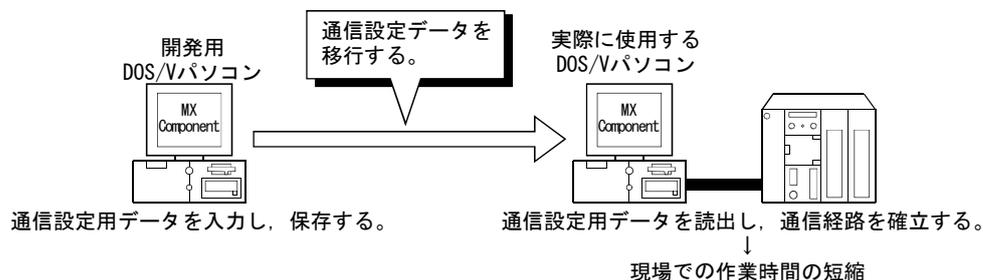
また、一度通信設定を実施すれば通信設定ユーティリティにて記憶したシーケンサCPUの論理局番を指定するだけでアクセスを行うことが可能です。

(3) 通信設定の内容の保存、読出しが可能

MX Componentは通信設定ユーティリティで設定した通信設定の内容をファイルに保存、読出しを行う機能を持っています。

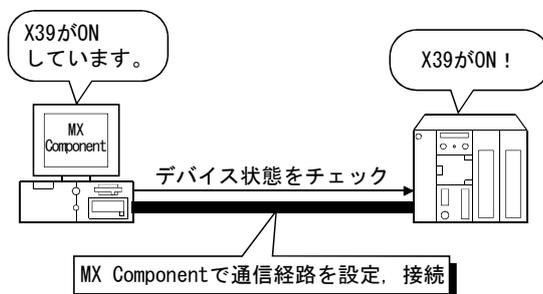
開発用のDOS/Vパソコンから実際に使用するDOS/Vパソコンへ、設定データの移行が簡単に行えます。

注) 開発用DOS/Vパソコンおよび実際に使用するDOS/Vパソコンには、MX Componentがインストールされている必要があります。



(4) デバイスモニタ機能

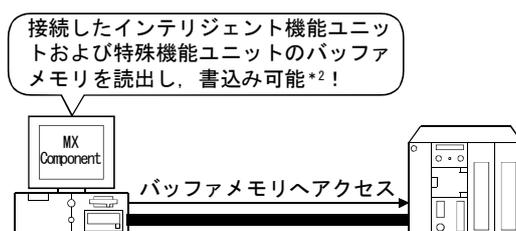
シーケンサモニタユーティリティを利用することにより、指定したデバイスの状態の監視やデータの変更が可能です。*1



*1：QSCPUのデバイスデータを変更することはできません。

(5) 特殊機能ユニットのバッファメモリへアクセス可能

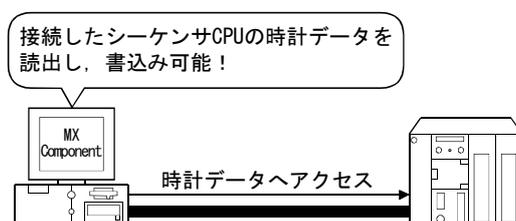
シーケンサCPUのデバイスのみでなく、インテリジェント機能ユニットおよび特殊機能ユニットのバッファメモリへアクセスすることができます。



*2：QSCPUの場合、バッファメモリの書込みを行うことはできません。

(6) シーケンサCPUの時計データ読み出し／書込みが可能

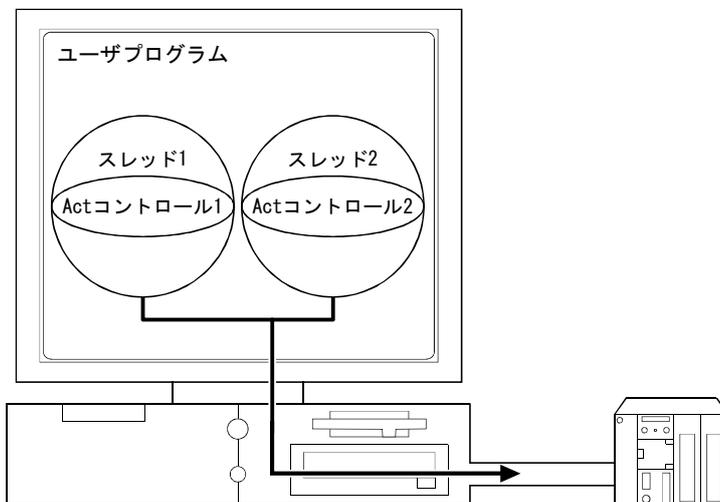
DOS/Vパソコンと接続したシーケンサCPUの時計データを読み出し、書込みすることができます。*3



*3：QSCPUの時計データに書込みを行うことはできません。

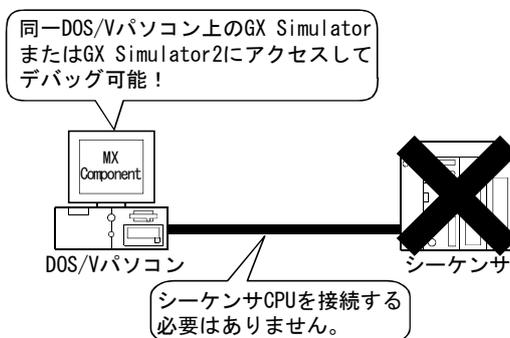
(7) マルチスレッド通信が可能

複数のスレッドから同時に同じ通信経路に対してアクセスが可能です。



(8) GX SimulatorまたはGX Works2 シミュレーション機能(GX Simulator2)を使用したオフラインでのデバッグが可能*4

GX DeveloperとGX SimulatorまたはGX Works2のシミュレーション機能を使用することにより、シーケンサを接続せずに、1台のDOS/Vパソコン上でデバッグすることができます。



*4 : QSCPUは本機能に対応していません。

ポイント

- GX Simulatorを使用する場合は、GX DeveloperとGX Simulatorが別途必要です。
- GX Simulator2を使用する場合は、GX Works2が別途必要です。
- 最大4つのプロジェクトを同時にシミュレーションすることができます。

(9) 多彩なプログラミング言語をサポート

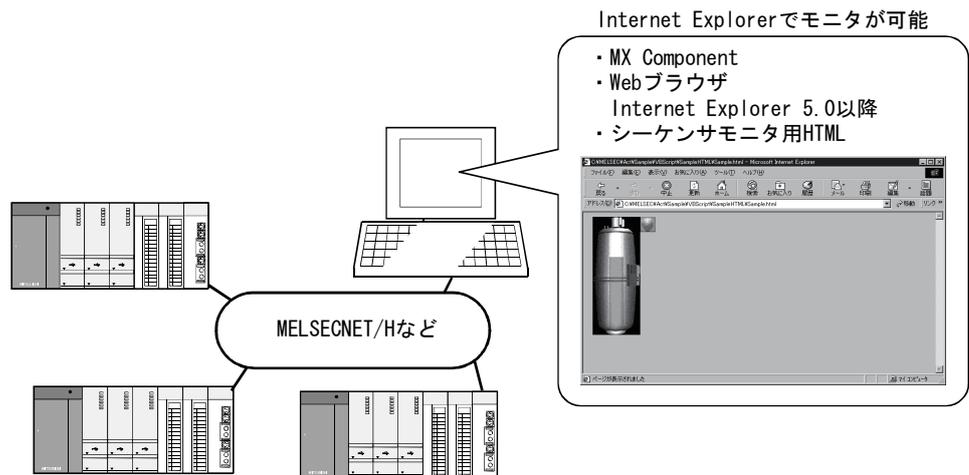
Visual Basic®, Visual C++® だけでなく、MX ComponentではVBScriptおよびVBAもサポートしています。

(a) VBScriptによるモニタリングページが作成可能

① HTML形式でモニタリングページが作成可能

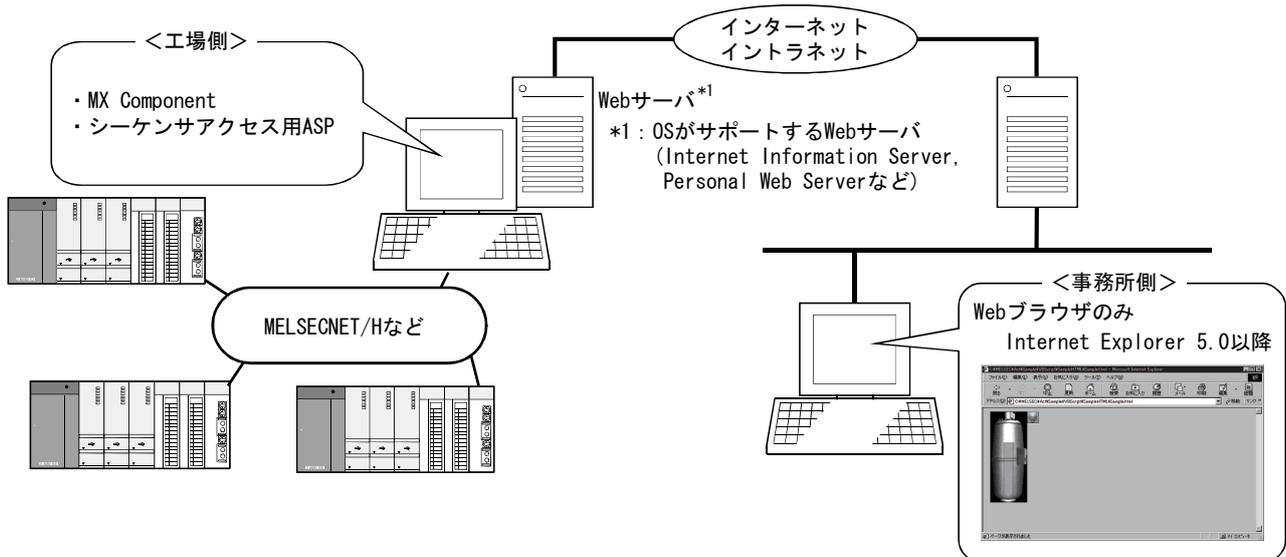
テキストエディタを使用して、グラフィカルなモニタ用ホームページ（HTML形式）を作成することが可能です。

そのため、Visual Basic®, Visual C++® などを別途購入する必要がありません。



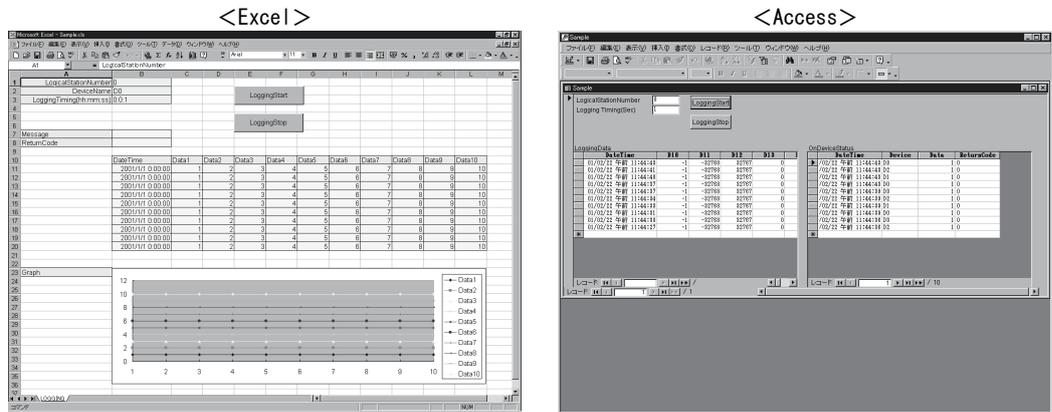
② ASP機能によりインターネット・イントラネット経由でモニタが可能

VBScriptのASP機能を利用し、工場側（MX Componentでモニタリングを行っている側）のWebページを公開することにより、Internet Explorerで工場側のURLを指定するだけで、インターネット/イントラネットを経由して、遠隔地や出張先からでもシーケンサのデバイス状態、異常発生時のリモート操作を行うことが可能です。



(b) VBAによるデータ収集、モニタリング機能

VBAでプログラミングを行うことにより、ExcelおよびAccessの機能を利用し、リアルタイムなグラフ表示を行うアプリケーションの作成が可能です。
シーケンサのデバイスデータをロギングし、リアルタイムにデバイスデータの収集・保存を行うことが可能です。



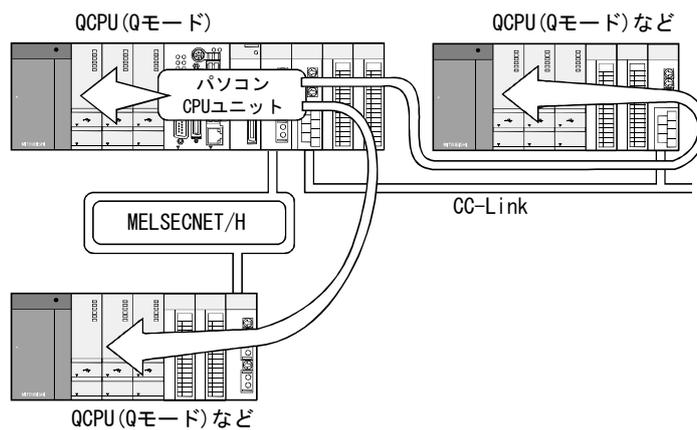
(10) QCPU (Qモード) のマルチCPUシステムに対応

通信設定ユーティリティまたはACTコントロールのプロパティを設定することにより、マルチCPUシステムにアクセスすることが可能です。

(11) パソコンCPUユニット上で動作可能

パソコンCPUユニットからQシリーズバス通信にて、同一ベース上のQCPU (Qモード) にアクセスすることが可能です。

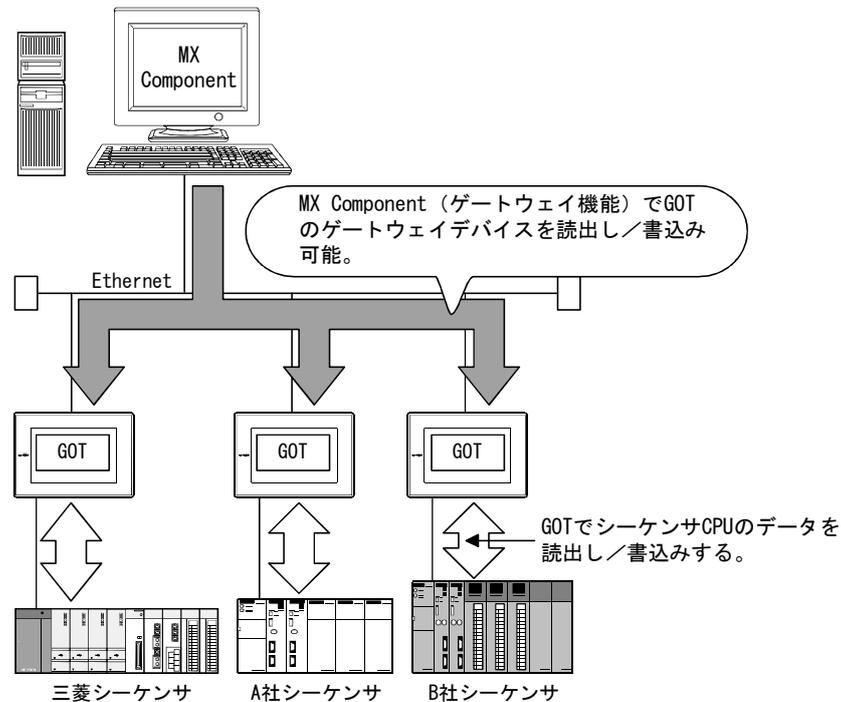
また、MELSECNET/H通信用コントロールおよびCC-Link通信用コントロールを使用することにより、パソコンCPUユニットが管理しているMELSECNET/HユニットおよびCC-Linkユニット経由で他局へアクセスすることが可能です。



(12) GOTのゲートウェイデバイス読み出し/書き込み可能

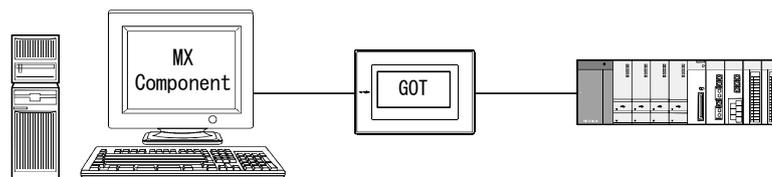
MX Componentのゲートウェイ機能通信を使用することにより、GOTのゲートウェイデバイスを読み出し/書き込みすることができます。

GOTのゲートウェイデバイスを読み出し/書き込みすることにより、GOTがモニタを行っているシーケンサCPUのデバイスを間接的に読み出し/書き込みすることができます。



(13) GOTトランスペアレント機能に対応

GOTのトランスペアレント機能を使用することにより、GOTを経由してシーケンサCPUにアクセスすることが可能です。



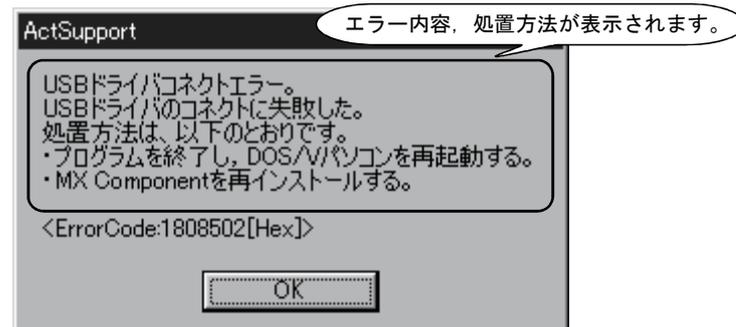
(14) エラー内容検索時間の短縮

トラブルシュート機能用ActSupportコントロールに対応しています。

エラーコードを指定するだけで、エラー内容や処置方法をユーザアプリケーション内に表示することが可能です。

ACTコントロールにてエラーが発生した場合、プログラミングマニュアルでエラー内容、処置方法を探す必要がありません。

<メッセージボックスにエラー内容を表示させた例>



2 システム構成

MX Componentのシステム構成、動作環境および使用可能CPUについて説明します。

2.1 システム構成一覧

オペレーティングシステムごとに構成できるシステムの一覧を示します。

2.1.1 Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0使用時

Windows NT® Workstation 4.0使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目		内 容
計算機リンク通信		○
Ethernet通信		○
CPU COM通信		○
CPU USB通信		×*1
		○
MELSECNET (II) 通信	使用可能ボード	MELSECNET (II) ボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-MNET以降
		○
MELSECNET/10通信	使用可能ボード	MELSECNET/10ボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-MNET10以降
		○
MELSECNET/H通信	使用可能ボード	MELSECNET/Hボード
	使用可能ドライバ	SWODNC-MNETH以降
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		×
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		×
		○
CC-Link通信	使用可能ボード	CC-Linkボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-CCLINK以降
CC-Link G4通信		○
		○
CPUボード通信	使用可能ボード	CPUボード
	使用可能ドライバ	SWODNF-ANU-B以降
		○
AF通信	使用可能ボード	AFボード
	使用可能ドライバ	SWODNF-AF以降
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)		○
GX Simulator通信		○
GX Simulator2通信		×
モデム通信		○
ゲートウェイ機能通信		○
GOTトランスペアレント通信	シリアル	○
	USB	×

○：構成可能 ×：構成不可

*1：使用OSをサポートしていません。

ポイント
(1) PC98-NXでは、下記通信は使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・ MELSECNET (II) 通信 ・ MELSECNET/10通信 ・ MELSECNET/H通信 ・ CC-Link IEコントローラネットワーク通信 ・ CC-Link通信 ・ CPUボード通信 ・ AF通信
(2) GX Simulator通信を行う場合は、GX DeveloperとGX Simulatorは下記のバージョン以降を使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・ GX Developer Version 5 (SW5D5C-GPPW) ・ GX Simulator (SW5D5C-LLT 10B)

2.1.2 Windows® 95 Operating System使用時

Windows® 95使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目		内 容
計算機リンク通信		○
Ethernet通信		○
CPU COM通信		○
CPU USB通信		×*1
		○
MELSECNET(Ⅱ)通信	使用可能ボード	MELSECNET(Ⅱ)ボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-MNET以降
		○
MELSECNET/10通信	使用可能ボード	MELSECNET/10ボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-MNET10以降
		○
MELSECNET/H通信	使用可能ボード	MELSECNET/Hボード
	使用可能ドライバ	SWODNC-MNETH以降
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		×
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		×
		○
CC-Link通信	使用可能ボード	CC-Linkボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-CCLINK以降
CC-Link G4通信		○
CPUボード通信		×
AF通信		×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)		×
GX Simulator通信		○
GX Simulator2通信		×
モデム通信		○
ゲートウェイ機能通信		○
GOTトランスペアレント通信	シリアル	○
	USB	×

○：構成可能 ×：構成不可

*1：使用OSをサポートしていません。

ポイント
(1) Windows® 95上では、COMポートを使用して下記の通信を行うと、メモリリークが発生しますので、連続稼働は行わないでください。 <ul style="list-style-type: none"> ・計算機リンク通信 ・CPU COM通信 ・CC-Link G4通信 ・モデム通信
(2) PC98-NXでは、下記通信は使用できません。 <ul style="list-style-type: none"> ・MELSECNET(Ⅱ)通信 ・MELSECNET/10通信 ・MELSECNET/H通信 ・CC-Link IEコントローラネットワーク通信 ・CC-Link通信 ・CPUボード通信 ・AF通信
(3) GX Simulator通信を行う場合は、GX DeveloperとGX Simulatorは下記のバージョン以降を使用してください。 <ul style="list-style-type: none"> ・GX Developer Version 5(SW5D5C-GPPW) ・GX Simulator(SW5D5C-LLT 10B)

2.1.3 Windows® 98 Operating System使用時

Windows® 98使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目		内 容
計算機リンク通信		○
Ethernet通信		○
CPU COM通信		○
CPU USB通信		○
		○
MELSECNET (II) 通信	使用可能ボード	MELSECNET (II) ボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-MNET以降
		○
MELSECNET/10通信	使用可能ボード	MELSECNET/10ボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-MNET10以降
		○
MELSECNET/H通信	使用可能ボード	MELSECNET/Hボード
	使用可能ドライバ	SWODNC-MNETH以降
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		×
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		×
		○
CC-Link通信	使用可能ボード	CC-Linkボード
	使用可能ドライバ	SW2DNF-CCLINK以降
CC-Link G4通信		○
CPUボード通信		×
AF通信		×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)		×
GX Simulator通信		○
GX Simulator2通信		×
モデム通信		○
ゲートウェイ機能通信		○
GOTトランスペアレント通信		○

○ : 構成可能 × : 構成不可

ポイント
<p>(1) PC98-NXでは、下記通信は使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MELSECNET (II) 通信 ・ MELSECNET/10通信 ・ MELSECNET/H通信 ・ CC-Link IEコントローラネットワーク通信 ・ CC-Link通信 ・ CPUボード通信 ・ AF通信 <p>(2) GX Simulator通信を行う場合は、GX DeveloperとGX Simulatorは下記のバージョン以降を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GX Developer Version 5(SW5D5C-GPPW) ・ GX Simulator(SW5D5C-LLT 10B)

2.1.4 Windows® 2000 Professional Operating System使用時

Windows® 2000 Professional使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目		内 容
計算機リンク通信		○
Ethernet通信		○
CPU COM通信		○
CPU USB通信		○
MELSECNET(Ⅱ)通信		×
MELSECNET/10通信		× (ポイント(3)参照)
MELSECNET/H通信		○
	使用可能ボード	MELSECNET/Hボード
	使用可能ドライバ	SWODNC-MNETH-B以降
CC-Link IEコントローラネットワーク通信		○
	使用可能ボード	CC-Link IEコントローラネットワークボード
	使用可能ドライバ	SW1DNC-MNETG-B以降
CC-Link IEフィールドネットワーク通信		○
	使用可能ボード	CC-Link IEフィールドネットワークボード
	使用可能ドライバ	SW1DNC-CCIEF-J, またはSW1DNC-CCIEF-B以降
CC-Link通信		○
	使用可能ボード	CC-Linkボード
	使用可能ドライバ	SW4DNF-CCLINK-B以降
CC-Link G4通信		○
CPUボード通信		○
	使用可能ボード	CPUボード
	使用可能ドライバ	SW1DNF-ANU-B以降
AF通信		×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)		○
GX Simulator通信		○
GX Simulator2通信		○
モデム通信		○
ゲートウェイ機能通信		○
GOTトランスペアレント通信		○

○ : 構成可能 × : 構成不可

ポイント
<p>(1) PC98-NXでは、下記通信は使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ MELSECNET(Ⅱ)通信 ・ MELSECNET/10通信 ・ MELSECNET/H通信 ・ CC-Link IEコントローラネットワーク通信 ・ CC-Link通信 ・ CPUボード通信 ・ AF通信 <p>(2) GX Simulator通信を行う場合は、GX DeveloperとGX Simulatorは下記のバージョン以降を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ GX Developer Version 7 (SW7D5C-GPPW) ・ GX Simulator Version 6 (SW6D5C-LLT) <p>(3) MELSECNET/10ボードは使用できません。 MELSECNET/Hボード (NET/10モード) を使用してください。</p>

2.1.5 Windows® Millennium Edition Operating System使用時

Windows® Me使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目	内 容
計算機リンク通信	○
Ethernet通信	○
CPU COM通信	○
CPU USB通信	○
MELSECNET(Ⅱ)通信	×
MELSECNET/10通信	×
MELSECNET/H通信	×
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	×
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	×
CC-Link通信	×
CC-Link G4通信	○
CPUボード通信	×
AF通信	×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)	×
GX Simulator通信	○
GX Simulator2通信	×
モデム通信	○
ゲートウェイ機能通信	○
GOTトランスペアレント通信	○

○ : 構成可能 × : 構成不可

ポイント

- | |
|---|
| <p>(1) GX Simulator通信を行う場合は、GX DeveloperとGX Simulatorは下記のバージョン以降を使用してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・GX Developer Version 7 (SW7D5C-GPPW) ・GX Simulator Version 6 (SW6D5C-LLT) <p>(2) VBScriptのASP機能は使用できません。</p> |
|---|

2.1.6 Windows® XP Professional Operating System使用時

Windows® XP Professional使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目		内 容
計算機リンク通信		○
Ethernet通信		○
CPU COM通信		○
CPU USB通信		○
MELSECNET(Ⅱ)通信		×
MELSECNET/10通信		× (ポイント参照)
MELSECNET/H通信		○*1
		○
CC-Link IEコントローラ ネットワーク通信	使用可能ボード	CC-Link IEコントローラ ネットワークボード
	使用可能ドライバ	SW1DNC-MNETG-B以降
		○
CC-Link IEフィールド ネットワーク通信	使用可能ボード	CC-Link IEフィールド ネットワークボード
	使用可能ドライバ	SW1DNC-CCIEF-J, またはSW1DNC-CCIEF-B以降
CC-Link通信		○*2
CC-Link G4通信		○
CPUボード通信		×
AF通信		×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)		×
GX Simulator通信		○
GX Simulator2通信		○
モデム通信		○
ゲートウェイ機能通信		○
GOTトランスペアレント通信		○

○：構成可能 ×：構成不可

*1：通信ドライバSW0DNC-MNETH-Bのバージョン70H以降使用時のみ使用可能です。

*2：通信ドライバSW4DNC-CCLINK-Bのバージョン40E以降使用時のみ使用可能です。

ポイント

MELSECNET/10ボードは使用できません。

MELSECNET/Hボード(NET/10モード)を使用してください。

2.1.7 Windows® XP Home Edition Operating System使用時

Windows® XP Home Edition使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目		内 容
計算機リンク通信		○
Ethernet通信		○
CPU COM通信		○
CPU USB通信		○
MELSECNET(Ⅱ)通信		×
MELSECNET/10通信		×
MELSECNET/H通信		×
		○
CC-Link IEコントローラ ネットワーク通信	使用可能ボード	CC-Link IEコントローラ ネットワークボード
	使用可能ドライバ	SW1DNC-MNETG-B以降
		○
CC-Link IEフィールド ネットワーク通信	使用可能ボード	CC-Link IEフィールド ネットワークボード
	使用可能ドライバ	SW1DNC-CCIEF-J, またはSW1DNC-CCIEF-B以降
CC-Link通信		×
CC-Link G4通信		○
CPUボード通信		×
AF通信		×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)		×
GX Simulator通信		○
GX Simulator2通信		×
モデム通信		○
ゲートウェイ機能通信		○
GOTトランスペアレント通信		○

○：構成可能 ×：構成不可

ポイント

VBScriptのASP機能は使用できません。

2.1.8 Windows Vista® Operating System使用時

Windows Vista® 使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

項 目	内 容
計算機リンク通信	○
Ethernet通信	○
CPU COM通信	○
CPU USB通信	○
MELSECNET(II)通信	×
MELSECNET/10通信	×
MELSECNET/H通信	○
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○
CC-Link通信	○
CC-Link G4通信	○
CPUボード通信	×
AF通信	×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)	×
GX Simulator通信	○
GX Simulator2通信	○
モデム通信	○
ゲートウェイ機能通信	○
GOTトランスペアレント通信	○

○ : 構成可能 × : 構成不可

2.1.9 Windows® 7 Operating System使用時

Windows® 7使用時に構成できるシステムの一覧を示します。

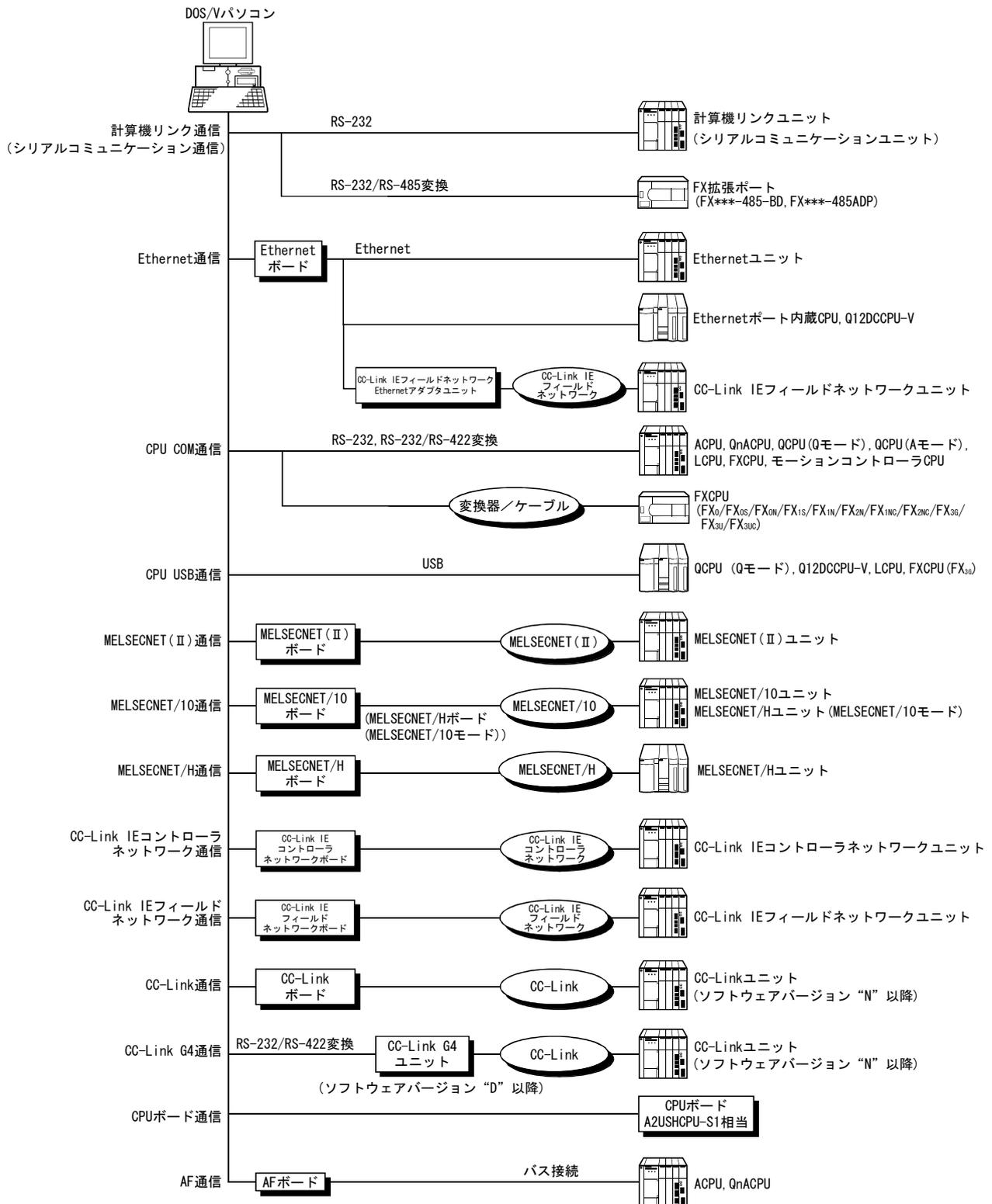
項 目	内 容	
	32ビット版	64ビット版
計算機リンク通信	○	○
Ethernet通信	○	○
CPU COM通信	○	○
CPU USB通信	○	○
MELSECNET (II) 通信	×	×
MELSECNET/10通信	×	×
MELSECNET/H通信	○	×
CC-Link IEコントローラネットワーク通信	○	×
CC-Link IEフィールドネットワーク通信	○	×
CC-Link通信	○	×
CC-Link G4通信	○	○
CPUボード通信	×	×
AF通信	×	×
Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)	×	×
GX Simulator通信	○	○
GX Simulator2通信	○	○
モデム通信	○	○
ゲートウェイ機能通信	○	○
GOTトランスペアレント通信	○	○

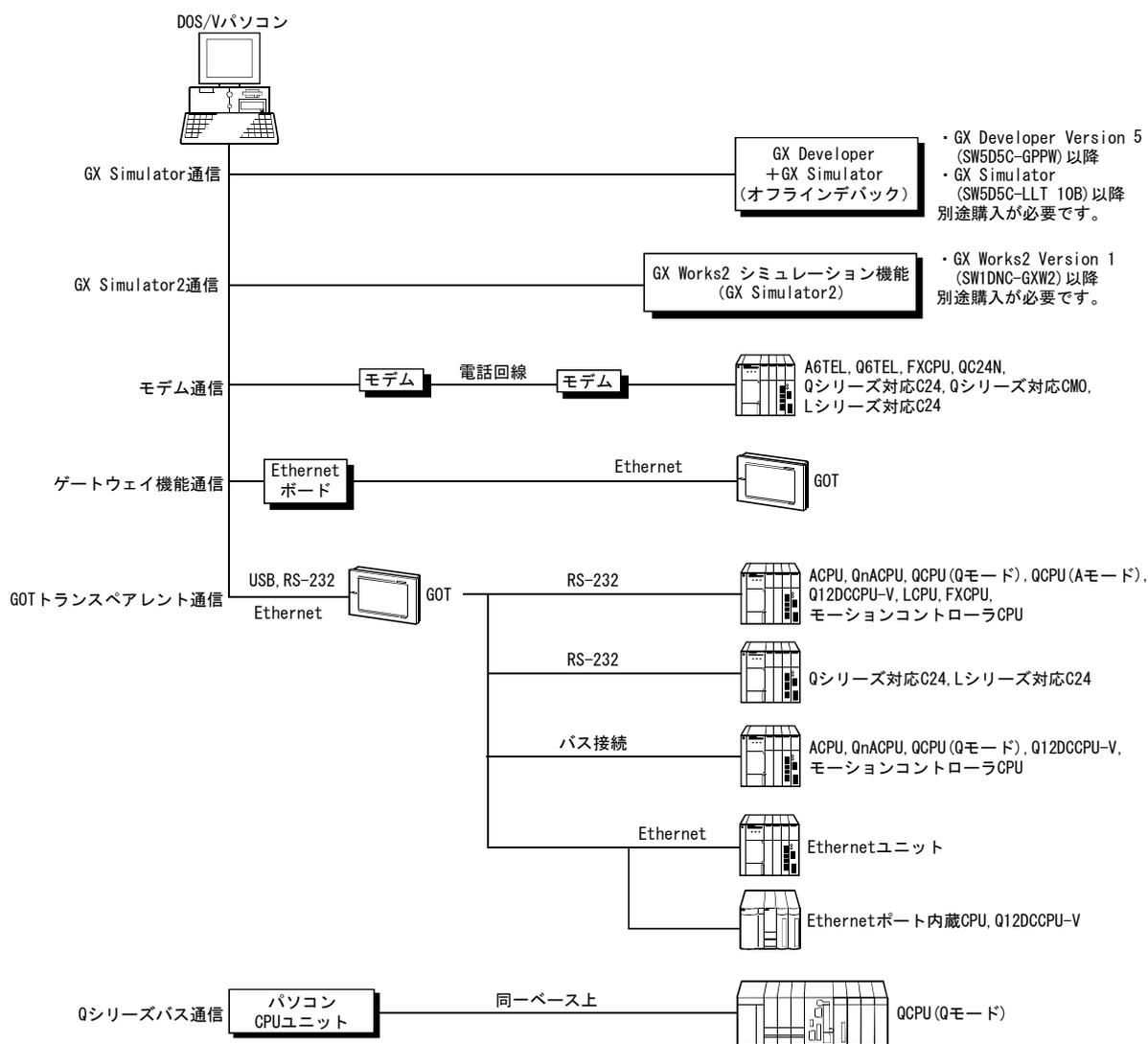
○ : 構成可能 × : 構成不可

2.2 各通信形態を使用する場合のシステム構成

MX Componentを使用する場合のシステム構成を通信形態ごとに示します。
各通信形態の詳細および注意事項については、2.2.2項を参照してください。

2.2.1 システム構成





2.2.2 各通信形態の詳細内容

各通信形態説明時の右上の表は、各OS使用時に通信形態が構成できるかどうかを示します。

(例) Windows NT® Workstation 4.0, Windows® 95, Windows® 7 (64ビット版) は未サポート
Windows® 98, Windows® 2000 Professional, Windows® Me,
Windows® XP, Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版) はサポート

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
×	×	○	○	○	○	○	○	×

NT : Windows NT® Workstation 4.0, 95 : Windows® 95, 98 : Windows® 98,
2000 : Windows® 2000 Professional, Me : Windows® Me,
XP : Windows® XP, Vista : Windows Vista®,
7(32) : Windows® 7 (32ビット版) , 7(64) : Windows® 7 (64ビット版)
○ : 構成可能, × : 構成不可

(1) 計算機リンク通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

計算機リンクユニットへの接続については、ご使用の計算機リンクユニットのマニュアルを参照してください。

(a) 注意事項

Windows® 95上で計算機リンク通信を行うと、メモリリークが発生しますので、連続稼働は行わないでください。

(b) 使用可能ユニット

① 計算機リンクユニットにてシーケンサCPUへアクセスする場合に使用できるユニットを示します。

	使用可能ユニット
C24	A1SCPUC24-R2*1, A1SJ71C24-PRF*2, A1SJ71C24-R2*2, A1SJ71C24-R4*2, A2CCPUC24*3, A2CCPUC24-PRF*3, AJ71C24-S6, AJ71C24-S8
UC24	AJ71UC24, A1SJ71UC24-R2, A1SJ71UC24-R4, A1SJ71UC24-PRF
QC24(N)	AJ71QC24, AJ71QC24-R2, AJ71QC24-R4, A1SJ71QC24, A1SJ71QC24-R2, AJ71QC24N, AJ71QC24N-R2, AJ71QC24N-R4, A1SJ71QC24N, A1SJ71QC24N-R2
Qシリーズ対応C24	QJ71C24, QJ71C24-R2, QJ71C24N, QJ71C24N-R2, QJ71C24N-R4
Lシリーズ対応C24	LJ71C24, LJ71C24-R2
FX拡張ポート	FX0N-485ADP, FX2NC-485ADP, FX3U-485ADP, FX1N-485-BD, FX2N-485-BD, FX3G-485-BD, FX3U-485-BD

*1 : UC24相当として扱われます。

*2 : ソフトウェアバージョン“M”以降のユニットは、UC24相当として扱われます。

*3 : ソフトウェアバージョン“K”以降のユニットは、UC24相当として扱われます。

② 使用可能ユニットの接続について

DOS/Vパソコンから計算機リンクユニットでシーケンサCPUにアクセスする場合、DOS/Vパソコンと直接接続できるユニットが限定されますので注意してください。

また、DOS/Vパソコンと直接接続できない場合でも、マルチドロップ接続のn台目として使用できることがあります。

形名	インタフェース	1:1接続	マルチドロップ接続	
			1台目	n台目
A2CCPUC24 A2CCPUC24-PRF	RS-232	○	○	×
	RS-422	×	×	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71C24-S6 AJ71C24-S8	RS-232	○	○	×
	RS-422	×	×	○
A1SCPUC24-R2 A1SJ71C24-PRF A1SJ71C24-R2	RS-232	○	×	×
	RS-422/485	×	×	○
	RS-232	○	○	×
AJ71UC24	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
A1SJ71UC24-R2 A1SJ71UC24-PRF	RS-232	○	×	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71QC24/AJ71QC24N A1SJ71QC24/A1SJ71QC24N	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
AJ71QC24-R2 A1SJ71QC24-R2 AJ71QC24N-R2 A1SJ71QC24N-R2	RS-232 (CH. 1)	○	×	×
	RS-232 (CH. 2)	×	×	×
AJ71QC24-R4 AJ71QC24N-R4	RS-422	×	×	×
	RS-422/485	×	×	○
QJ71C24/QJ71C24N	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
QJ71C24-R2/QJ71C24N-R2	RS-232 (CH. 1)	○	×	×
	RS-232 (CH. 2)	○ ^{*1}	×	×
QJ71C24N-R4	RS-422/485 (CH. 1)	×	×	○
	RS-422/485 (CH. 2)	×	×	○
LJ71C24	RS-232	○	○	×
	RS-422/485	×	×	○
LJ71C24-R2	RS-232 (CH. 1)	○	×	×
	RS-232 (CH. 2)	○	×	×
FX0N-485ADP FX2N-485ADP FX3U-485ADP FX1N-485-BD FX2N-485-BD FX3G-485-BD FX3U-485-BD	RS-422/485	○	○	○

*1：機能バージョンB以降は可

- (c) 計算機リンクユニットのスイッチ設定
MX Componentを使用する際のスイッチ設定については、“6.1.1項 計算機リンクユニットのスイッチ設定”を参照してください。
- (d) 接続時のケーブル
接続ケーブルについては、ご使用の計算機リンクユニットのマニュアルを参照してください。
また、ケーブルのピンアサインについては、付3を参照してください。

ポイント
DOS/Vパソコンと計算機リンク（シリアルコミュニケーション）ユニットの接続は、RS-232コネクタのみ使用可能です。 RS-422コネクタやRS-422/485端子台は使用できません。

(2) Ethernet通信

① Ethernetインタフェースユニット使用時

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

Ethernetユニットへの接続については、ご使用のEthernetユニットのマニュアルを参照してください。

- (a) 注意事項
Ethernet通信時のアクセス可能範囲は、同一セグメントのみです。
ルータおよびゲートウェイを越えてアクセスすることはできません。
- (b) 使用可能ユニット
EthernetユニットにてシーケンサCPUへアクセスする場合に使用できるユニットを示します。
FXシリーズ用のEthernetユニットについては、FXシリーズのユーザーズマニュアルを参照してください。

	使用可能ユニット
E71*1	AJ71E71, AJ71E71-S3, A1SJ71E71-B2, A1SJ71E71-B5, A1SJ71E71B2-S3, A1SJ71E71B5-S3, AJ71E71N-T, AJ71E71N-B5, AJ71E71N-B2, AJ71E71N-B5T, AJ71E71N3-T, A1SJ71E71N-T, A1SJ71E71N-B5, A1SJ71E71N-B2, A1SJ71E71N-B5TA, A1SJ71E71N3-T
QE71*2	AJ71QE71, AJ71QE71-B5, A1SJ71QE71-B2, A1SJ71QE71-B5, AJ71QE71N-T, AJ71QE71N-B5, AJ71QE71N-B2, AJ71QE71N3-T, AJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N-T, A1SJ71QE71N-B5, A1SJ71QE71N-B2, A1SJ71QE71N-B5T, A1SJ71QE71N3-T
Qシリーズ対応E71	QJ71E71, QJ71E71-B2, QJ71E71-B5, QJ71E71-100

*1：AnUCPU装着時は、AnACPU相当としてアクセス可能です。
*2：QnA用Ethernet経由モニタと他通信経路経由モニタを同一CPUに対して実行した場合、エラーが発生します。

- (c) Ethernetユニットのスイッチ設定
MX Componentを使用する際のスイッチ設定については、“6.2.1項 Ethernetユニットのスイッチ設定”を参照してください。

② Ethernetポート内蔵QCPU使用時

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

Ethernetポート内蔵QCPUへの接続については、ご使用のEthernetポート内蔵QCPUのマニュアルを参照してください。

(a) 注意事項

IPアドレスを指定しない直結接続の場合のアクセス可能範囲は、同一セグメントのみです。

ルータおよびゲートウェイを越えてアクセスすることはできません。

(3) CPU COM通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

(a) 注意事項

Windows® 95上でCPU COM通信を行うと、メモリアークが発生しますので、連続稼働は行わないでください。

(b) 接続時のケーブル

① QCPU (Qモード) , LCPU, QCPU (Aモード) 接続時のケーブル

DOS/VパソコンとQCPU (Qモード) , QCPU (Aモード) 間で交信を行うためには下記のケーブルが必要です。

また、LCPUと接続する場合は、RS232アダプタ(L6ADP-R2)が必要です。

115200bpsおよび57600bpsで通信を行う場合、使用するDOS/Vパソコンが115200bpsおよび57600bpsの通信速度に対応していないと高速通信できません。

通信エラーが発生した場合、伝送速度の設定を下げても再度通信を行ってください。

② 三菱電機製を使用する場合

RS-232ケーブル

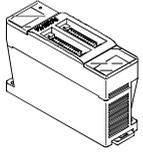


QC30R2 (DOS/VパソコンのコネクタがDサブ9ピン)

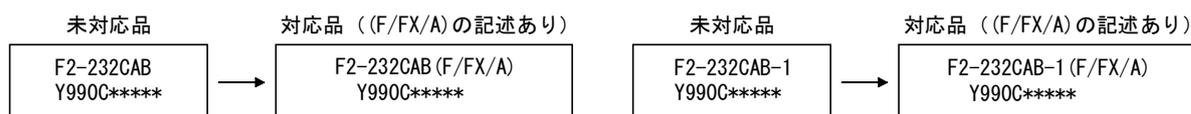
② ACPU, QnACPUおよびFXCPU接続時のケーブル

DOS/VパソコンとACPU, QnACPU, およびFXCPU間で通信を行うためには下記のケーブルが必要です。

① 三菱電機製を使用する場合

DOS/Vパソコン側 (RS-232ケーブル)	RS-232/RS-422 変換器	シーケンサCPU側 (RS-422ケーブル)
 F2-232CAB (Dサブ25ピン—Dサブ25ピン) (DOS/Vパソコンに使用する場合は、9ピン↔25ピンストレート変換ケーブルが必要です。)	 FX-232AW	ACPU, QnACPU, FX₁/FX₂CPU/FX_{2c}CPUの場合  FX-422CAB (0.3m) FX-422CAB-150 (1.5m)
 F2-232CAB-1 (Dサブ25ピン—Dサブ9ピン)	 FX-232AWC	FX₀/FX_{0s}/FX_{0N}/FX_{1s}/FX_{1N}/FX_{1Nc}/FX_{2N}/FX_{2Nc}/FX_{3G} /FX_{3U}/FX_{3Uc}CPUの場合  FX-422CAB0 (1.5m)
 F2-232CAB-2 (ハーフピッチ—Dサブ25ピン)	 FX-232AWC-H (FXシリーズのみ)	
 AC30N2A (25ピン—25ピン) (DOS/Vパソコンに使用する場合は、9ピン↔25ピンストレート変換ケーブルが必要です。)		

- F2-232CAB, F2-232CAB-1ケーブルのACPU, QnACPU対応製品の見分け方
 ケーブルに付いている形名ラベルの表示内容で確認してください。

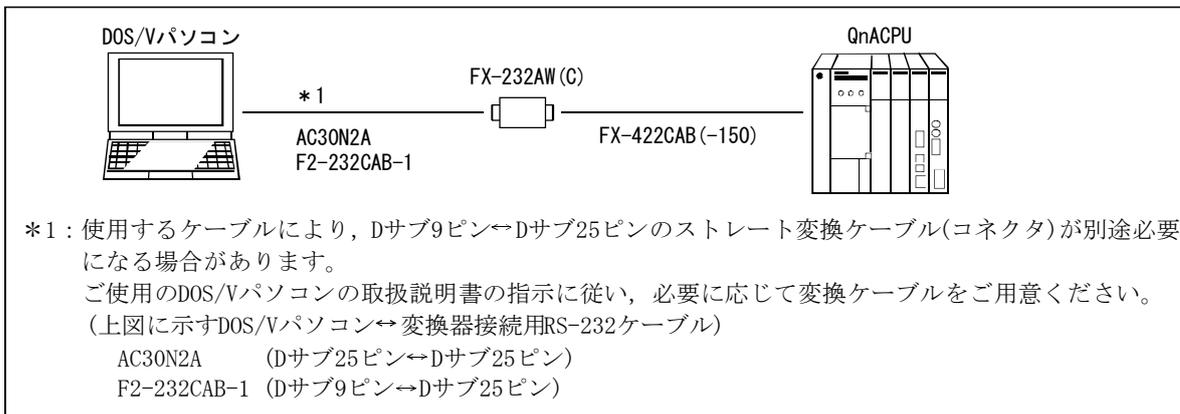


- FX3G-CPU, FX3U-CPU, FX3UC-CPUにFX-232AWC-Hを用いて接続した場合は、伝送速度9600bps, 19200bps, 38400bps, 57600bps, 115200bpsのいずれかを選択してください。

また、FX-232AWC, FX-232AWで接続した場合は、伝送速度9600bps, 19200bpsのどちらかを選択してください。

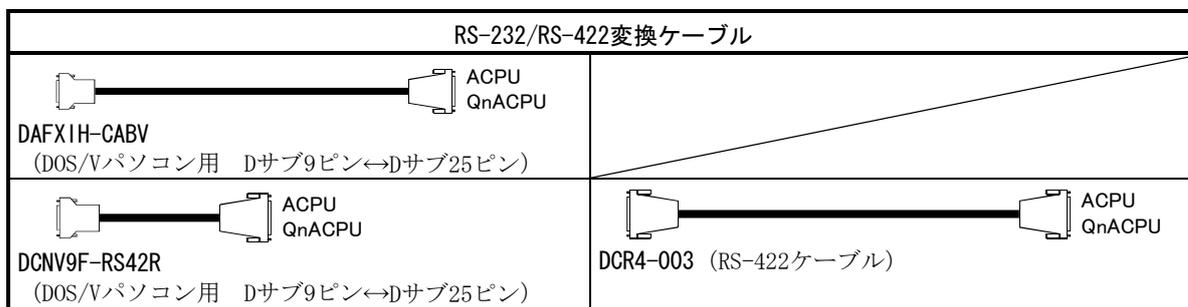
なお、FXシリーズに接続する場合には、必ず前ページの表に示す機器をご使用ください。

FX-232AW (C) によるDOS/Vパソコン⇄QnACPU間の接続例

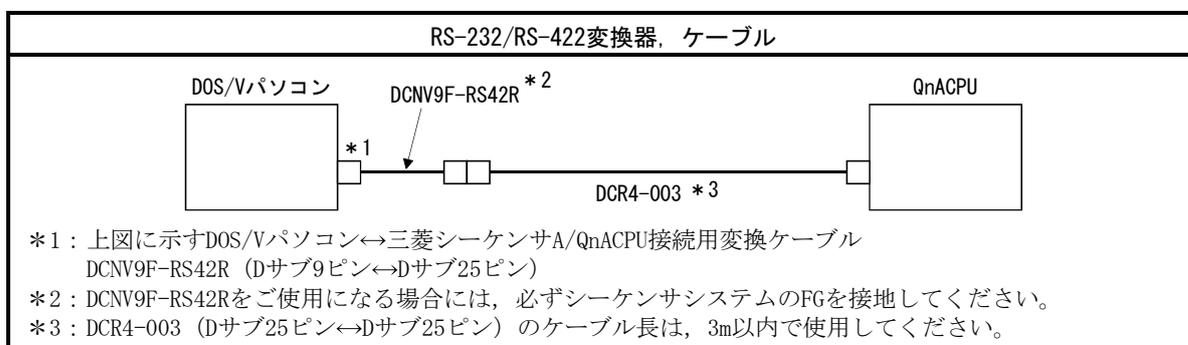


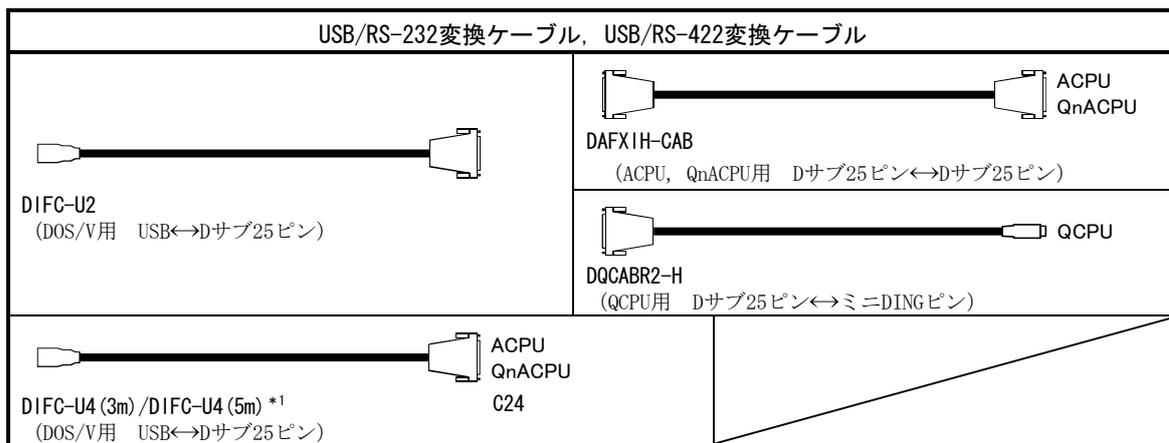
⑥ ダイヤトレンド製を使用する場合 (紹介品)

- ダイヤトレンド株式会社
 〒542-0081 大阪府大阪市中央区南船場2-2-14
 TEL (06) 4705-1110 FAX (06) 4705-1109



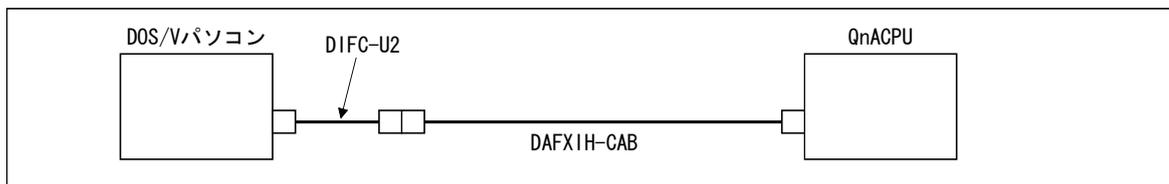
- DAFX1H-CABケーブルを使用する場合は、D232V-CABが必要です。
- QnACPUに対して38400bpsの通信を行う場合は、DAFX1H-CAB, DAFX1H-CABL, DAFX1H-CABVをお買い求めください。



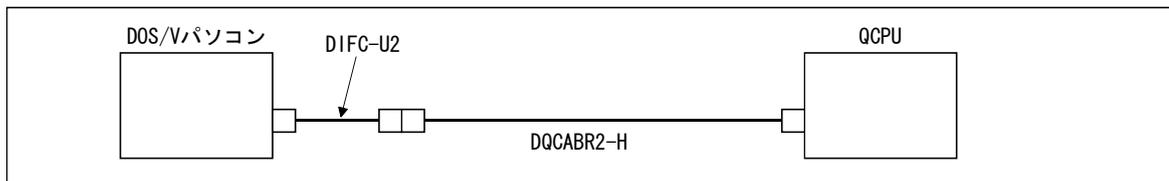


*1: DIFC-U4は、G4ユニット/G4-S3ユニットの紹介品には含みません。
 使用した場合、動作保証できません。

DIFC-U2によるDOS/Vパソコン⇄QnACPU間の接続例

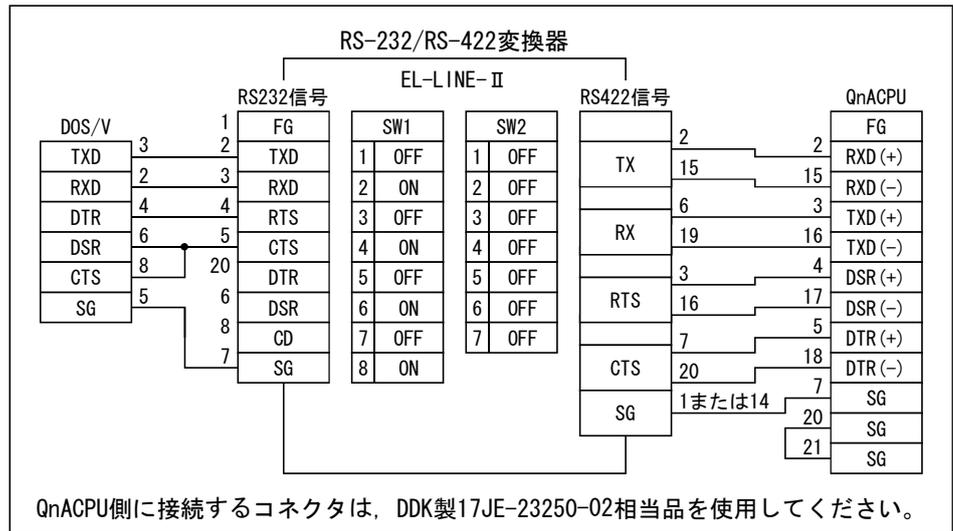


DIFC-U2によるDOS/Vパソコン⇄QCPU間の接続例



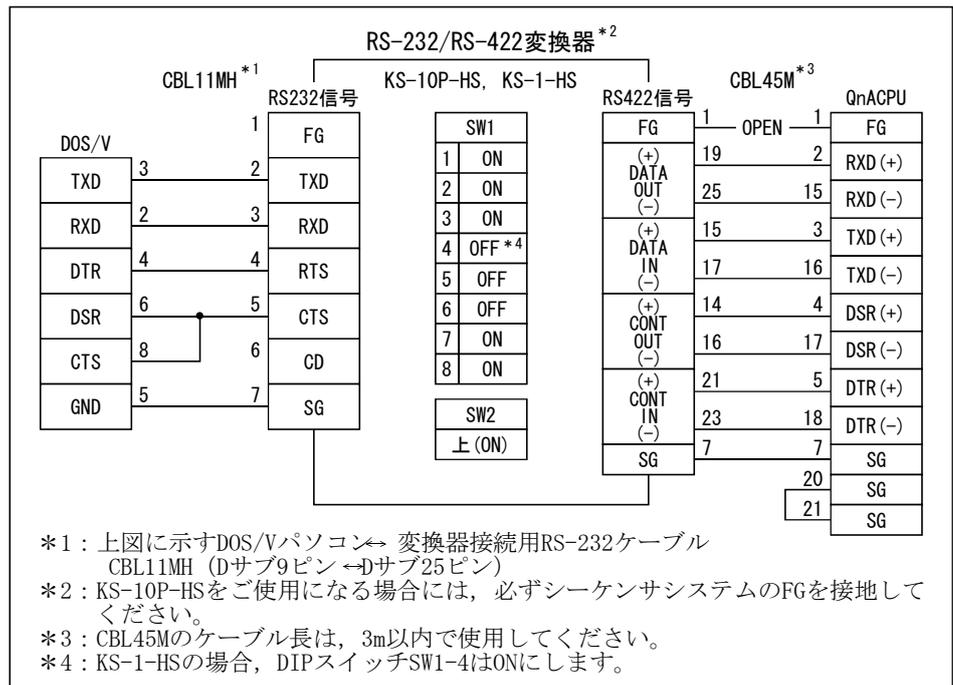
- ◎ 有限会社エル・エンジニアリング製を使用する場合
 - ・有限会社エル・エンジニアリング
〒454-0805 愛知県名古屋市中川区舟戸町7番16号
TEL (052) 361-2290 FAX (052) 363-1050
 - ・EL-LINE-II (ケーブルユーザ作成)

EL-LINE-IIによるDOS/Vパソコン⇔QnACPU間の接続例



- ④ 株式会社 システムサコム販売製を使用する場合
 - ・株式会社 システムサコム販売
〒103-0002 東京都中央区日本橋馬喰町1-6-6吉野第二ビル4F
TEL (03) 5623-5933 FAX (03) 3660-0891
 - ・KS-10P-HS, KS-1-HS

KS-10P-HS, KS-1-HSによるDOS/Vパソコン⇔QnACPU間の接続例



- ③ モーションコントローラCPU接続時のケーブル
DOS/VパソコンとモーションコントローラCPU間で交信を行う場合、②と同様のケーブルを使用してください。

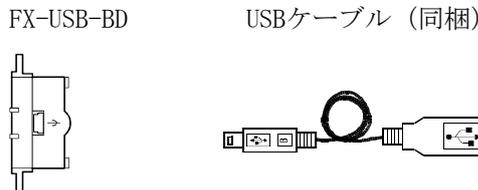
- ④ パソコン側のUSBとの接続時の変換器／ケーブルについて (FXCPU対応)
 - ・システム構成



- ・ Windows® 98, Windows® Me, Windows® 2000 Professional, Windows® XP, Windows Vista® およびWindows® 7 (32ビット版) を使用時、付属CD-ROMのドライバがインストールされている場合に使用できます。

- ⑤ USBケーブルと機能拡張ボードについて (FX3U/FX3UC対応)

- ① システム構成



- ② GX DeveloperでPCパラメータの《PCシステム設定(2)》タブの“通信設定をする”チェックボックスにチェックを入れると、このポートによるシーケンサとの通信ができなくなります。
この場合は、シーケンサ内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。



プロジェクトのCPUタイプがFX3U(c)時、チャンネル指定(CH1/CH2)のコンボボックスが表示されます。

CH1を選択し、設定内容を確認してください。

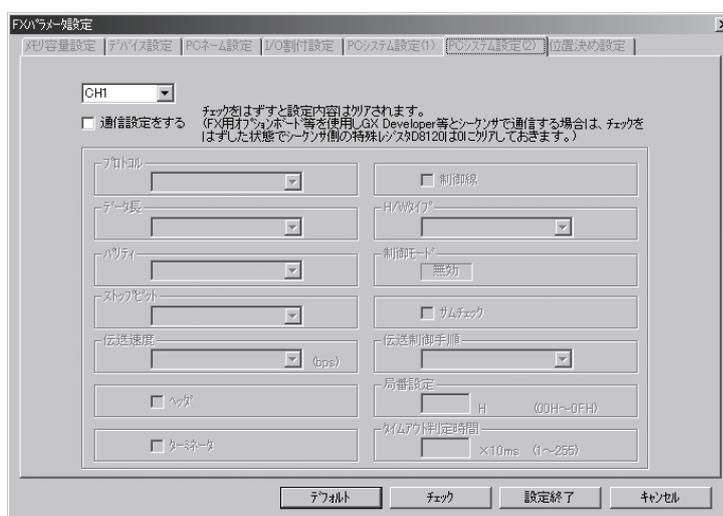
- ③ Windows® 98, Windows® Me, Windows® 2000 Professional, Windows® XP, Windows Vista® およびWindows® 7 (32ビット版) を使用時、FX-USB-AWまたはFX3U-USB-BDに同梱されているCD-ROMのドライバがインストールされている場合に使用できます。
- ④ Windows® 95, Windows NT® Workstation 4.0の場合は使用できません。
- ⑤ FX3U-USB-BD使用時の注意事項および制約事項については、FX3U-USB-BDに同梱されているマニュアルを参照してください。

⑥ FXCPU の RS422 機能拡張ボードについて

シリーズ	機能拡張ボード
FX3U, FX3UC	FX3U-422-BD
FX3G	FX3G-422-BD
FX2N	FX2N-422-BD
FX1S, FX1N	FX1N-422-BD

GX Developer で PC パラメータの《PC システム設定(2)》タブの“通信設定をする”チェックボックスにチェックを入れると、このポートによるシーケンサとの通信ができなくなります。

この場合は、シーケンサ内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。



プロジェクトの PC タイプが FX3G および FX3U(C)時、チャンネル指定 (CH1/CH2) のコンボボックスが表示されます。

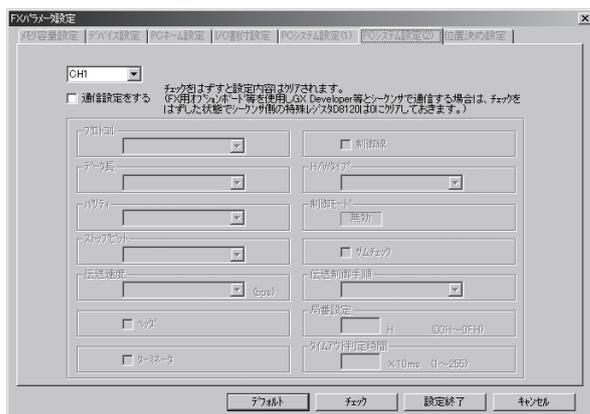
CH1 を選択し、設定内容を確認してください。

⑦ FXCPU の RS-232 ケーブルと機能拡張ボード(特殊アダプタ)について

パソコンのシリアルポートの形状	シリーズ	必要になる機能拡張ボードおよび特殊アダプタ	RS-232ケーブル
Dサブ9ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	FX-232CAB-1
		機能拡張ボード (FX3U-***-BD) + FX3U-232ADP*1	
	FX3G	FX3G-232-BD	FX-232CAB-1
		FX3G-CNV-ADP + FX3U-232ADP	
	FX2N	FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB-1
		FX2N-232-BD	FX-232CAB-1
		FX2NC-232ADP + FX2N-CNV-BD	
	FX1NC, FX2NC	FX0N-232ADP	F2-232CAB-1
		FX2NC-232ADP	FX-232CAB-1
	FX1S, FX1N	FX0N-232ADP + FX1N-CNV-BD	F2-232CAB-1
		FX1N-232-BD	FX-232CAB-1
		FX2NC-232ADP + FX1N-CNV-BD	
ハーフピッチ14ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	FX-232CAB-2
		機能拡張ボード (FX3U-***-BD) + FX3U-232ADP*1	
	FX3G	FX3G-232-BD	FX-232CAB-2
		FX3G-CNV-ADP + FX3U-232ADP	
	FX2N	FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB-2
		FX2N-232-BD	FX-232CAB-2
		FX2NC-232ADP + FX2N-CNV-BD	
	FX1NC, FX2NC	FX0N-232ADP	F2-232CAB-2
		FX2NC-232ADP	FX-232CAB-2
	FX1S, FX1N	FX0N-232ADP + FX1N-CNV-BD	F2-232CAB-2
		FX1N-232-BD	FX-232CAB-2
		FX2NC-232ADP + FX1N-CNV-BD	
Dサブ25ピン	FX3U, FX3UC	FX3U-232-BD	F2-232CAB-1
		機能拡張ボード (FX3U-***-BD) + FX3U-232ADP*1	
	FX3G	FX3G-232-BD	F2-232CAB-1
		FX3G-CNV-ADP + FX3U-232ADP	
	FX2N	FX0N-232ADP + FX2N-CNV-BD	F2-232CAB
		FX2N-232-BD	F2-232CAB-1
		FX2NC-232ADP+FX2N-CNV-BD	
	FX1NC, FX2NC	FX0N-232ADP	F2-232CAB
		FX2NC-232ADP	F2-232CAB-1
	FX1S, FX1N	FX0N-232ADP+FX1N-CNV-BD	F2-232CAB
		FX1N-232-BD	F2-232CAB-1
		FX2NC-232ADP+FX1N-CNV-BD	

*1 : 機能拡張ボード (FX3U-***-BD) の***には、232, 485, 422, USB, CNV が入ります。
FX3UC シリーズは、FX3UC-32MT-LT, FX3UC-32MT-LT-2 のみ接続可能です。
なお、FX3U-485-BD については、計算機リンク通信も行えます。
計算機リンク通信時の設定については、6.1.1 項(4)を参照してください。

GX Developer で PC パラメータの《PC システム設定(2)》タブの“通信設定をする”チェックボックスにチェックを入れると、このポートによるシーケンサとの通信ができなくなります。
この場合は、シーケンサ内蔵のプログラミングポートよりこの設定をはずした設定を書き込んでください。



プロジェクトのPCタイプがFX3GおよびFX3U(C)時、チャンネル指定(CH1/CH2)のコンボボックスが表示されます。

FX3U-232-BDまたはFX3U-CNV-BDに接続した1台目のFX3U-232ADPを使用する場合は、CH1を選択し、設定内容を確認してください。

FX3U-CNV-BD以外に接続したFX3U-232ADPまたは、FX3U-CNV-BDに接続した2台目のFX3U-232ADPを使用する場合は、CH2を選択し、設定内容を確認してください。

ポイント

- ・RS-422インタフェース変換ケーブル・変換器の仕様や注意事項などについては、各製品のマニュアルをよくお読みになり、正しくお取扱いをさせていただきますようお願いいたします。
- ・RS-422インタフェースからDC5V電源を受電する変換ケーブル・変換器を抜き差しする場合は、シーケンサCPU側の電源をOFFしてから操作するようにしてください。
- ・RS-422インタフェースからDC5V電源を受電しない（外部電源より受給する）周辺機器および変換ケーブルを抜き差しする場合も、作業前には必ずアースバンドもしくは接地された金属などに触れて、ケーブルや人体などに帯電している静電気を放電してから以下の手順で作業を行ってください。
 - ① DOS/Vパソコン側の電源をOFFする。
 - ② 変換ケーブル・変換器の電源をOFFする。FG端子がある場合は接地する。
 - ③ DOS/VパソコンとシーケンサCPU間の変換ケーブル・変換器を抜き差しする。
 - ④ 変換ケーブル・変換器の電源をONする。
 - ⑤ DOS/Vパソコンの電源をONする。
 - ⑥ ソフトウェアパッケージを立ち上げる。

(4) CPU USB通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
×	×	○	○	○	○	○	○	○

(a) 注意事項

- ① Windows® 98, Windows® 2000 Professional, Windows® Me, Windows® XP, Windows Vista®, Windows® 7は, USBドライバがインストールされている場合に使用できます。
- ② Windows® 2000 Professional, Windows® XP, Windows Vista®, Windows® 7使用時は, USBドライバをユーザにてインストールする必要があります。

(b) USBケーブルについて

- ① USBケーブル使用時は, 1台のシーケンサCPUのみ接続できます。
- ② 弊社で動作確認を行ったUSBケーブルを以下に示します。

製品名	形名	メーカー名
USBケーブル (USB Aタイプ-USB Bタイプ)	AU230	株式会社バッファローコクヨサプライ
USBケーブル (USB Aタイプ-USB miniBタイプ)*1	KU-AMB530	サンワサプライ株式会社
	U2C-M30BK	エレコム株式会社
	MR-J3USBCBL3M	三菱電機株式会社
	GT09-C30USB-5P	三菱電機システムサービス株式会社

*1:ユニバーサルモデル QCPU, LCPU のみ

FX3G CPU についての使用ケーブルの詳細は, “FX3G シリーズユーザーズマニュアル [ハードウェア編]” を参照してください。

- ③ USBケーブルを使用して交信を行う場合の注意事項および制約事項については, “ご使用上の注意事項” を参照してください。

(c) 使用可能CPUユニット

8.5.1項 アクセス可能デバイス 表内の「アクセス先」を参照してください。

(5) MELSECNET (II) 通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	×	×	×	×	×	×

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時はISAバススロットがないため、MELSECNET (II) 通信は使用できません。
- ② 通信ドライバは必ず下記を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。

使用OS	SW2DNF-MNET
Windows NT® Workstation 4.0	○
Windows® 95	○
Windows® 98	○
Windows® 2000 Professional	×
Windows® Me	×
Windows® XP Professional	×
Windows® XP Home Edition	×
Windows Vista®	×
Windows® 7	×

○：使用可能，×：使用不可

- ③ QCPU (Qモード)，LCPUおよびFXCPUにはアクセスできません。

(6) MELSECNET/10通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	×	×	×	×	×	×

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時はISAバススロットがないため、MELSECNET/10通信は使用できません。
- ② 通信ドライバは必ず下記を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。

使用OS	SW2DNF-MNET10	SW3DNF-MNET10
Windows NT® Workstation 4.0	○	○
Windows® 95	○	○
Windows® 98	○	○
Windows® 2000 Professional	×	×
Windows® Me	×	×
Windows® XP Professional	×	×
Windows® XP Home Edition	×	×
Windows Vista®	×	×
Windows® 7	×	×

○：使用可能，×：使用不可

(7) MELSECNET/H通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	×	○	○	○	×

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時は、MELSECNET/H通信は使用できません。
- ② 通信ドライバは必ずSW0DNC-MNETH以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- ③ 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

(8) CC-Link IEコントローラネットワーク通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
×	×	×	○	×	○	○	○	×

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時は、CC-Link IEコントローラネットワーク通信は使用できません。
- ② 通信ドライバは必ずSW1DNC-MNETG-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- ③ 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

(9) CC-Link IEフィールドネットワーク通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
×	×	×	○	×	○	○	○	×

(a) 注意事項

- ① 通信ドライバは必ずSW1DNC-CCIEF-J、またはSW1DNC-CCIEF-B以降を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- ② 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

(10) CC-Link通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	×	○	○	○	×

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時は、CC-Link通信は使用できません。
- ② 通信ドライバは必ず下記を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。
- ③ 通信に使用するネットワークボードの対応OSの詳細については、各ネットワークボードのマニュアルを参照してください。

使用OS	A80BDEJ61BT11/A80BD-J61BT13			Q80BD- J61BT11N	Q81BD- J61BT11
	SW2DNF-CCLINK	SW3DNF-CCLINK	SW4DNF-CCLINK-B	SW1DNC-CCBD2-B	
Windows NT® Workstation 4.0	○	○	○	○	×
Windows® 95	○	○	○	×	×
Windows® 98	○	○	○	×	×
Windows® 2000 Professional	×	×	○	○	○
Windows® Me	×	×	×	×	×
Windows® XP Professional	×	×	○*1	○	○
Windows® XP Home Edition	×	×	×	○	○
Windows Vista®	×	×	×	○*2	○*2
Windows® 7 (32ビット版)	×	×	×	○*3	○*3

○：使用可能，×：使用不可

*1：Windows® XP Professionalを使用する場合、通信ドライバSW4DNF-CCLINK-Bのバージョン40E以降を使用してください。

*2：Windows Vista®を使用する場合、通信ドライバSW1DNC-CCBD2-BのVersion 1.04E以降を使用してください。

*3：Windows® 7 (32ビット版)を使用する場合、通信ドライバSW1DNC-CCBD2-BのVersion 1.08J以降を使用してください。

③ 通信ドライバにおけるアクセス可能なCPUを以下に示します。

CPU 種別	SW2DNF-CCLINK		SW3DNF-CCLINK		SW4DNF-CCLINK-B		SW1DNC-CCBD2-B
	A~V*1	W~*2	A~V*1	W~*2	A~V*1	W~*2	—
ACPU (モーションコントローラCPUを含む)	○	○	○	○	○	○	○
QCPU (Aモード)	○	○	○	○	○	○	○
QnACPU	○	○	○	○	○	○	○
QCPU (Qモード)	×	×	×	○	×	○	○
LCPU	×	×	×	×	×	×	○*3

○：アクセス可能，×：アクセス不可

*1：CC-LinkボードのROMバージョン“A”～“V”の場合

*2：CC-LinkボードのROMバージョン“W”以降の場合

*3：バージョン1.07H以降の場合

- ④ CC-Linkマスタ局のユニットは、ソフトウェアバージョン“N”以降を使用してください。

(11) CC-Link G4通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

(a) 注意事項

- ① Windows® 95上でCC-Link G4通信を行うと、メモリリークが発生しますので、連続稼働は行わないでください。
- ② 使用するCC-Link G4ユニットは、ソフトウェアバージョン“D”以降を使用してください。
- ③ CC-Linkマスタ局のユニットは、ソフトウェアバージョン“N”以降を使用してください。

(b) CC-Link G4ユニットのスイッチ設定

MX Componentを使用する際のスイッチ設定については、“6.8.1項 CC-Link G4ユニットのスイッチ設定”を参照してください。

(c) ケーブルについて

DOS/VパソコンとCC-Link G4ユニット間で交信を行うためには、CPU COM通信と同様のRS-232/RS-422変換ケーブルが必要です。

詳細は、“(3) (b) ②ACPU, QnACPUおよびFXCPU接続時のケーブル”を参照してください。

(12) CPUボード通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	×	×	○	×	×	×	×	×

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時は、CPUボード通信は使用できません。
- ② 通信ドライバは必ず下記を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。

使用OS	SWODNF-ANU-B	SW1DNF-ANU-B
Windows NT® Workstation 4.0	○	○
Windows® 95	×	×
Windows® 98	×	×
Windows® 2000 Professional	×	○
Windows® Me	×	×
Windows® XP Professional	×	×
Windows® XP Home Edition	×	×
Windows Vista®	×	×
Windows® 7	×	×

○：使用可能，×：使用不可

- ③ QCPU (Qモード) , LCPUおよびFXCPUへはアクセスできません。

(13) AF通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	×	×	×	×	×	×	×	×

増設ケーブルについては、AFボードのマニュアルを参照してください。

(a) 注意事項

- ① PC98-NX使用時は、ISAバススロットがないため、AF通信は使用できません。
- ② QCPU (Qモード) , LCPUおよびFXCPUへはアクセスできません。
- ③ 通信ドライバは必ず下記を使用してください。
その他の通信ドライバは使用できません。

使用OS	SWODNF-AF
Windows NT® Workstation 4.0	○
Windows® 95	×
Windows® 98	×
Windows® 2000 Professional	×
Windows® Me	×
Windows® XP Professional	×
Windows® XP Home Edition	×
Windows Vista®	×
Windows® 7	×

○ : 使用可能, × : 使用不可

(14) Qシリーズバス通信 (パソコンCPUユニット使用時のみ)

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	×	×	○	×	×	×	×	×

(a) 注意事項

- ① パソコンCPUユニットが管理しているMELSECNET/HユニットおよびCC-Linkユニット経由で他局へアクセスを行う場合、MELSECNET/H通信およびCC-Link通信用コントロールを使用してください。

(15) GX Simulator通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

GX Simulator通信を行う場合は、GX DeveloperとGX Simulatorは下記のバージョンを使用してください。

使用OS	GX Developer	GX Simulator
Windows NT® Workstation 4.0	Version 5 (SW5D5C-GPPW)以降	Version 5 (SW5D5C-LLT 10B)以降
Windows® 95		
Windows® 98		
Windows® 2000 Professional	Version 7 (SW7D5C-GPPW)以降	Version 6 (SW6D5C-LLT)以降
Windows® Me		
Windows® XP Professional	Version 8 (SW8D5C-GPPW)以降	Version 7 (SW7D5C-LLT)以降
Windows® XP Home Edition		
Windows Vista®		
Windows® 7		

ポイント

GX DeveloperとGX Simulatorは別途購入する必要があります。

(16) GX Simulator2通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
×	×	×	○	×	○	○	○	○

GX Simulator2通信を行う場合は、GX Works2 Version1(SW1DNC-GXW2)以降が必要です。

ポイント

GX Works2は別途購入する必要があります。

(17) モデム通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

(a) 注意事項

- ① モデム通信を行う場合は、接続を行うユニットに対して、パラメータおよびシーケンスプログラムで設定を行う必要があります。
各ユニットの設定には、以下に示すGX Developerを使用してください。

ユニット	GX Developer
A6TEL, Q6TEL, FXCPU, QC24N	Version 3 (SW3D5C-GPPW/SW3D5F-GPPW) 以降
Qシリーズ対応C24	Version 4 (SW4D5C-GPPW) 以降
QJ71CM0	Version 7 (SW7D5C-GPPW) 以降

- ② FXCPUを使用したモデム通信を行う場合、FX1s, FX1N, FX1NC, FX2N, FX2NC, FX3G, FX3U, FX3UCのみ使用可能です。
- ③ パソコンとモデム間の接続には、モデムに付属のRS-232ケーブルを使用してください。

(b) モデム仕様

モデム通信を行う場合は、以下に示す仕様を満たすモデムを選定してください。

- ① ATコマンド対応（初期化コマンド）
- ② DR端子のみを単独でON(High)が可能
(例：DR端子のみをONした時にCD端子も同時にONするモデムは使用不可)
- ③ 通信規格：ITU-T V. 90/V. 34/V. 32bis/V. 32/V. 22bis/V. 22/V. 21/V. FC
Bell 212A/103

ポイント
(1) MX Componentは、手動回線接続（交換手を介しての接続）に対応していません。 加入者電話回線または構内電話回線を使用してモデム通信を行ってください。
(2) パソコン内蔵モデムおよびPCカード(PCMCIA)を使用してモデム通信を行う場合、COMポートの設定が必要となります。 パソコン内蔵モデムおよびPCカード(PCMCIA)のCOMポートについては、該当製品のマニュアルを参照してください。
(3) モデム通信を行う場合、一部のモデムで標準のATコマンドが使用できません。 通信設定ユーティリティにて“ATコマンド”を“モデム標準”に選択して回線接続できない場合は、ユーザにてATコマンドを指定してください。 通信設定ユーティリティの“ATコマンド”の設定については、5.1.7項を参照してください。
(4) コールバック機能を使用する場合、Qシリーズ対応C24またはQシリーズ対応CM0を使用してください。

(18) ゲートウェイ機能通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○	○	○	○	○	○	○	○	○

- (a) ゲートウェイ機能対応GOTについて
ゲートウェイ機能対応のGOTについては、GOTのオペレーティングマニュアル（ゲートウェイ機能編）を参照してください。
- (b) GOTの設定およびGOTとシーケンサ間の設定について
GOTの設定およびGOTとシーケンサ間の設定については、GOTのオペレーティングマニュアル（ゲートウェイ機能編）を参照してください。

(19) GOTトランスペアレント通信

NT	95	98	2000	Me	XP	Vista	7(32)	7(64)
○*1	○	○	○	○*1	○	○	○	○

*1：USB接続の場合は通信できません。

GOT1000シリーズのみ通信可能です。
GOTの設定およびGOTとシーケンサ間の設定については、GOTのマニュアルを参照してください。

- ・GOT1000シリーズ接続マニュアル

2.3 動作環境

MX Componentの動作環境を以下に示します。

項 目		内 容
コンピュータ 本体	DOS/V パソコン	Pentium® 133MHz以上*1を搭載したOSが稼働するDOS/Vパソコン(PC98-NXを含む)
	パソコンCPU ユニット	株式会社コンテック製 MELSEC-Qシリーズ対応パソコンCPUユニット
必要メモリ		32MB以上*2
ハードディスク空き容量		100MB以上
ディスクドライブ		CD-ROMディスクドライブ
ディスプレイ		解像度800×600ドット以上 (Windows Vista® 使用時は1024×768ドット以上)
基本ソフトウェア		Microsoft® Windows® 95 Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® 98 Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 (日本語版) *3 , Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® XP Professional Operating System (日本語版) *4 , Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System (日本語版) *4 , Microsoft® Windows Vista® Home Basic Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows Vista® Home Premium Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows Vista® Business Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows Vista® Ultimate Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows Vista® Enterprise Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® 7 Starter Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® 7 Home Premium Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® 7 Professional Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® 7 Ultimate Operating System (日本語版) , Microsoft® Windows® 7 Enterprise Operating System (日本語版) のいずれか。

*1: Windows® Me使用時はPentium® 150MHz以上を, Windows® XP使用時はPentium® 300MHz以上を, Windows Vista® およびWindows® 7使用時は1GHz以上を推奨します。

*2: Windows® 2000 Professional使用時は64MB以上を, Windows® XP使用時は128MB以上を, Windows Vista® およびWindows® 7 (32ビット版) 使用時は1GB以上を, Windows® 7 (64ビット版) 使用時は2GB以上を推奨します。

*3: Windows NT® Workstation 4.0使用時は, Service Pack 3以上が必要です。

*4: MX Componentは, XP互換モードでは使用できません。

項目	内容	
プログラミング言語 ^{*5}	プログラミング言語	開発ソフトウェア
	Visual Basic [®]	Microsoft [®] Visual Basic [®] 6.0 (日本語版), Microsoft [®] Visual Basic [®] .NET 2003 (日本語版), Microsoft [®] Visual Studio 2005 Visual Basic [®] (日本語版) ^{*8} , Microsoft [®] Visual Studio 2008 Visual Basic [®] (日本語版) ^{*9} , Microsoft [®] Visual Studio 2010 Visual Basic [®] (日本語版) ^{*10}
	Visual C++ [®]	Microsoft [®] Visual C++ [®] 6.0 (日本語版), Microsoft [®] Visual C++ [®] .NET 2003 (日本語版), Microsoft [®] Visual Studio 2005 Visual C++ [®] (日本語版) ^{*8} , Microsoft [®] Visual Studio 2008 Visual C++ [®] (日本語版) ^{*9} , Microsoft [®] Visual Studio 2010 Visual C++ [®] (日本語版) ^{*10}
	VBScript ^{*6, *7}	テキストエディタおよび市販のHTMLツール
	VBA	Microsoft [®] Excel 2000 (日本語版), Microsoft [®] Excel 2002 (日本語版) ^{*11} , Microsoft [®] Excel 2003 (日本語版) ^{*12} , Microsoft [®] Excel 2007 (日本語版) ^{*13} , Microsoft [®] Excel 2010 (32ビット版) (日本語版) ^{*14} , Microsoft [®] Access 2000 (日本語版), Microsoft [®] Access 2002 (日本語版) ^{*11} , Microsoft [®] Access 2003 (日本語版) ^{*12} , Microsoft [®] Access 2007 (日本語版) ^{*13} , Microsoft [®] Access 2010 (32ビット版) (日本語版) ^{*14}

*5: 日本語環境にて作成したユーザプログラムは、日本語環境のみで使用可能です。英語環境では使用できません。

*6: VBScriptを動作させるには、Internet Explorer (バージョン5.00.2919.6307以降) を使用してください。

*7: Windows[®] MeおよびWindows[®] XP Home Edition使用時は、ASP機能は使用できません。

*8: Visual Studio 2005使用時は、Windows[®] 2000 Service Pack 4以上またはWindows[®] XP Service Pack 2以上が必要です。

また、Windows Vista[®] にてVisual Studio 2005を使用時は、Visual Studio 2005 Service Pack 1またはVisual Studio 2005 Service Pack 1 Update for Windows Vista[®] が必要です。

*9: Visual Studio 2008使用時は、Windows[®] XP Service Pack 2以上、Windows Vista[®] またはそれ以降のバージョンが必要です。

また、Windows[®] 7にてVisual Studio 2008を使用時は、Visual Studio 2008 Service Pack 1が必要です。

*10: Visual Studio 2010使用時は、Windows[®] XP Service Pack 3, Windows Vista[®] Service Pack 2以上、Windows[®] 7またはそれ以降のバージョンが必要です。

*11: Windows[®] 7にてExcel 2002およびAccess 2002を使用時は、Microsoft[®] Office XP Service Pack 3以上が必要です。

*12: Windows[®] 7にてExcel 2003およびAccess 2003を使用時は、Microsoft[®] Office 2003 Service Pack 3以上が必要です。

*13: Excel 2007およびAccess 2007使用時は、Windows[®] XP Service Pack 2以上が必要です。

*14: Excel 2010 (32ビット版) およびAccess 2010 (32ビット版) 使用時は、Windows[®] XP Service Pack 3, Windows Vista[®] Service Pack 1以上、Windows[®] 7またはそれ以降のバージョンが必要です。

また、Excel 2010 (64ビット版) およびAccess 2010 (64ビット版) には対応していません。

ポイント
<p>(1) Windows® XP, Windows Vista® およびWindows® 7をご使用の場合は、以下に示す新機能が使用できません。</p> <p>以下に示す新機能を使用した場合、本製品は正常に動作しない可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows® 互換モードでのアプリケーション起動• ユーザ簡易切替え• リモートデスクトップ• 大きいフォント（画面プロパティの詳細設定） <p>また、Windows® XP（64ビット版）およびWindows Vista®（64ビット版）には対応していません。</p> <p>(2) Windows® 7をご使用の場合は、以下に示す新機能が使用できません。</p> <ul style="list-style-type: none">• Windows XP Mode• Windowsタッチ <p>(3) ユーザプログラムを作成する場合、ターゲットCPUは“x86”（32ビット）を選択してください。</p>

2.4 使用可能シーケンサCPU

使用可能なシーケンサCPUを次に示します。

	シーケンサCPU形名
ACPU	A0J2HCPU, A1SCPU, A1SCPUC24-R2, A1SHCPU, A1SJCPU, A1SJHCPU, A1NCPUCPU, A2CCPU, A2CCPUC24, A2CCPUC24-PRF, A2CJCPU, A2NCPUCPU, A2NCPUCPU-S1, A2SCPU, A2SHCPU, A3NCPUCPU, A1FXCPU, A2ACPU, A2ACPU-S1, A2ACPUP21/R21, A2ACPUP21/R21-S1, A3ACPU, A3ACPUP21/R21, A2UCPU, A2UCPU-S1, A2USCPU, A2USCPU-S1, A2USHCPU-S1, A3UCPU, A4UCPU
QnACPU	Q2ACPU, Q2ACPU-S1, Q2ASCPU, Q2ASCPU-S1, Q2ASHCPU, Q2ASHCPU-S1, Q3ACPU, Q4ACPU, Q4ARCPU
QCPU (Aモード)	Q02CPU-A, Q02HCPU-A, Q06HCPU-A
QCPU (Qモード)	Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU, Q02CPU, Q02HCPU, Q02PHCPU, Q02UCPU, Q03UDCPU, Q03UDECPU, Q04UDHCPU, Q04UDEHCPU, Q06HCPU, Q06PHCPU, Q06UDHCPU, Q06UDEHCPU, Q10UDHCPU, Q10UDEHCPU, Q12HCPU, Q12PHCPU, Q12PRHCPU, Q13UDHCPU, Q13UDEHCPU, Q20UDHCPU, Q20UDEHCPU, Q25HCPU, Q25PHCPU, Q25PRHCPU, Q26UDHCPU, Q26UDEHCPU, Q50UDEHCPU, Q100UDEHCPU
LCPU	L02CPU, L26CPU-BT
FXCPU	FX0CPU, FX0sCPU, FX0nCPU, FX1CPU, FX1nCPU, FX1ncCPU, FX1sCPU, FX2CPU, FX2cCPU, FX2nCPU, FX2ncCPU, FX3cCPU, FX3uCPU, FX3ucCPU
モーションコントローラCPU	A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU, A173UHCPU-S1, A273UHCPU, A273UHCPU-S3
QSCPU	QS001CPU
C言語コントローラCPU	Q12DCCPU-V*1

*1: シリアルNo. の上5桁が“12042”以降のみ対応

3 操作手順

MX Componentの開発タイプの選択およびユーザアプリケーションの作成手順について説明します。

3.1 開発タイプの選択

MX Componentを使用してユーザアプリケーションを作成する場合、ユーティリティ設定タイプまたはプログラム設定タイプのどちらかを選択してください。

ユーティリティ設定タイプおよびプログラム設定タイプについて説明します。

(1) ユーティリティ設定タイプ

通信を行うための設定を、通信設定ウィザードを使用して行います。

通信設定ユーティリティを使用することにより、各通信の複雑なパラメータを意識することなくユーザプログラムの作成が行えます。

ユーザプログラムでは、通信設定ウィザードで設定した論理局番をACTコントロールのプロパティ、またはユーザプログラム内部に設定するだけで通信回線を接続することができます。

(2) プログラム設定タイプ

通信設定ユーティリティを使用しないで、ユーザプログラムの作成を行います。

各通信を行うためのACTコントロールの設定を、プロパティウィンドウで直接入力またはユーザプログラム内部で行います。

なお、設定が必要となるプロパティは、各ACTコントロールにより異なります。

(3) 比較

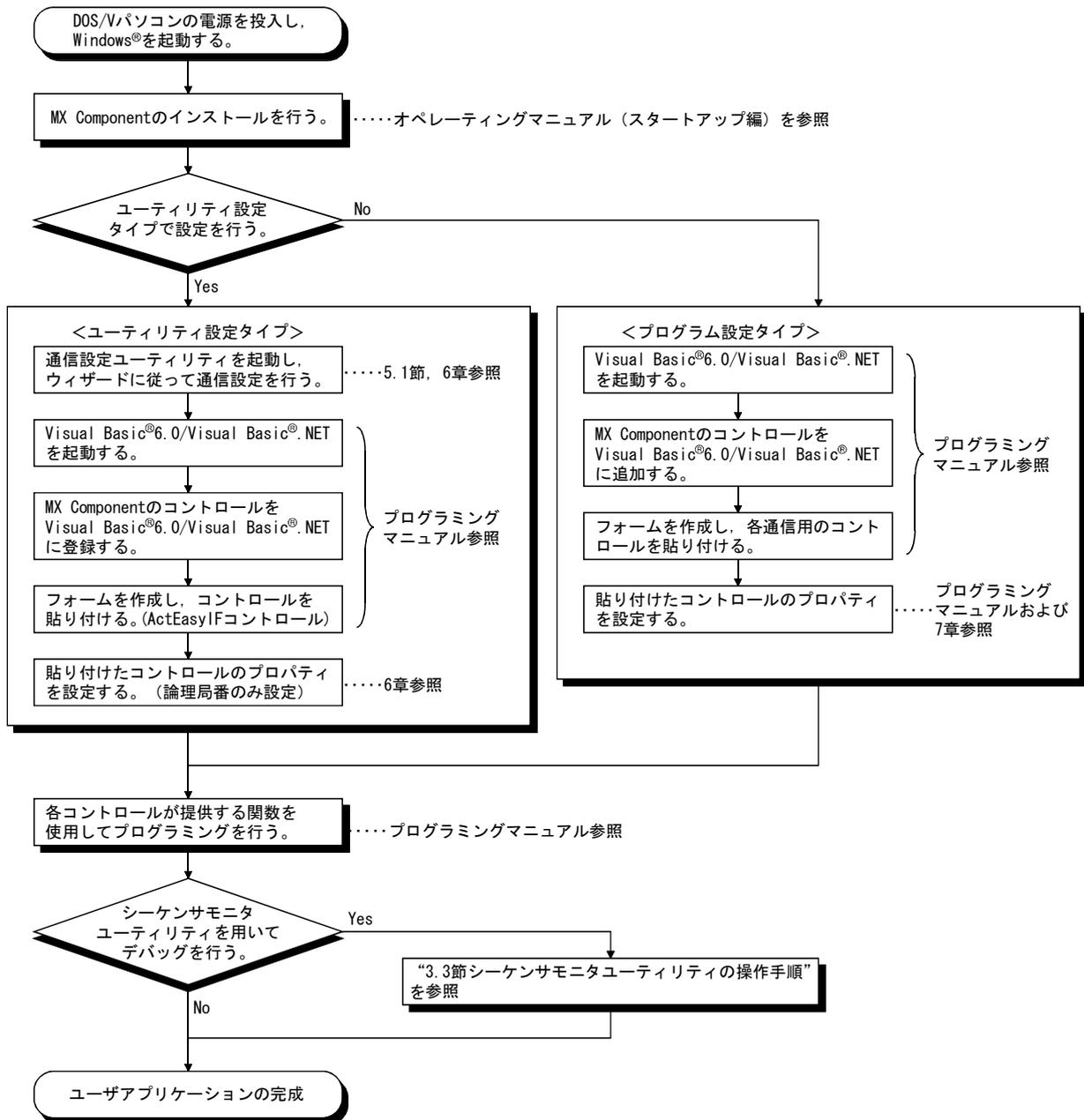
ユーティリティ設定タイプとプログラム設定タイプの比較表を以下に示します。

設定タイプ 項 目	ユーティリティ設定タイプ	プログラム設定タイプ
特 長	通信設定ウィザードを使用して、通信設定が簡単に行える。 ユーザプログラムの作成では、通信設定ウィザードの設定（論理局番）を指定するだけで通信が可能。（開発工数を削減できる）	ユーザプログラムにて、すべての通信設定が行える。 ユーザプログラムにて、柔軟に通信設定の変更が行える。
使用ACTコントロール	ActEasyIF, ActMLEasyIF	各通信用のACTコントロール
通信設定ユーティリティの使用可否	使用する。	使用しない。
シーケンサモニタユーティリティの接続方法	論理局番を選択する。	接続するごとに設定内容を変更する。 (ウィザードを使用)

3.2 ユーザアプリケーションの作成手順

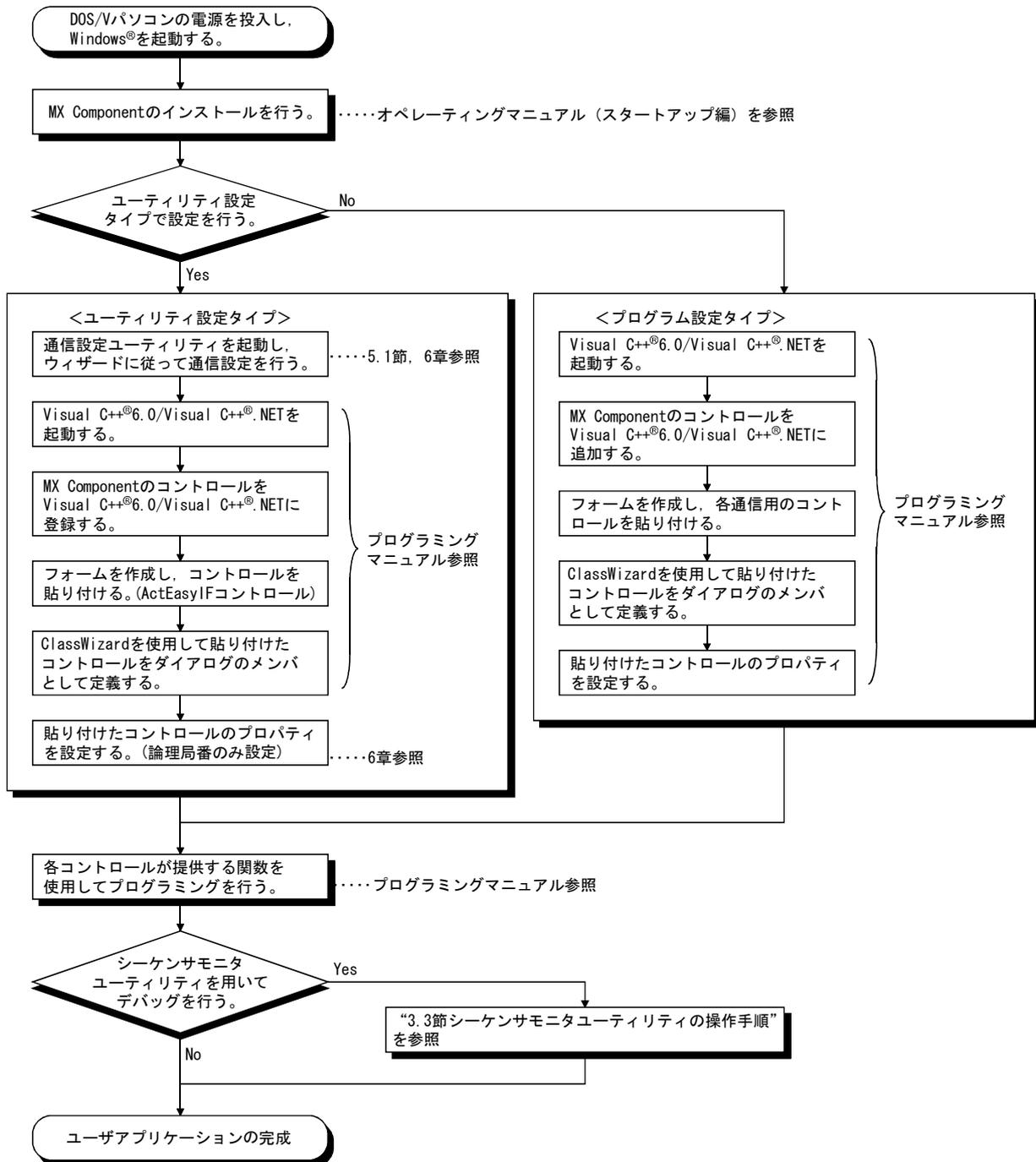
3.2.1 Visual Basic® 6.0/Visual Basic® .NETを使用する場合

Visual Basic® 6.0/Visual Basic® .NETを使用する場合の作成手順を以下に示します。



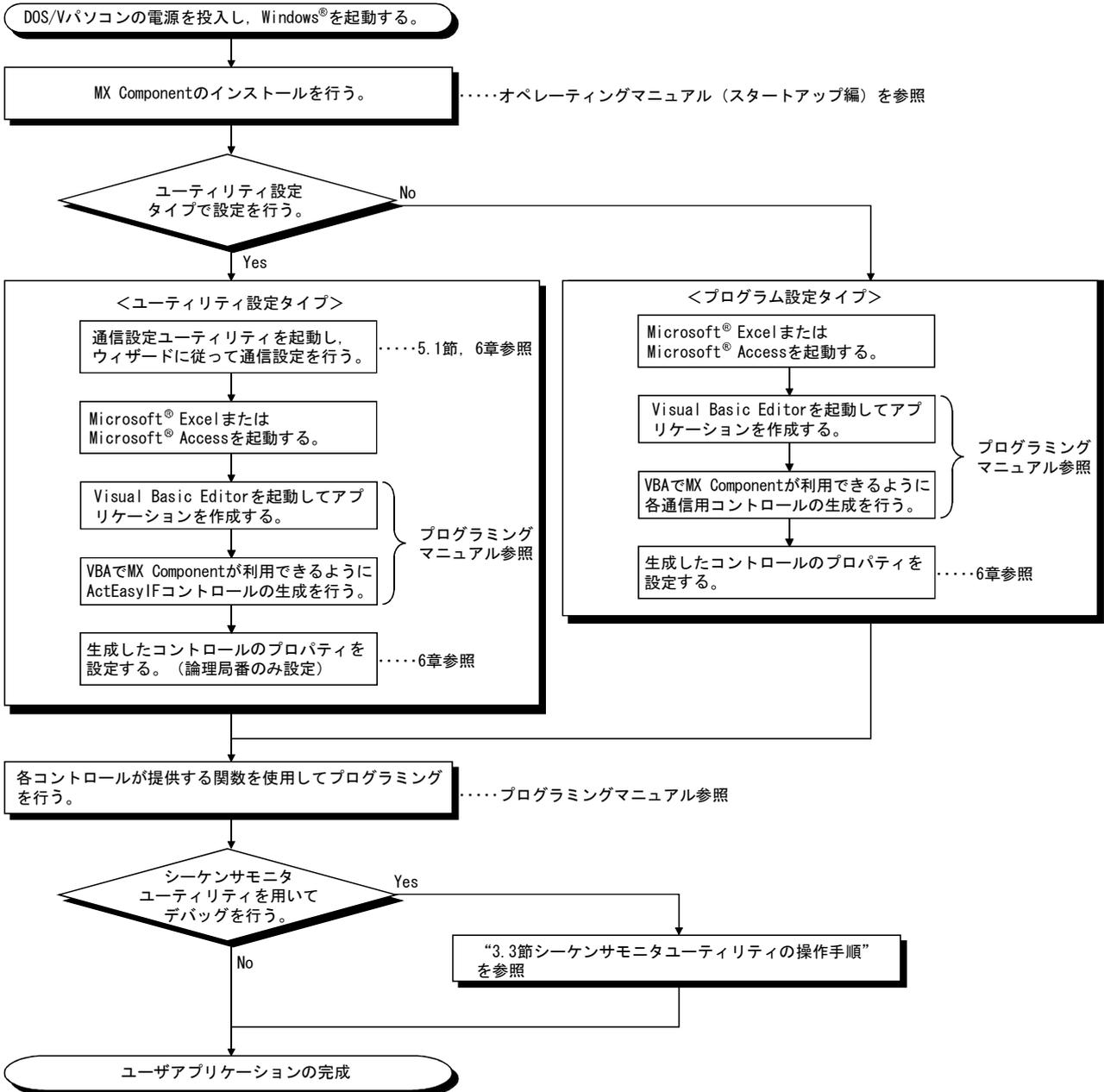
3.2.2 Visual C++[®] 6.0/Visual C++[®] .NETを使用する場合

Visual C++[®] 6.0/Visual C++[®] .NETを使用する場合の作成手順を以下に示します。



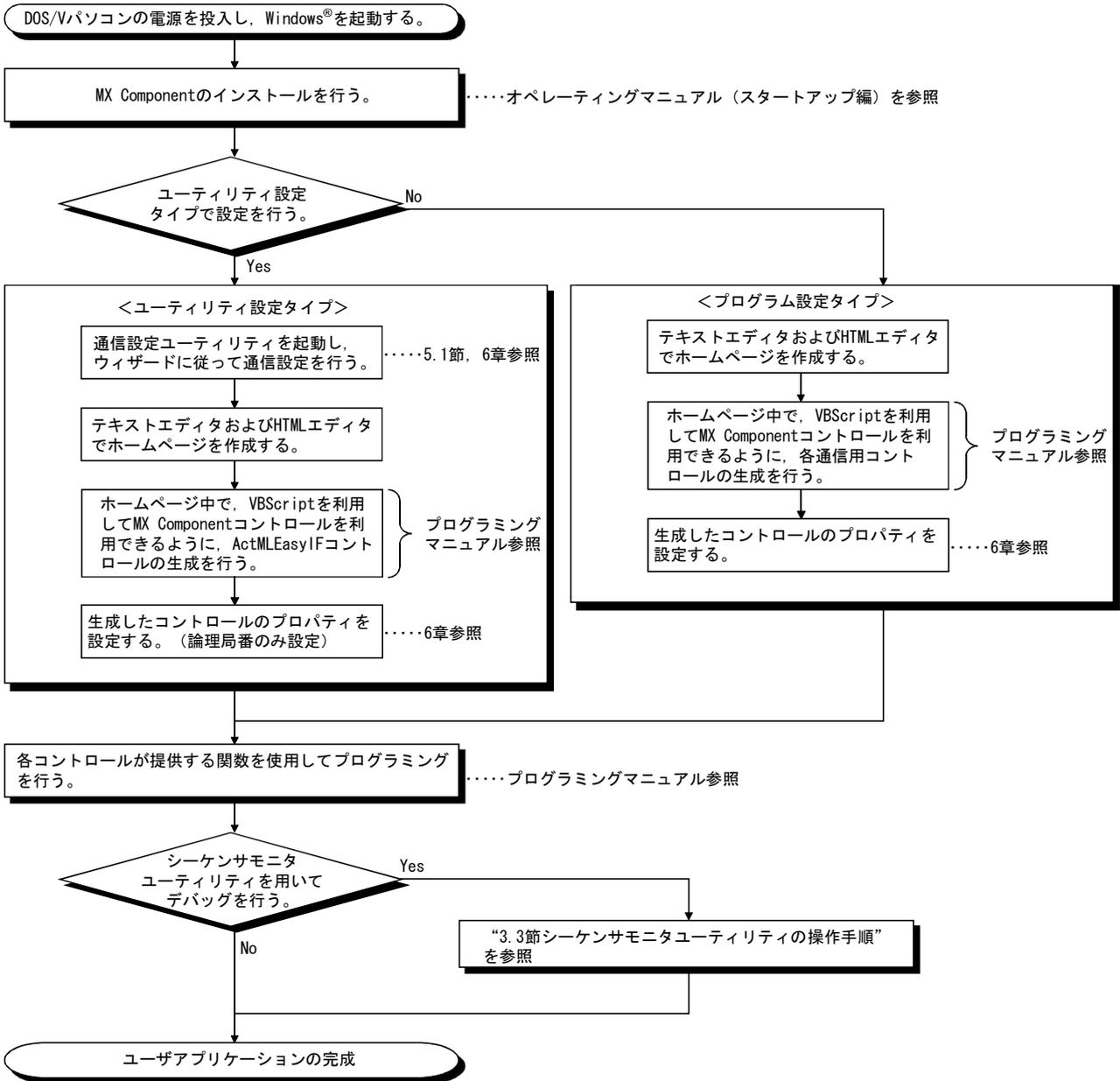
3.2.3 VBAを使用する場合

VBAを使用する場合の作成手順を以下に示します。



3.2.4 VBScriptを使用する場合

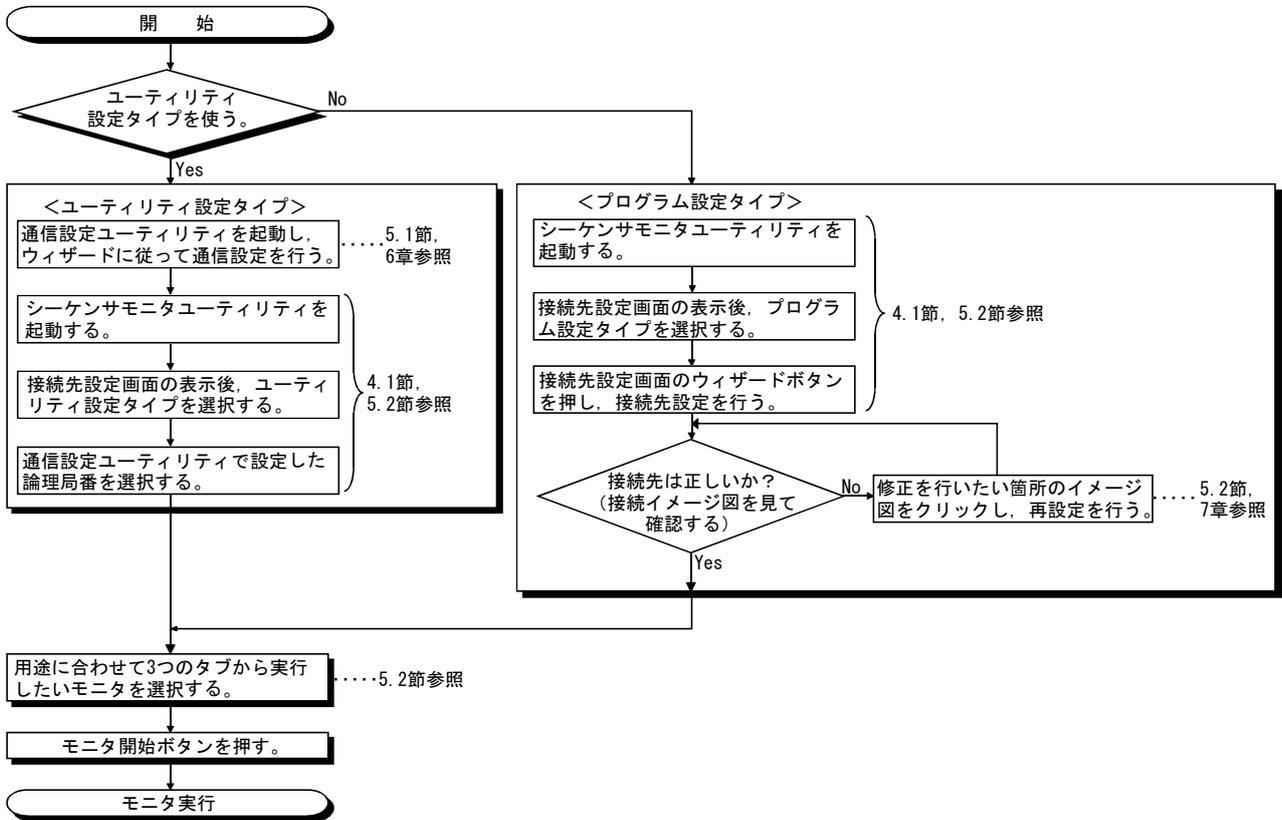
VBScriptを使用する場合の作成手順を以下に示します。



ポイント
インターネット/イントラネット環境の立上げ方法については、付2を参照してください。

3.3 シーケンサモニタユーティリティの操作手順

シーケンサモニタユーティリティの操作手順を以下に示します。



4 ユーティリティの共通操作

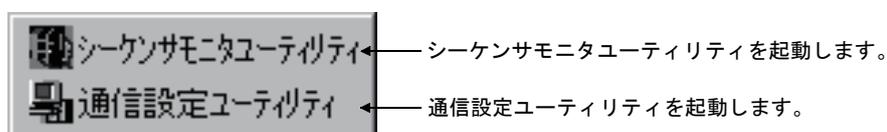
各ユーティリティにおける共通の操作について説明します。

4.1 ユーティリティを起動する

各ユーティリティは、[スタート]–[プログラム*1]–[MELSOFTアプリケーション]–[MX Component]メニュー内にあるアイコンをクリックすることにより起動できます。

登録されるアイコンについては、オペレーティングマニュアル（スタートアップ編）を参照してください。

*1：Windows® XP, Windows Vista® およびWindows® 7使用時は、[すべてのプログラム]と表示されます。



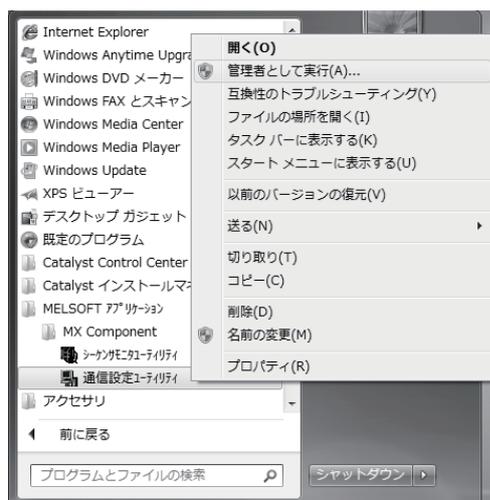
<各ユーティリティ実行時の管理者権限について>

(1) 管理者権限

- ① ユーザーアカウント制御(UAC)が有効の場合
管理者を含むすべてのユーザが既定で、「標準ユーザ」として動作します。
管理者権限でプログラムを実行するためには、“管理者として実行”を指定してください。
- ② ユーザーアカウント制御(UAC)が無効の場合
ログインユーザの権限でプログラムを実行できます。

(2) 管理者権限での実行手順

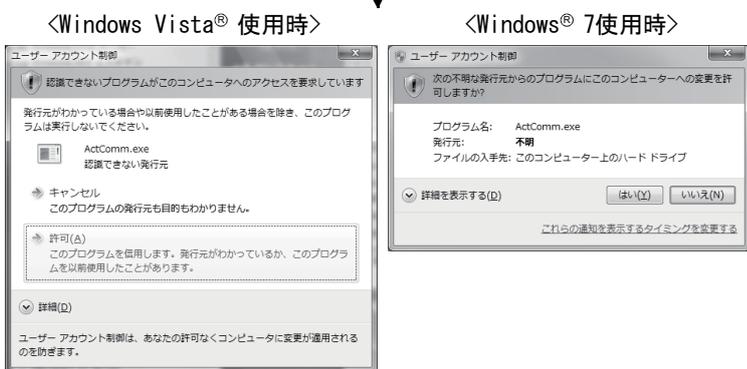
UACが有効な場合に、通信設定ユーティリティを管理者権限で実行する手順を以下に示します。（シーケンサモニタユーティリティも同様です。）



- ① “通信設定ユーティリティ”を選択し、右クリックで“管理者として実行”を選択します。

↓
(次のページへ)

(前ページより)



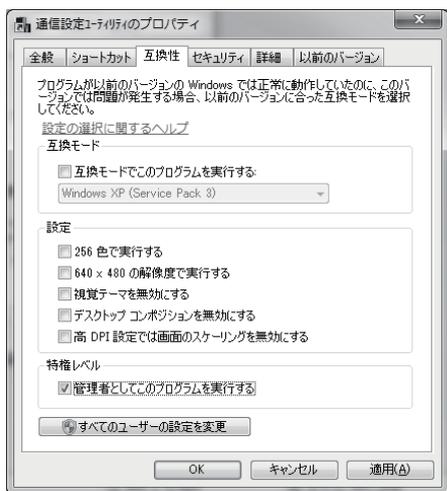
- ② 管理者ユーザの場合は、左記メッセージが表示されます。
 “許可(A)”またははい(Y)を選択すると、管理者権限で実行できます。
 “キャンセル”またはいいえ(N)を選択した場合は、実行できません。

(3) 常に管理者として実行するための設定

常に“管理者として実行”するためには、以下の設定を行ってください。
 (シーケンサモニターユーティリティも同様です。)



- ① “通信設定ユーティリティ”を選択し、右クリックで“プロパティ”を選択します。

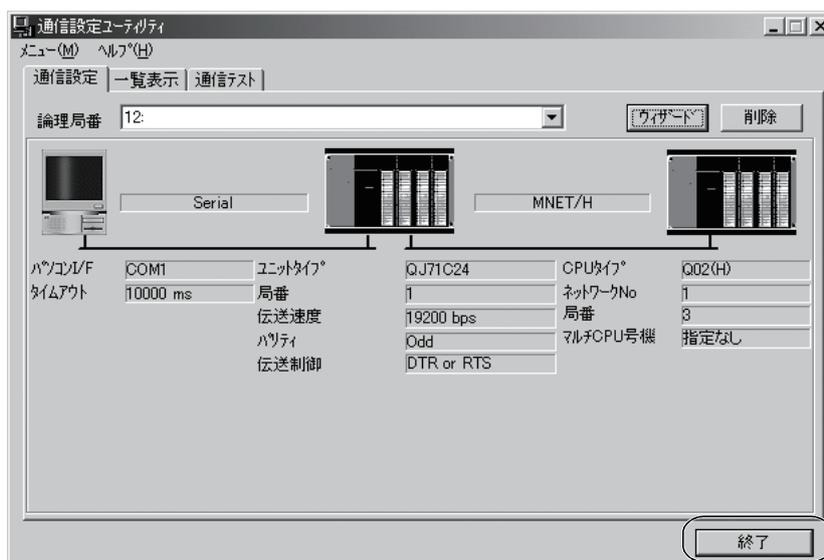


- ② 《互換性》タブを選択し、“特権レベル”の“管理者としてこのプログラムを実行する”にチェックを入れます。

4.2 ユーティリティを終了する

各ユーティリティを終了する場合は、画面右下にある「終了」をクリックします。

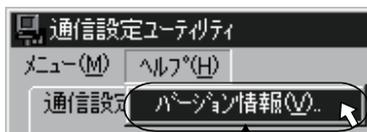
ダイアログボックスが表示されますので、「はい」をクリックしユーティリティを終了してください。



クリック！

4.3 バージョンを確認する

各ユーティリティのバージョンを確認する場合は、[ヘルプ]－[バージョン情報]メニューをクリックします。



クリック！

5 ユーティリティの操作

通信設定ユーティリティおよびシーケンサモニタユーティリティの操作方法について説明します。

ポイント

通信設定ユーティリティを使用した各通信の設定例については、“6章 ユーティリティ設定タイプの通信設定例”を参照してください。
--

5.1 通信設定ユーティリティ

ユーティリティ設定タイプで通信を行う際に使用する、通信設定ユーティリティの操作や設定方法について説明します。

5.1.1 通信設定画面の操作

通信設定ウィザードにて設定した論理局番の設定内容の詳細表示および編集を行います。



5

項 目	内 容
論理局番	通信設定ウィザードで設定した内容の詳細表示や編集を行う論理局番を選択します。
ウィザード	通信設定ウィザードを起動し、論理局番の設定を行います。
削除	設定した論理局番を削除します。
① (接続イメージ図)	選択した論理局番の接続イメージ図を表示します。 接続イメージ図の絵 (パソコン, シーケンサCPU) をクリックすると通信設定ウィザードが起動し、設定内容の変更を行うことができます。

備 考

通信設定ウィザードの詳細は、“5.1.6項 通信設定ウィザード画面の操作”を参照してください。

5.1.2 一覧表示画面の操作

登録されている論理局番の一覧表示、論理局番の編集およびプログラム設定タイプにて必要なプロパティの一覧表示を行います。



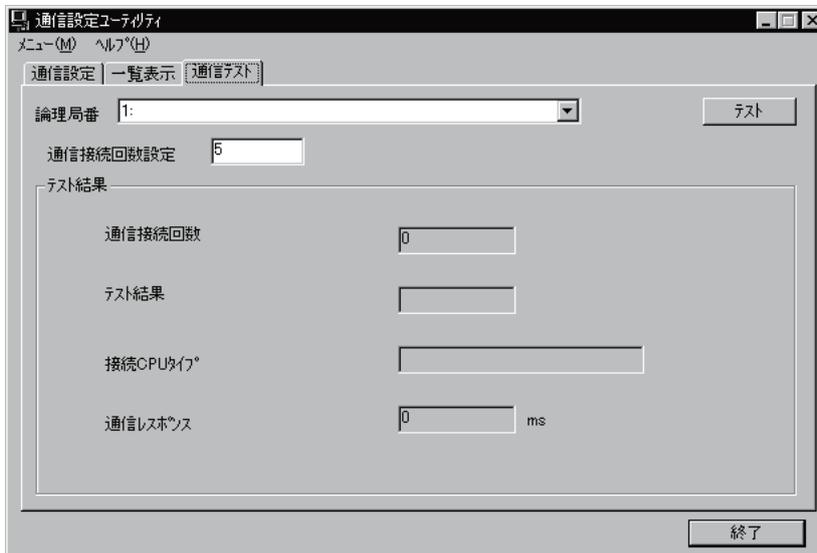
項目	内容
① (プロパティ一覧)	登録されている論理局番の設定内容を表示します。 論理局番をダブルクリックすると、通信設定ウィザードが起動します。
ウィザード	通信設定ウィザードを起動し、論理局番の設定を行います。
削除	設定した論理局番を削除します。
表示	ユーティリティ……論理局番で設定した内容を① (プロパティ一覧) に表示します。 プログラム……プログラム設定タイプで設定に必要なプロパティ一覧を① (プロパティ一覧) に表示します。
テキスト保存	① (プロパティ一覧) の内容をtxt形式でファイルに保存します。

備考

通信設定ウィザードの詳細は、“5.1.6項 通信設定ウィザード画面の操作”を参照してください。

5.1.3 通信テスト画面の操作

登録されている論理局番の通信テストを行います。



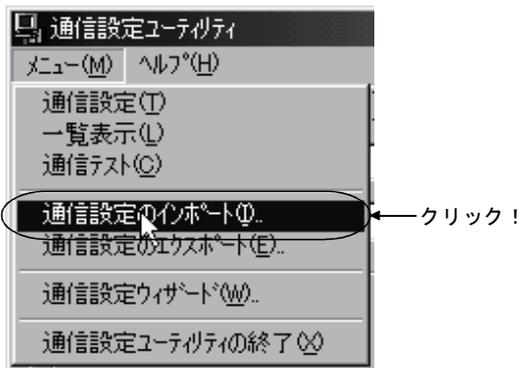
項目	内容										
論理局番	通信テストを行う論理局番を選択します。										
通信接続回数設定	指定した論理局番に対し、通信テストを何回繰り返すか設定します。(デフォルト: 5) 設定可能範囲: 1~32767										
テスト (キャンセル)	<p>通信テストを開始 (中止) します。</p> <p>モデム通信の内容が設定されている論理局番を選択した場合、テスト クリック後に下記画面が表示されます。</p> <p>パスワードが設定されている場合、パスワードを入力し、OK をクリックしてください。</p> <div data-bbox="464 1339 863 1563" style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>パスワード入力</p> <p>パスワードを入力してください。パスワード設定が無い場合は、そのままOKを押してください。</p> <p><input type="text"/></p> <p>OK キャンセル</p> </div>										
テスト結果	<p>通信テストの結果を表示します。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>通信接続回数</td> <td>通信テスト中の接続回数を表示します。</td> </tr> <tr> <td>テスト結果</td> <td>テスト結果を表示します。 エラー発生時はエラーコードを表示します。 正常終了時は0, 異常終了時は0以外を表示します。</td> </tr> <tr> <td>接続CPUタイプ</td> <td>接続CPUタイプを表示します。</td> </tr> <tr> <td>通信レスポンス</td> <td>1回の通信テストが成立するまでの平均時間を表示します。 (単位: ms)</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	通信接続回数	通信テスト中の接続回数を表示します。	テスト結果	テスト結果を表示します。 エラー発生時はエラーコードを表示します。 正常終了時は0, 異常終了時は0以外を表示します。	接続CPUタイプ	接続CPUタイプを表示します。	通信レスポンス	1回の通信テストが成立するまでの平均時間を表示します。 (単位: ms)
項目	内容										
通信接続回数	通信テスト中の接続回数を表示します。										
テスト結果	テスト結果を表示します。 エラー発生時はエラーコードを表示します。 正常終了時は0, 異常終了時は0以外を表示します。										
接続CPUタイプ	接続CPUタイプを表示します。										
通信レスポンス	1回の通信テストが成立するまでの平均時間を表示します。 (単位: ms)										

5.1.4 通信設定のインポート画面の操作

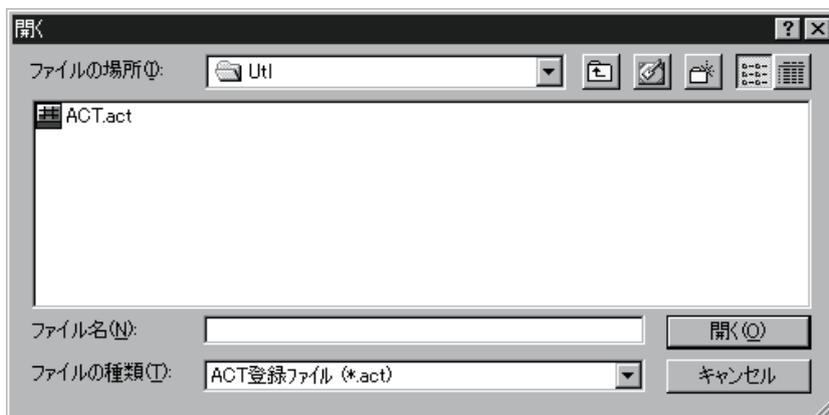
5.1.5項の操作でファイルに保存した通信設定を、ユーティリティに反映します。
 他のDOS/Vパソコンで設定した通信設定を、使用しているDOS/Vパソコンに反映する
 場合に使用します。

(1) 選択するメニュー

メニューバーの[メニュー]—[通信設定のインポート]を選択します。



(2) ダイアログボックス



項 目	内 容
ファイルの場所	インポートするファイルがある場所を指定します。
ファイル名	インポートするファイル名を入力します。
ファイルの種類	インポートするファイルの種類を設定します。
開く	インポートを実行します。
キャンセル	通信設定のインポートをキャンセルします。

ポイント
 通信設定のインポートを行う場合は、エクスポート時のバージョン以降のMX Componentを使用してください。
 エクスポート時のMX Componentのバージョンより前のバージョンを使用した場合、正しくインポートされないことがあります。

5.1.5 通信設定のエクスポート画面の操作

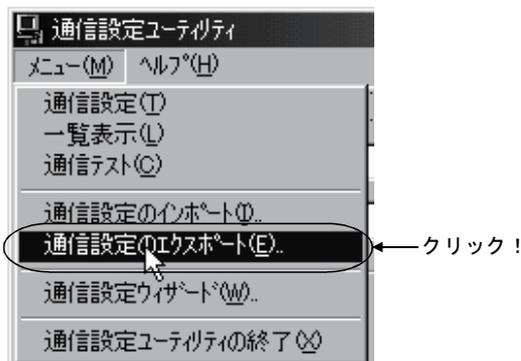
DOS/Vパソコンに設定中の通信設定をファイルに保存します。(保存したファイルはACT登録ファイルと呼びます。)

他のDOS/Vパソコンに通信設定を反映したい場合に使用します。

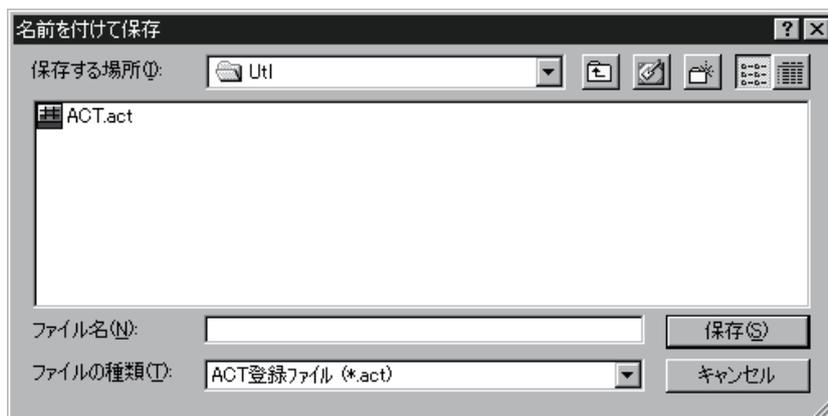
ポイント
通信設定ユーティリティの設定内容は、アンインストールを行うとすべて消去されます。
通信設定ユーティリティの設定内容を保存しておきたい場合、ファイルのエクスポートを行ってください。

(1) 選択するメニュー

メニューバーの[メニュー]—[通信設定のエクスポート]を選択します。



(2) ダイアログボックス



項目	内容
保存する場所	ファイルをエクスポートする場所を指定します。
ファイル名	保存するファイル名を入力します。
ファイルの種類	保存するファイルの種類を設定します。
保存	通信設定をエクスポートします。
キャンセル	通信設定のエクスポートをキャンセルします。

5.1.6 通信設定ウィザード画面の操作

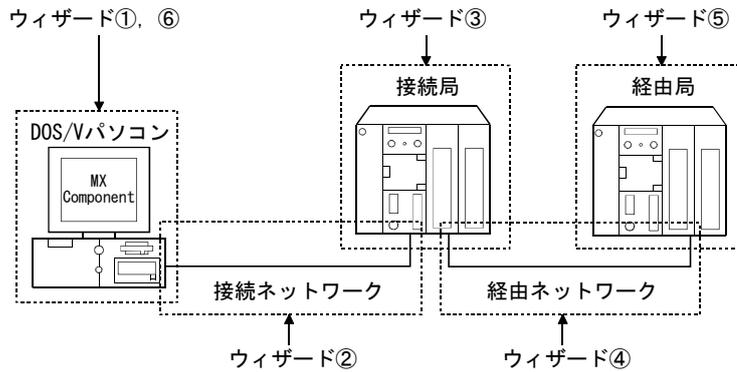
ユーティリティ設定タイプで通信を行うために必要な論理局番の設定を行います。

(1) 通信設定ウィザードの概要

ユーティリティ設定タイプで通信を行うために必要な論理局番の設定を、ウィザード形式にて行います。

通信設定ウィザードの各画面で設定を行う箇所および内容を以下に示します。

各ウィザード画面の設定内容は、“(3) 通信設定ウィザード画面の説明”を参照してください。

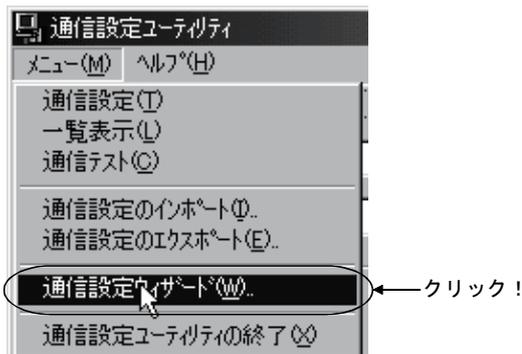


画面名	内容
ウィザード①	論理局番を設定する。
ウィザード②	DOS/Vパソコン・接続局（シーケンサCPUおよびユニット）間の接続ネットワークを設定する。
ウィザード③	接続局（シーケンサCPUおよびユニット）を設定する。
ウィザード④	接続局（シーケンサCPUおよびユニット）・経由局（シーケンサCPUおよびユニット）間の経由ネットワークを設定する。
ウィザード⑤	経由局シーケンサCPUを設定する。
ウィザード⑥	論理局番にコメントを付ける。

(2) 起動手順

メニューバーの[メニュー]ー[通信設定ウィザード]を選択します。

（ユーティリティ画面に表示されている「ウィザード」をクリックすることでも起動できます。）



(3) 通信設定ウィザード画面の説明

通信設定ウィザード画面は、ウィザード①から順にウィザード⑥まで表示されま
す。

通信設定ウィザード画面が表示される順に沿って説明します。

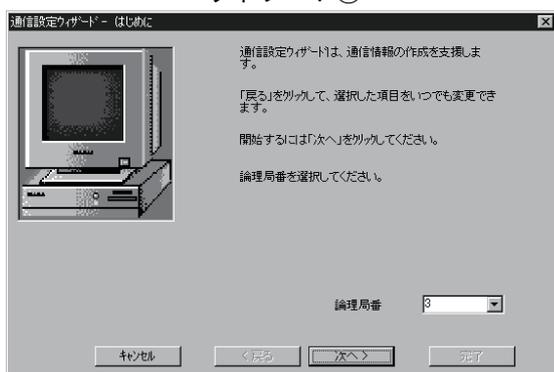
ポイント

- (1) 通信設定ウィザード画面は、通信のための設定内容によって表示または設定可
能項目の内容が異なります。
表示されている設定可能項目をすべて設定してください。
- (2) 通信設定ウィザード画面は、設定内容によって表示されない画面もあります。
- (3) 通信設定ウィザードの起動を限りなく繰り返した場合、メモリ不足エラーが発
生することがあります。
本現象はMicrosoft社のMS-IME95またはMS-IME97に起因するものであり、メモ
リ不足エラーが発生した場合は、MS-IME95またはMS-IME97をMS-IME2000に変更
してください。

通信設定ウィザードを起動



ウィザード①



(次のページへ)

① 論理局番を入力または選択して、**次へ >** をクリックしてく
ださい。

論理局番は、0～1023まで登録可能です。

(前ページより)



ウィザード②



ウィザード③



(次のページへ)

- ② 通信を行う“パソコン側I/F”を選択してください。
 “通信設定”に表示される項目は，“パソコン側I/F”の設定内容により異なります。
 設定可能項目をすべて設定し，**次へ>**をクリックしてください。
 “パソコン側I/F”の各通信に対応した選択項目を以下に示します。

設定項目	通信名
USB	USB通信
USB (GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
シリアル	計算機リンク通信, CPU COM通信, CC-Link G4通信
シリアル (GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
Ethernetボード	Ethernet通信, ゲートウェイ機能通信
Ethernetボード (GOT経由)	GOTトランスペアレント通信
モデム	モデム通信
CC IE Controlボード	CC-Link IEコントローラネットワーク通信
MELSECNET/Hボード	MELSECNET/H通信
MELSECNET/10ボード	MELSECNET/10通信
MELSECNET (II) ボード	MELSECNET (II) 通信
CC IE Fieldボード	CC-Link IEフィールドネットワーク通信
CC-Linkボード	CC-Link通信
Qシリーズバス	Qシリーズバス通信
GX Simulator2	GX Simulator2通信
GX Simulator	GX Simulator通信
CPUボード	CPUボード通信
AFボード	AF通信

- ③ ウィザード③は，ウィザード②の設定内容により設定可能項目が異なります。
 設定可能項目をすべて設定し，**次へ>**をクリックしてください。

備 考

ウィザード②にてGOT経由を選択した場合，以下の画面が表示されます。（ウィザード②の設定内容により設定可能項目が異なります。）

設定可能項目をすべて設定し，**次へ>**をクリックしてください。



(前ページより)



ウィザード④



ウィザード⑤



ウィザード⑥



(登録完了)

④ ウィザード④は、ウィザード②およびウィザード③の設定内容により設定可能項目が異なります。

設定可能項目をすべて設定して、**次へ>**をクリックしてください。

備 考

ウィザード②にてモデムを選択した場合、ウィザード③とウィザード④との間に回線設定画面が表示されます。

回線設定画面の詳細については、“5.1.7項 回線設定画面の操作”を参照してください。

⑤ ウィザード⑤は、ウィザード②、ウィザード③およびウィザード④の設定内容により設定可能項目が異なります。

設定可能項目をすべて設定し、**次へ>**をクリックしてください。

⑥ 設定を行った論理局番にコメントを付けます。

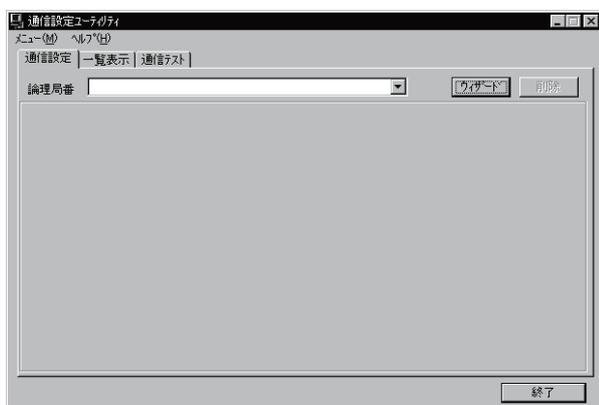
コメントは半角で32文字まで入力可能です。

コメントを入力し、**完了**をクリックしてください。

コメントを付ける必要がない場合は、入力を行わずに**完了**をクリックしてください。

通信設定ウィザードで論理局番の登録が完了すると、通信設定画面に設定内容が表示されます。

<登録前>



<登録後>



5.1.7 回線設定画面の操作

通信設定ユーティリティで、モデム通信の設定を行う際に必要な電話回線の設定を行います。

(1) 回線設定画面

回線接続方式、電話回線およびATコマンドなどの設定を行います。



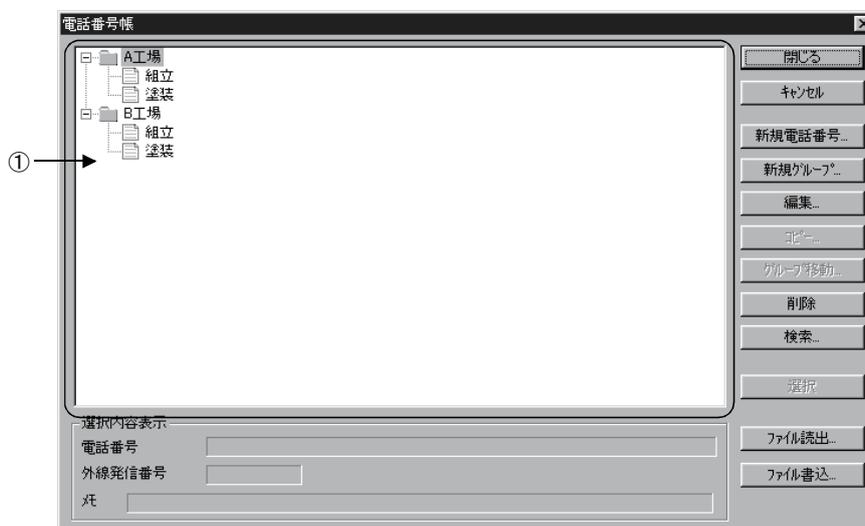
項 目	内 容												
回線接続方式	<p>回線接続方式を設定します。 Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0使用時は、下記項目が選択可能となります。 (A6TEL, Q6TEL, FXCPU, QC24N使用時は“自動”固定となります。)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>自 動</td> <td>コールバック機能が設定されていない場合に選択します。</td> </tr> <tr> <td>自動 (コールバック固定時)</td> <td rowspan="7">各コールバック機能の接続形式についての詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。</td> </tr> <tr> <td>自動 (コールバック番号指定時)</td> </tr> <tr> <td>コールバック接続 (固定時)</td> </tr> <tr> <td>コールバック接続 (番号指定時)</td> </tr> <tr> <td>コールバック要求 (固定時)</td> </tr> <tr> <td>コールバック要求 (番号指定時)</td> </tr> <tr> <td>コールバック受信待ち</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	自 動	コールバック機能が設定されていない場合に選択します。	自動 (コールバック固定時)	各コールバック機能の接続形式についての詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。	自動 (コールバック番号指定時)	コールバック接続 (固定時)	コールバック接続 (番号指定時)	コールバック要求 (固定時)	コールバック要求 (番号指定時)	コールバック受信待ち
項 目	内 容												
自 動	コールバック機能が設定されていない場合に選択します。												
自動 (コールバック固定時)	各コールバック機能の接続形式についての詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。												
自動 (コールバック番号指定時)													
コールバック接続 (固定時)													
コールバック接続 (番号指定時)													
コールバック要求 (固定時)													
コールバック要求 (番号指定時)													
コールバック受信待ち													
コールバック番号	<p>Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0のコールバック機能で使用する、電話番号を設定します。 回線接続方式で“自動 (コールバック番号指定時)”，“コールバック接続 (番号指定時)”，“コールバック要求 (番号指定時)”を選択した場合のみ設定可能です。 設定可能範囲：半角62文字まで 設定可能文字：0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #</p>												

(次のページへ)

項 目		内 容								
回 線	回線種別	回線種別を設定します。(デフォルト: トーン) <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>パルス</td> <td>ダイヤル回線使用時に選択します。</td> </tr> <tr> <td>トーン</td> <td>プッシュ回線使用時に選択します。</td> </tr> <tr> <td>ISDN</td> <td>ISDN回線使用時に選択します。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	パルス	ダイヤル回線使用時に選択します。	トーン	プッシュ回線使用時に選択します。	ISDN	ISDN回線使用時に選択します。
	項 目	内 容								
	パルス	ダイヤル回線使用時に選択します。								
トーン	プッシュ回線使用時に選択します。									
ISDN	ISDN回線使用時に選択します。									
外線発信番号	外線発信番号を設定します。 設定可能範囲: 半角10文字まで 設定可能文字: 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #									
ポート	モデム通信を行うCOMポートを設定します。(デフォルト: COM1)									
接続先	電話番号	接続先の電話番号を入力します。 電話番号帳画面にて接続先が選択されている場合、接続先の電話番号が表示されます。 設定可能範囲: 半角50文字まで 設定可能文字: 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #								
	接続先名	電話番号帳画面で選択した接続先の相手先名が表示されます。								
	<input type="checkbox"/> 参照	電話番号帳画面を表示します。 電話番号帳画面の詳細については、“(2) 電話番号帳画面”を参照してください。								
ATコマンド	モデム標準	モデム標準のATコマンドを使用して回線接続を行う場合に選択します。								
	ATコマンド指定	ATコマンドを入力します。 “モデム標準”を選択して回線接続ができない場合、本項目を選択し入力を行ってください。 ATコマンド登録画面にてATコマンドが選択されている場合、ATコマンドの内容が表示されます。 設定可能範囲: 半角70文字まで 設定可能文字: ASCIIコード								
	見出し文	ATコマンド登録画面で選択したATコマンドの見出し文が表示されます。								
	<input type="checkbox"/> 参照	ATコマンド登録画面を表示します。 ATコマンド登録画面の詳細については、“(4) ATコマンド登録画面”を参照してください。								
	<input type="checkbox"/> ATコマンドヘルプ	ATコマンドヘルプを表示します。								
<input type="checkbox"/> 詳細設定	詳細設定画面を表示します。 詳細設定画面の詳細については、“(6) 詳細設定画面”を参照してください。									

(2) 電話番号帳画面

回線設定画面で使用する電話番号の設定を行います。



項目	内容
① (登録電話番号表示一覧)	グループ名, 相手先名を表示します。
選択内容表示	登録電話番号表示一覧にて選択した相手先の設定内容を表示します。
閉じる	編集内容を更新し, 電話番号帳画面を終了します。
キャンセル	編集内容を破棄し, 電話番号帳画面を終了します。
新規電話番号	電話番号新規設定画面を表示します。 電話番号新規設定画面の詳細については, “(3) 電話番号新規設定, 編集画面” を参照してください。
新規グループ	新規にグループを作成します。 設定可能範囲: 半角50文字 (全角25文字) まで
編集	登録電話番号表示一覧にて選択した相手先の編集画面を表示します。 電話番号編集画面の詳細については, “(3) 電話番号新規設定, 編集画面” を参照してください。
コピー	登録電話番号表示一覧にて選択した相手先を, 他のグループにコピーします。
グループ移動	登録電話番号表示一覧にて選択した相手先を, 他のグループに移動します。
削除	登録電話番号表示一覧にて選択したグループ, 相手先を削除します。 グループ単位での一括削除はできません。 グループ内の相手先をすべて削除してから, グループの削除を行ってください。
検索	登録されている相手先名, 電話番号からデータの検索を行います。
選択	登録電話番号表示一覧にて選択した相手先を, 回線設定画面に表示させます。
ファイル読出	ファイル書込みで保存した電話番号帳画面の設定内容を読み出します。
ファイル書込	電話番号帳画面で設定を行った内容をファイルに保存します。

ポイント

MX Componentでは, GX Developerにて作成を行った電話番号帳を読み出すことが可能です。

GX Developerの電話番号帳は, 下記のフォルダに格納されています。

[ユーザ指定フォルダ] - [Gppw]

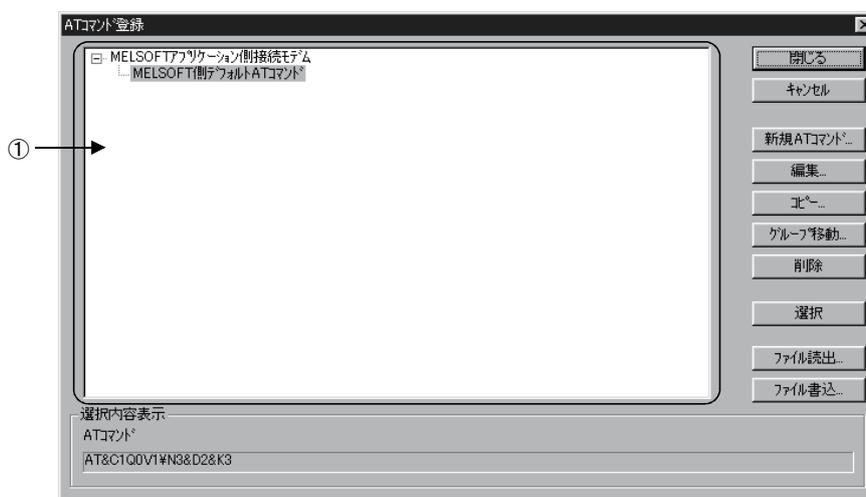
(3) 電話番号新規設定、編集画面

電話番号帳に登録する電話番号の設定を行います。

項目	内容
グループ名	登録先のグループ名を表示します。
相手先名	登録する電話番号の相手先を入力します。 設定可能範囲：半角50文字（全角25文字）まで
電話番号	電話番号を設定します。 設定可能範囲：半角50文字まで 設定可能文字：0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #
外線発信番号	外線発信番号を設定します。 設定可能範囲：半角10文字まで 設定可能文字：0, 1, 2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9, -, *, #
回線接続用設定	A6TEL, Q6TEL, Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CMOにパスワードが設定されている場合に本設定を行うと、自動的にパスワード処理を行い、回線を接続します。 パスワードの設定がされていない場合、本設定内容は無視されます。 設定可能範囲：半角4文字まで 設定可能文字：ASCIIコード
メモ	登録内容に対するメモを入力します。 設定可能範囲：半角60文字（全角30文字）まで

(4) ATコマンド登録画面

回線設定画面で使用するATコマンドの設定を行います。



項 目	内 容
① (登録ATコマンド表示一覧)	登録されているATコマンドの見出し文を一覧で表示します。
選択内容表示	登録ATコマンド表示一覧にて選択したデータの登録内容を表示します。
閉じる	編集内容を更新し、ATコマンド登録画面を終了します。
キャンセル	編集内容を破棄し、ATコマンド登録画面を終了します。
新規ATコマンド	ATコマンド新規登録画面を表示します。 ATコマンド新規登録画面の詳細については、“(5) ATコマンド新規登録、編集画面”を参照してください。
編集	登録ATコマンド表示一覧にて選択したATコマンドの編集画面を表示します。 ATコマンド編集画面の詳細については、“(5) ATコマンド新規登録、編集画面”を参照してください。
コピー	登録済みのATコマンドをコピーします。 登録ATコマンド表示一覧でコピーしたい登録済みデータを選択し、 コピー をクリックするとグループ指定ダイアログボックスが表示されます。 コピー先グループを選択し、 OK をクリックしてください。
グループ移動	登録済みのATコマンドを各相手側に移動します。 登録ATコマンド表示一覧で移動したい登録済みデータを選択し、 グループ移動 をクリックするとグループ指定ダイアログボックスが表示されます。 移動先グループを選択し、 OK をクリックしてください。
削除	ATコマンド表示一覧で選択したATコマンドを削除します。
選択	ATコマンド表示一覧で選択したATコマンドを回線設定画面に表示させます。
ファイル読出	ファイル書込みで保存したATコマンド登録画面の設定内容を読み出します。
ファイル書込	ATコマンド登録画面で設定を行った内容をファイルに保存します。

ポイント

MX Componentでは、GX Developerにて作成を行ったATコマンドを読み出すことが可能です。

GX DeveloperのATコマンドは、下記のフォルダに格納されています。

[ユーザ指定フォルダ] - [Gppw]

(5) ATコマンド新規登録, 編集画面

ATコマンドの新規登録, 編集を行います。

項 目	内 容
グループ名	ATコマンドを登録するグループ名を表示します。
見出し文	登録するATコマンドの見出し文を入力します。 設定可能範囲：半角60文字（全角30文字）まで
ATコマンド	モデム初期化用ATコマンドを入力します。 設定可能範囲：半角70文字まで 設定可能文字：ASCIIコード
ATコマンドヘルプ	ATコマンドヘルプを表示します。

(6) 詳細設定画面

電話回線接続時の詳細設定を行います。
使用するモデムに合わせて設定を行ってください。

項目	内容
回線接続CD信号確認時間	回線接続CD信号確認時間を設定します。(デフォルト: 90) 回線接続する地域(例: 海外)によって設定時間内にCD信号がONしない場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
回線接続モデム通知待ち時間	回線接続モデム通知待ち時間を設定します。(デフォルト: 5) モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
回線切断CD信号確認時間	回線切断CD信号確認時間を設定します。(デフォルト: 5) 回線切断する地域(例: 海外)によって設定時間内にCD信号がOFFしない場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
回線切断遅延時間	回線切断遅延時間を設定します。(デフォルト: 3) モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
データ送信遅延時間	データ送信遅延時間を設定します。(デフォルト: 0) モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 0~999
ATコマンド送信レスポンス待ち時間	ATコマンド送信レスポンス待ち時間を設定します。(デフォルト: 1) モデムの応答速度が遅い場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
パスワード解除レスポンス待ち時間	パスワード解除レスポンス待ち時間を設定します。(デフォルト: 5) 相手先との回線品質が悪い場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
ATコマンド/パスワード解除送信リトライ回数	ATコマンド/パスワード解除送信リトライ回数を設定します。(デフォルト: 3) ATコマンドの送信およびパスワード解除ができない場合は、設定回数を増やしてください。 設定可能範囲: 1~999

(次のページへ)

項 目	内 容
コールバック回線切断待ち時間	コールバック回線切断待ち時間を設定します。(デフォルト: 90) 回線接続する地域(例: 海外)によって相手先(Qシリーズ対応C24側)の回線が設定時間内に切断されない場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~180
コールバック実施遅延時間	コールバック実施遅延時間を設定します。(デフォルト: 20) 回線への接続を中継する機器(例: モデムなど)が、回線の切断後の再接続に一定の時間を空ける必要がある場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~999
コールバック受信待ち用タイムアウト	コールバック受信待ち用タイムアウト時間を設定します。(デフォルト: 120) コールバック受信待ち状態時にタイムアウトが発生する場合は、設定時間を大きくしてください。 設定可能範囲: 1~3600

5.2 シーケンサモニタユーティリティ

シーケンサモニタユーティリティの操作や設定方法について説明します。

5.2.1 接続先設定画面の操作

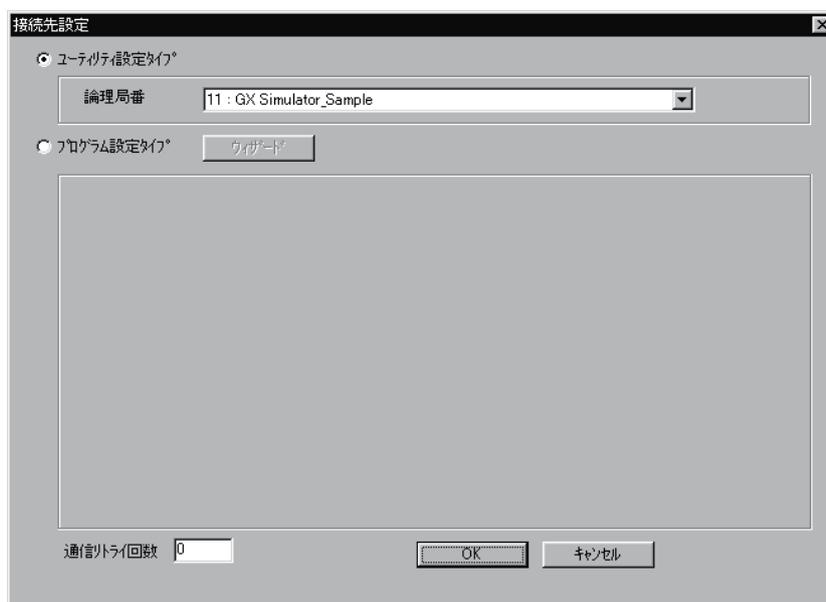
DOS/Vパソコンからシーケンサまでの接続設定を行います。

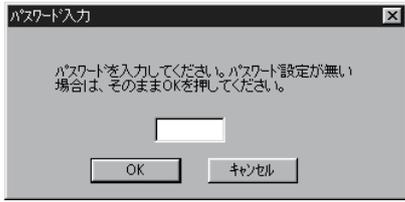
(1) 選択するメニュー

メニューバーの[オンライン]—[接続先設定]を選択します。
(シーケンサモニタユーティリティ起動時にも表示されます。)

(2) ダイアログボックス

(a) ユーティリティ設定タイプ選択時

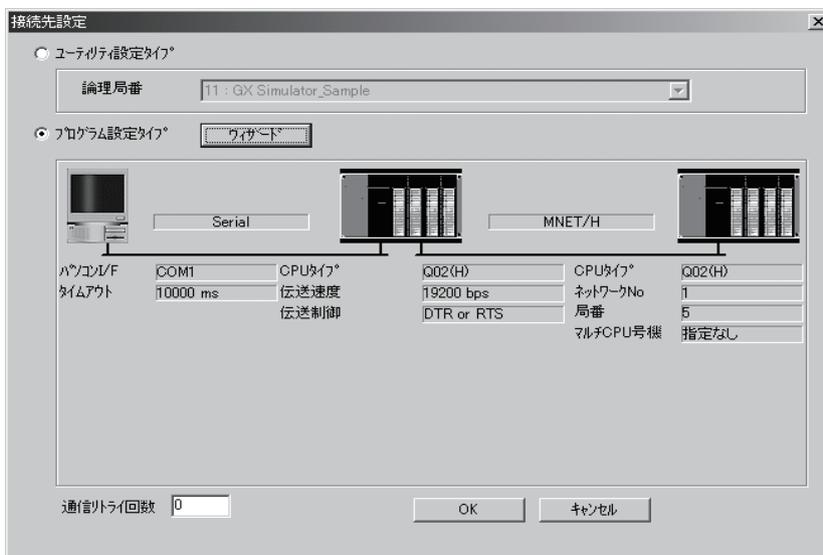


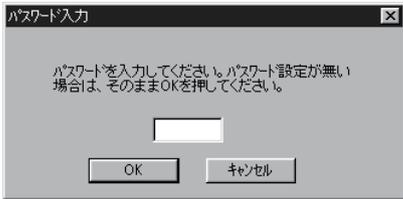
項目	内容
ユーティリティ設定タイプ	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番を用いて接続先設定を行うときに選択します。
論理局番	通信設定ユーティリティにて設定した論理局番を選択します。 モデム通信の内容が設定されている論理局番を選択した場合、 OK をクリック後に下記画面が表示されます。 パスワードが設定されている場合、パスワードを入力し、 OK をクリックしてください。 
通信リトライ回数	シーケンサモニタユーティリティでモニタ中にエラーが発生した際に行うリトライ回数を設定します。(デフォルト: 0) 設定可能範囲: 0~9

ポイント

論理局番を指定する際は、通信設定ユーティリティにてCPUタイプ、局番などの論理局番の設定内容を確認してから行ってください。

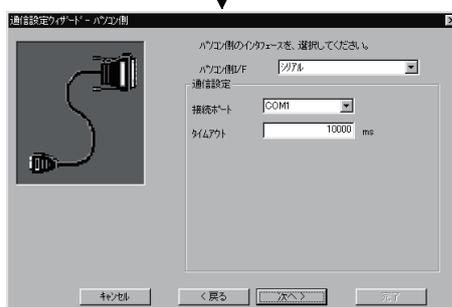
(b) プログラム設定タイプ選択時



項目	内容
プログラム設定タイプ	プログラム設定タイプでプログラムを作成しているときに選択します。
ウィザード	<p>通信設定ウィザードを起動し、接続先設定を行います。</p> <p>通信設定ウィザードにてモデム通信の内容を設定した場合、<input type="button" value="OK"/> クリック後に下記画面が表示されます。</p> <p>パスワードが設定されている場合、パスワードを入力し、<input type="button" value="OK"/> をクリックしてください。</p> 
通信リトライ回数	シーケンサモニタユーティリティでモニタ中にエラーが発生した際に行う、リトライ回数を設定します。(デフォルト: 0) 設定可能範囲: 0~9

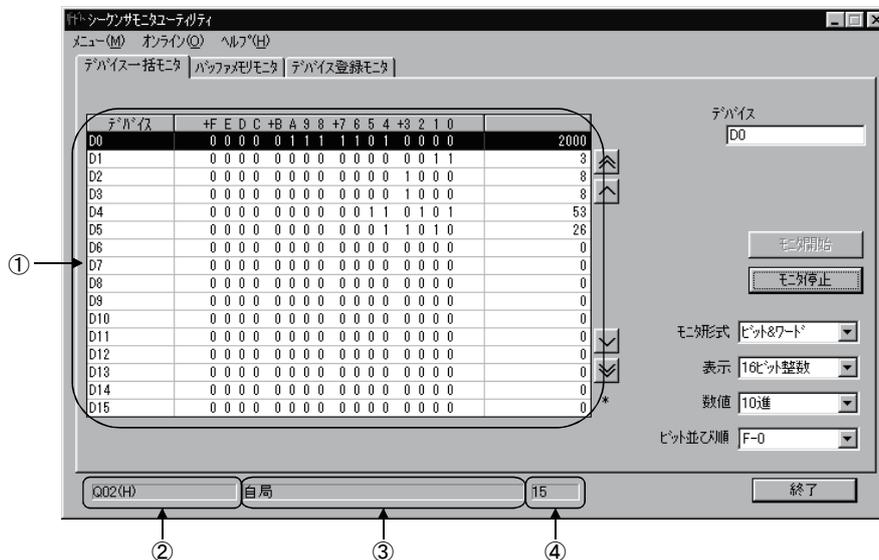
ポイント

プログラム設定タイプ選択時、画面のシーケンサまたはパソコン図をクリックすることにより、接続先設定の詳細を変更することができます。



5.2.2 デバイス一括モニタ画面の操作

指定した1種類のデバイスのみをモニタします。



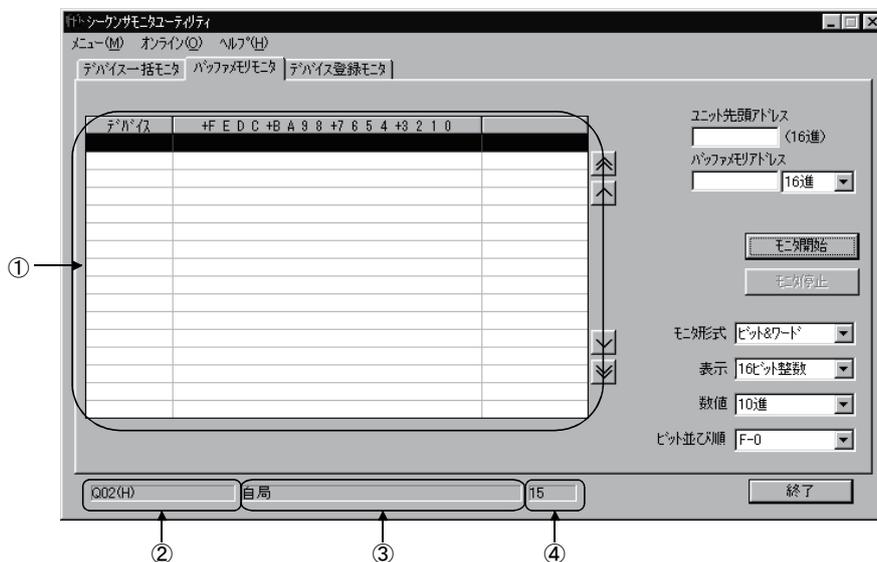
項目	内容												
デバイス	デバイス一括モニタを行うデバイス名を入力します。												
モニタ開始 (モニタ停止)	モニタの開始(停止)を行います。												
モニタ形式	モニタ形式を設定します。(デフォルト:ビット&ワード) <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビット&ワード</td> <td>モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ビット多点</td> <td>モニタ画面をビット表示のみに設定します。</td> </tr> <tr> <td>ワード多点</td> <td>モニタ画面をワード表示のみに設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	ビット&ワード	モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。	ビット多点	モニタ画面をビット表示のみに設定します。	ワード多点	モニタ画面をワード表示のみに設定します。				
項目	内容												
ビット&ワード	モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。												
ビット多点	モニタ画面をビット表示のみに設定します。												
ワード多点	モニタ画面をワード表示のみに設定します。												
表示	モニタ形式が、“ビット&ワード”または“ワード多点”時に、表示するデバイス値の表示形式を設定します。(デフォルト:16ビット整数) <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16ビット整数</td> <td>16ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>32ビット整数</td> <td>32ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数(単精度)</td> <td>実数(単精度)表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数(倍精度)</td> <td>実数(倍精度)表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ASCII文字列</td> <td>ASCII文字列表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。	32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。	実数(単精度)	実数(単精度)表示に設定します。	実数(倍精度)	実数(倍精度)表示に設定します。	ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。
項目	内容												
16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。												
32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。												
実数(単精度)	実数(単精度)表示に設定します。												
実数(倍精度)	実数(倍精度)表示に設定します。												
ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。												
数値	表示が“16ビット整数”または“32ビット整数”時の基数を設定します。(デフォルト:10進) <table border="1" style="width: 100%; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10進</td> <td>10進数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>16進</td> <td>16進数表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	10進	10進数表示に設定します。	16進	16進数表示に設定します。						
項目	内容												
10進	10進数表示に設定します。												
16進	16進数表示に設定します。												

項 目	内 容						
ビット並び順	モニタ中のビットデバイスの並び順を設定します。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F-0</td> <td>左からF, E, …1, 0の順に並びます。</td> </tr> <tr> <td>0-F</td> <td>左から0, 1, …E, Fの順に並びます。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	F-0	左からF, E, …1, 0の順に並びます。	0-F	左から0, 1, …E, Fの順に並びます。
	項 目	内 容					
F-0	左からF, E, …1, 0の順に並びます。						
0-F	左から0, 1, …E, Fの順に並びます。						
① (モニタ画面)	<p>デバイスの状態を表示します。</p> <p>デバイス名をクリックすることにより、デバイス書き込み画面を表示します。</p> <p>デバイス書き込み画面の詳細については、“5.2.5項 デバイス書き込み画面の操作”を参照してください。</p>						
② (対象CPU名)	通信設定ウィザード画面にて指定した通信相手先のCPU名を表示します。						
③ (通信経路情報)	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。						
④ (論理局番)	<p>ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。</p> <p>プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。</p>						

ポイント
(1) ビットデバイスの状態は、1がON状態、0がOFF状態として表示されます。
(2) ビットデバイスは、16点単位でモニタを行います。 16点単位中にシーケンサCPUがサポートする範囲外のデバイスが含まれる場合、値は“0”と表示されます。
(3) U*¥G形式でデバイスメモリを指定すると、バッファメモリのモニタが可能になります。
(4) タイマおよびカウンタの設定値をモニタする場合、データレジスタを間接指定してください。
(5) FXCPUのX, Yデバイスは、デバイス番号を8進数で入力してください。
(6) FXCPUのCデバイスは、C0～C199 (16ビット) とC200以降 (32ビット) に分かれて表示されます。
(7) 接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
(8) モニタ中に接続先設定を行うことはできません。
(9) モニタ中は、スクロールボタンの下に“*”が点滅表示されます。

5.2.3 バッファメモリモニタ画面の操作

指定した1種類のバッファメモリのみをモニタします。



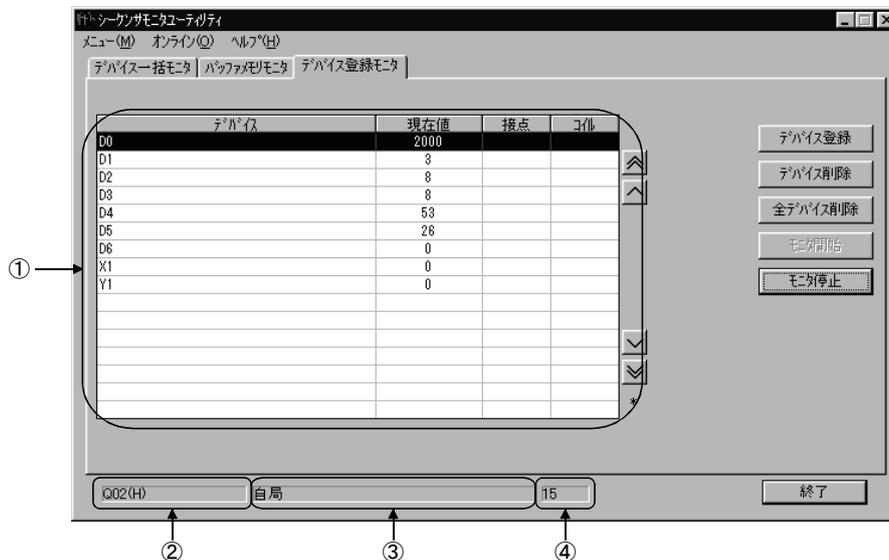
項目	内容												
ユニット先頭アドレス	モニタを行うユニットの先頭アドレスを入力します。												
バッファメモリアドレス	モニタを行うバッファメモリのアドレスを16進数または10進数で入力します。 (デフォルト：16進)												
モニタ開始 (モニタ停止)	モニタの開始(停止)を行います。												
モニタ形式	モニタ形式を設定します。(デフォルト：ビット&ワード)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ビット&ワード</td> <td>モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ビット多点</td> <td>モニタ画面をビット表示のみに設定します。</td> </tr> <tr> <td>ワード多点</td> <td>モニタ画面をワード表示のみに設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	ビット&ワード	モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。	ビット多点	モニタ画面をビット表示のみに設定します。	ワード多点	モニタ画面をワード表示のみに設定します。				
項目	内容												
ビット&ワード	モニタ画面をビットおよびワード表示に設定します。												
ビット多点	モニタ画面をビット表示のみに設定します。												
ワード多点	モニタ画面をワード表示のみに設定します。												
表示	モニタ形式が、“ビット&ワード”または“ワード多点”時に、表示するデバイス値の表示形式を設定します。(デフォルト：16ビット整数)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16ビット整数</td> <td>16ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>32ビット整数</td> <td>32ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数(単精度)</td> <td>実数(単精度)表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数(倍精度)</td> <td>実数(倍精度)表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ASCII文字列</td> <td>ASCII文字列表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。	32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。	実数(単精度)	実数(単精度)表示に設定します。	実数(倍精度)	実数(倍精度)表示に設定します。	ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。
項目	内容												
16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。												
32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。												
実数(単精度)	実数(単精度)表示に設定します。												
実数(倍精度)	実数(倍精度)表示に設定します。												
ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。												
数値	表示が“16ビット整数”または“32ビット整数”時の基数を設定します。(デフォルト：10進)												
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10進</td> <td>10進数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>16進</td> <td>16進数表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項目	内容	10進	10進数表示に設定します。	16進	16進数表示に設定します。						
項目	内容												
10進	10進数表示に設定します。												
16進	16進数表示に設定します。												

項 目	内 容						
ビット並び順	モニタ中のビットデバイスの並び順を設定します。						
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>F-0</td> <td>左からF, E, …, 1, 0の順に並びます。</td> </tr> <tr> <td>0-F</td> <td>左から0, 1, …, E, Fの順に並びます。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	F-0	左からF, E, …, 1, 0の順に並びます。	0-F	左から0, 1, …, E, Fの順に並びます。
	項 目	内 容					
F-0	左からF, E, …, 1, 0の順に並びます。						
0-F	左から0, 1, …, E, Fの順に並びます。						
① (モニタ画面)	バッファメモリの状態を表示します。						
② (対象CPU名)	通信設定ウィザード画面にて指定した通信相手先のCPU名を表示します。						
③ (通信経路情報)	ネットワーク種別, ネットワーク番号, 先頭I/Oアドレス, 局番などの情報を表示します。						
④ (論理局番)	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。						

ポイント
<p>(1) ビットデバイスの状態は, 1がON状態, 0がOFF状態として表示されます。</p> <p>(2) FXCPUへのアクセス時は, ユニット先頭アドレスに特殊増設機器のブロックNo.を入力してください。</p> <p>(3) 接続先が確立されていない場合, モニタを行うことはできません。</p> <p>(4) モニタ中に接続先設定を行うことはできません。</p> <p>(5) モニタ中は, スクロールボタンの下に“*”が点滅表示されます。</p> <p>(6) ゲートウェイ機能通信時は, モニタを行うことはできません。</p>

5.2.4 デバイス登録モニタ画面の操作

指定したデバイスを1画面で同時にモニタします。



項 目	内 容																																	
デバイス登録	<p>モニタを行うデバイスを登録します。 デバイス登録 をクリックすると、下記画面が表示されます。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>デバイス</td> <td>登録するデバイスを入力します。</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">数 値</td> <td>ワードデバイス指定時の、入力する数値を設定します。 (デフォルト：10進)</td> </tr> <tr> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10進</td> <td>10進数に設定します。</td> </tr> <tr> <td>16進</td> <td>16進数に設定します。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td>表 示</td> <td>ワードデバイス指定時の、表示形式を設定します。 (デフォルト：16ビット整数)</td> </tr> <tr> <td></td> <td> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16ビット整数</td> <td>16ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>32ビット整数</td> <td>32ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数（単精度）</td> <td>実数（単精度）表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数（倍精度）</td> <td>実数（倍精度）表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ASCII文字列</td> <td>ASCII文字列表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table> </td> </tr> <tr> <td></td> <td>登録 デバイスを登録します。</td> </tr> <tr> <td></td> <td>閉じる ダイアログボックスを閉じます。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	デバイス	登録するデバイスを入力します。	数 値	ワードデバイス指定時の、入力する数値を設定します。 (デフォルト：10進)	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10進</td> <td>10進数に設定します。</td> </tr> <tr> <td>16進</td> <td>16進数に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	10進	10進数に設定します。	16進	16進数に設定します。	表 示	ワードデバイス指定時の、表示形式を設定します。 (デフォルト：16ビット整数)		<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16ビット整数</td> <td>16ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>32ビット整数</td> <td>32ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数（単精度）</td> <td>実数（単精度）表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数（倍精度）</td> <td>実数（倍精度）表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ASCII文字列</td> <td>ASCII文字列表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。	32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。	実数（単精度）	実数（単精度）表示に設定します。	実数（倍精度）	実数（倍精度）表示に設定します。	ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。		登録 デバイスを登録します。		閉じる ダイアログボックスを閉じます。
項 目	内 容																																	
デバイス	登録するデバイスを入力します。																																	
数 値	ワードデバイス指定時の、入力する数値を設定します。 (デフォルト：10進)																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>10進</td> <td>10進数に設定します。</td> </tr> <tr> <td>16進</td> <td>16進数に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	10進	10進数に設定します。	16進	16進数に設定します。																											
	項 目	内 容																																
10進	10進数に設定します。																																	
16進	16進数に設定します。																																	
表 示	ワードデバイス指定時の、表示形式を設定します。 (デフォルト：16ビット整数)																																	
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>内 容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16ビット整数</td> <td>16ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>32ビット整数</td> <td>32ビット整数表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数（単精度）</td> <td>実数（単精度）表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>実数（倍精度）</td> <td>実数（倍精度）表示に設定します。</td> </tr> <tr> <td>ASCII文字列</td> <td>ASCII文字列表示に設定します。</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	内 容	16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。	32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。	実数（単精度）	実数（単精度）表示に設定します。	実数（倍精度）	実数（倍精度）表示に設定します。	ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。																					
項 目	内 容																																	
16ビット整数	16ビット整数表示に設定します。																																	
32ビット整数	32ビット整数表示に設定します。																																	
実数（単精度）	実数（単精度）表示に設定します。																																	
実数（倍精度）	実数（倍精度）表示に設定します。																																	
ASCII文字列	ASCII文字列表示に設定します。																																	
	登録 デバイスを登録します。																																	
	閉じる ダイアログボックスを閉じます。																																	
デバイス削除	モニタを行うデバイスを削除します。																																	
全デバイス削除	デバイス登録モニタに登録されているすべてのデバイスをモニタ画面から削除します。																																	
モニタ開始 (モニタ停止)	モニタの開始（停止）を行います。																																	

項 目	内 容
① (モニタ画面)	登録されているデバイスの状態を表示します。 デバイス名をクリックすることにより、デバイス書き込み画面を表示します。 デバイス書き込み画面の詳細については、“5.2.5項 デバイス書き込み画面の操作”を参照してください。
② (対象CPU名)	通信設定ウィザード画面にて指定した通信相手先のCPU名を表示します。
③ (通信経路情報)	ネットワーク種別、ネットワーク番号、先頭I/Oアドレス、局番などの情報を表示します。
④ (論理局番)	ユーティリティ設定タイプにて設定した論理局番が表示されます。 プログラム設定タイプを使用している場合は表示されません。

ポイント
(1) タイマおよびカウンタの設定値をモニタする場合、データレジスタを間接指定してください。
(2) 接続先が確立されていない場合、モニタを行うことはできません。
(3) モニタ中に接続先設定を行うことはできません。
(4) モニタ中は、スクロールボタンの下に“*”が点滅表示されます。

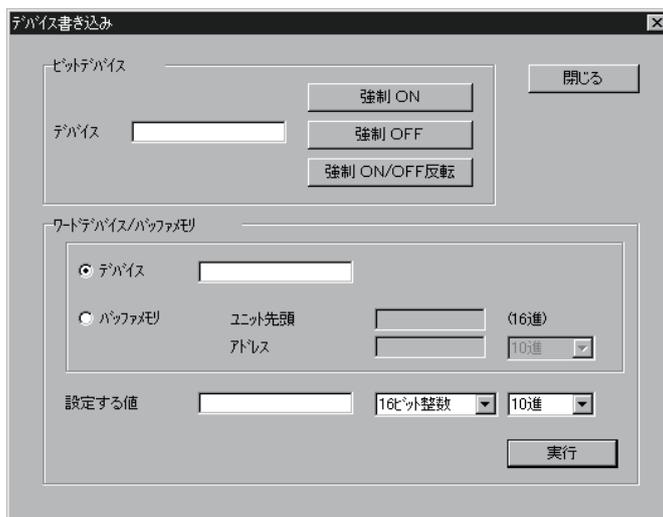
5.2.5 デバイス書き込み画面の操作

(1) 選択するメニュー

メニューバーの[オンライン]—[デバイス書き込み]を選択します。
 *QSCPUの場合は[デバイス書き込み]を選択することはできません。

(2) ダイアログボックス

ビットデバイスのON/OFFおよびワードデバイスやバッファメモリの現在値を変更します。
 各タブのモニタ画面上をダブルクリックすると表示されます。



項 目		内 容										
ビットデバイス	デバイス	デバイス名を入力します。										
	<input type="button" value="強制ON"/>	指定したデバイスを強制的にON状態に変更します。										
	<input type="button" value="強制OFF"/>	指定したデバイスを強制的にOFF状態に変更します。										
	<input type="button" value="強制ON/OFF反転"/>	指定したデバイスを強制的にON→OFF／OFF→ON状態に変更します。										
ワードデバイス/ バッファメモリ	デバイス	“デバイス”を選択することにより、書き込みを行うワードデバイスを入力できます。										
	バッファメモリ	“バッファメモリ”を選択することにより、ユニットの先頭アドレスおよびバッファメモリのアドレスを入力できます。										
	設定する値	書き込みを行う値を入力します。 入力範囲を以下に示します。 <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>項 目</th> <th>設定範囲</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>16ビット整数</td> <td>-32768～32767</td> </tr> <tr> <td>32ビット整数</td> <td>-2147483648～2147483647</td> </tr> <tr> <td>実数 (単精度)</td> <td>-9999999999999999～9999999999999999</td> </tr> <tr> <td>実数 (倍精度)</td> <td>小数点以下有効桁数13桁</td> </tr> </tbody> </table>	項 目	設定範囲	16ビット整数	-32768～32767	32ビット整数	-2147483648～2147483647	実数 (単精度)	-9999999999999999～9999999999999999	実数 (倍精度)	小数点以下有効桁数13桁
	項 目	設定範囲										
16ビット整数	-32768～32767											
32ビット整数	-2147483648～2147483647											
実数 (単精度)	-9999999999999999～9999999999999999											
実数 (倍精度)	小数点以下有効桁数13桁											
<input type="button" value="実行"/>	設定したデータを書き込みます。											

5.2.6 時計設定画面の操作

シーケンサの時計データ読出しおよび変更を行います。

(1) 選択するメニュー

メニューバーの[オンライン]→[時計設定]を選択します。

(2) ダイアログボックス

① QCPU (Qモード) , LCPU接続時の画面



② QSCPU接続時の画面

QSCPUでは時計データの変更はできません。



項 目	内 容
パソコン時刻	パソコンの時刻を表示します。(書込み不可)
シーケンサ時刻	シーケンサCPUの時刻を表示します。
<input type="button" value="実行"/>	“シーケンサ時刻”の情報をシーケンサCPUに書き込みます。
<input type="button" value="閉じる"/>	時計設定画面を終了します。

ポイント

下記通信を選択している場合、時計設定は使用できません。
 ・GX Simulator通信 (パソコンの時刻のみ表示されます。)
 ・ゲートウェイ機能通信 (エラーが発生します。)

5.2.7 電話回線接続, 電話回線切断画面の操作

モデム通信時の電話回線接続および電話回線切断を行います。

(1) 選択するメニュー

(a) 電話回線接続

メニューバーの[オンライン]—[電話回線接続]を選択します。

*QSCPUの場合は[電話回線接続]を選択することはできません。

(b) 電話回線切断

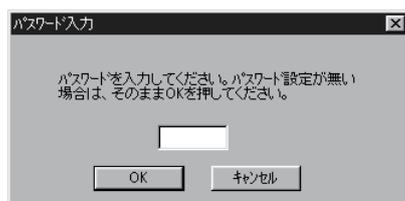
メニューバーの[オンライン]—[電話回線切断]を選択します。

*QSCPUの場合は[電話回線切断]を選択することはできません。

(2) 電話回線接続時のダイアログボックス

電話回線接続時, 下記ダイアログボックスが表示されます。

パスワードを入力し, をクリックしてください。



6 ユーティリティ設定タイプの通信設定例

各通信経路に対して、ユーティリティ設定タイプでプログラミングを行う際の設定手順および設定例について説明します。

ポイント

- “ユーザ任意” 以外の設定については、表中の値を設定してください。
- MX Componentにおいて初めて通信を行う場合、GX Developerにて正常に通信が行えるか確認してからMX Componentで通信を行ってください。通信が行えない場合の原因を容易に発見できます。
- ユニットの設定に関する詳細な説明については、各ユニットのマニュアルを参照してください。

6.1 計算機リンク通信

ユーティリティ設定タイプで、計算機リンク通信を行う手順、および設定例について説明します。

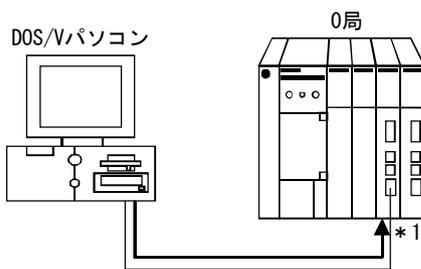
6.1.1 計算機リンクユニットの設定

MX Componentを使用する際の、計算機リンクユニットのスイッチ設定について説明します。

MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。
各ユニットの説明は、下図を用いて行います。

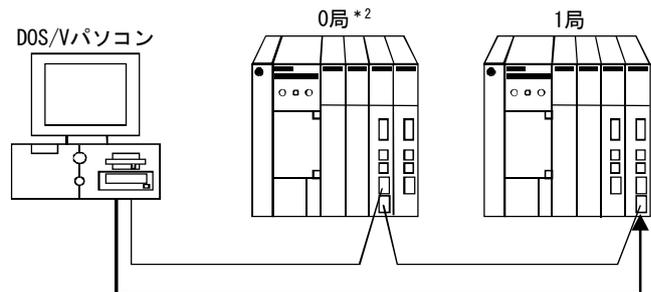
<C24, UC24, QC24 (N), Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24使用時>

(1 : 1通信時)



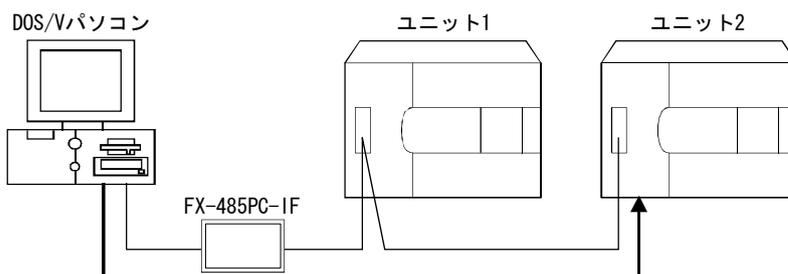
*1 : CH1を使用します。

(1 : n通信時)



*2 : CH1およびCH2両方を使用します。

<FX拡張ポート時>



(1) C24, UC24

スイッチ*1	設定内容			
	1:1通信時	1:n通信時		
		0局	1局	
モード設定スイッチ	1 (形式1)	A (形式1)	5 (形式1)	
局番設定スイッチ	0	0 (ユーザ任意)	1 (ユーザ任意)	
伝送仕様設定 スイッチ	主チャンネル設定	OFF (RS-232)	OFF (RS-232)*2	ON (RS-422)
	データビット設定	ON (8)	ON (8)	
	伝送速度設定	9600bps/19200bps	9600bps	
	パリティビットの有無設定	ON (あり)	ON (あり)	
	偶数パリティ/奇数パリティの設定	OFF (奇数)	OFF (奇数)	
	ストップビット設定	OFF (1)	OFF (1)	
	サムチェックの有無設定	ON (あり)	ON (あり)	
	RUN中書込可・不可設定	OFF (不可)*3		
計算機リンク/マルチドロップ設定	ON (計算機リンク)	ON (計算機リンク)*4	ON (計算機リンク)*4	

*1: スイッチNo. については、計算機リンクユニットのマニュアルを参照してください。

*2: 計算機リンクユニットのRS-232コネクタに接続してください。

*3: RUN中のとき、デバイス書込みが行えません。

*4: マルチドロップ時も計算機リンクを設定します。

(2) QC24 (N)

スイッチ (スイッチ番号)	設定内容						
	1:1通信時		1:n通信時				
	CH1側	CH2側	0局		1局		
モード設定スイッチ	5 (形式5)		0または5 (形式5)	5 (形式5)	5 (形式5)		
局番設定スイッチ	0		0 (ユーザ任意)		1 (ユーザ任意)		
伝送仕様設定 スイッチ	動作設定スイッチ (SW01)	OFF (独立動作)	OFF (独立動作)	ONまたは OFF*1	OFF (独立動作)		
	データビット設定 (SW02)	ON (8ビット)					
	パリティビットの有無設定 (SW03)	ON (あり)	ON (あり)				
	偶数パリティ/奇数パリティの設定 (SW04)	OFF (奇数)	OFF (奇数)				
	ストップビット設定 (SW05)	OFF (1ビット)					
	サムチェックの有無設定 (SW06)	ON (あり)					
	RUN中書込可・不可設定 (SW07)	ON (可)					
	設定変更可・不可設定 (SW08)	ON (可)	ON (可)				
	伝送速度設定 (SW09~SW12)	9600bps/19200bps		9600bps			
	— (SW13~SW15)	すべてOFF					

*1: CH1側のモード設定スイッチが0の場合はON, CH1側のモード設定スイッチが5 (形式5)の場合はOFFに設定してください。

(3) Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24

(a) 1:1通信時

項 目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	0000 _H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0000 _H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	0000 _H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000 _H
スイッチ5	ユニット局番		0000 _H

交信プロトコルを00_H (GX Developer接続) に設定すると、以下の設定値で動作します。

詳細は、下記マニュアルを参照してください。

- ・Q対応シリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(基本編)
- ・MELSEC-Lシリアルコミュニケーションユニットユーザーズマニュアル(基本編)

伝送設定	設定内容
データビット	8
パリティビット	あり
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可

(b) 1:n通信時

① 0局

項 目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	連動動作
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	07E6 _H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0008 _H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	07E7 _H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000 _H
スイッチ5	ユニット局番		0000 _H (ユーザ任意)

② 1局

項 目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	独立動作
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定	CH1の用途に合わせる
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	07E6 _H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0005 _H
スイッチ5	ユニット局番		0001 _H (ユーザ任意)

以下の設定値で動作します。

伝送設定		設定内容
動作設定	0局	連動
	1局	独立
データビット		8
パリティビット		あり
奇数/偶数パリティ		奇数
ストップビット		1
サムチェックコード		あり
RUN中書込		許可
伝送速度設定		19200bps

(4) FX拡張ポート

FX拡張ポートを使用して通信する前に、GX DeveloperでFXCPUのパラメータを設定します。

設定方法には、以下の2通りの方法があります。

- ・ PCパラメータにより設定する方法
- ・ シーケンスプログラムで特殊データレジスタ (D8120, D8121, D8129) に値を書き込む方法 (FX0N CPU使用時はこの方法のみ)

設定内容について以下に示します。

(a) PCパラメータによる設定

GX Developerを起動し、プロジェクト一覧の[パラメータ]—[PCパラメータ]—《PCシステム設定(2)》タブを選択します。



項目	設定値
通信設定をする	チェックボックスにチェックを入れる
プロトコル	専用プロトコル通信
データ長	7/8
パリティ	なし/奇数/偶数
ストップビット	1/2
伝送速度	300bps/600bps/1200bps/2400bps/4800bps/9600bps/19200bps
H/Wタイプ	RS-485
サムチェック	なし/あり
伝送制御手順	形式1
局番設定	00H~0FH
タイムアウト判定時間	1~255

ポイント

- ・ 通信設定を行った場合、PC書込を行った後にFXCPUの電源を再投入してください。
- ・ マルチドロップ接続する場合、各機器の通信設定は同じ内容にしてください。ただし、局番設定は重複しないように設定してください。

(b) シーケンスプログラムで特殊データレジスタに値を書き込む設定

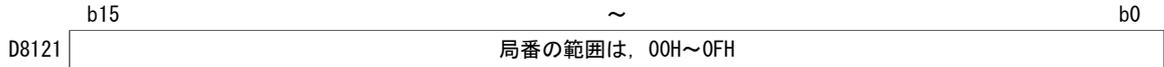
① D8120(通信フォーマット)

	b15	b14	b13	b12	b11	b10	b9	b8	b7	b6	b5	b4	b3	b2	b1	b0
D8120																

ビット	内 容	設定内容																																								
b0	データ長	0 : 7ビット 1 : 8ビット																																								
b1	パリティ	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>b2</td> <td>b1</td> </tr> <tr> <td>なし</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>奇数</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>偶数</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> </table>		b2	b1	なし	0	0	奇数	0	1	偶数	1	1																												
		b2	b1																																							
なし		0	0																																							
奇数	0	1																																								
偶数	1	1																																								
b2																																										
b3	ストップビット	0 : 1ビット 1 : 2ビット																																								
b4	伝送速度	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>b7</td> <td>b6</td> <td>b5</td> <td>b4</td> </tr> <tr> <td>300bps</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>600bps</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>1200bps</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>2400bps</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>4800bps</td> <td>0</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>9600bps</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>19200bps</td> <td>1</td> <td>0</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> </table>		b7	b6	b5	b4	300bps	0	0	1	1	600bps	0	1	0	0	1200bps	0	1	0	1	2400bps	0	1	1	0	4800bps	0	1	1	1	9600bps	1	0	0	0	19200bps	1	0	0	1
		b7	b6	b5	b4																																					
300bps		0	0	1	1																																					
600bps		0	1	0	0																																					
1200bps		0	1	0	1																																					
2400bps		0	1	1	0																																					
4800bps	0	1	1	1																																						
9600bps	1	0	0	0																																						
19200bps	1	0	0	1																																						
b5																																										
b6																																										
b7																																										
b8	—	0																																								
b9	—	0																																								
b10	H/Wタイプ	<table border="1"> <tr> <td></td> <td>b11</td> <td>b10</td> </tr> <tr> <td>RS-485</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> </table>		b11	b10	RS-485	0	0																																		
		b11	b10																																							
RS-485	0	0																																								
b11																																										
b12	—	0																																								
b13	サムチェック	0 : なし 1 : あり																																								
b14	通信プロトコル	1 : 計算機リンク																																								
b15	伝送制御手順	0 : 形式1																																								

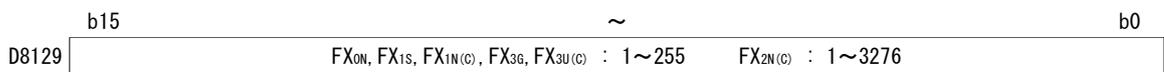
② D8121(局番設定)

使用する局番号を指定します。
局番号の範囲は、00H~0FHです。



③ D8129(タイムアウト判定時間設定)

FXCPUのタイムアウト判定時間を10ms単位で指定します。
FX0N, FX1S, FX1N(C), FX3G, FX3U(C)は1~255(10~2550ms), FX2N(C)は1~3276(10~32760ms)となります。
0が格納されている場合は、100msとなります。

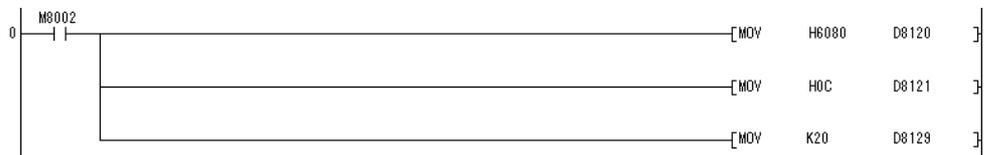


ポイント

- 通信設定を行った場合、PC書込を行った後にFXCPUの電源を再投入してください。
- マルチドロップ接続する場合、各機器の通信設定は同じにしてください。
ただし、局番設定は重複しないように設定してください。

備考

GX Developerで特殊データレジスタに値を設定するシーケンスプログラムの例を以下に示します。

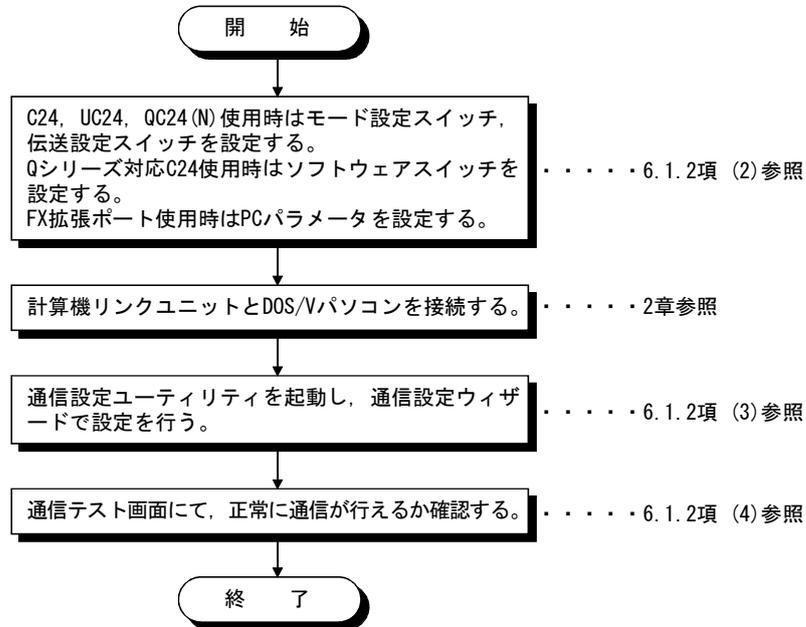


上記プログラムの各特殊データレジスタの設定内容を示します。

- (1) D8120
 - 伝送制御手順 : 形式1
 - 通信プロトコル : 計算機リンク
 - サムチェック : あり
 - H/Wタイプ : RS-485
 - 転送速度 : 9600bps
 - ストップビット : 1ビット
 - パリティ : なし
 - データ長 : 7ビット
- (2) D8121
 - 局番 : 12
- (3) D8129
 - タイムアウト時間 : 200ms

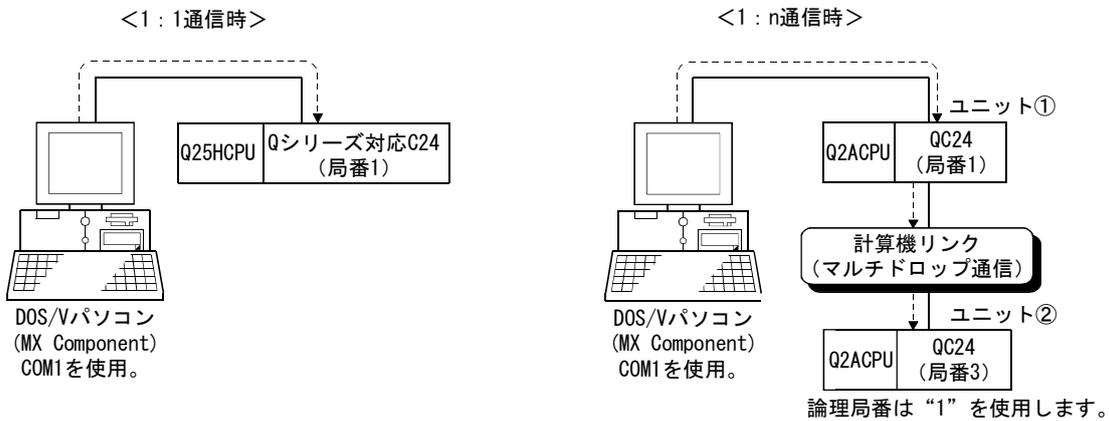
6.1.2 アクセスまでの手順

計算機リンク通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。

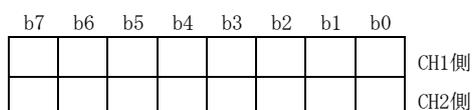


(2) 計算機リンクユニットのスイッチ設定を行う

(a) 1:1通信時

項目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定 ^{*1}	0000H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0000H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定 ^{*1}	0000H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H

*1: CH1およびCH2の設定内容を以下に示します。



ビット	内容	設定内容	
		CH1伝送設定	CH2伝送設定
b0	動作設定	0 (独立)	0 (独立)
b1	データビット	0 (7)	0 (7)
b2	パリティビット	0 (なし)	0 (なし)
b3	奇数/偶数パリティ	0 (奇数)	0 (奇数)
b4	ストップビット	0 (1)	0 (1)
b5	サムチェックコード	0 (なし)	0 (なし)
b6	RUN中書込 ^{*2}	0 (禁止)	0 (禁止)
b7	設定変更	0 (禁止)	0 (禁止)

*2: 交信プロトコルをGX Developer接続(0H)に設定した場合, RUN中書込ビット(b6)の設定は無効となり, RUN中書込の設定内容に関わらずRUN中書込を許可します。詳細はQシリーズ対応C24マニュアルを参照してください。

(b) 1:n通信時

スイッチ (スイッチ番号)		設定内容																							
		ユニット①		ユニット②																					
		CH1側	CH2側	CH1側	CH2側																				
モード設定スイッチ		0	5 (形式5)	5 (形式5)																					
局番設定スイッチ		1		3																					
伝送仕様設定 スイッチ	動作設定スイッチ (SW01)	OFF (独立動作)	ON (連動動作)	OFF (独立動作)																					
	データビット設定 (SW02)	ON (8ビット)		ON (8ビット)																					
	パリティビットの有無設定 (SW03)	ON (あり)		ON (あり)																					
	偶数パリティ/奇数パリティの設定 (SW04)	OFF (奇数)		OFF (奇数)																					
	ストップビット設定 (SW05)	OFF (1ビット)		OFF (1ビット)																					
	サムチェックの有無設定 (SW06)	ON (あり)		ON (あり)																					
	RUN中書込可・不可設定 (SW07)	ON (可)		ON (可)																					
	設定変更可・不可設定 (SW08)	ON(可)		ON(可)																					
	伝送速度設定 (SW09~SW12)	9600bps <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>S W</th> <th>設 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SW09</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW10</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>SW11</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW12</td> <td>OFF</td> </tr> </tbody> </table>		S W	設 定	SW09	ON	SW10	OFF	SW11	ON	SW12	OFF	9600bps <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>S W</th> <th>設 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SW09</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW10</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>SW11</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW12</td> <td>OFF</td> </tr> </tbody> </table>		S W	設 定	SW09	ON	SW10	OFF	SW11	ON	SW12	OFF
	S W	設 定																							
SW09	ON																								
SW10	OFF																								
SW11	ON																								
SW12	OFF																								
S W	設 定																								
SW09	ON																								
SW10	OFF																								
SW11	ON																								
SW12	OFF																								
— (SW13~SW15)	すべてOFF		すべてOFF																						

(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

1 : n通信時のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“1”を入力して、**次へ>**をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ>**をクリックしてください。

パソコン側I/F : シリアル
 接続ポート : COM1
 タイムアウト : 10000



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ>**をクリックしてください。

シーケンサ側I/F : C24ユニット
 ユニットタイプ : AJ71QC24
 局番 : 1
 伝送速度 : 9600
 パリティ : Odd
 伝送制御 : DTR or RTS Control

(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 他局
 通信経路 : C24
 ネットワーク種別 : Multidrop(combine)



- ⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q2A
 局番 : 3



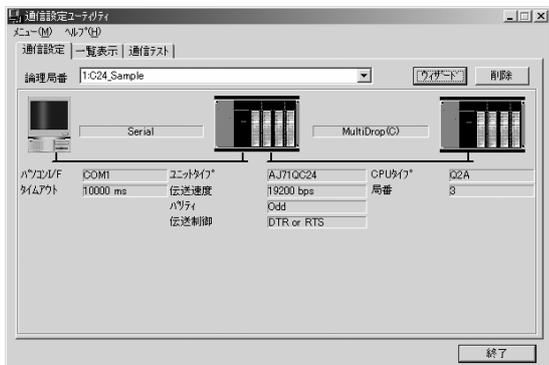
- ⑦ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



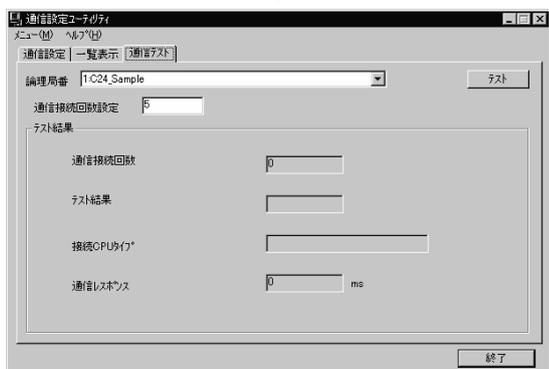
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

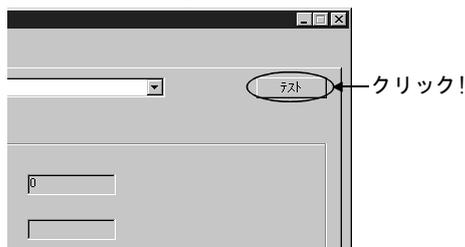
(3) で設定した論理局番を使用し、計算機リンク通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“1”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“1”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.2 Ethernet通信 (Ethernetインタフェースユニット使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetインタフェースユニットを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

6.2.1 Ethernetユニットのスイッチ設定

MX Componentを使用する際の、Ethernetユニットのスイッチ設定について説明します。

ポイント
MX Componentを使用する場合、表中の“ユーザ任意”以外の設定については、表中の設定が固定となります。

(1) Qシリーズ対応E71

Qシリーズ対応E71の設定は、GX Developerの“MNET/10H Ethernet枚数設定”にて行ってください。

(2) QE71

スイッチ (スイッチ番号)		設 定		
		TCP/IP		UDP/IP
		ASCIIパケット 使用時	バイナリパケット 使用時	バイナリパケット 使用時
運転モード設定スイッチ		0 (オンライン)		
交信条件設定スイッチ	TCPタイムアウトエラー時の 回線処理選択 (SW1)	OFF		
	データコード設定 (SW2)	ON (ASCIIコード)	OFF (バイナリコード)	ユーザ任意
	自動起動モード設定 (SW3)	OFF		ON
	— (SW4~SW6)	すべてOFF		
	CPU交信タイミング設定 (SW7)	ON		
イニシャルタイミング設定 (SW8)	OFF			

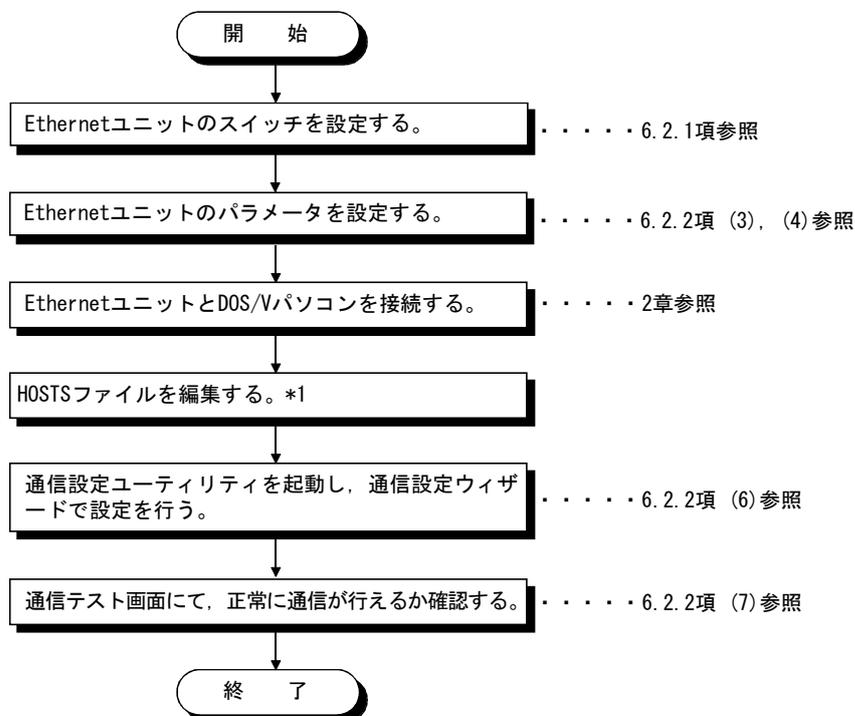
(3) E71

スイッチ*1		設 定			
		TCP/IP		UDP/IP	
		ASCIIパケット 使用時	バイナリパケット 使用時	ASCIIパケット 使用時	バイナリパケット 使用時
運転モード設定スイッチ		0 (オンライン)			
交信条件設定スイッチ	TCPタイムアウトエラー時の 回線処理選択	OFF			
	データコード設定	ON (ASCIIコード)	OFF (バイナリコード)	ON (ASCIIコード)	OFF (バイナリコード)
	CPU交信タイミング設定	ON			
	イニシャルタイミング設定	OFF			

*1: スイッチNo. については、E71ユニットのマニュアルを参照してください。

6.2.2 アクセスまでの手順

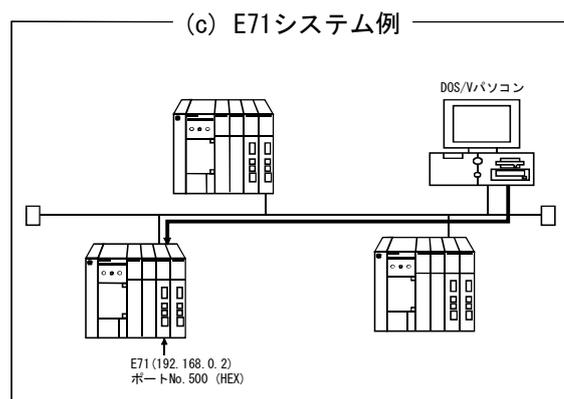
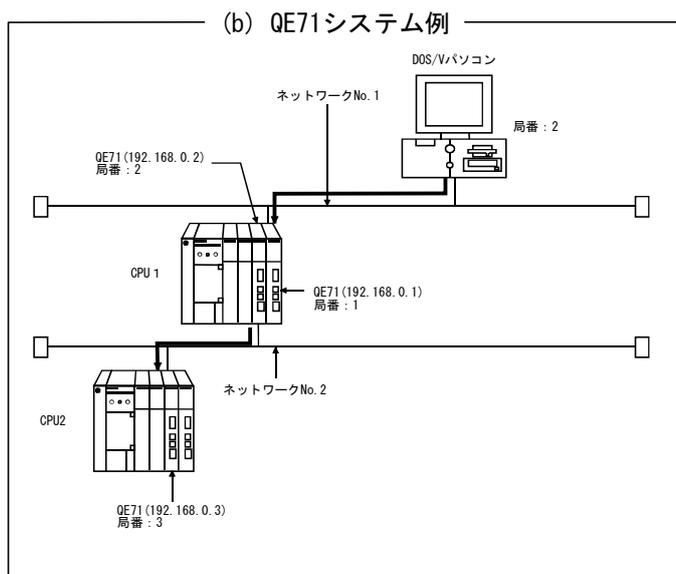
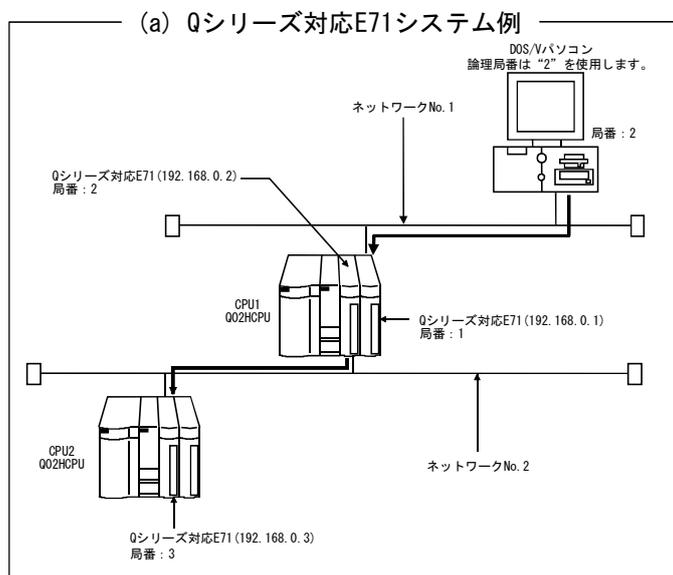
Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



*1: 通信設定ユーティリティのホスト名 (IPアドレス) およびEthernet通信用コントロールの ActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) Ethernetユニットのスイッチ設定を行う

本項でのスイッチ設定例は、“6.2.1項 Ethernetユニットのスイッチ設定”と同様です。

詳細については、“6.2.1項 Ethernetユニットのスイッチ設定”を参照してください。

(3) パラメータ設定を行う

パラメータ設定は、GX Developerのネットワークパラメータ“MELSECNET/ETHERNET設定画面”から行う方法と、シーケンスプログラムから行う方法の2種類があります。

Qシリーズ対応E71(TCP/IP, UDP/IP)およびQE71(UDP/IP)はGX Developerのネットワークパラメータで、QE71(TCP/IP)およびE71(TCP/IP, UDP/IP)はシーケンスプログラムで設定を行う必要があります

(a) Qシリーズ対応E71

ネットワークパラメータにて、ネットワーク種別、先頭I/O No., ネットワークNo., 局番, モードの設定および動作設定を行います。

設定を行うCPU	設定画面例																																																
CPU 1	<p style="text-align: center;">Ethernetパラメータ</p> <table border="1" data-bbox="863 741 1286 1037"> <thead> <tr> <th></th> <th>エントリ1</th> <th>エントリ2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワーク種別</td> <td>Ethernet</td> <td>Ethernet</td> </tr> <tr> <td>先頭I/O No.</td> <td>0000</td> <td>0020</td> </tr> <tr> <td>ネットワークNo.</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>総(子)局数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループNo.</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>局番</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>モード</td> <td>オフライン</td> <td>オフライン</td> </tr> <tr> <td></td> <td>動作設定</td> <td>動作設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ICM設定</td> <td>ICM設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>オフライン設定</td> <td>オフライン設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>リアルタイム監視</td> <td>リアルタイム監視</td> </tr> <tr> <td></td> <td>局番<->IP関連情報</td> <td>局番<->IP関連情報</td> </tr> <tr> <td></td> <td>FTPサーバ</td> <td>FTPサーバ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>電子メール設定</td> <td>電子メール設定</td> </tr> <tr> <td></td> <td>読み込み設定</td> <td>読み込み設定</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">動作設定</p> 		エントリ1	エントリ2	ネットワーク種別	Ethernet	Ethernet	先頭I/O No.	0000	0020	ネットワークNo.	2	1	総(子)局数			グループNo.	0	0	局番	2	1	モード	オフライン	オフライン		動作設定	動作設定		ICM設定	ICM設定		オフライン設定	オフライン設定		リアルタイム監視	リアルタイム監視		局番<->IP関連情報	局番<->IP関連情報		FTPサーバ	FTPサーバ		電子メール設定	電子メール設定		読み込み設定	読み込み設定
	エントリ1	エントリ2																																															
ネットワーク種別	Ethernet	Ethernet																																															
先頭I/O No.	0000	0020																																															
ネットワークNo.	2	1																																															
総(子)局数																																																	
グループNo.	0	0																																															
局番	2	1																																															
モード	オフライン	オフライン																																															
	動作設定	動作設定																																															
	ICM設定	ICM設定																																															
	オフライン設定	オフライン設定																																															
	リアルタイム監視	リアルタイム監視																																															
	局番<->IP関連情報	局番<->IP関連情報																																															
	FTPサーバ	FTPサーバ																																															
	電子メール設定	電子メール設定																																															
	読み込み設定	読み込み設定																																															
CPU 2	<p style="text-align: center;">Ethernetパラメータ</p> <table border="1" data-bbox="863 1406 1286 1702"> <thead> <tr> <th></th> <th>エントリ1</th> <th>エントリ2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワーク種別</td> <td>Ethernet</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>先頭I/O No.</td> <td>0000</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ネットワークNo.</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総(子)局数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループNo.</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>局番</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>モード</td> <td>オフライン</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>動作設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ICM設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>オフライン設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>リアルタイム監視</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>局番<->IP関連情報</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>FTPサーバ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>電子メール設定</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>読み込み設定</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">動作設定</p> 		エントリ1	エントリ2	ネットワーク種別	Ethernet	なし	先頭I/O No.	0000		ネットワークNo.	2		総(子)局数			グループNo.	0		局番	3		モード	オフライン			動作設定			ICM設定			オフライン設定			リアルタイム監視			局番<->IP関連情報			FTPサーバ			電子メール設定			読み込み設定	
	エントリ1	エントリ2																																															
ネットワーク種別	Ethernet	なし																																															
先頭I/O No.	0000																																																
ネットワークNo.	2																																																
総(子)局数																																																	
グループNo.	0																																																
局番	3																																																
モード	オフライン																																																
	動作設定																																																
	ICM設定																																																
	オフライン設定																																																
	リアルタイム監視																																																
	局番<->IP関連情報																																																
	FTPサーバ																																																
	電子メール設定																																																
	読み込み設定																																																

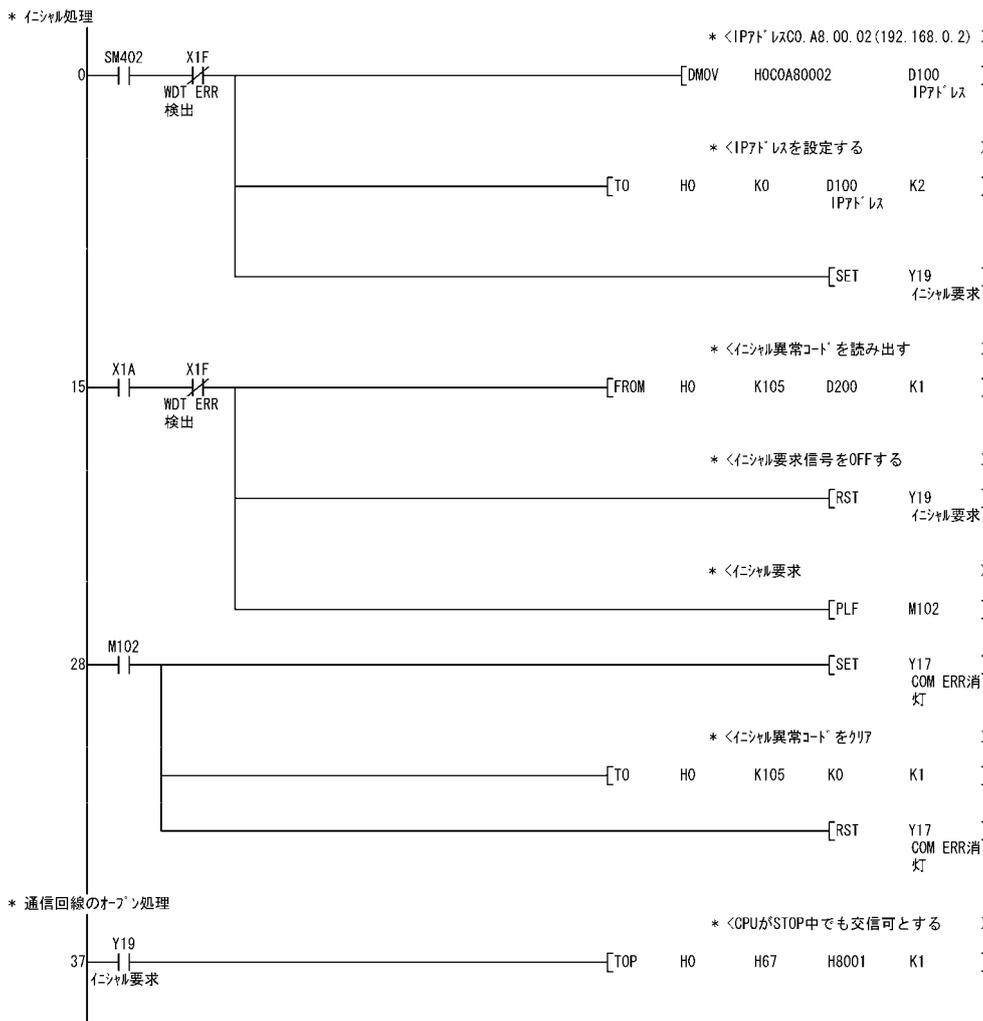
(b) QE71

① TCP/IP時

QE71は、TCP/IP使用時にイニシャル処理、通信回線のオープン処理のシーケンスプログラムが必要となります。
シーケンスプログラム例を示します。

設定項目	設定値
TCP/IPオープン方式	8000H (TCP, 固定バッファ送信)
QE71のIPアドレス	192. 168. 0. 2

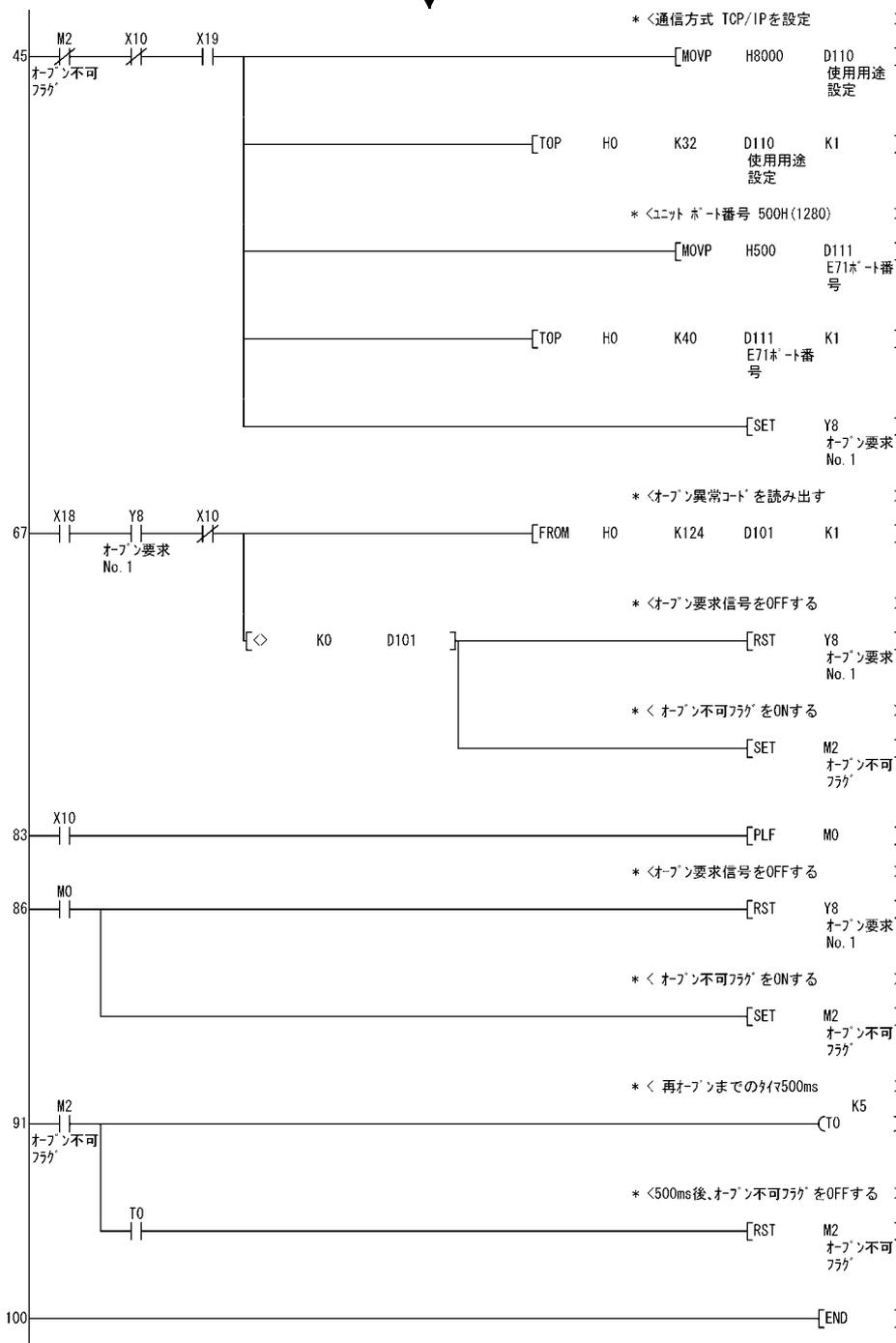
設定項目	設定値
QE71のポート番号	500H



↓
(次のページへ)

ポイント
本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。 [ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [Qe71_tcp]

(前ページより)



② UDP/IP時

QE71は、UDP/IP使用時にGX DeveloperのEthernetパラメータ設定画面で、ネットワーク種別、先頭I/O No.、ネットワークNo.、グループNo.、局番、IPアドレスを設定します。

設定を行うCPU	設定画面例																																	
CPU 1	<p style="text-align: center;">Ethernetパラメータ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>エネット1</th> <th>エネット2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワーク種別</td> <td>Ethernet</td> <td>Ethernet</td> </tr> <tr> <td>先頭I/O No.</td> <td>0040</td> <td>0060</td> </tr> <tr> <td>ネットワークNo.</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>総(子)局数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループNo.</td> <td>0</td> <td>0</td> </tr> <tr> <td>局番</td> <td>2</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>IPアドレス(10進数)</td> <td>192.168. 0. 2</td> <td>192.168. 0. 1</td> </tr> <tr> <td></td> <td>局番<->IP関連情報</td> <td>局番<->IP関連情報</td> </tr> <tr> <td></td> <td>FTPパラメータ</td> <td>FTPパラメータ</td> </tr> <tr> <td></td> <td>ネットワークリンク</td> <td>ネットワークリンク</td> </tr> </tbody> </table>		エネット1	エネット2	ネットワーク種別	Ethernet	Ethernet	先頭I/O No.	0040	0060	ネットワークNo.	2	1	総(子)局数			グループNo.	0	0	局番	2	1	IPアドレス(10進数)	192.168. 0. 2	192.168. 0. 1		局番<->IP関連情報	局番<->IP関連情報		FTPパラメータ	FTPパラメータ		ネットワークリンク	ネットワークリンク
		エネット1	エネット2																															
ネットワーク種別	Ethernet	Ethernet																																
先頭I/O No.	0040	0060																																
ネットワークNo.	2	1																																
総(子)局数																																		
グループNo.	0	0																																
局番	2	1																																
IPアドレス(10進数)	192.168. 0. 2	192.168. 0. 1																																
	局番<->IP関連情報	局番<->IP関連情報																																
	FTPパラメータ	FTPパラメータ																																
	ネットワークリンク	ネットワークリンク																																
	<p style="text-align: center;">動作設定</p>																																	
CPU 2	<p style="text-align: center;">Ethernetパラメータ</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>エネット1</th> <th>エネット2</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ネットワーク種別</td> <td>Ethernet</td> <td>なし</td> </tr> <tr> <td>先頭I/O No.</td> <td>0040</td> <td></td> </tr> <tr> <td>ネットワークNo.</td> <td>2</td> <td></td> </tr> <tr> <td>総(子)局数</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>グループNo.</td> <td>0</td> <td></td> </tr> <tr> <td>局番</td> <td>3</td> <td></td> </tr> <tr> <td>IPアドレス(10進数)</td> <td>192.168. 0. 3</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>局番<->IP関連情報</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>FTPパラメータ</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>ネットワークリンク</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		エネット1	エネット2	ネットワーク種別	Ethernet	なし	先頭I/O No.	0040		ネットワークNo.	2		総(子)局数			グループNo.	0		局番	3		IPアドレス(10進数)	192.168. 0. 3			局番<->IP関連情報			FTPパラメータ			ネットワークリンク	
		エネット1	エネット2																															
ネットワーク種別	Ethernet	なし																																
先頭I/O No.	0040																																	
ネットワークNo.	2																																	
総(子)局数																																		
グループNo.	0																																	
局番	3																																	
IPアドレス(10進数)	192.168. 0. 3																																	
	局番<->IP関連情報																																	
	FTPパラメータ																																	
	ネットワークリンク																																	
	<p style="text-align: center;">動作設定</p>																																	

(c) E71

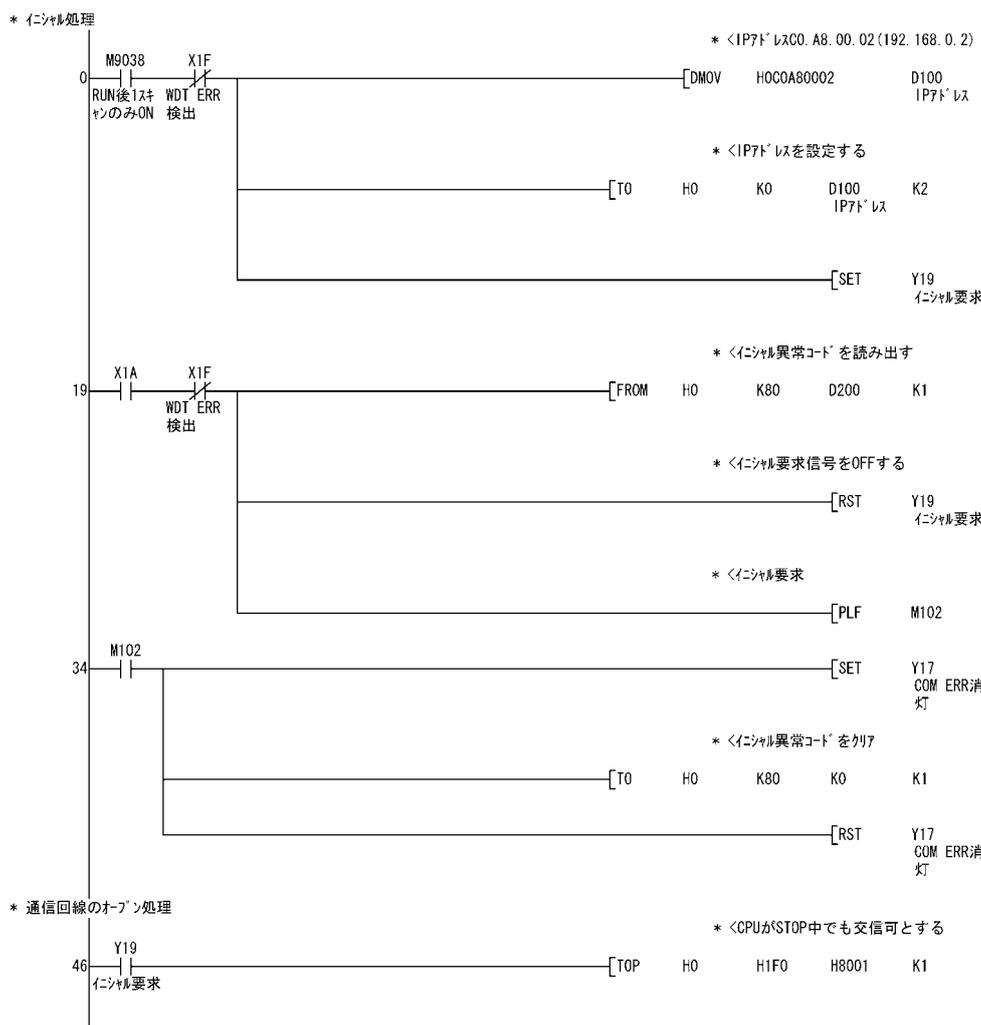
E71は、イニシャル処理、通信回線のオープン処理のシーケンスプログラムが必要となります。

シーケンスプログラム例を示します。

① TCP/IP時

設定項目	設定値
TCP/IPオープン方式	8000H (TCP, 固定バッファ送信)
E71のIPアドレス	192.168.0.2

設定項目	設定値
E71のポート番号	500H



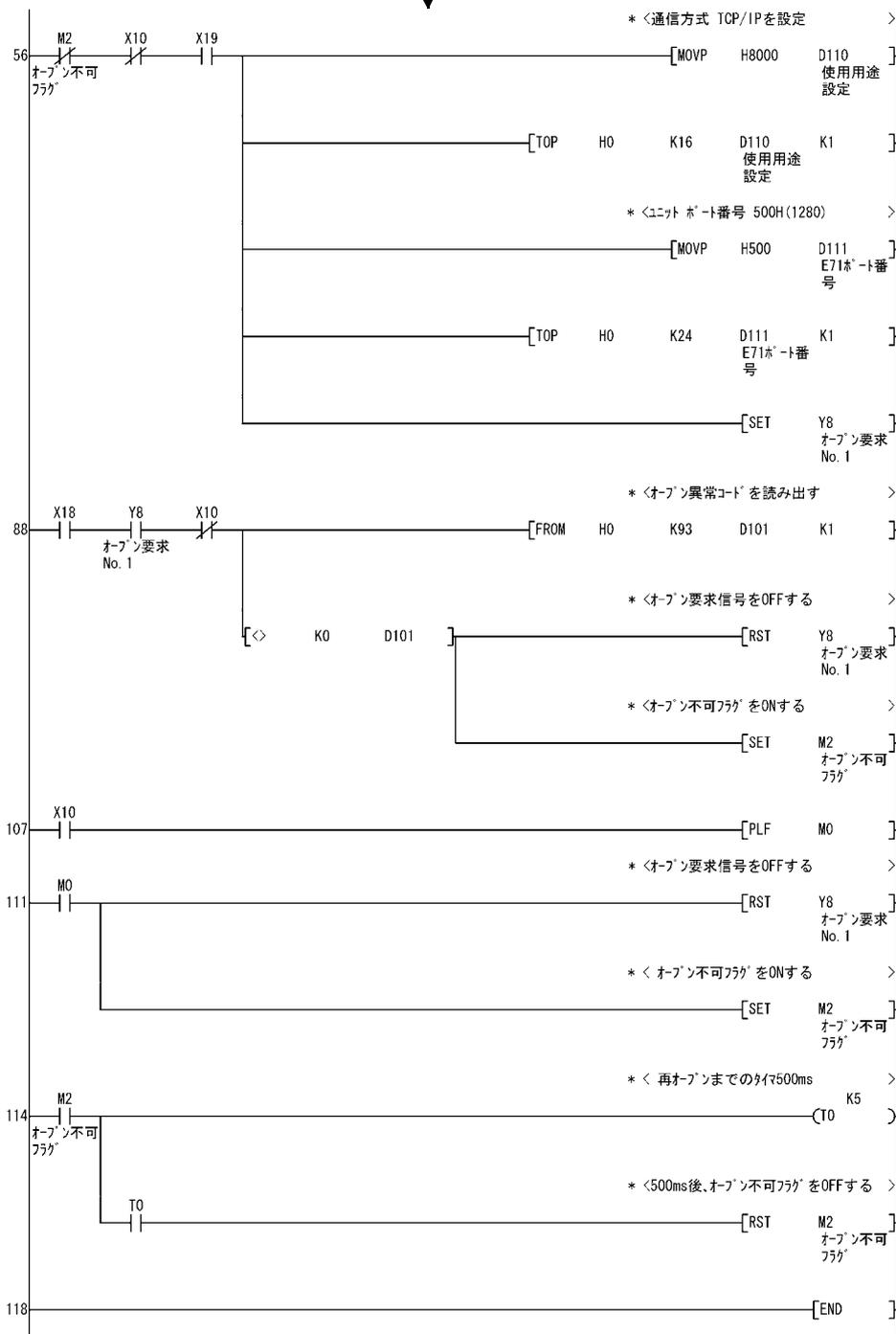
↓
(次のページへ)

ポイント

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。

[ユーザー指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [E71_tcp]

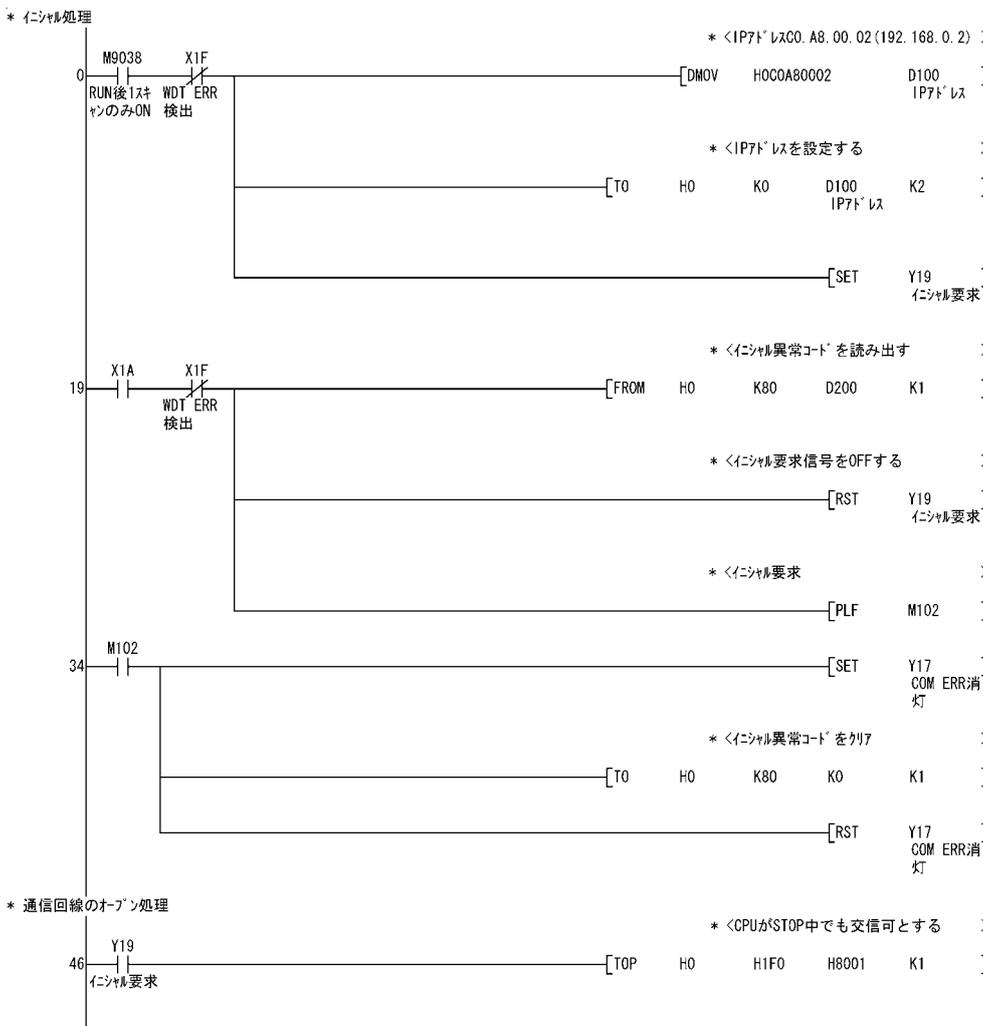
(前ページより)



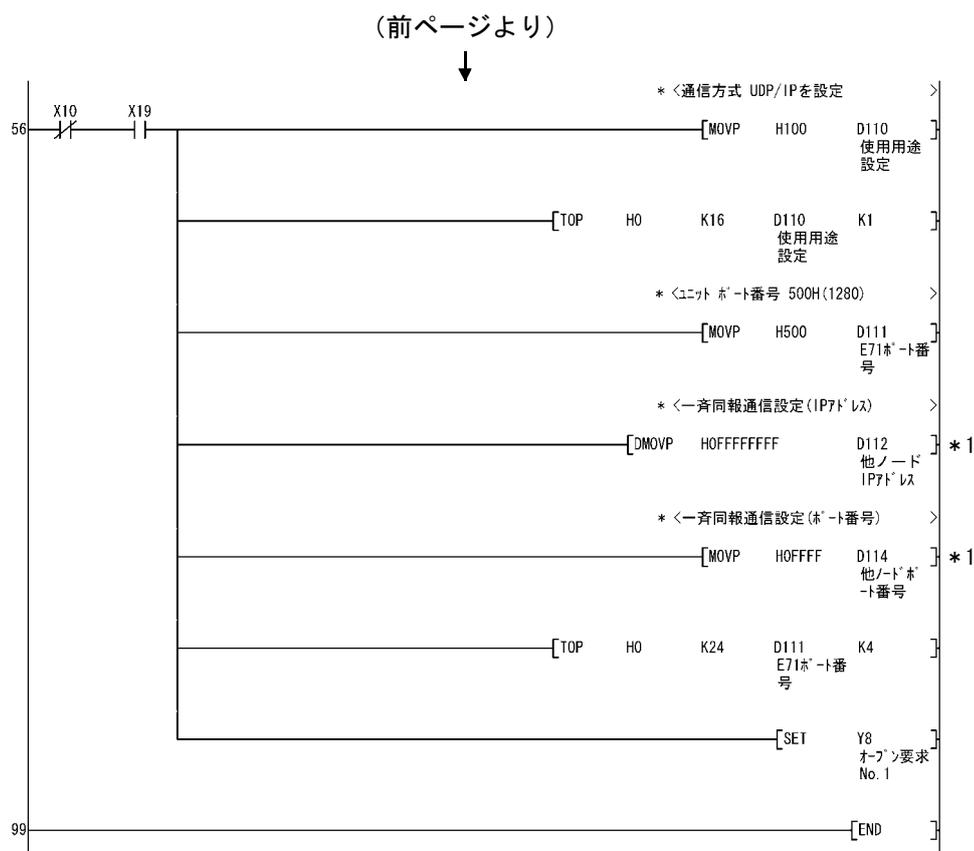
② UDP/IP時

設定項目	設定値
UDP/IPオープン方式	100H (UDP, 固定バッファ送信)
E71のIPアドレス	192.168.0.2
E71のポート番号	500H

設定項目	設定値
他ノードIPアドレス*1	FFFFFFFFH
他ノードポート番号*1	FFFFH



↓
(次のページへ)



交信可能状態になると、E71のRUN LEDが点灯、RDY LEDが点滅します。

*1: このサンプルシーケンスプログラムでは、一斉同報通信するときの設定例を示しています。

なお、シーケンサ側のE71がAJ71E71またはA1SJ71E71-B2/B5の場合は「一斉同報通信」の機能がないため、以下アドレスを指定して「交信アドレス設定」を行ってください。

他ノードIPアドレス: MX Componentが動作しているパソコンのIPアドレス

他ノードポート番号: MX Componentが動作しているパソコンのポート番号

(例) 以下に示すIPアドレスとポート番号のパソコンを指定してE71の「交信アドレス設定」を行う場合

他ノードIPアドレス: 192.168.0.1 (COA80001H)

他ノードポート番号: 500H

上記サンプルシーケンスプログラムの「一斉同報通信設定(IPアドレス、ポート番号)」部分を、以下に置き換えてください。

DMOV P H0FFFFFFF D112 → DMOV P HCOA80001 D112

MOV P H0FFFF D114 → MOV P H0500 D114

ポイント

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。

[ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [E71_udp]

(4) ルーティングパラメータ設定を行う

(a) Qシリーズ対応E71

Qシリーズ対応E71の設定は、GX Developerの“Ethernetパラメータ設定”にて行ってください。

ルーティングパラメータの考え方については、“付1 ルーティングパラメータの考え方”を参照してください。

設定を行うCPU	設定画面例			
CPU 1		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.
	1	1	2	2
	2	2	1	1
	3			
CPU 2		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.
	1	1	2	2
	2			
	3			

(b) QE71

QE71の設定は、GX Developerの“Ethernetパラメータ設定”にて行ってください。

ルーティングパラメータの考え方については、“付1 ルーティングパラメータの考え方”を参照してください。

設定を行うCPU	設定画面例				
CPU 1		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.	経由局No.
	1	1	2	2	
	2	2	1	1	
	3				
CPU 2		転送先 ネットワークNo.	中継先 ネットワークNo.	中継先 局No.	経由局No.
	1	1	2	2	
	2				
	3				

(5) 交信確認を行う

Ethernet通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

正常時の場合

```
C:¥>ping 192.168.0.2
```

```
Reply from 192.168.0.2:bytes=32 time<10ms TTL=32
```

異常時の場合

```
C:¥>ping 192.168.0.2
```

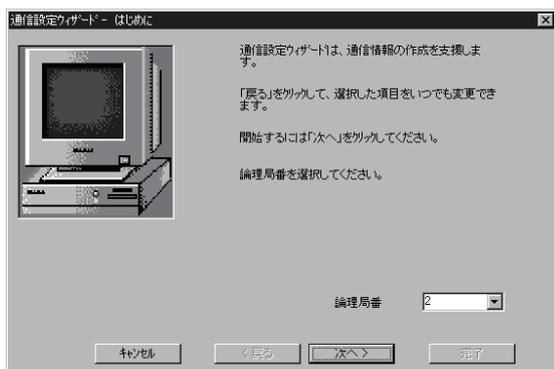
```
Request timed out.
```

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows®側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

(6) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

Qシリーズ対応E71のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“2”を入力して、**次へ>**をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ>**をクリックしてください。

パソコン側I/F	: Ethernetボード
接続先ユニットタイプ	: QJ71E71
プロトコル	: TCP
ネットワークNo	: 1
局番	: 2
タイムアウト	: 60000



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ>**をクリックしてください。

シーケンサ側I/F	: Ethernetユニット
ユニットタイプ	: QJ71E71
ホスト名 (IPアドレス)	: 192.168.0.1
局番	: 1

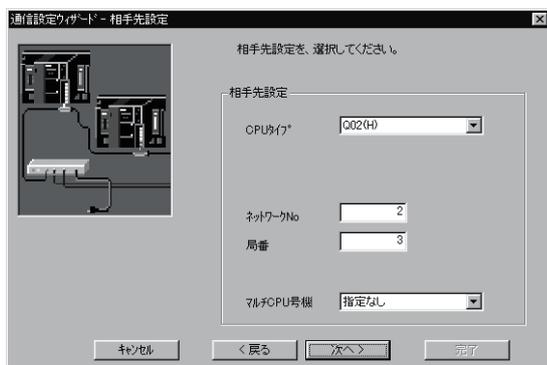
(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ：他局
通信経路：Ethernet



- ⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ：Q02(H)
ネットワークNo：2
局番：3
マルチCPU号機：指定なし



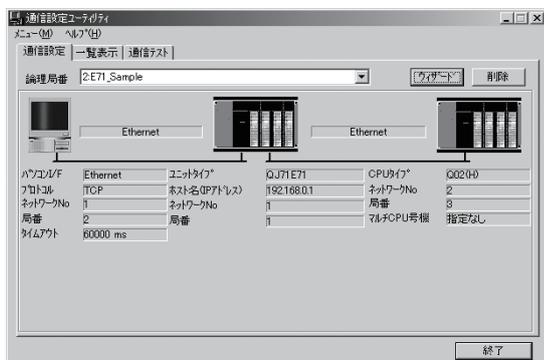
- ⑦ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



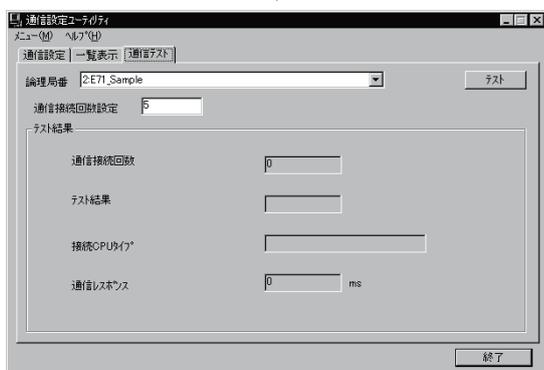
(登録完了)

(7) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

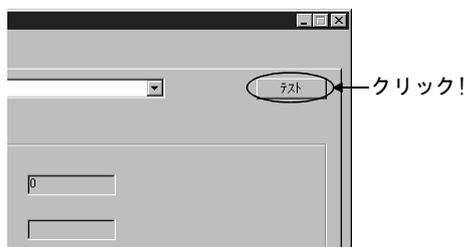
(6) で設定した論理局番を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“2”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“2”を設定してください。



(通信テスト完了)

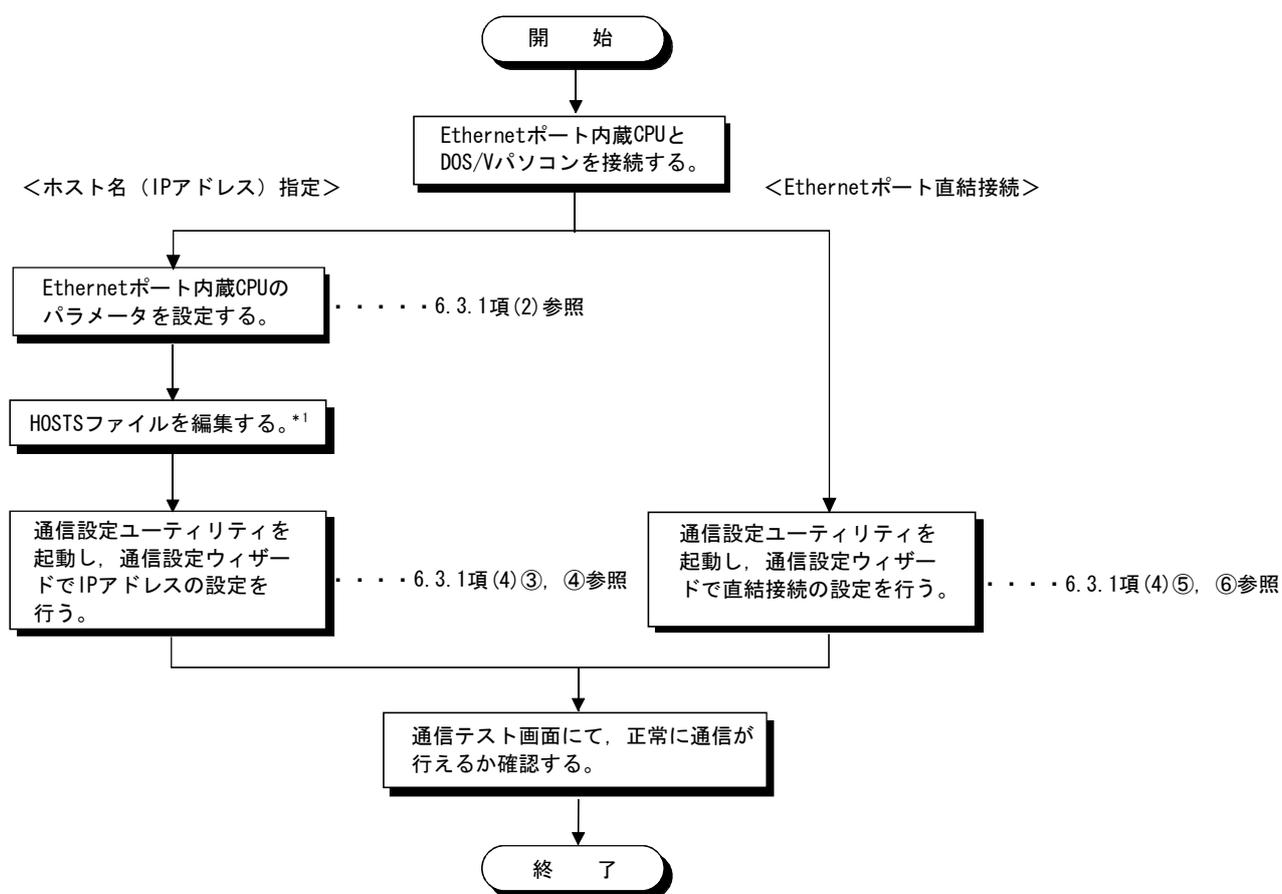
- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.3 Ethernet通信 (Ethernetポート内蔵CPU使用時)

ユーティリティ設定タイプで、Ethernetポート内蔵CPUを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

6.3.1 アクセスまでの手順

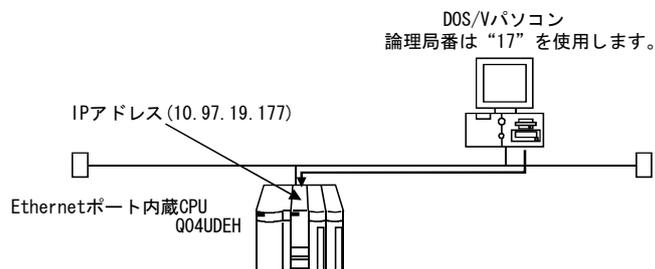
Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



*1: 通信設定ユーティリティのホスト名 (IPアドレス) およびEthernet通信用コントロールの ActHostAddress プロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) パラメータ設定を行う(ホスト名(IPアドレス)指定の場合のみ)

パラメータ設定は、GX DeveloperのPCパラメータから行います。

PCパラメータの《内蔵Ethernetポート設定》タブを選択し、IPアドレスなどの通信設定を行います。



(3) 交信確認を行う

Ethernet通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

正常時の場合

```
C:¥>ping 10.97.19.177
```

```
Reply from 10.97.19.177: bytes=32 time=1ms TTL=64
```

異常時の場合

```
C:¥>ping 10.97.19.177
```

```
Request timed out.
```

pingが通らない場合は、ケーブルおよびユニットの接続や、Windows®側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

(4) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



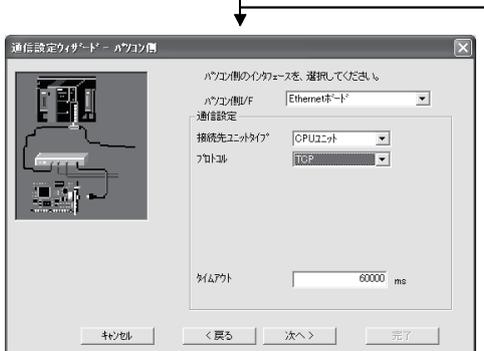
- ② 論理局番に、“17”を入力して、**次へ>** をクリックしてください。

シーケンサとの接続には下記2通りの手順があります。

ホスト名 (IPアドレス) 指定の場合：③、④の手順を行う。

Ethernetポート直結接続の場合：⑤、⑥の手順を行う。

- ③ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。



パソコン側I/F	: Ethernetボード
接続先ユニットタイプ	: CPUユニット
プロトコル	: TCP
タイムアウト	: 60000

- ④ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。



シーケンサ側I/F	: CPUユニット
ホスト名 (IPアドレス)	: 10.97.19.177

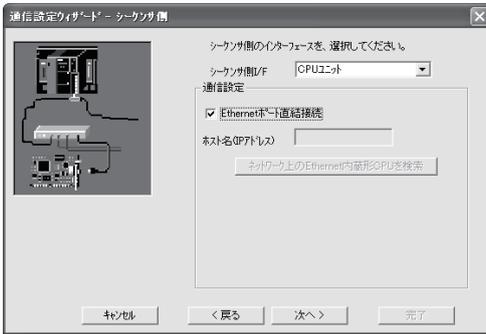
- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。



パソコン側I/F	: Ethernetボード
接続先ユニットタイプ	: CPUユニット
プロトコル	: UDP
タイムアウト	: 60000

(次のページへ)

(前ページより)



⑥ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。
“Ethernetポート直結接続”のチェックボックスにチェックを入れる。



⑦ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。

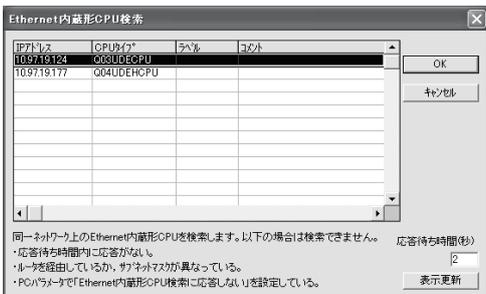
局番タイプ : 自局
CPUタイプ : Q04UDEH
マルチCPU号機 : 指定なし



⑧ コメントを入力し、**完了** をクリックしてください。

(登録完了)

Ethernetポート内蔵CPU検索を使用する場合、**ネットワーク上のEthernet内蔵形CPUを検索** をクリックして表示される以下の画面で行ってください。



表示一覧の中から対象のCPUを選択し、**OK** をクリックすることで「通信設定ウィザードーシーケンサ側」設定にIPアドレスを反映させることができます。

* 検索対象は、同一ネットワーク上のEthernetポート内蔵CPUです。

(5) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

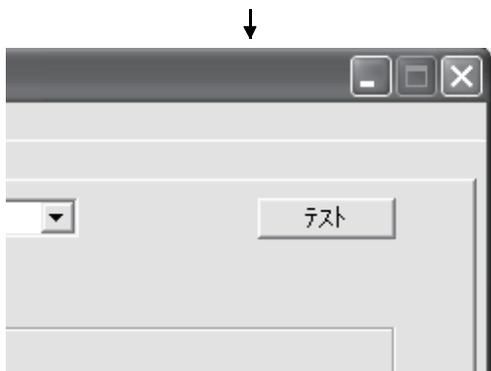
(4) で設定した論理局番を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“17”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“17”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

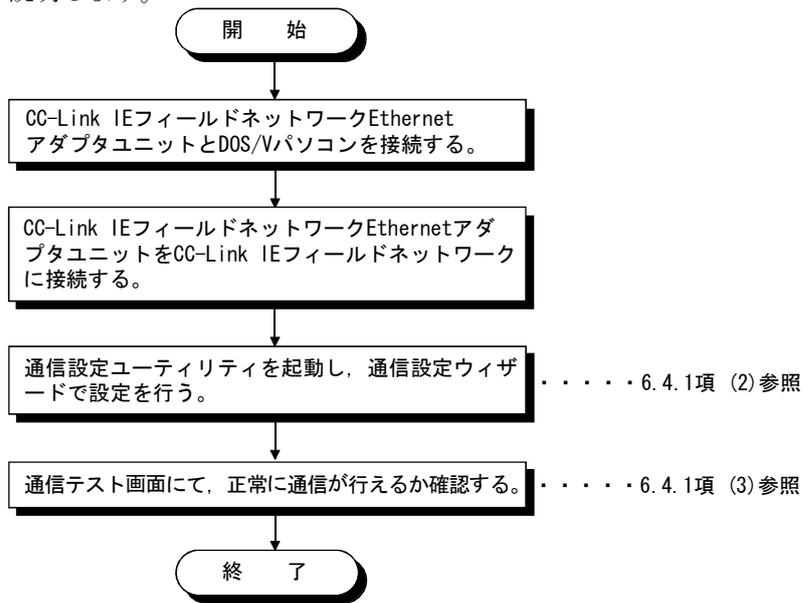
(通信テスト完了)

6.4 Ethernet通信 (CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニット使用時)

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニットを使用してEthernet通信を行う手順、および設定例について説明します。

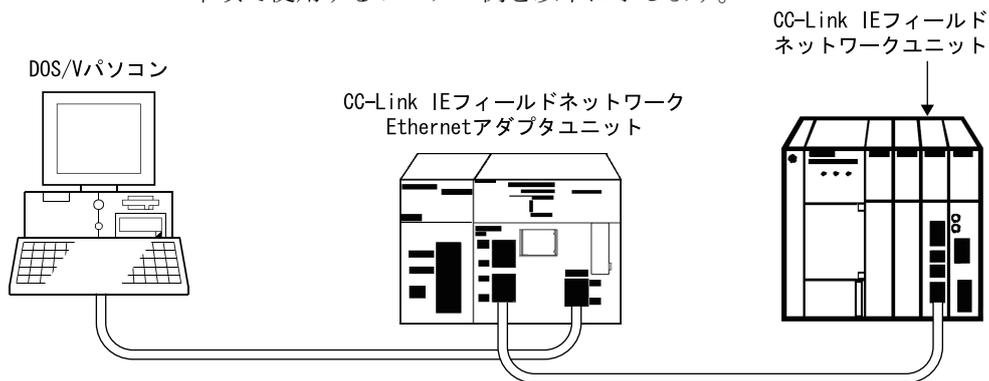
6.4.1 アクセスまでの手順

Ethernet通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

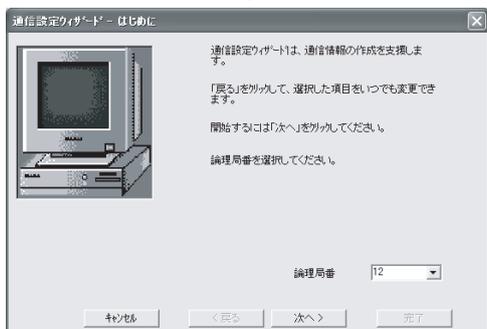
本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“12”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F	: Ethernetボード
接続先ユニットタイプ	: CC IE Field Ethernetアダプタ
プロトコル	: TCP
タイムアウト	: 60000



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

シーケンサ側I/F	: CC IE Field Ethernetアダプタ
ホスト名 (IPアドレス)	: 192.168.3.30



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ	: 他局 (単一ネットワーク)
-------	-----------------

(次のページへ)

(前ページより)



⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ	: Q13UDH
ネットワークNo.	: 1
局番	: 0
マルチCPU号機	: 指定なし



⑦ コメントを入力し、**完了** をクリックしてください。

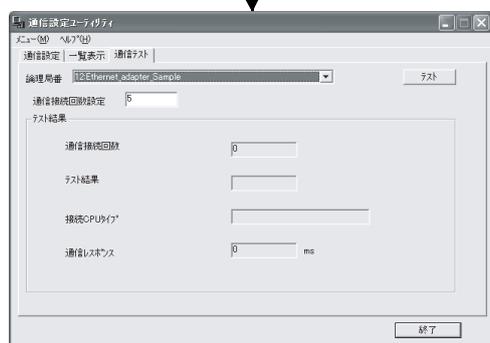
(登録完了)

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

(2) で設定した論理局番を使用し、Ethernet通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“12”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“12”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

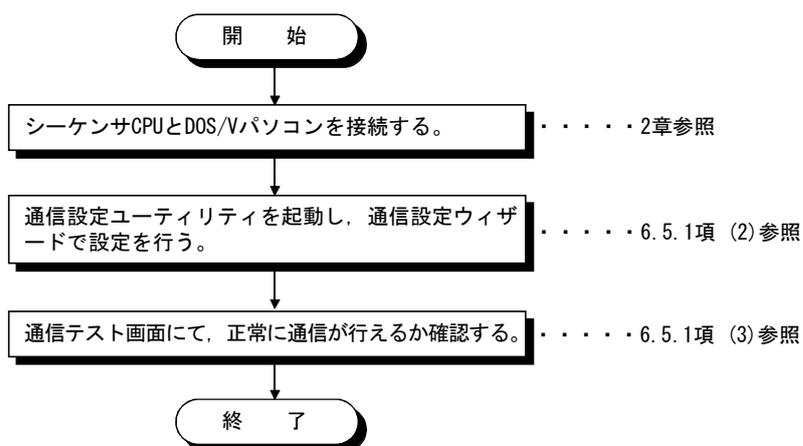
(通信テスト完了)

6.5 CPU COM通信

ユーティリティ設定タイプで、CPU COM通信を行う手順、および設定例について説明します。

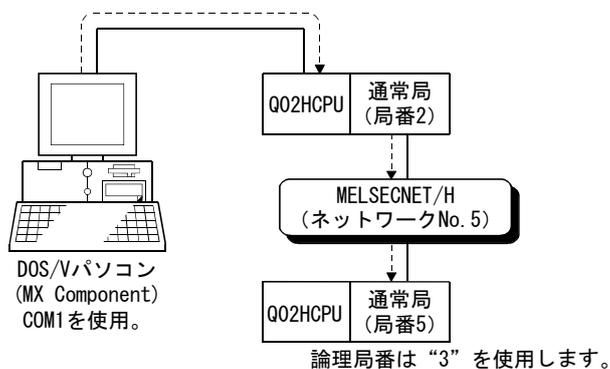
6.5.1 アクセスまでの手順

CPU COM通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

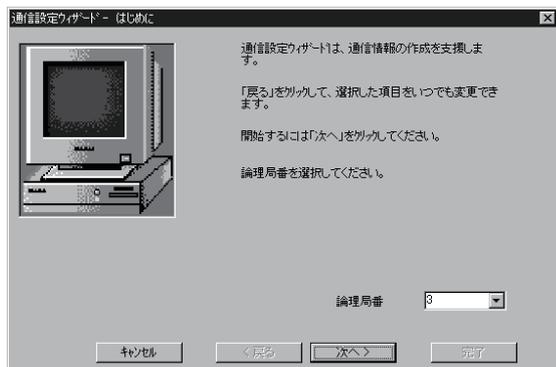
本項で使用するシステム例を以下に示します。



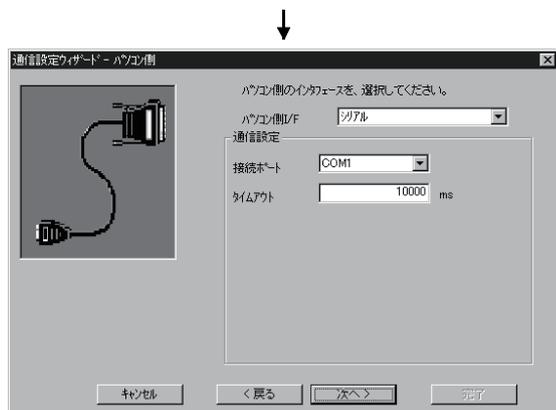
(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“3”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : シリアル
 接続ポート : COM1
 タイムアウト : 10000



④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

シーケンサ側I/F : CPUユニット
 CPUタイプ : Q02 (H)
 伝送速度 : 19200
 伝送制御 : DTR or RTS Control

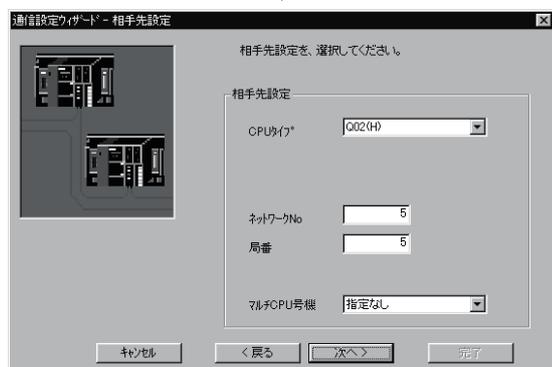
(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 他局
 通信経路 : MELSECNET/10 (H)
 モード : MELSECNET/H



- ⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q02 (H)
 ネットワークNo : 5
 局番 : 5
 マルチCPU号機 : 指定なし

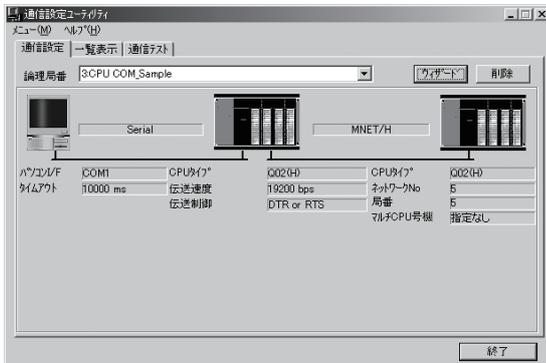


- ⑦ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。

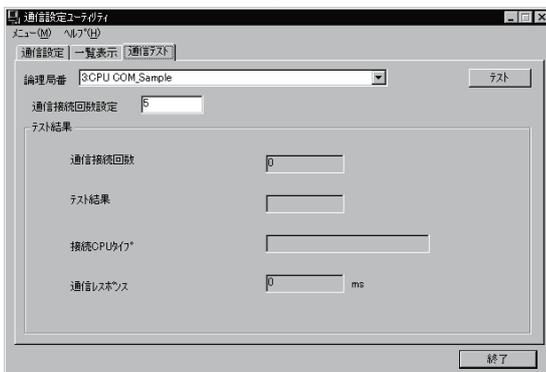
(登録完了)

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

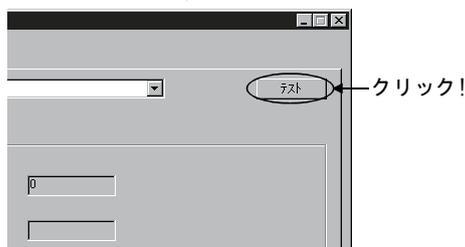
(2) で設定した論理局番を使用し, CPU COM通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し, 論理局番“3”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し, 論理局番“3”を設定してください。



(通信テスト完了)

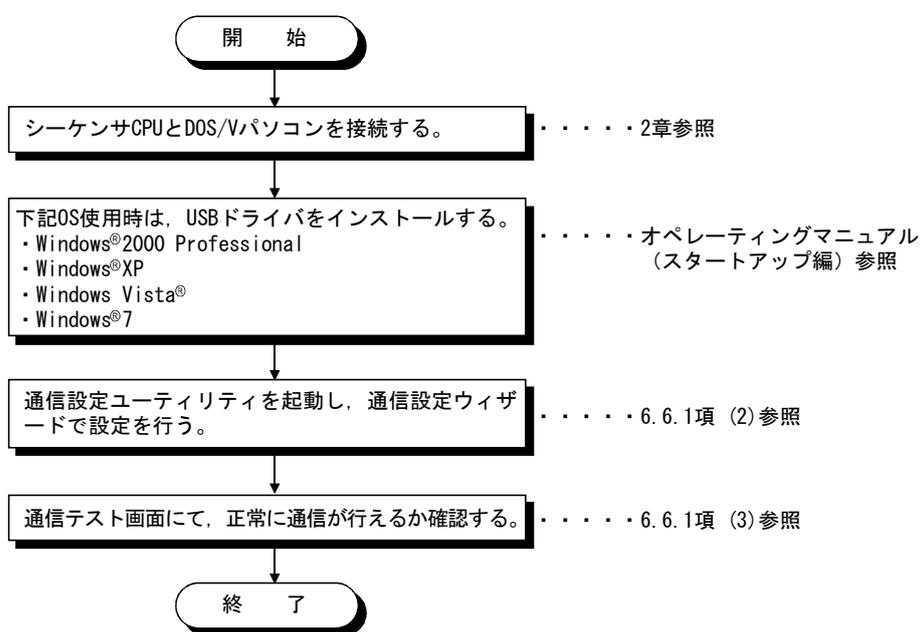
- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は, エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は, テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は, プログラミングマニュアルを参照してください。
- ④ 以上の設定で, 論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し, デバイスデータの収集を行ってください。

6.6 CPU USB通信

ユーティリティ設定タイプで、CPU USB通信を行う手順、および設定例について説明します。

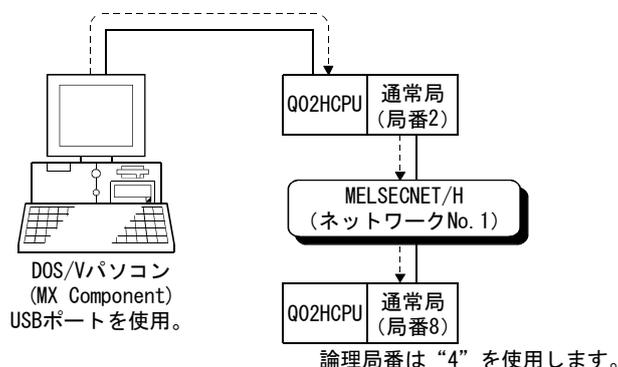
6.6.1 アクセスまでの手順

CPU USB通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

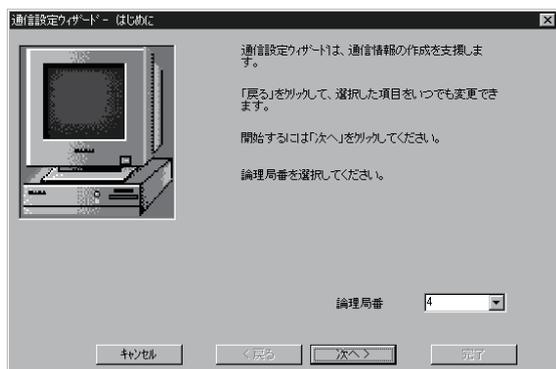
本項で使用するシステム例を以下に示します。



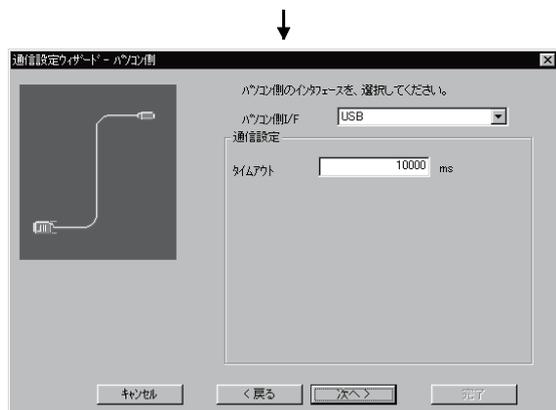
(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“4”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : USB
タイムアウト : 10000



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

シーケンサ側I/F : CPUユニット
CPUタイプ : Q02 (H)

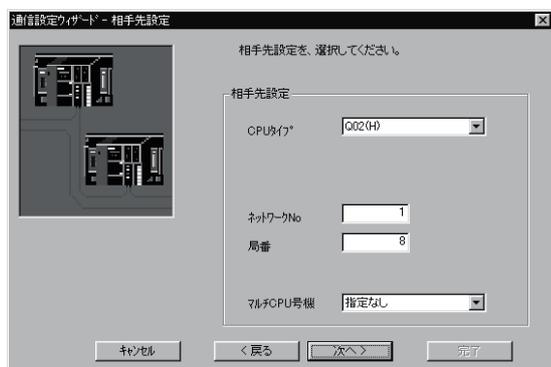
↓
(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 他局
 通信経路 : MELSECNET/10(H)
 モード : MELSECNET/H



- ⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q02(H)
 ネットワークNo : 1
 局番 : 8
 マルチCPU号機 : 指定なし



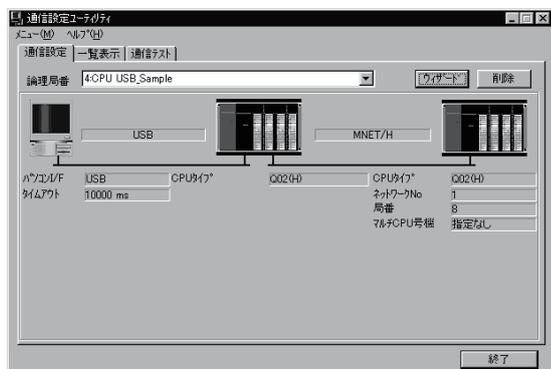
- ⑦ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



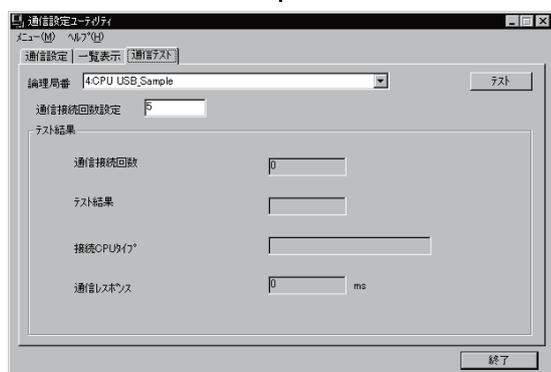
(登録完了)

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

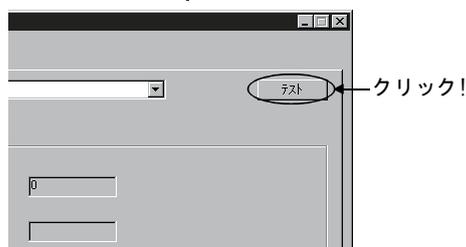
(2) で設定した論理局番を使用し, CPU USB通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し, 論理局番“4”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し, 論理局番“4”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は, エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は, テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は, プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

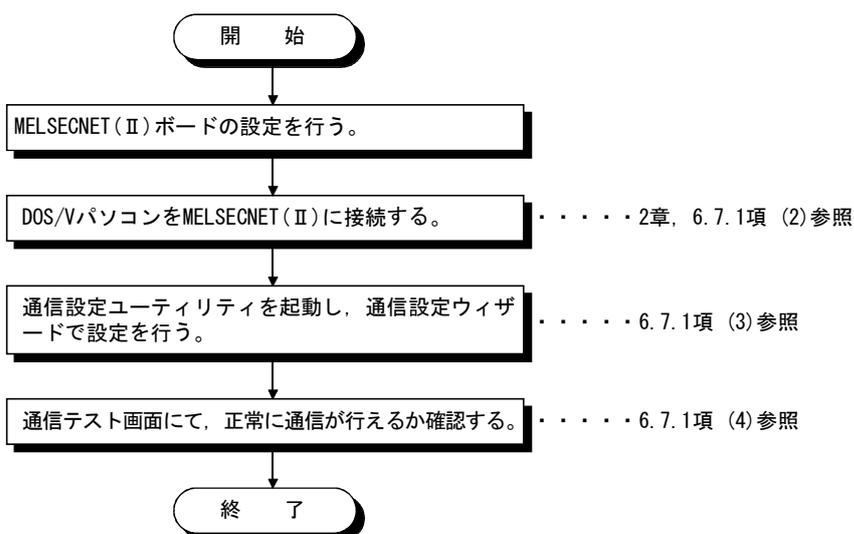
- ④ 以上の設定で, 論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモータユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し, デバイスデータの収集を行ってください。

6.7 MELSECNET (II) 通信

ユーティリティ設定タイプで、MELSECNET (II) 通信を行う手順、および設定例について説明します。

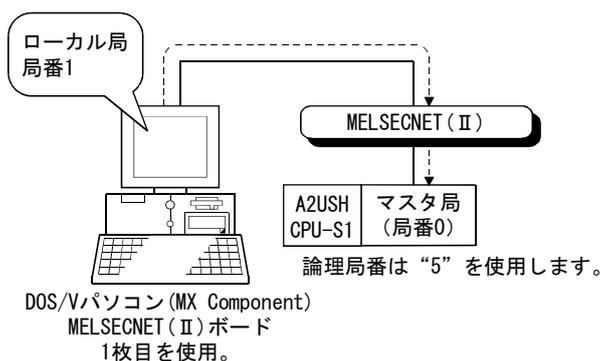
6.7.1 アクセスまでの手順

MELSECNET (II) 通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

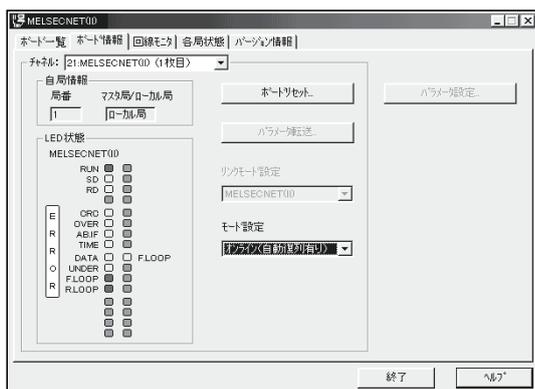
本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) MELSECNET (II) ボードの確認

DOS/VパソコンがMELSECNET (II) に正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]—[プログラム]—[Melsec]—[MELSECNET (II) ユーティリティ]を選択し、MELSECNET (II) ユーティリティを起動します。



- ② ボード情報画面を表示し、下記のように設定してください。

チャンネル : 21 : MELSECNET (II) (1枚目)

モード設定 : オンライン (自動復列有り)



- ③ 回線モニタ画面を表示し、回線が正常であることを確認します。

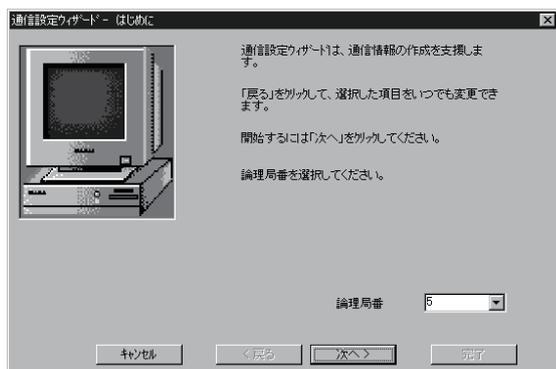
(確認完了)

- ④ **終了** をクリックし、MELSECNET (II) ユーティリティを終了します。

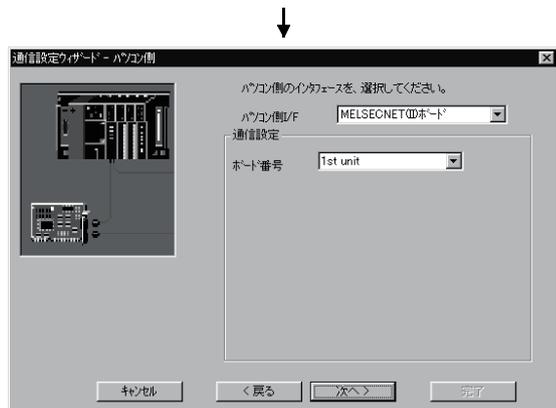
(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“5”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : MELSECNET (II) ボード
 ボード番号 : 1st unit



④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 他局 (単一ネットワーク)

↓
 (次のページへ)

(前ページより)



⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : A2USH-S1
局番 : 0



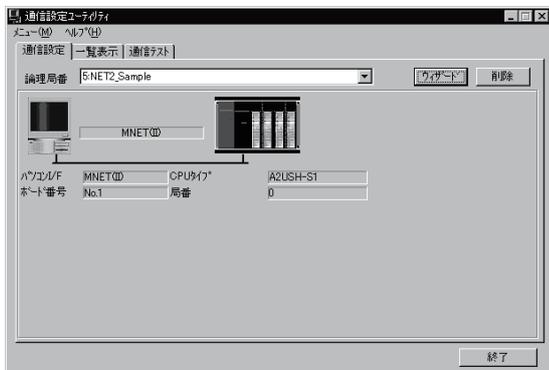
⑥ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



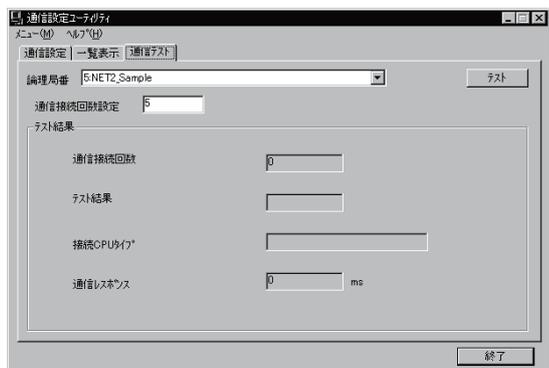
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

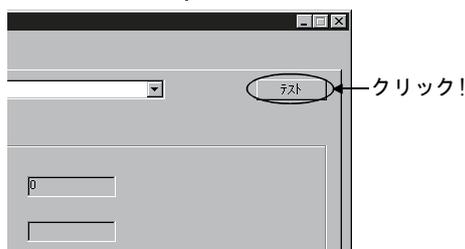
(3)で設定した論理局番を使用し、MELSECNET(II)通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“5”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“5”を設定してください。



(通信テスト完了)

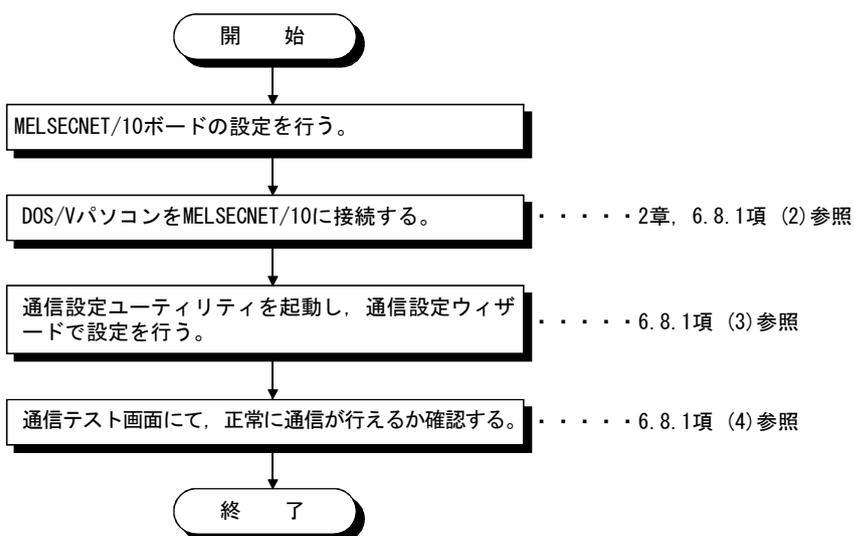
- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモジュールユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.8 MELSECNET/10通信

ユーティリティ設定タイプで、MELSECNET/10通信を行う手順、および設定例について説明します。

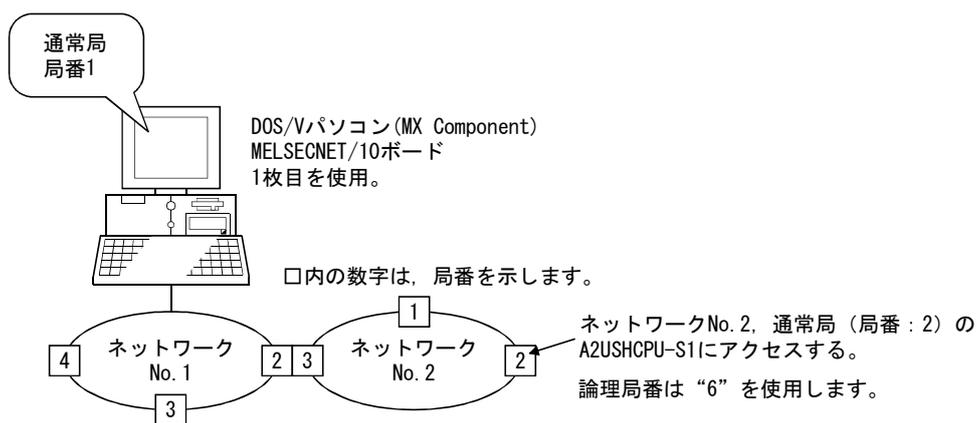
6.8.1 アクセスまでの手順

MELSECNET/10通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) MELSECNET/10ボードの確認

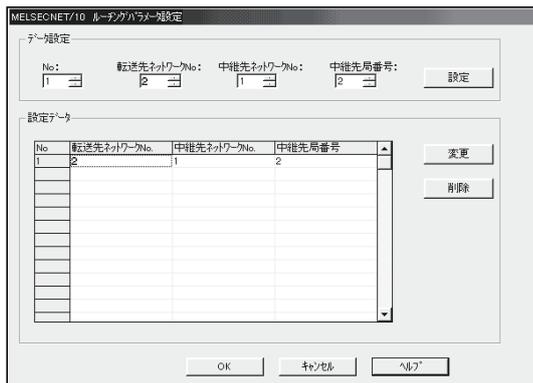
DOS/VパソコンがMELSECNET/10に正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]－[プログラム]－[Melsec]－[MELSECNET/10ユーティリティ]を選択し、MELSECNET/10ユーティリティを起動します。



- ② ボード情報画面を表示し、下記のように設定を行って、**ルーチングパラメータ設定**をクリックしてください。

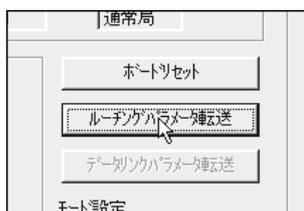
チャンネル : 51 : MELSECNET10 (1枚目)
モード設定 : オンライン自動復列有り



- ③ 以下に示すルーチングパラメータを設定して、**設定**をクリックしてください。

転送先ネットワークNo. : 2
中継先ネットワークNo. : 1
中継先局番号 : 2

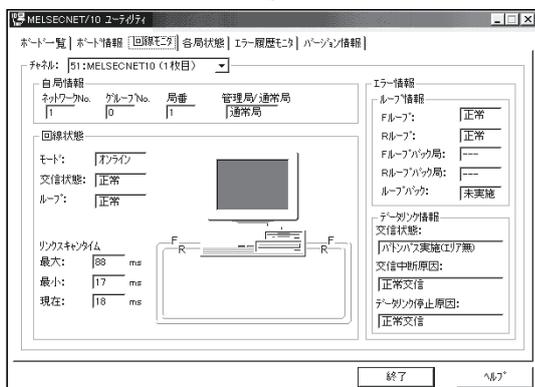
その後、**OK**をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



- ④ **ルーチングパラメータ転送**をクリックして、MELSECNET/10ボードにルーチングパラメータを転送します。

(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 回線モニタ画面を表示して、回線が正常であることを確認します。



(確認完了)

- ⑥ **終了** をクリックし、MELSECNET/10ユーティリティを終了します。

(3) 論理局番を設定する (通信設定ウィザードの設定)

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“6”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : MELSECNET/10ボード
 ボード番号 : 1st unit



(次のページへ)

(前ページより)



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ：他局（単一ネットワーク）



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : A2USH-S1

ネットワークNo : 2

局番 : 2



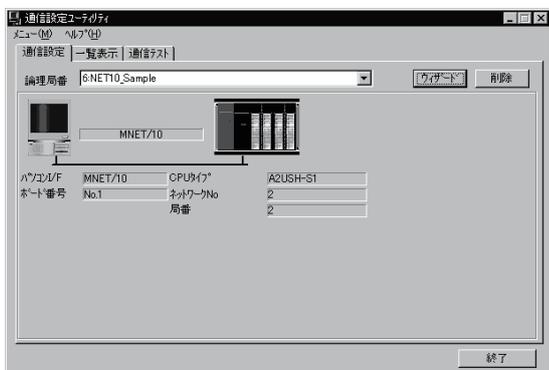
- ⑥ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



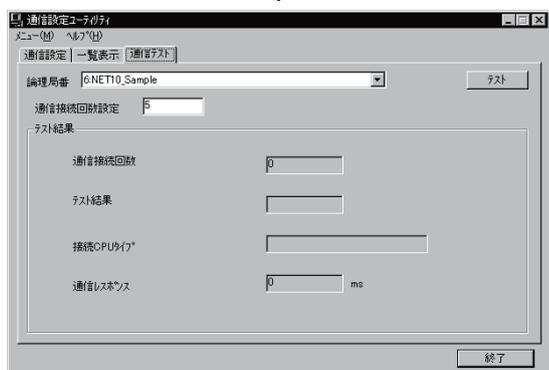
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

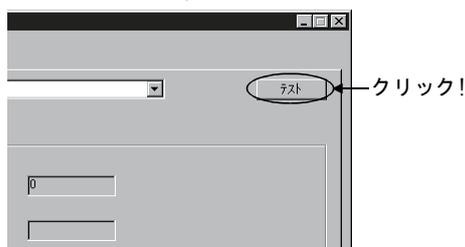
(3)で設定した論理局番を使用し、MELSECNET/10通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“6”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“6”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

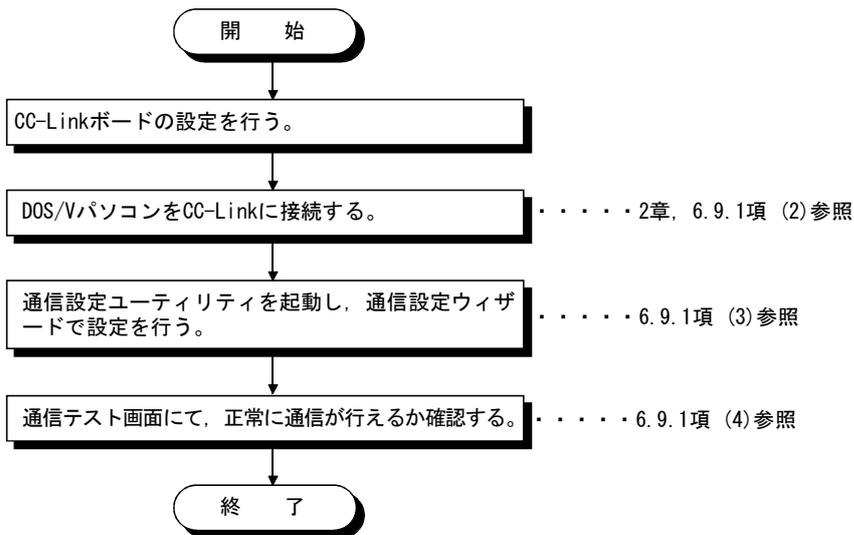
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.9 CC-Link通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link通信を行う手順、および設定例について説明します。

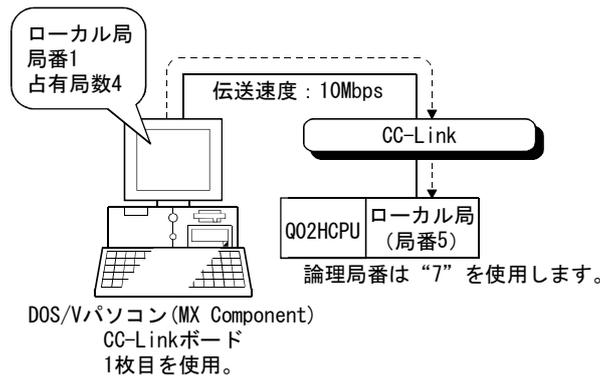
6.9.1 アクセスまでの手順

CC-Link通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



* FXCPUのCC-Link接続は、QCPUのシリアル・USB経由、またはQシリーズC24経由のみアクセス可能です。

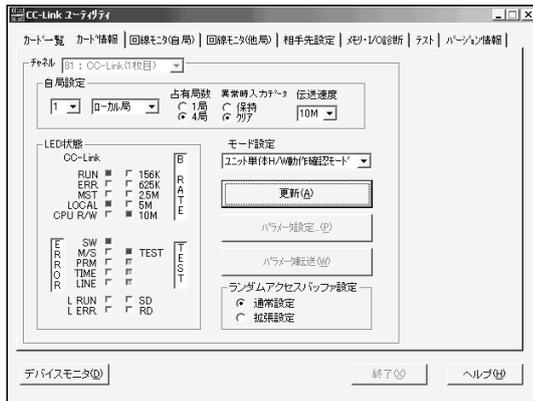
FXCPUのCC-Link接続においてサポートするCPUおよびユニットは以下のとおりです。

CC-Link ユニット	対応CPU	局番
FX3U-64CCL	FX3G, FX3U(C)	1~63

(2) CC-Linkボードの確認

DOS/VパソコンがCC-Linkに正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]－[プログラム]－[Melsec]－[CC-Linkユーティリティ]を選択し、CC-Linkユーティリティを起動します。



- ② カード情報画面を表示し、チャンネルを“81：CC-Link (1枚目)”に設定し、以下に示すCC-Linkボードの設定を行います。

局番 : 1
局種別 : ローカル局
占有局数 : 4局
異常時入力データ : クリア
伝送速度 : 10M

その後、モード設定を“ユニット単体H/W動作確認モード”に設定して、**更新(A)**をクリックし、CC-Linkボードが正常かどうか確認します。



- ③ モード設定を“オンライン”に設定し、**更新(A)**をクリックします。



- ④ 回線モニタ (自局) 画面を表示し、自局の回線が正常であることを確認します。

(確認完了)

- ⑤ **終了(X)**をクリックし、CC-Linkユーティリティを終了します。

(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“7”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : CC-Linkボード
ボード番号 : 1st unit



④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 他局 (単一ネットワーク)

↓
(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q02(H)
局番 : 5
マルチCPU号機 : 指定なし



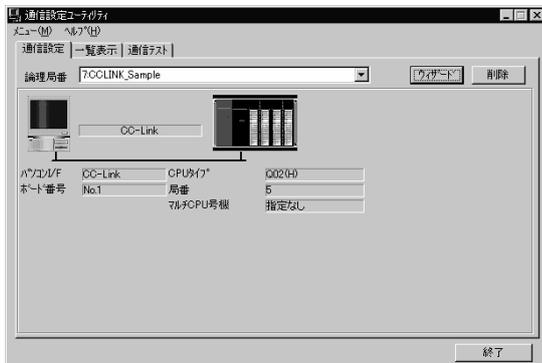
- ⑥ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



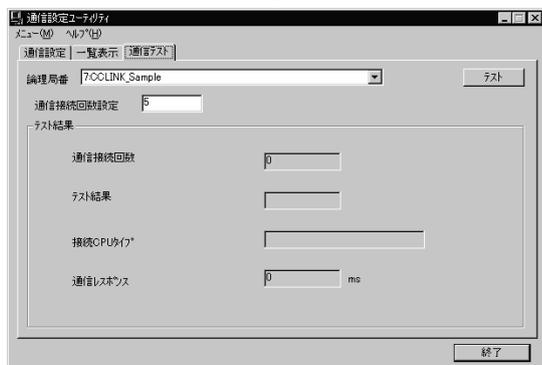
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

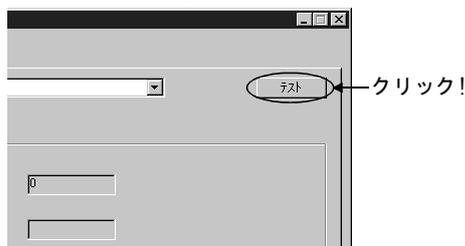
(3) で設定した論理局番を使用し、CC-Link通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“7”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“7”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

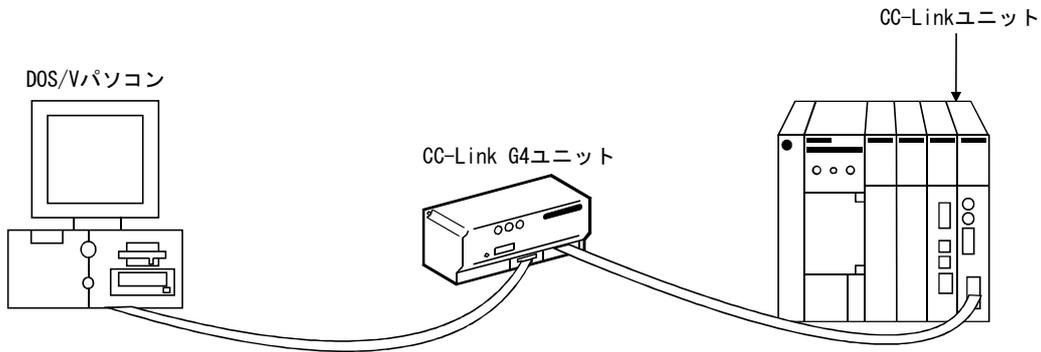
6.10 CC-Link G4通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link G4通信を行う手順、および設定例について説明します。

6.10.1 CC-Link G4ユニットのスイッチ設定

MX Componentを使用する際の、CC-Link G4ユニットのスイッチ設定について、下図のシステム構成で説明します。

MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。



ポイント
 MX Componentを使用する場合、表中の“ユーザ任意”以外の設定については、表中の設定が固定となります。

(1) AJ65BT-G4

スイッチ (スイッチ番号)		設定内容																			
		QnAモード時	Aモード時																		
局番設定スイッチ		1 (ローカル局)																			
データリンク伝送速度設定スイッチ		4 (10Mbps) (CC-Linkユニットの伝送速度を合わせる)																			
動作設定用ディップスイッチ	動作モード設定 (SW1)	ON (QnAモード)	OFF (Aモード)																		
	周辺機器間伝送速度設定 (SW2, SW3)	①9600/②19200/③38400bps <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>S W</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th></tr> <tr><td>SW2</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW3</td><td>OFF</td><td>OFF</td><td>ON</td></tr> </table>	S W	①	②	③	SW2	OFF	ON	OFF	SW3	OFF	OFF	ON	9600bps <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> <tr><td>SW2</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW3</td><td>OFF</td></tr> </table>	S W	設 定	SW2	OFF	SW3	OFF
	S W	①	②	③																	
	SW2	OFF	ON	OFF																	
	SW3	OFF	OFF	ON																	
S W	設 定																				
SW2	OFF																				
SW3	OFF																				
パリティビットの有無設定 (SW4, SW5)	あり, 奇数 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> <tr><td>SW4</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW5</td><td>OFF</td></tr> </table>	S W	設 定	SW4	OFF	SW5	OFF	あり, 奇数 <table border="1" style="font-size: small;"> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> <tr><td>SW4</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW5</td><td>OFF</td></tr> </table>	S W	設 定	SW4	OFF	SW5	OFF							
S W	設 定																				
SW4	OFF																				
SW5	OFF																				
S W	設 定																				
SW4	OFF																				
SW5	OFF																				
— (SW6)	OFF	OFF																			
— (SW7)	OFF	OFF																			
テストモード設定 (SW8)	OFF (オンラインモード)	OFF (オンラインモード)																			

(2) AJ65BT-G4-S3

スイッチ (スイッチ番号)		設定内容																				
		Qモード	QnAモード	Aモード																		
局番設定スイッチ		1 (ローカル局)																				
データリンク伝送速度設定スイッチ		4(10Mbps) (CC-Linkユニットの伝送速度を合わせる)																				
動作設定用 ディップ スイッチ	動作モード設定 (SW1, SW6)	<table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW1</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW6</td><td>ON</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW1	OFF	SW6	ON	<table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW1</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW6</td><td>ON</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW1	OFF	SW6	ON	<table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW1</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW6</td><td>ON</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW1	OFF	SW6	ON
	S W	設 定																				
	SW1	OFF																				
	SW6	ON																				
	S W	設 定																				
SW1	OFF																					
SW6	ON																					
S W	設 定																					
SW1	OFF																					
SW6	ON																					
周辺機器間伝送速度設定 (SW2, SW3)	設定不要 (自動設定)	①9600/②19200/ ③38400bps <table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>①</th><th>②</th><th>③</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW2</td><td>OFF</td><td>ON</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW3</td><td>OFF</td><td>OFF</td><td>ON</td></tr> </tbody> </table>	S W	①	②	③	SW2	OFF	ON	OFF	SW3	OFF	OFF	ON	9600bps <table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW2</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW3</td><td>OFF</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW2	OFF	SW3	OFF	
S W	①	②	③																			
SW2	OFF	ON	OFF																			
SW3	OFF	OFF	ON																			
S W	設 定																					
SW2	OFF																					
SW3	OFF																					
パリティビットの有無設定 (SW4, SW5)	あり, 奇数 <table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW4</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW5</td><td>OFF</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW4	OFF	SW5	OFF	あり, 奇数 <table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW4</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW5</td><td>OFF</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW4	OFF	SW5	OFF	あり, 奇数 <table border="1"> <thead> <tr><th>S W</th><th>設 定</th></tr> </thead> <tbody> <tr><td>SW4</td><td>OFF</td></tr> <tr><td>SW5</td><td>OFF</td></tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW4	OFF	SW5	OFF	
S W	設 定																					
SW4	OFF																					
SW5	OFF																					
S W	設 定																					
SW4	OFF																					
SW5	OFF																					
S W	設 定																					
SW4	OFF																					
SW5	OFF																					
— (SW7)	OFF	OFF	OFF																			
テストモード設定 (SW8)	OFF (オンラインモード)	OFF (オンラインモード)	OFF (オンラインモード)																			

(3) AJ61BT-11

スイッチ (スイッチ番号)	設定内容
局番設定スイッチ	0
データリンク伝送速度設定スイッチ	4(10Mbps)
モード設定スイッチ	0 (オンライン)
条件設定スイッチ	すべてOFF

(4) AJQB11

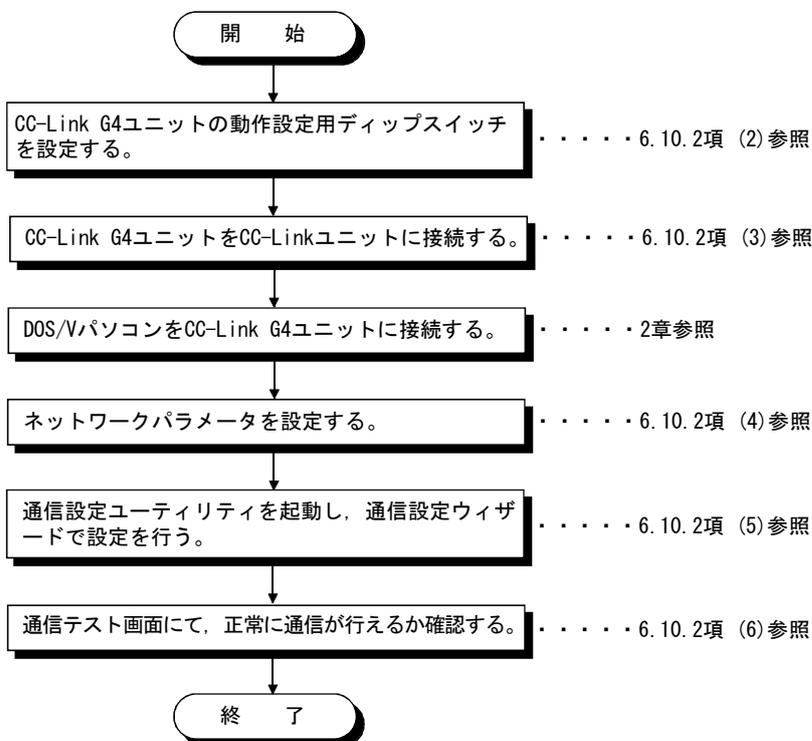
スイッチ (スイッチ番号)	設定内容
局番設定スイッチ	0
データリンク伝送速度設定スイッチ	4(10Mbps)
モード設定スイッチ	0 (オンライン)
条件設定スイッチ	すべてOFF

(5) QJ61QB11

スイッチ (スイッチ番号)	設定内容
局番設定スイッチ	0
データリンク伝送速度設定スイッチ	4(10Mbps)
モード設定スイッチ	0 (オンライン)
条件設定スイッチ	すべてOFF

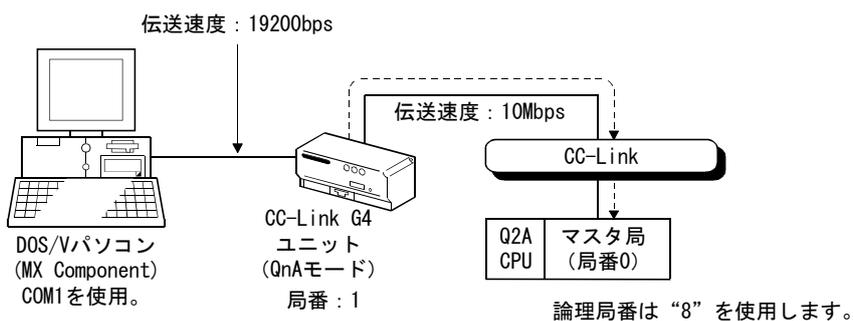
6.10.2 アクセスまでの手順

CC-Link G4通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) CC-Link G4ユニットのスイッチ設定を行う

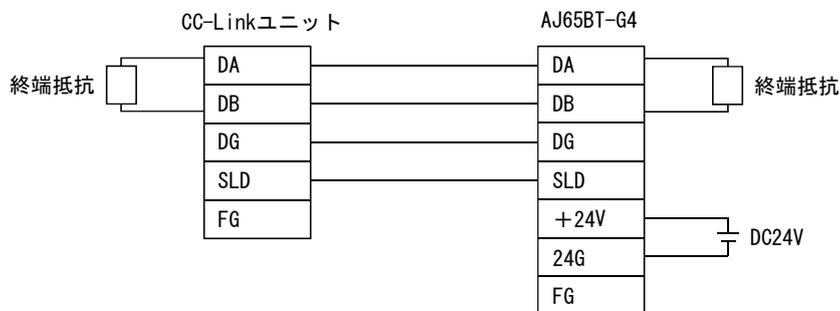
CC-Link G4ユニットのディップスイッチの設定内容を以下に示します。

スイッチ (スイッチ番号)		設定内容						
局番設定スイッチ		01 (局番1)						
データリンク伝送速度設定スイッチ		4 (10Mbps)						
動作設定用ディップスイッチ	動作モード設定 (SW1)	ON (QnAモード)						
	周辺機器間伝送速度設定 (SW2, SW3)	19200bps <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>S W</th> <th>設 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SW2</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW3</td> <td>OFF</td> </tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW2	ON	SW3	OFF
	S W	設 定						
	SW2	ON						
	SW3	OFF						
	パリティビットの有無設定 (SW4, SW5)	<table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>S W</th> <th>設 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SW4</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>SW5</td> <td>OFF</td> </tr> </tbody> </table>	S W	設 定	SW4	OFF	SW5	OFF
S W	設 定							
SW4	OFF							
SW5	OFF							
— (SW6) *1	OFF							
— (SW7)	OFF							
テストモード設定 (SW8)	OFF (オンラインモード)							

*1 : AJ65BT-G4-S3では、動作モード設定スイッチとなります。

(3) CC-Link G4ユニットの配線を行う

CC-Link G4ユニットのCC-Linkユニットへの配線図を以下に示します。



(4) ネットワークパラメータの設定を行う

パラメータ設定は、GX Developerのネットワークパラメータ“CC-Link設定画面”から行う方法と、シーケンスプログラムから行う方法の2種類があります。

ポイント
 CC-Link G4ユニットをAモードとして使用する場合は、“(b) シーケンスプログラムで設定を行う場合”を参照してパラメータを設定してください。

(a) CC-Link設定画面でパラメータ設定を行う場合

先頭I/O No.，種別，総接続台数および局情報を設定してください。
 他の設定項目は，必要に応じて設定してください。

<CC-Linkパラメータ設定画面>

ユニット枚数	1 枚	バンク: 設定なし
先頭I/O No	1	2
動作設定	動作設定	
種別	マスタ局	
マスタリンク種別	マスタ局CPUパラメータ自動起動	
モード設定	リモートネット-Ver.1モード	
総接続台数	1	
リモート入力(RX)リフレッシュデバイス		
リモート出力(RY)リフレッシュデバイス		
リモートレジスタ(RWw)リフレッシュデバイス		
リモートレジスタ(RWw)リフレッシュデバイス		
Ver.2リモート入力(RX)リフレッシュデバイス		
Ver.2リモート出力(RY)リフレッシュデバイス		
Ver.2リモートレジスタ(RWw)リフレッシュデバイス		
Ver.2リモートレジスタ(RWw)リフレッシュデバイス		
特殊リレー(SB)リフレッシュデバイス		
特殊レジスタ(SW)リフレッシュデバイス		
リトライ回数	3	
自動復列台数	1	
待機マスタ局番号		
CPU動作指定	停止	
スケッチモード指定	非同期	
ディレイ時間設定	0	
局情報設定	局情報	
リモートデバイス局仁別設定	仁別設定	
割込み設定	割込み設定	

<局情報設定画面>

台数/局番	局種別	拡張サイクル 設定	占有 局数	リモート局 点数	予約/無効局 指定	仁別設定 速度 受信 自動
1/1	仁別設定マスタ局	1倍設定	1局占有	32点	設定なし	64 64 128

デフォルト チェック 設定終了 キャンセル

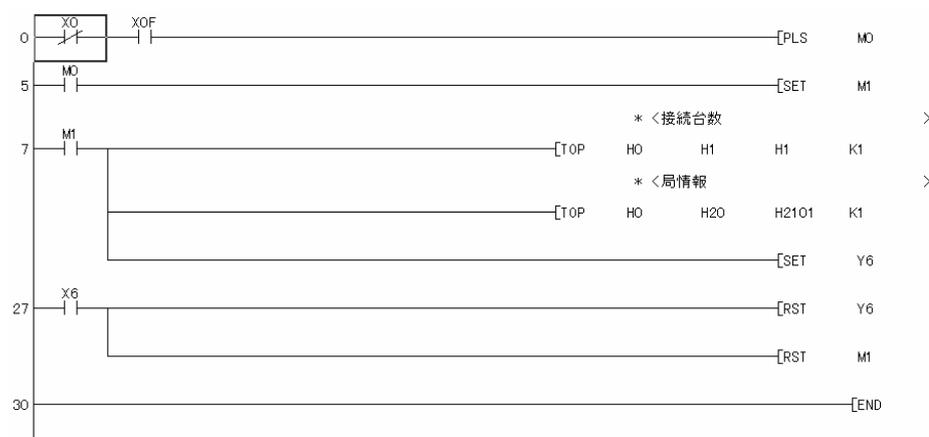
CC-Linkパラメータ設定後，シーケンサCPUにパラメータを書き込んでください。

- (b) シーケンスプログラムでパラメータ設定を行う場合
データリンクを行うためのパラメータ設定項目と、シーケンスプログラム例を以下に示します。

<パラメータ設定項目>

アドレス	項目	内容	設定値
1H	接続台数	接続されているリモート局／ローカル局のユニット台数を設定する。	1H
20H	局情報	AJ65BT-G4(-S3)	2101H

<シーケンスプログラム>



ポイント

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。

[ユーザー指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [Ccg4a]

(5) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“8”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : シリアル
 接続ポート : COM1
 タイムアウト : 10000



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

シーケンサ側I/F : G4ユニット
 モード : QnA
 伝送速度 : 19200
 伝送制御 : DTR or RTS Control

(次のページへ)

(前ページより)



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。

局番タイプ : 自局
CPUタイプ : Q2A
CC-Linkユニット局番 : 0



- ⑥ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



(登録完了)

(6) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

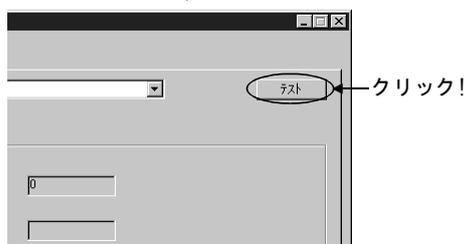
(5) で設定した論理局番を使用し、CC-Link-G4通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“8”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“8”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

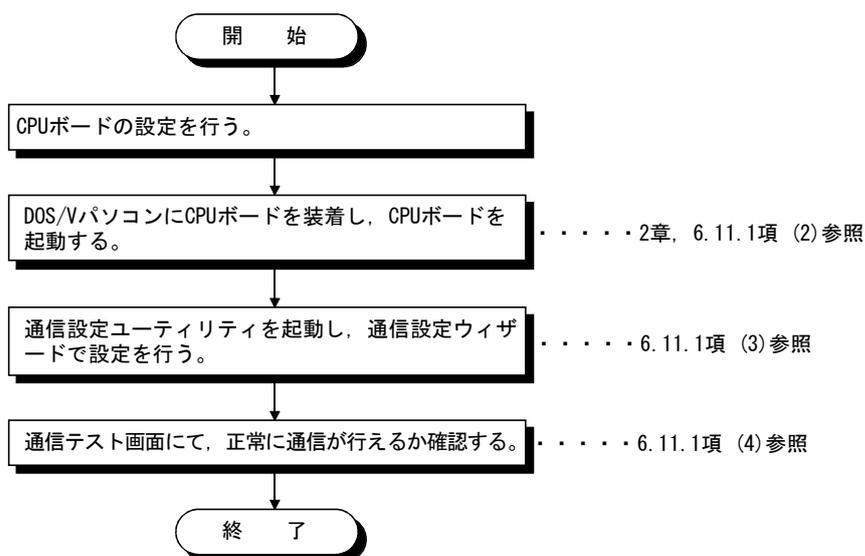
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.11 CPUボード通信

ユーティリティ設定タイプで、CPUボード通信を行う手順、および設定例について説明します。

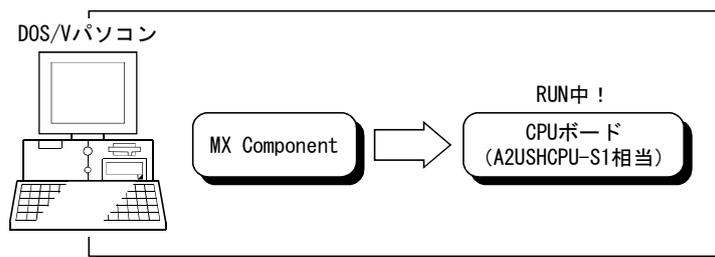
6.11.1 アクセスまでの手順

CPUボード通信を使用してCPUボードにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。

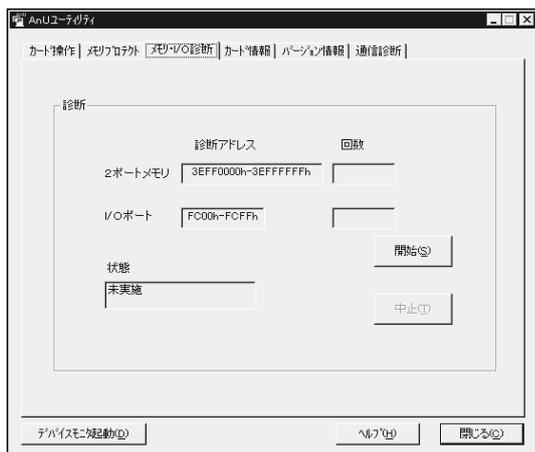


論理局番は“9”を使用します。

(2) CPUボードの確認と起動

CPUボードがDOS/Vパソコンに正しく接続されているか確認し、CPUボードを起動します。

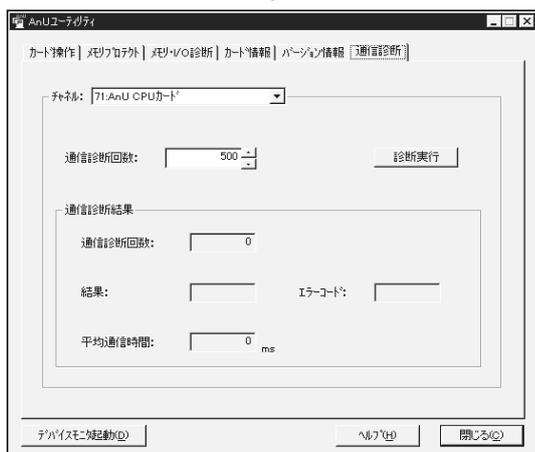
- ① [スタート]－[プログラム]－[Melsec]－[AnUユーティリティ]を選択し、AnUユーティリティを起動します。



- ② CPUボードが正常に動作しているか確認を行います。

メモリ・I/O診断画面を表示し、**開始(S)** をクリックして任意の回数だけ行います。

その後、**中止(T)** をクリックし、診断を中止してCPUボードが正常であることを確認します。



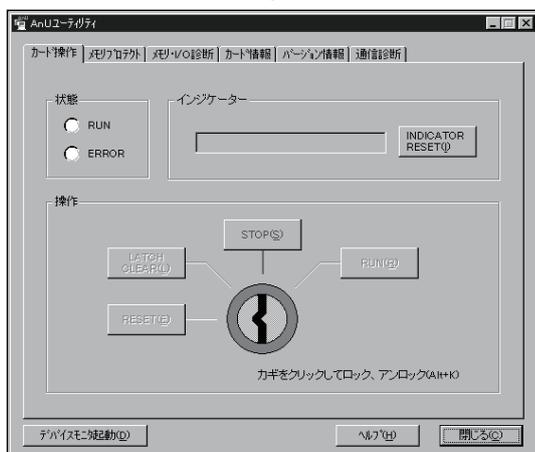
- ③ 通信診断画面を表示し、**診断実行** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。

エラーが発生している場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。

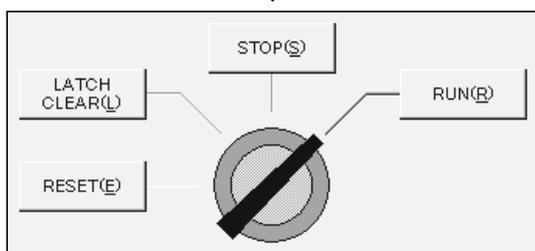
エラーコードの詳細は、CPUボードのマニュアルを参照してください。

(次のページへ)

(前ページより)



- ④ 本項ではCPUボードがRUN中の場合にアクセスしますので、カード操作画面にてCPUボードをRUN状態にする必要があります。



- ⑤ CPU動作キーをクリックして、アンロック状態にします。アンロック状態にしたあと、**RUN(R)** をクリックしてCPUボードをRUN状態にします。



(確認完了)

- ⑥ **閉じる(C)** をクリックし、AnUユーティリティをタスクバーに格納します。

(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“9”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : CPUボード



④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 自局



(次のページへ)

(前ページより)



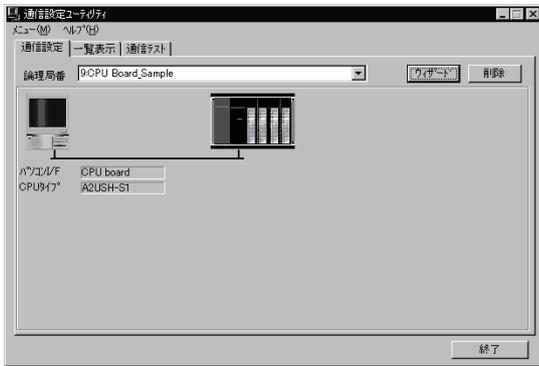
⑤ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

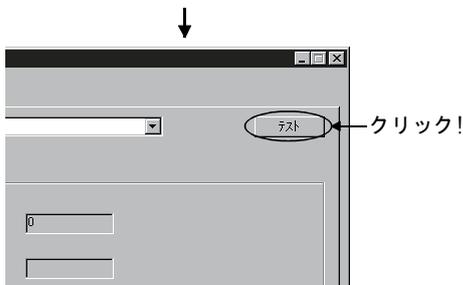
(3)で設定した論理局番を使用し，CPUボード通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し，論理局番“9”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し，論理局番“9”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は，エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は，テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は，プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

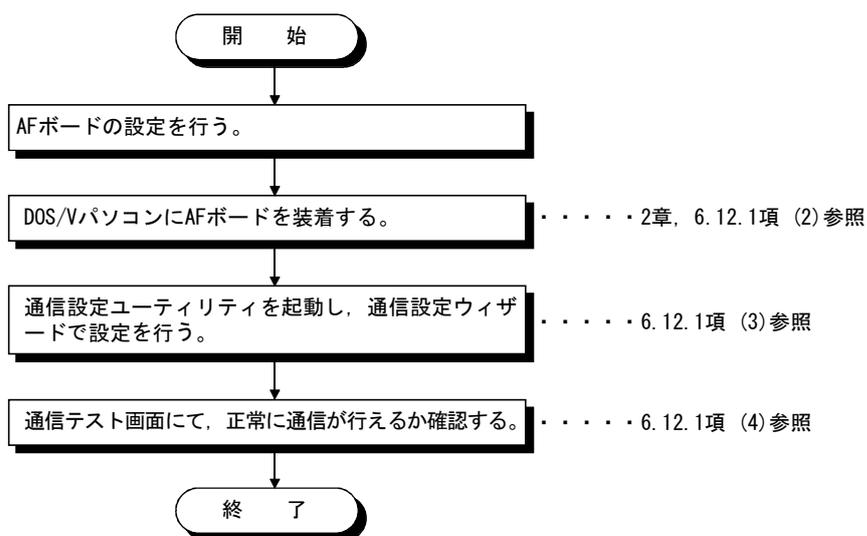
- ④ 以上の設定で，論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し，デバイスデータの収集を行ってください。

6.12 AF通信

ユーティリティ設定タイプで、AF通信を行う手順、および設定例について説明します。

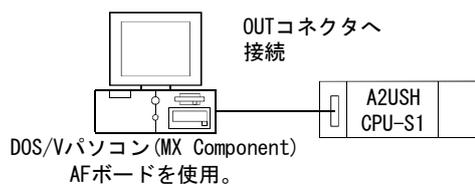
6.12.1 アクセスまでの手順

AF通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。

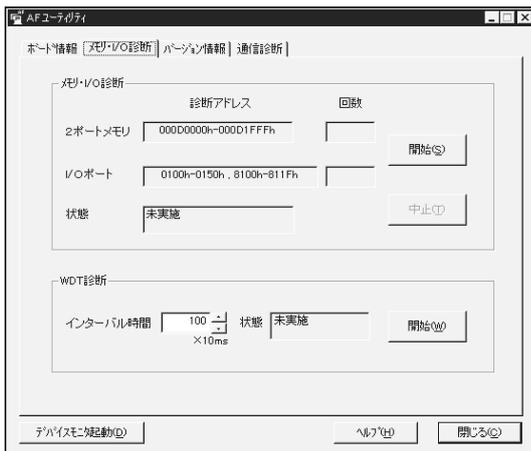


論理局番は“10”を使用します。

(2) AFボードの確認と起動

AFボードがDOS/Vパソコンに正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]－[プログラム]－[Melsec]－[AFユーティリティ]を選択し、AFユーティリティを起動します。



(確認完了)

- ② ボード情報画面を表示し、エラー情報の各チェックボックスにチェックがないことを確認します。
チェックがある場合はエラーが発生していますので、エラーを除去してください。

- ③ メモリ・I/O診断画面を表示し、“メモリ・I/O診断”の **開始(S)** をクリックして診断を任意の回数だけ行います。その後、**中止(T)** をクリックして診断を中止し、AFボードが正常であることを確認します。
“WDT診断”の **開始(W)** をクリックし、AFボードが正常であることを確認します。

- ④ 通信診断画面を表示し、**診断実行** をクリックして通信が正常に行われているか確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードの詳細は、AFボードのマニュアルを参照してください。

- ⑤ **閉じる(C)** をクリックし、AFユーティリティをタスクバーに格納します。

(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“10”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : AFボード



④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 自局

CPUタイプ : A2USH-S1

↓
(次のページへ)

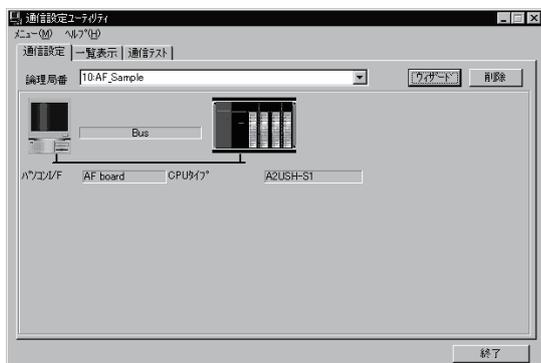
(前ページより)

⑤ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。

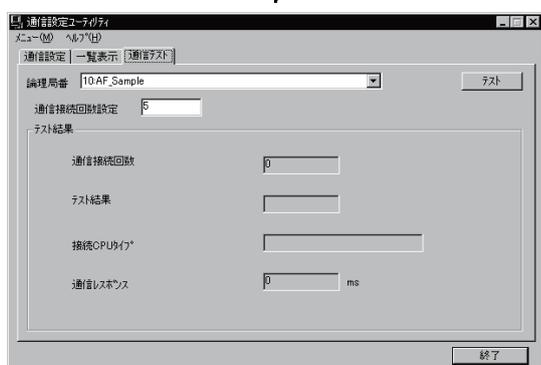
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

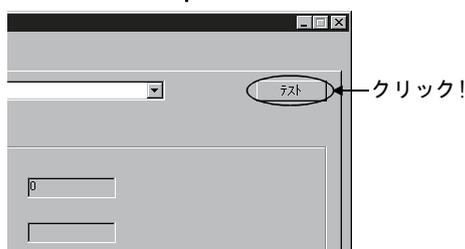
(3) で設定した論理局番を使用し、AF通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“10”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“10”を設定してください。



(通信テスト完了)

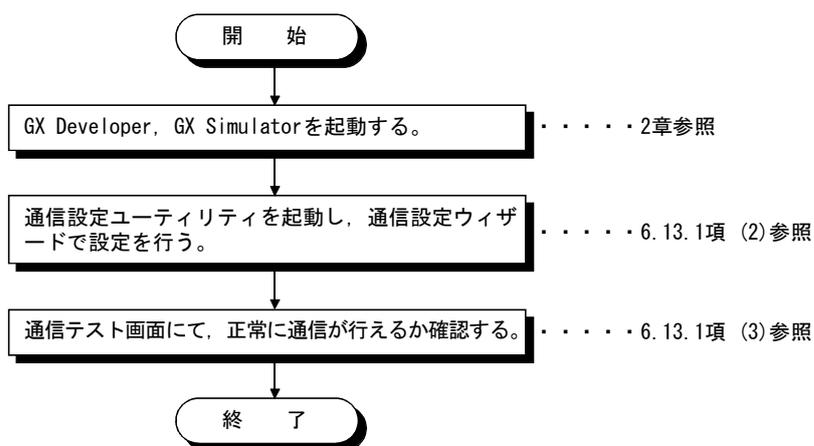
- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.13 GX Simulator通信

ユーティリティ設定タイプで、ラダーロジック通信（GX Simulator通信）を行う手順、および設定例について説明します。

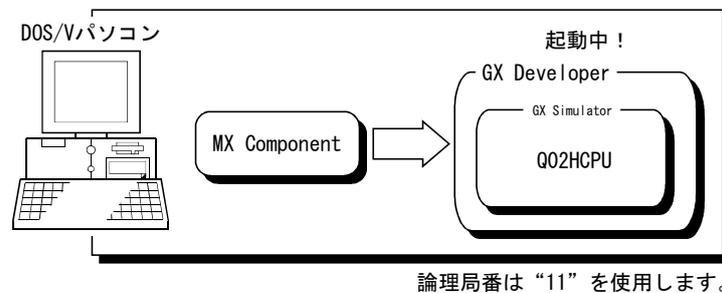
6.13.1 アクセスまでの手順

GX Simulator通信を使用してGX Simulatorにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



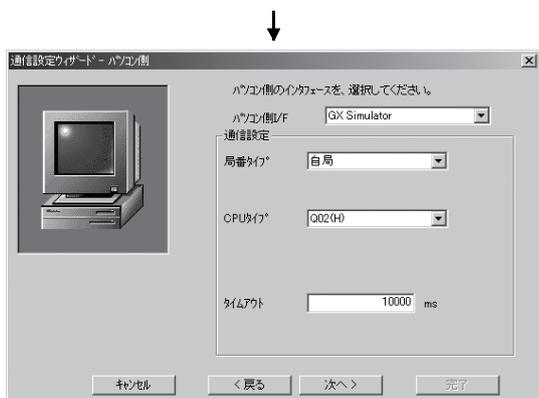
(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“11”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : GX Simulator
局番タイプ : 自局
CPUタイプ : Q02(H)
タイムアウト : 10000

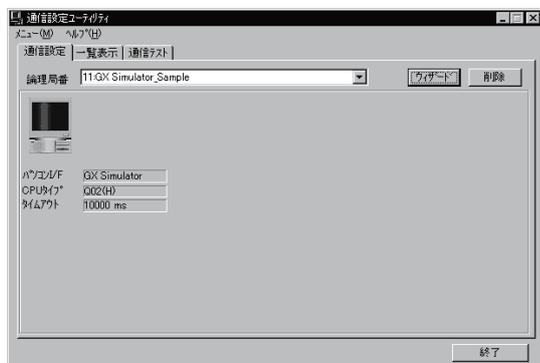


④ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。

↓
(登録完了)

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

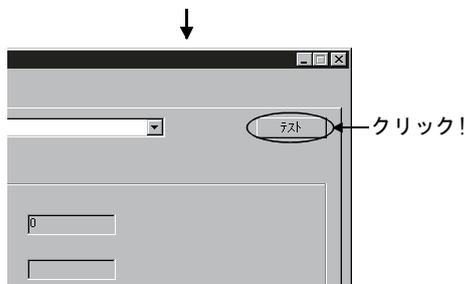
(2) で設定した論理局番を使用し、GX Simulator通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“11”を選択します。論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“11”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。) エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

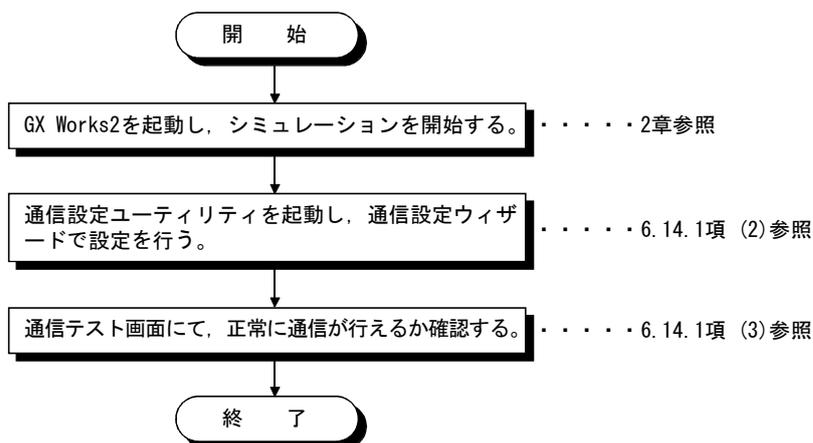
6.14 GX Simulator2通信

ユーティリティ設定タイプで、ラダーロジック通信（GX Simulator2通信）を行う手順、および設定例について説明します。

ポイント
MX Componentと接続中はGX Works2からシミュレーションの停止を行っても、GX Works2のシミュレーション機能は終了しません。（GX Works2を終了してもGX Works2のシミュレーション機能は終了しません。）
MX Componentとの接続を切断したときに終了します。

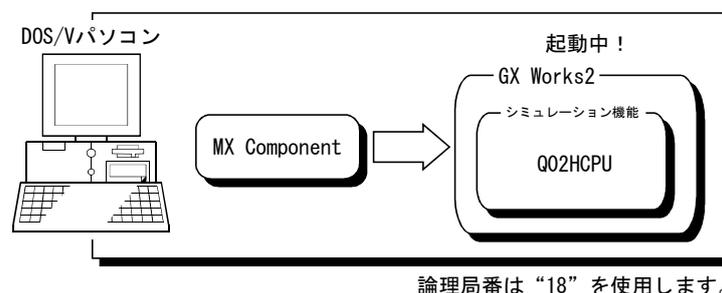
6.14.1 アクセスまでの手順

GX Simulator2通信を使用してGX Works2のシミュレーション機能にアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“18”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : GX Simulator2
対象シミュレータ : シミュレータA

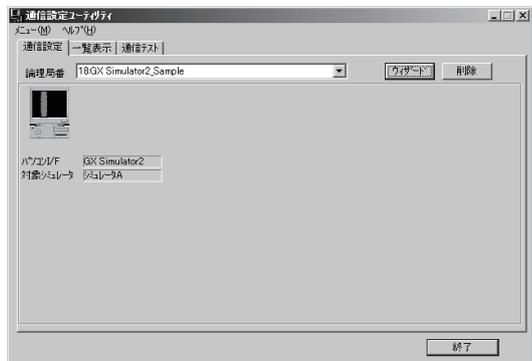


④ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。

(登録完了)

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

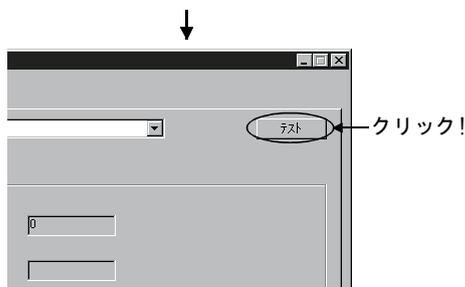
(2) で設定した論理局番を使用し，GX Simulator2通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し，論理局番“18”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し，論理局番“18”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は，エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は，テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は，プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

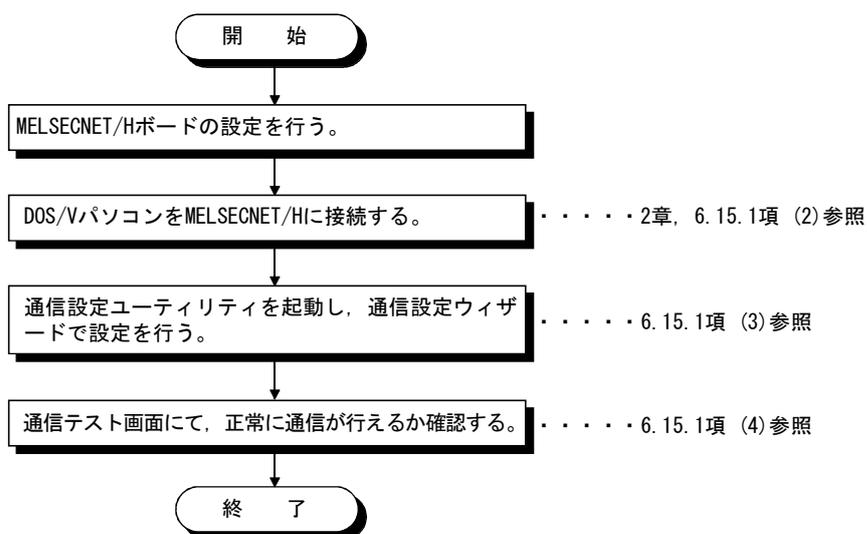
- ④ 以上の設定で，論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し，デバイスデータの収集を行ってください。

6.15 MELSECNET/H通信

ユーティリティ設定タイプで、MELSECNET/H通信を行う手順、および設定例について説明します。

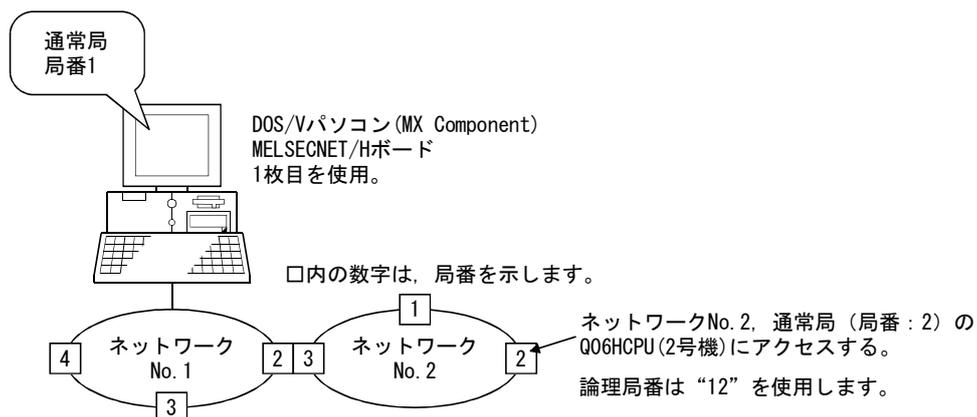
6.15.1 アクセスまでの手順

MELSECNET/H通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) MELSECNET/Hボードの確認

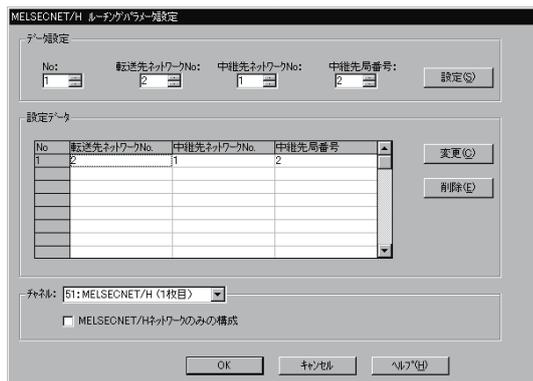
DOS/VパソコンがMELSECNET/Hに正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]—[プログラム]—[Melsec]—[MELSECNET/Hユーティリティ]を選択し、MELSECNET/Hユーティリティを起動します。



- ② ボード情報画面を表示し、下記のように設定を行って、**更新(S)** をクリックしてください。
その後、**ルーチングパラメータ設定...(R)** をクリックします。

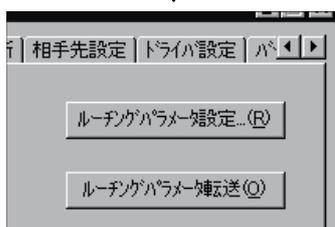
チャンネル : 51 : MELSECNET/H (1枚目)
モード : オンライン自動復列有り
ボーレート : 任意(ここでは10Mbps)
NETモード : MNET/Hモード



- ③ 以下に示すルーチングパラメータを設定して、**設定(S)** をクリックしてください。

転送先ネットワークNo. : 2
中継先ネットワークNo. : 1
中継先局番号 : 2

その後、**OK** をクリックしてダイアログボックスを閉じます。



- ④ **ルーチングパラメータ設定...(R)** をクリックして、MELSECNET/Hボードにルーチングパラメータを転送します。

(次のページへ)

(前ページより)



(確認完了)



- ⑤ 回線モニタ画面を表示して、回線が正常であることを確認します。

- ⑥ **終了(X)** をクリックし、MELSECNET/Hユーティリティを終了します。

(3) 論理局番を設定する (通信設定ウィザードの設定)

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“12”を入力して、**次へ>** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ>** をクリックしてください。

パソコン側I/F : MELSECNET/Hボード
ボード番号 : 1st unit

(次のページへ)



(前ページより)



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ：他局（単一ネットワーク）



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q06H
 ネットワークNo. : 2
 局番 : 2
 マルチCPU号機 : 2号機



- ⑥ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



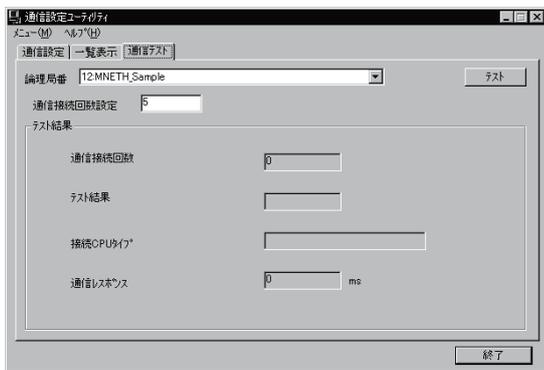
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

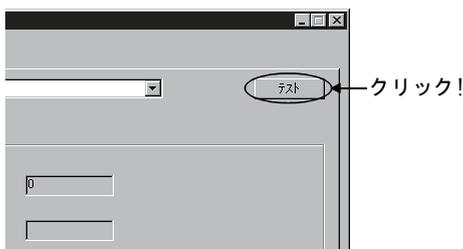
(3)で設定した論理局番を使用し、MELSECNET/H通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“12”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“12”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

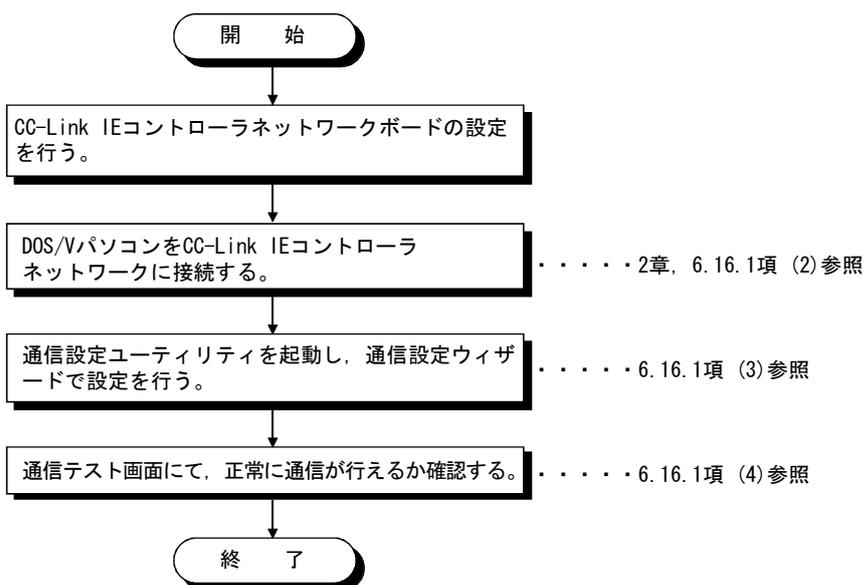
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.16 CC-Link IEコントローラネットワーク通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEコントローラネットワーク通信を行う手順、および設定例について説明します。

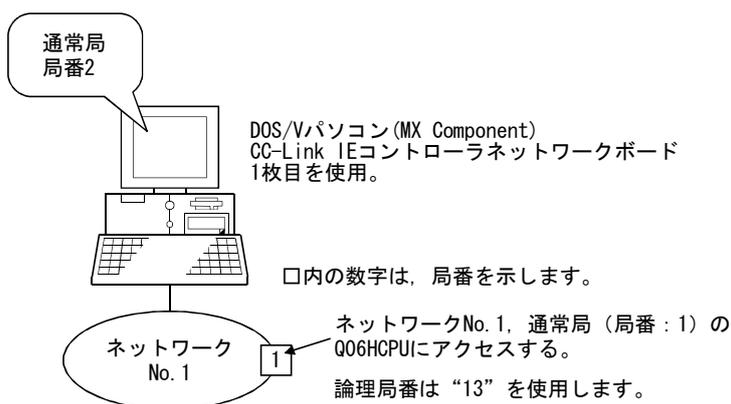
6.16.1 アクセスまでの手順

CC-Link IEコントローラネットワーク通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) CC-Link IEコントローラネットワークボードの確認

DOS/VパソコンがCC-Link IEコントローラネットワークに正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]－[プログラム]－[Melsec]－[CC IE Control Utility]を選択し、CC IE Controlユーティリティを起動します。



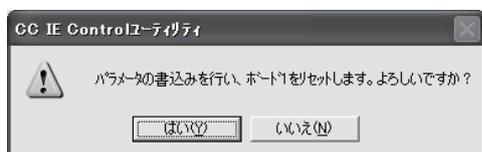
- ② ボード一覧画面が表示されます。
設定(T) をクリックしてください。



- ③ パラメータ設定画面が表示されます。
 下記のように設定し、設定終了(E) をクリックしてください。

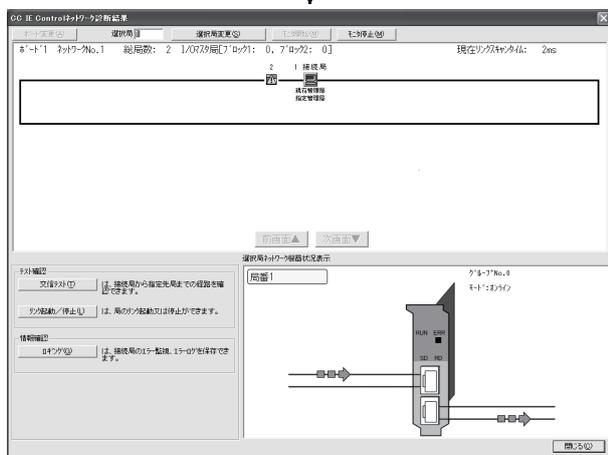
チャンネルNo. : 151
 ネットワーク種別 : CC IE Control (通常局)
 モード : オンライン
 ネットワークNo. : 1
 グループNo. : 0
 局番 : 2

- ④ はい(Y) をクリックして、CC-Link IEコントローラネットワークボードにパラメータを書き込みます。



(次のページへ)

(前ページより)



(確認完了)

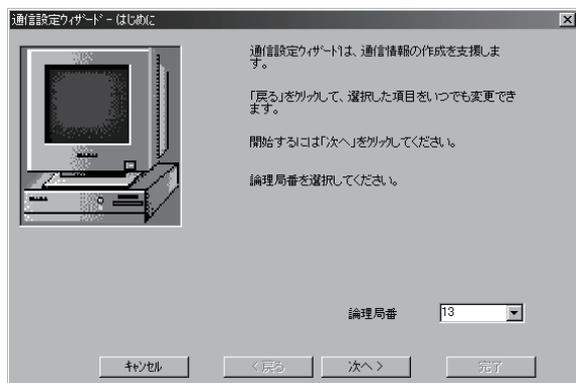
- ⑤ ボード一覧画面の **診断(D)** をクリックし、回線が正常であることを確認します。

- ⑥ **閉じる(C)** をクリックし、CC IE Controlユーティリティを終了します。

(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“13”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : CC IE Controlボード
 ボード番号 : 1st unit

(次のページへ)

(前ページより)



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ：自局



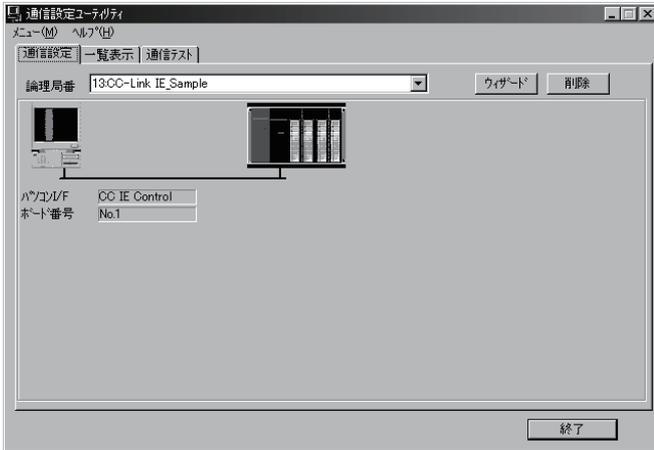
- ⑤ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



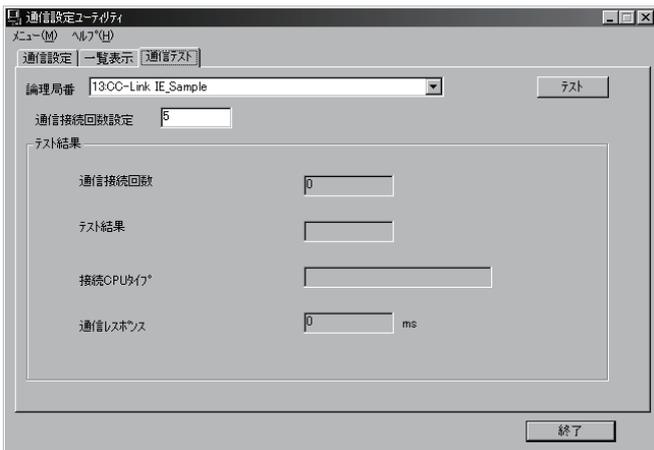
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

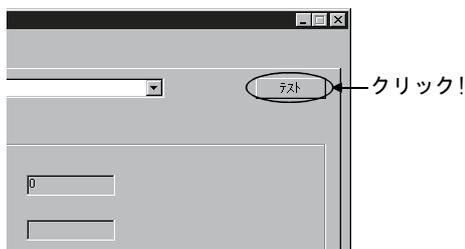
(3)で設定した論理局番を使用し、CC-Link IEコントローラネットワーク通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“13”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“13”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

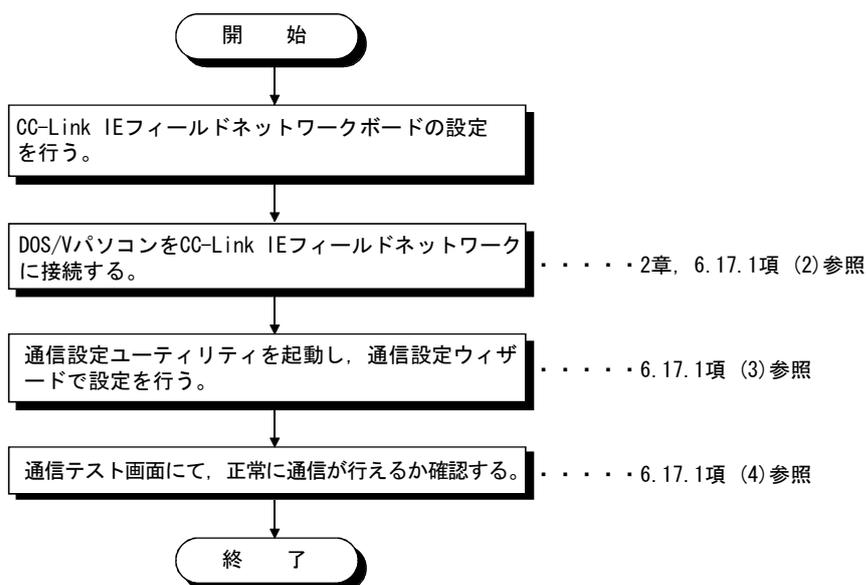
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.17 CC-Link IEフィールドネットワーク通信

ユーティリティ設定タイプで、CC-Link IEフィールドネットワーク通信を行う手順、および設定例について説明します。

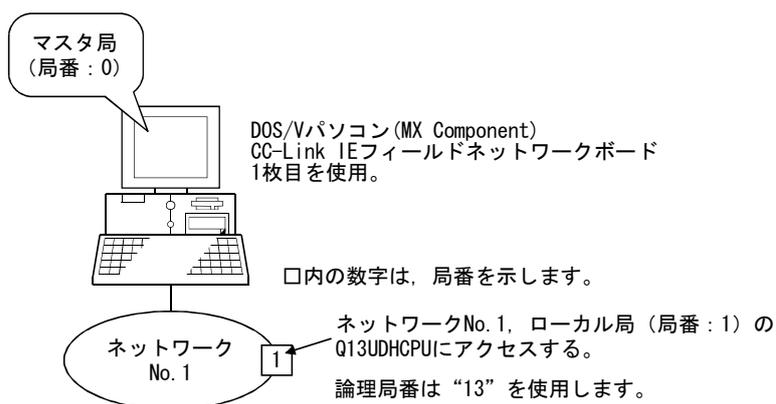
6.17.1 アクセスまでの手順

CC-Link IEフィールドネットワーク通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

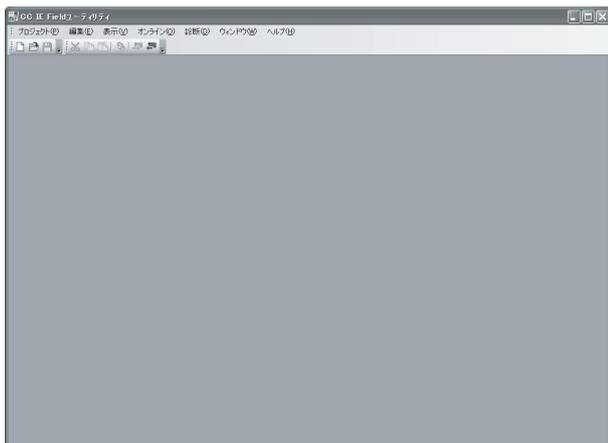
本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) CC-Link IEフィールドネットワークボードの確認

DOS/VパソコンがCC-Link IEフィールドネットワークに正しく接続されているか確認します。

- ① [スタート]－[プログラム]－[MELSEC]－[CC IE Field Board]－[CC IE Field ユーティリティ]を選択し、CC IE Field ユーティリティを起動します。



- ② CC IE Field ユーティリティ画面が表示されます。
[プロジェクト]－[プロジェクトの新規作成]を選択してください。



- ③ 下記のように設定し、**設定終了** をクリックしてください。

ネットワーク種別 : CC IE Field (マスタ局)
 チャンネルNo. : 181
 ネットワークNo. : 1
 総 (子) 局数 : 1
 モード : オンライン (標準モード)

- ④ [オンライン]－[ボード書込]を選択し、プロジェクトのパラメータ設定をボードに書き込みます。

(次のページへ)

(前ページより)



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ：他局（単一ネットワーク）



- ⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q13UDH
 ネットワークNo. : 1
 局番 : 1
 マルチCPU号機 : 指定なし



- ⑥ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。

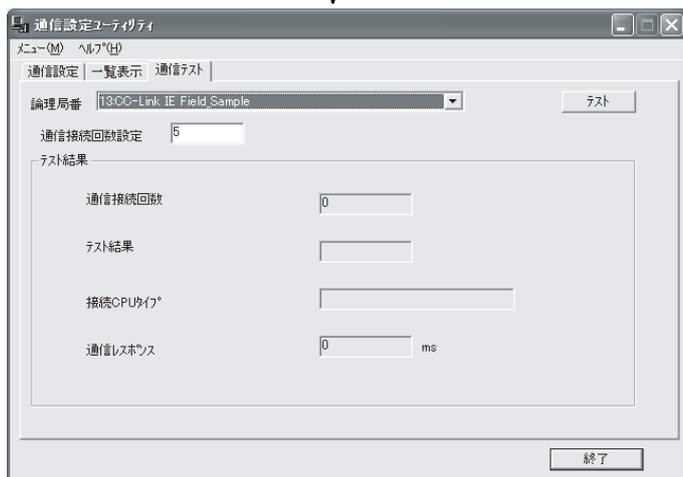
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

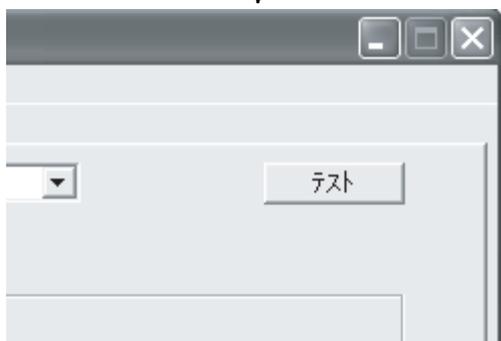
(3)で設定した論理局番を使用し、CC-Link IEフィールドネットワーク通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“13”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“13”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

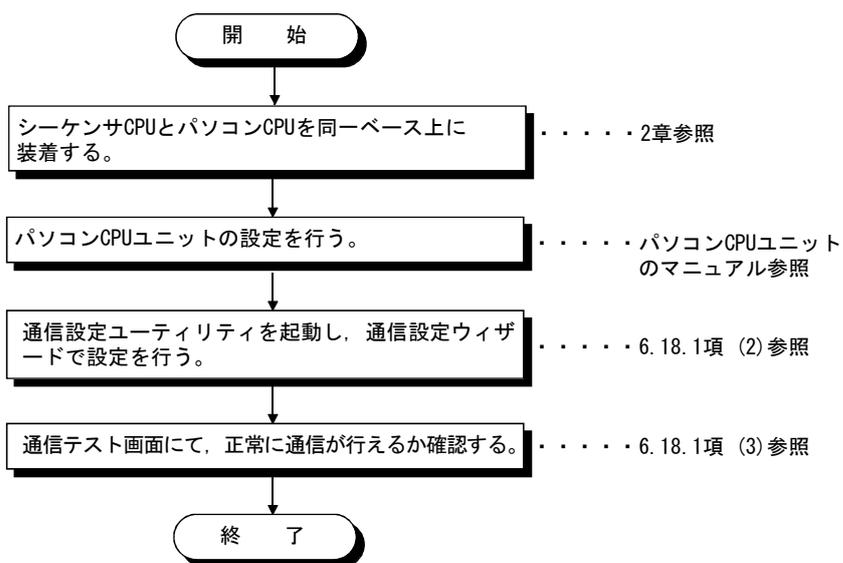
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.18 Qシリーズバス通信

ユーティリティ設定タイプで、Qシリーズバス通信を行う手順、および設定例について説明します。

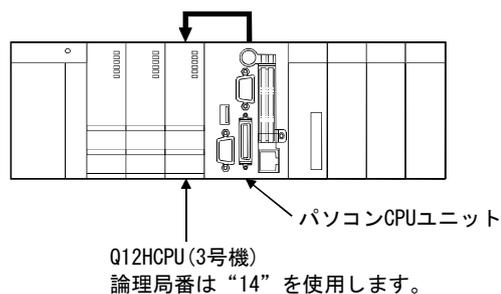
6.18.1 アクセスまでの手順

Qシリーズバス通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“14”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。

③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。



パソコン側I/F: Qシリーズ バス

④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。



CPUタイプ : Q12H
マルチCPU号機 : 3号機

(次のページへ)

(前ページより)

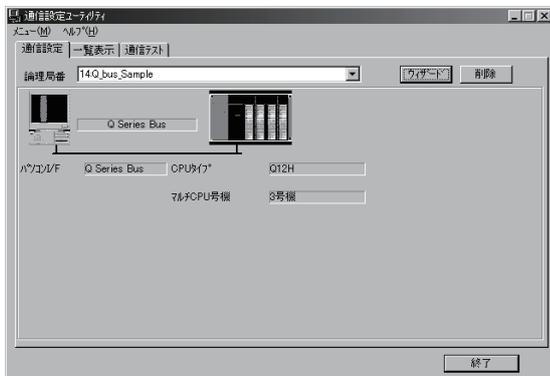


(登録完了)

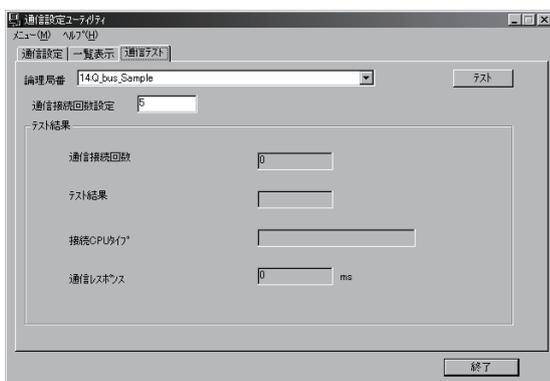
- ⑤ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

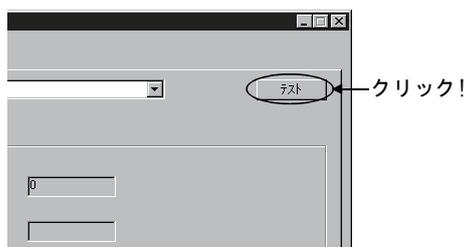
(2) で設定した論理局番を使用し、Qシリーズバス通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“14”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“14”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。ユーザプログラムの作成およびシーケンサモータユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.19 モデム通信

ユーティリティ設定タイプで、モデム通信を行う手順、および設定例について説明します。

ポイント
MX Componentにおいて初めてモデム通信を行う場合、GX Developerにて正常にモデム通信が行えるか確認してからMX Componentでモデム通信を行ってください。 上記確認を行うことにより、モデム通信が行えない場合の原因を容易に発見できます。

6.19.1 A6TEL, Q6TEL, QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24のスイッチ設定

MX Componentを使用する際の各ユニットのスイッチ設定について説明します。
MX Component側の設定はユニット側の設定に合わせます。

(1) A6TEL

スイッチ	設定内容	
ディップスイッチ	スイッチNo.	設 定
	1	OFF (電話回線接続モード)
	2	OFF (報知処理実行モード)
	3	OFF (遠隔アクセス許可モード)
	4	OFF

(2) Q6TEL

スイッチ	設定内容			
	Aモード		QnAモード	
A/QnA切換スイッチ	A (Aモード)		QnA (QnAモード)	
MODEM/PRG切換スイッチ	MODEM (遠隔アクセス) 状態		MODEM (遠隔アクセス) 状態	
ディップスイッチ	スイッチNo.	設 定	スイッチNo.	設 定
	1	OFF (電話回線接続モード)	1	OFF (電話回線接続モード)
	2	OFF (報知処理実行モード)	2	OFF
	3	OFF (遠隔アクセス許可モード)	3	OFF
	4	OFF	4	OFF

(3) QC24N

スイッチ (スイッチ番号)		設定内容
		CH1側 *1
モード設定スイッチ		5 (形式5)
局番設定スイッチ		0
伝送仕様設定 スイッチ	動作設定スイッチ (SW01)	OFF (独立動作)
	データビット設定 (SW02)	ON (8)
	パリティビットの有無設定 (SW03)	OFF (なし)
	偶数パリティ/奇数パリティの設定 (SW04)	OFF (奇数)
	ストップビット設定 (SW05)	OFF (1)
	サムチェックの有無設定 (SW06)	ON (あり)
	RUN中書込可・不可設定 (SW07)	ON (許可)
	設定変更可・不可設定 (SW08)	禁止/許可
	伝送速度設定 (SW09~SW12)	19200bps
— (SW13~SW15)	すべてOFF	

*1: モデム通信は, CH1側でのみ使用可能です。

(4) Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24 (CH1側でモデム通信を行う場合)

項 目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	
スイッチ1	CH1通信速度 *1	CH1伝送設定 *2	*1, *2
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0005h
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	ユーザ任意
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	ユーザ任意
スイッチ5	ユニット局番		0000h(ユーザ任意)

*1: モデムの仕様に合わせて設定を行ってください。

*2: CH1の伝送設定内容を以下に示します。

伝送設定	設定内容
動作設定	独立
データビット	8
パリティビット	なし
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可
設定変更	禁止/許可

(5) Qシリーズ対応CMO

項 目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	
スイッチ1	回線選択	CH1伝送設定 *1	*2
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0005 _H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定	ユーザ任意
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	ユーザ任意
スイッチ5	ユニット局番		0000 _H (ユーザ任意)

*1：CH1の伝送設定内容を以下に示します。

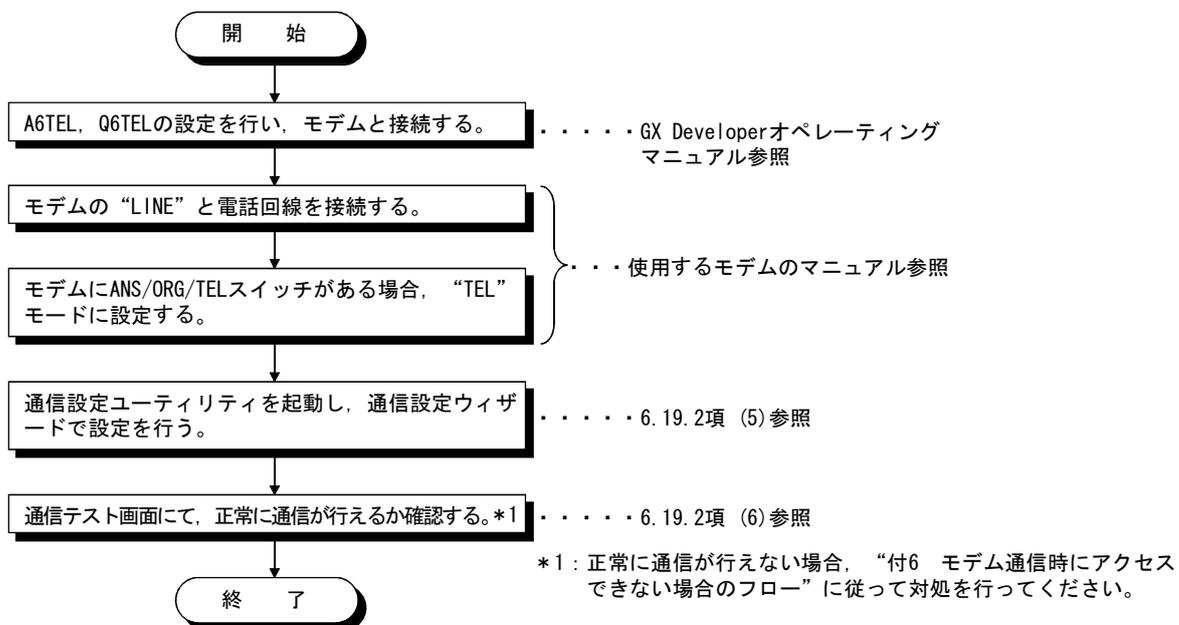
*2：回線選択およびCH1伝送設定の設定内容を確認し，設定値を入力してください。

伝送設定	設定内容
データビット	8
パリティビット	なし
奇数/偶数パリティ	奇数
ストップビット	1
サムチェックコード	あり
RUN中書込	許可

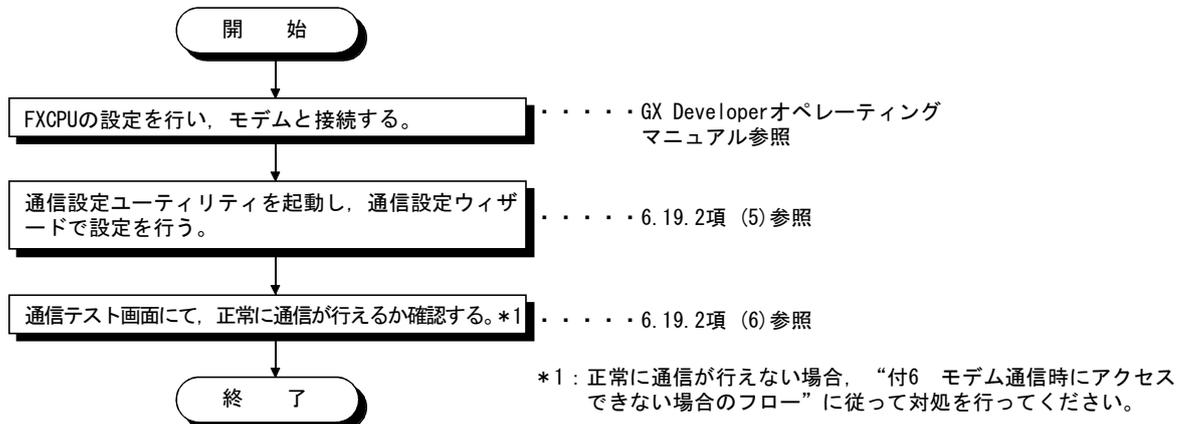
6.19.2 アクセスまでの手順

モデム通信を使用してシーケンサCPUにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。

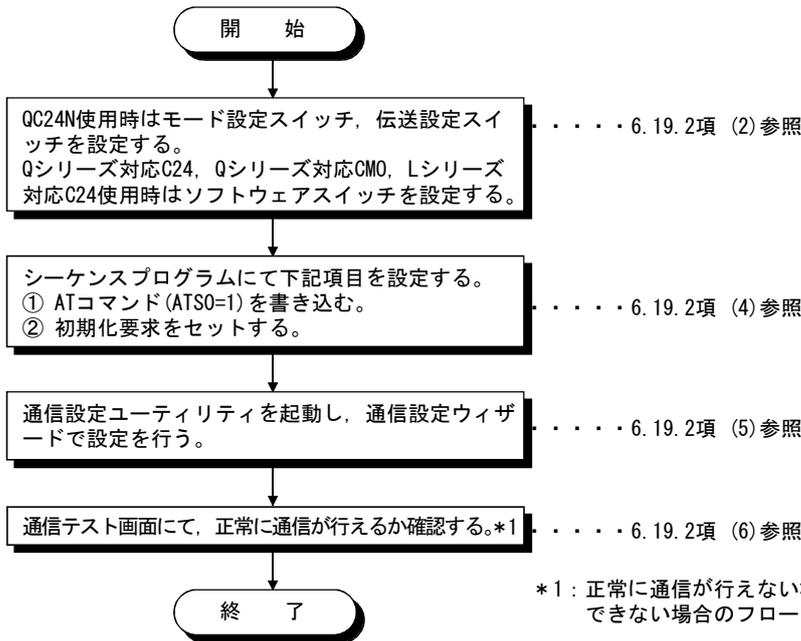
<A6TEL, Q6TEL使用時>



<FXCPU使用時>

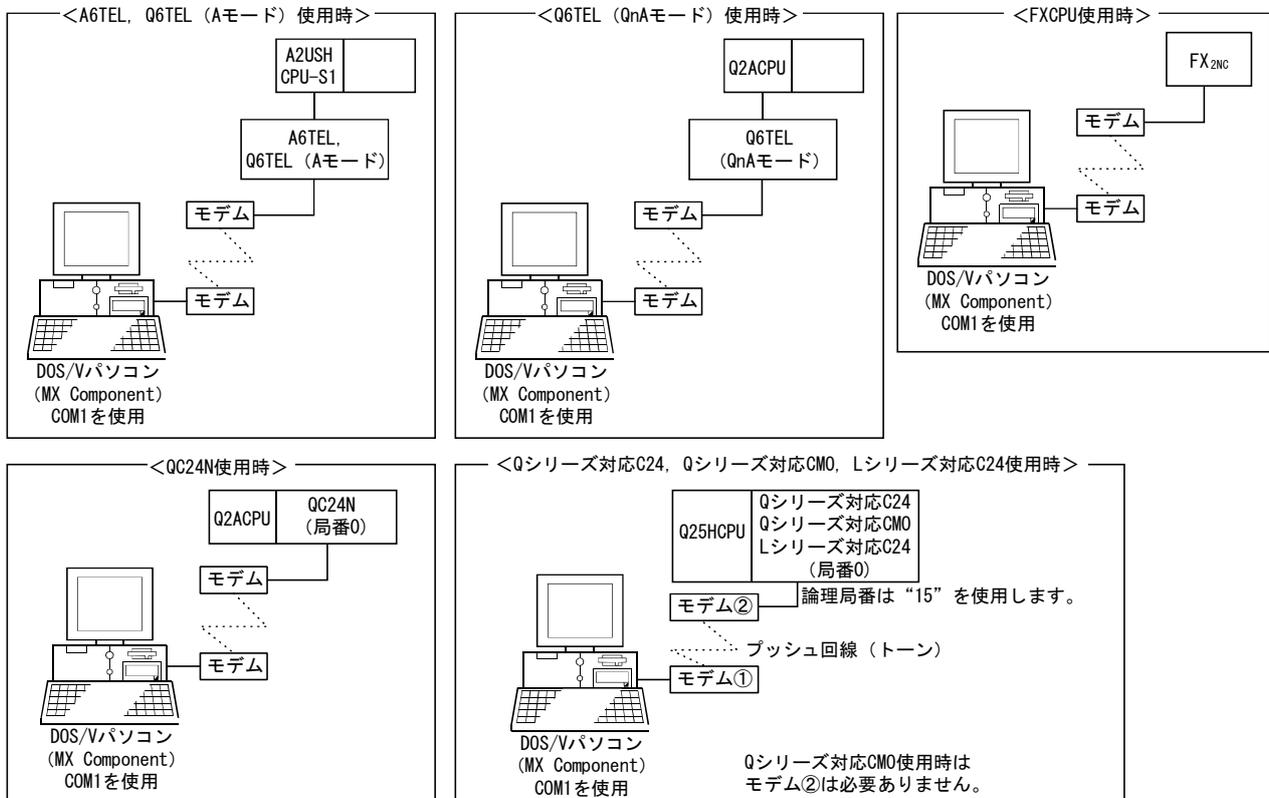


<QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24使用時>



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) A6TEL, Q6TEL, QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24のスイッチ設定を行う

(a) A6TEL, Q6TEL

本項でのA6TELおよびQ6TELのスイッチ設定例は，“6.19.1項 A6TEL, Q6TEL, QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24”と同様です。

詳細については，“6.19.1項 A6TEL, Q6TEL, QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24”を参照してください。

(b) QC24N

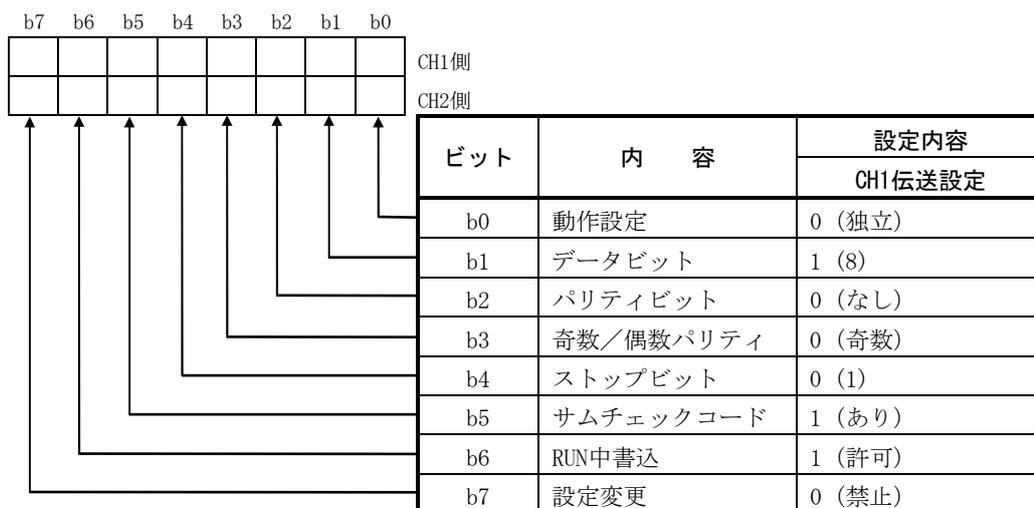
スイッチ (スイッチ番号)		設定内容											
		CH1側*1											
モード設定スイッチ		5 (形式5)											
局番設定スイッチ		0											
伝送仕様設定 スイッチ	動作設定スイッチ (SW01)	OFF (独立動作)											
	データビット設定 (SW02)	ON (8)											
	パリティビットの有無設定 (SW03)	OFF (なし)											
	偶数パリティ/奇数パリティの設定 (SW04)	OFF (奇数)											
	ストップビット設定 (SW05)	OFF (1ビット)											
	サムチェックの有無設定 (SW06)	ON (あり)											
	RUN中書込可・不可設定 (SW07)	ON (許可)											
	設定変更可・不可設定 (SW08)	OFF (禁止)											
	伝送速度設定 (SW09~SW12)	19200bps <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th>S W</th> <th>設 定</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>SW09</td> <td>OFF</td> </tr> <tr> <td>SW10</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW11</td> <td>ON</td> </tr> <tr> <td>SW12</td> <td>OFF</td> </tr> </tbody> </table>		S W	設 定	SW09	OFF	SW10	ON	SW11	ON	SW12	OFF
	S W	設 定											
SW09	OFF												
SW10	ON												
SW11	ON												
SW12	OFF												
— (SW13~SW15)	すべてOFF												

*1: モデム通信は, CH1側でのみ使用可能です。

(c) Qシリーズ対応C24, Lシリーズ対応C24 (CH1側でモデム通信を行う場合)

項目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	
スイッチ1	CH1通信速度	CH1伝送設定 *1	0762H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0005H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定 *1	0000H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H

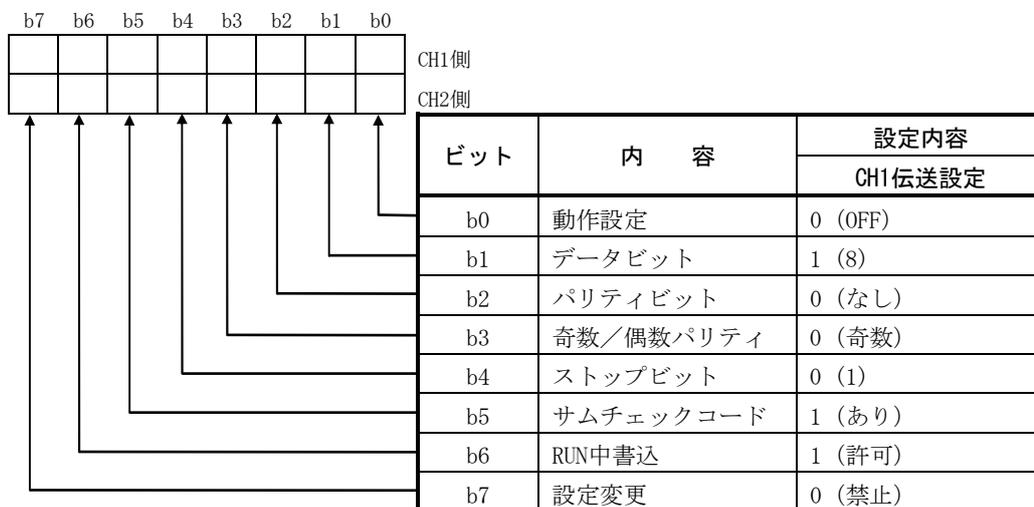
*1 : CH1の設定内容を以下に示します。



(d) Qシリーズ対応CM0

項目	設定内容		設定値
	b15 ~ b8	b7 ~ b0	
スイッチ1	回線選択	CH1伝送設定 *1	0062H
スイッチ2	—	CH1交信プロトコル	0005H
スイッチ3	CH2通信速度	CH2伝送設定 *1	0000H
スイッチ4	—	CH2交信プロトコル	0000H
スイッチ5	ユニット局番		0000H

*1 : CH1の設定内容を以下に示します。



(3) A6TELデータ, Q6TELデータの設定を行う

A6TELおよびQ6TELを使用するためには, A6TELデータおよびQ6TELデータの設定を行う必要があります。

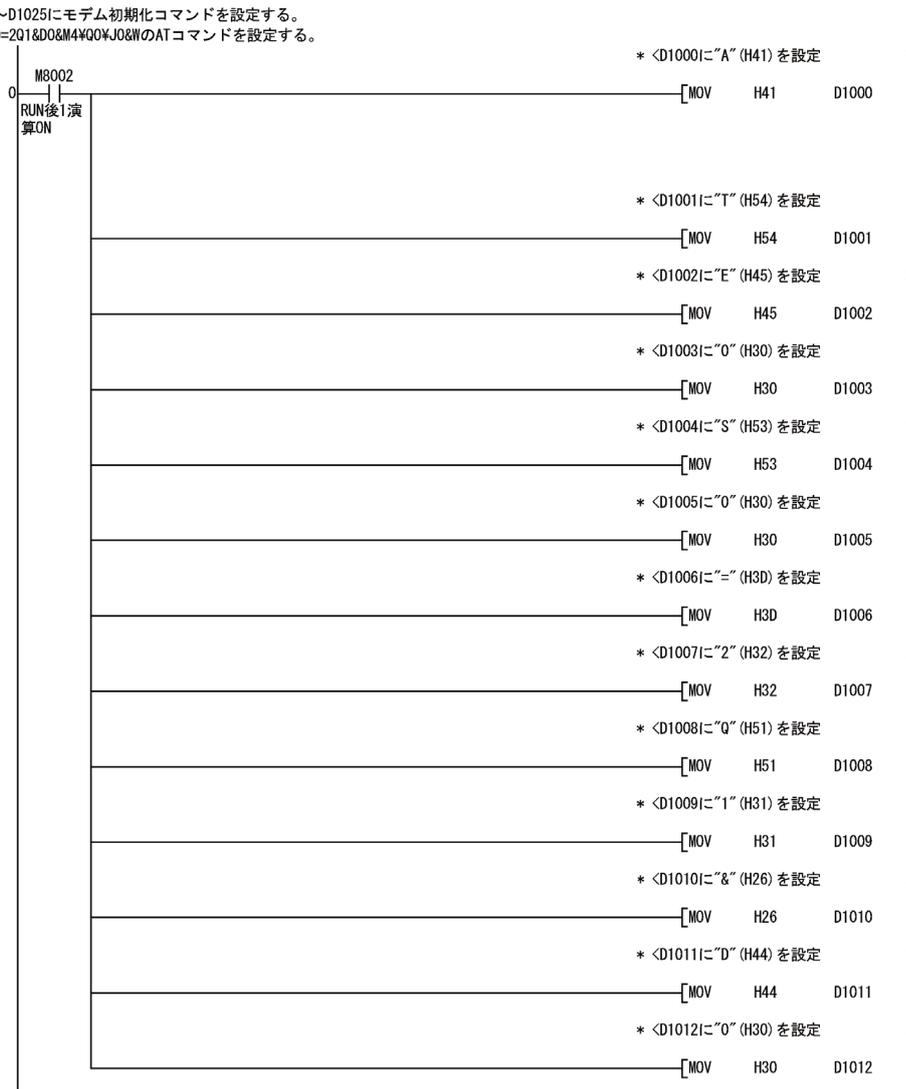
設定内容および設定方法については, GX Developer オペレーティングマニュアルを参照してください。

(4) FXCPU, QC24N, Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CMO, Lシリーズ対応C24とモデムとの接続を行う

(a) FXCPU

FXCPUを使用する場合, シーケンスプログラムが必要となります。

- * D1000~D1025にモデム初期化コマンドを設定する。
- * ATEOS0=2Q1&D0&M4*Q0*JO&WのATコマンドを設定する。



↓
(次のページへ)

ポイント
 本サンプルシーケンスプログラムは, MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。
 [ユーザー指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [Fxcputel]

(b) QC24N

QC24Nを使用する場合、下記バッファメモリを設定するためのシーケンスプログラムが必要となります。

設定必要なバッファメモリとシーケンスプログラムを以下に示します。

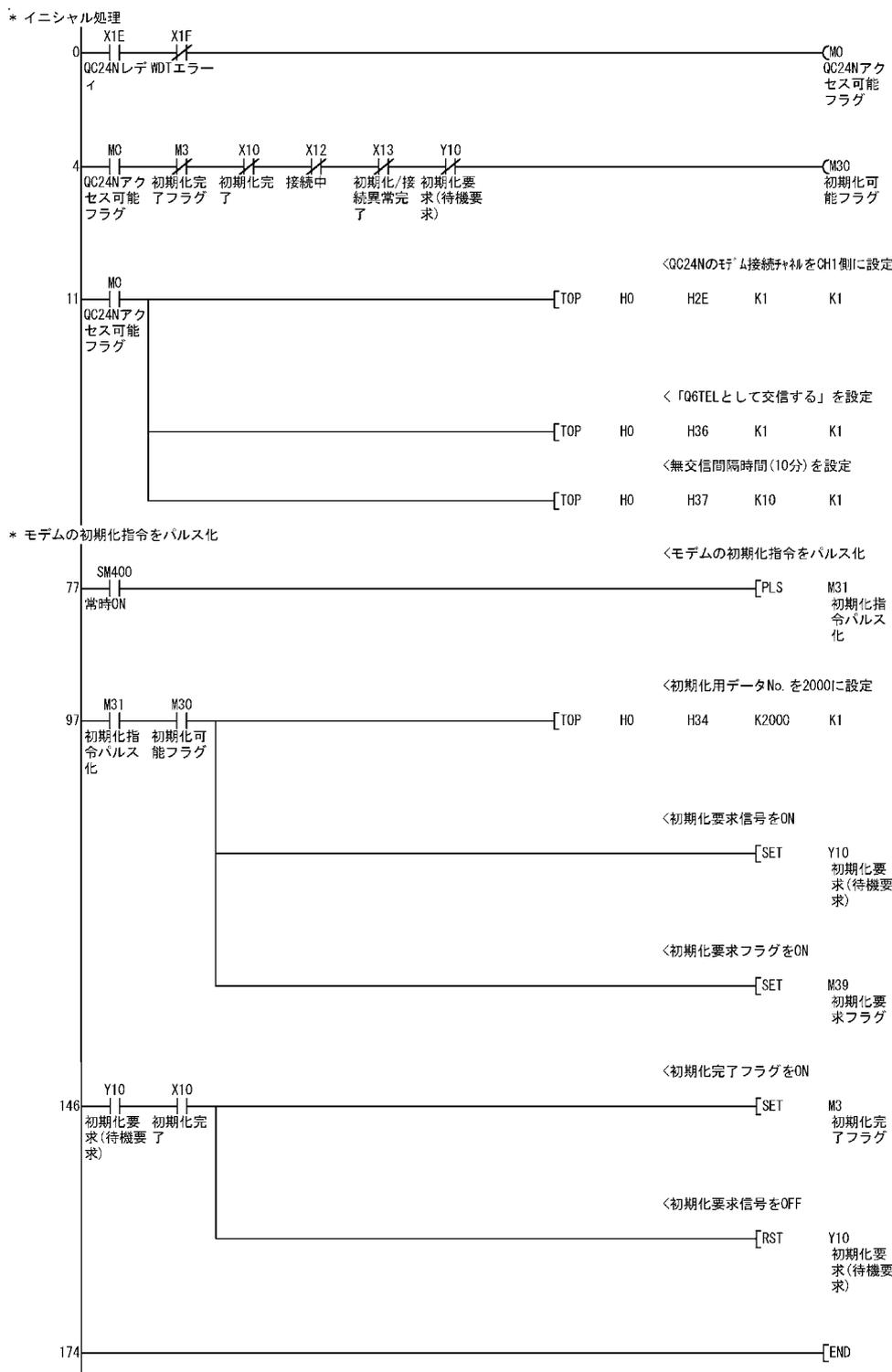
設定項目 (バッファメモリアドレス)	設定内容	サンプルシーケンスプログラム内での設定
モデム接続チャンネル指定 (2Eh)	0 : 接続しない (モデム機能を使用しない) 1 : CH1側インタフェース 2 : CH2側インタフェース	1 (CH1)
初期化用データNo. 指定 (34h) *1	0h : 送信用ユーザ登録フレーム指定エリアで指定の初期化データ送信 7D0h~7D4h : 初期化用データNo.	2000 (No. 2000)
Q6TEL接続指定 (36h)	0 : Q6TELとして交信しない 1 : Q6TELとして交信する	1 (Q6TELとして交信する)
無交信間隔時間指定 (37h)	0 : 無限待ち 1~120 : 無交信間隔時間 (回線切断待ち時間)	10 (10分)

*1 : QC24Nには出荷時に、以下に示す初期化用データが登録されています

使用するモデムが初期化用データ (7D0h~7D4h) に該当する場合、下記登録No. を指定してください。

初期化用データが登録されていないモデムを使用する場合、ATコマンドをQC24NのE²PROMまたはバッファメモリアドレス (1B00h) に登録してください。

登録No.		初期化コマンド	該当機器	
16進数	10進数		メーカー	形名
7D0H	2000	ATQ0V1E1X1¥J0¥Q2¥V2¥N3S0=1	アイワ株式会社	PV-AF2881WW PV-BF288M2
7D1H	2001	ATQ0V1E1X1¥Q2¥V2¥N3S0=1	株式会社マイクロ総合研究所	MC288XE MC288X1
7D2H	2002	ATQ0V1E1X1&K3¥N3S0=1	マイクロコム株式会社	DESKPORTE2. 8S DESKPORTE33. 6S
7D3H	2003	ATQ0V1E1X1&H1&R2&A3&D2S0=1	オムロン株式会社	ME3314B
7D4H	2004	ATQ0V1E1X1¥J0¥Q2¥N3S0=1	サン電子株式会社	MS336AF



ポイント

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。

[ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [AJ71QC24NTEL]

(c) Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0, Lシリーズ対応C24

Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0およびLシリーズ対応C24を使用する場合, 下記バッファメモリを設定するためのシーケンスプログラムが必要となります。

設定必要なバッファメモリとシーケンスプログラムを以下に示します。

設定項目 (バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定 (2E _H) *1	0 : 接続しない (モデム機能を使用しない) 1 : CH1側インタフェース 2 : CH2側インタフェース
初期化用データNo. 指定 (34 _H) *2	0 _H : 送信用ユーザ登録フレーム指定エリアで指定の初期化データ送信 7D0 _H ~7DD _H : 初期化用データNo.
GX Developer接続指定 (36 _H)	0 : 接続しない。 1 : 接続する。
コールバック機能指定 (2001 _H)	0 _H : 自 動 1 _H : コールバック接続 (固定時) 3 _H : コールバック接続 (番号指定時) 7 _H : コールバック接続 (番号指定時 (最大10台)) 9 _H : 自動 (コールバック固定時) B _H : 自動 (コールバック番号指定時) F _H : 自動 (コールバック番号指定時 (最大10台))

*1 : Qシリーズ対応CM0使用時は, モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。

*2 : Qシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0には出荷時に, 以下に示す初期化用データが登録されています
使用するモデムが初期化用データ (7D0_H~7DA_H) に該当する場合, 下記登録No. を指定してください。

初期化用データが登録されていないモデムを使用する場合, ATコマンドをQシリーズ対応C24およびQシリーズ対応CM0のバッファメモリアドレス (1B00_H) に登録してください。

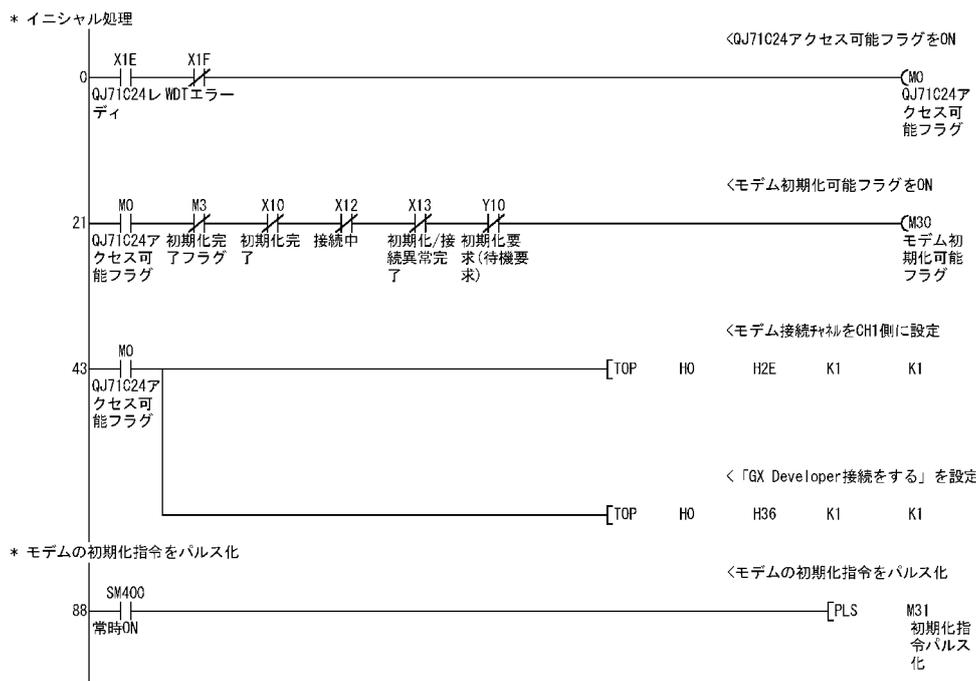
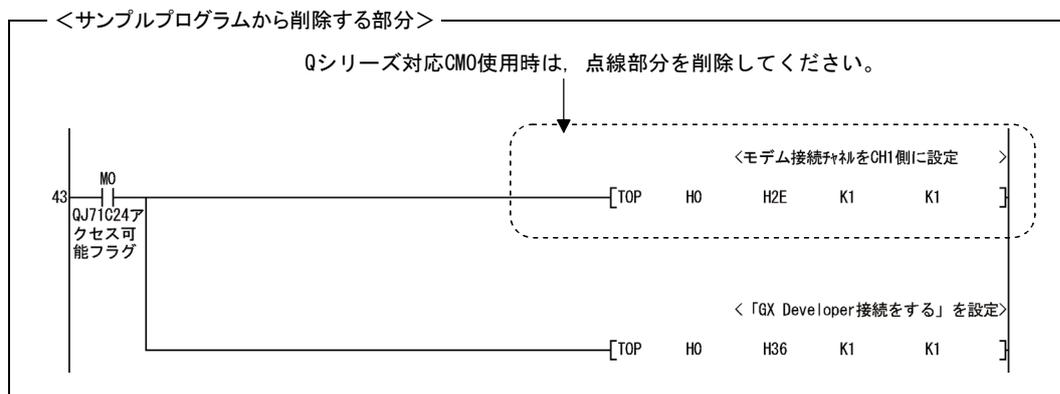
登録No.		初期化コマンド	該当機器	
16進数	10進数		メーカー	形 名
7D0H	2000	ATQ0V1E1X1¥J0¥Q2¥V2¥N3S0=1	アイワ株式会社	PV-AF2881WW PV-BF288M2
7D1H	2001	ATQ0V1E1X1¥Q2¥V2¥N3S0=1	株式会社マイクロ総合研究所	MC288XE MC288X1
7D2H	2002	ATQ0V1E1X1&K3¥N3S0=1	マイクロコム株式会社	DESKPORTE22. 8S DESKPORTE33. 6S
7D3H	2003	ATQ0V1E1X1&H1&R2&A3&D2S0=1	オムロン株式会社	ME3314B
7D4H	2004	ATQ0V1E1X1¥J0¥Q2¥N3S0=1	サン電子株式会社	MS336AF
7D5H	2005	ATE1Q0V1&C1&D2&H1&I0&R2&S0S0=1	オムロン株式会社	ME5614B
7D6H	2006	ATE1Q0V1&C1&D2&K3&S0S0=1	サン電子株式会社	MS56KAF
			株式会社マイクロ総合研究所	MRV56XL
			パナソニックモバイル	VS-2621A
7D7H	2007	ATE1Q0V1&C1&D2&K3&S1S0=1	コミュニケーションズ株式会社	VC-173
7D8H	2008	ATE1Q0V1&C1&D2&K3&S0S0=1	オムロン株式会社	MT128B II-D
7D9H	2009	ATE1Q0V1&C1&D1¥Q2&S0S0=1	サン電子株式会社	TS128JX II
7DAH	2010	ATE1Q0V1&C1&D2¥Q3&S0S0=1	シャープ株式会社	DN-TA1
7DCH	2012	AT&S0S0=1	* 動作確認用に使用してください。 汎用 動作しない場合は, ユーザでモデム仕様に合わせた初期化コマンドを作成してください。	
7DDH	2013	ATX1&S0S0=1		

① コールバック機能を使用しない場合

設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容	設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2E _H) *1	1(CH1)	GX Developer接続指定(36 _H)	1(接続する)
初期化用データNo. 指定(34 _H)	2006(No. 2006)	コールバック機能指定(2001 _H)	—

*1: Qシリーズ対応CMO使用時は、モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。

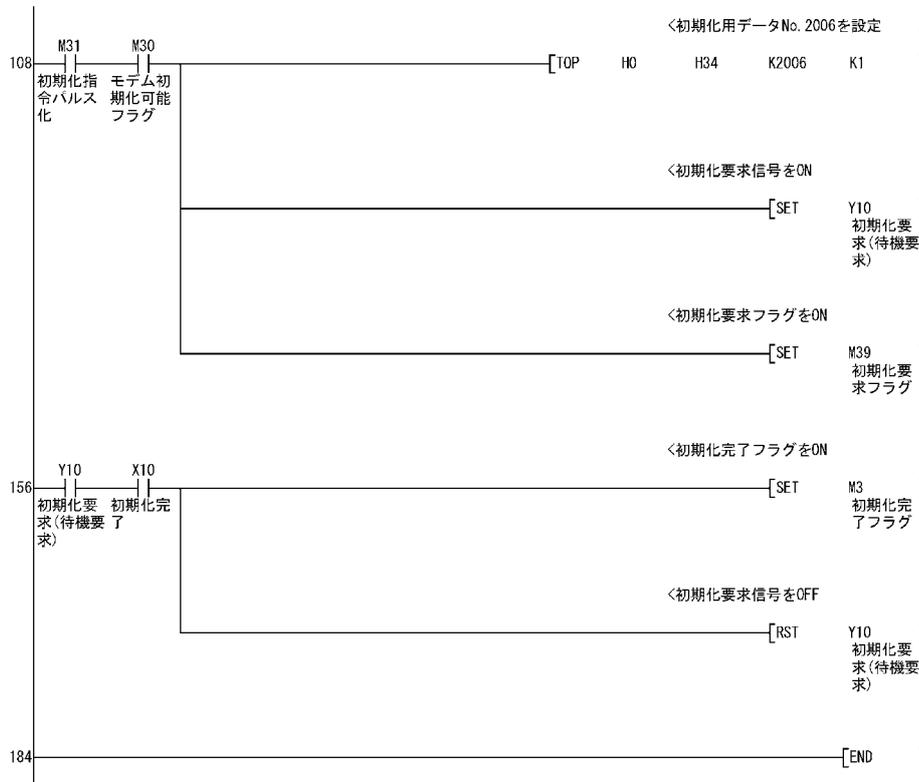
サンプルプログラムを使用する場合、以下に示す部分を削除してください。



↓
(次のページへ)

ポイント
本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。 [ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [QJ71C24TEL]

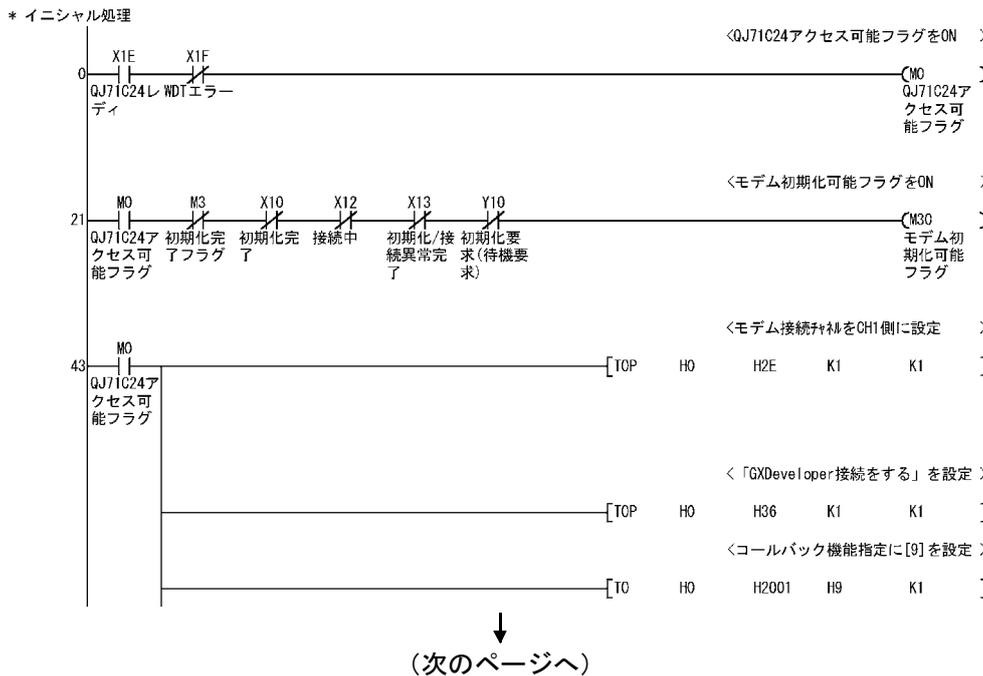
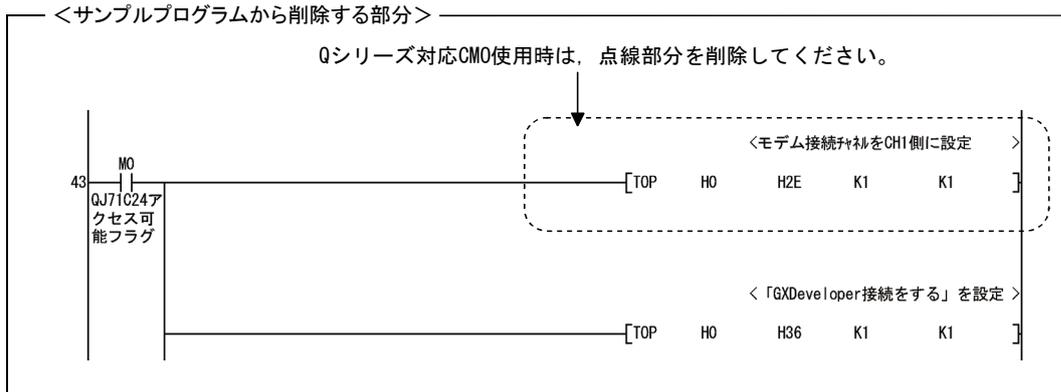
(前ページより)



② コールバック機能に“自動（コールバック固定時）”を使用する場合

設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容	設定項目 (バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2E _H) *1	1 (CH1)	GX Developer接続指定(36 _H)	1 (接続する)
初期化用データNo. 指定(34 _H)	2012 (No. 2012)	コールバック機能指定(2001 _H)	9 _H (自動 (コールバック固定時))

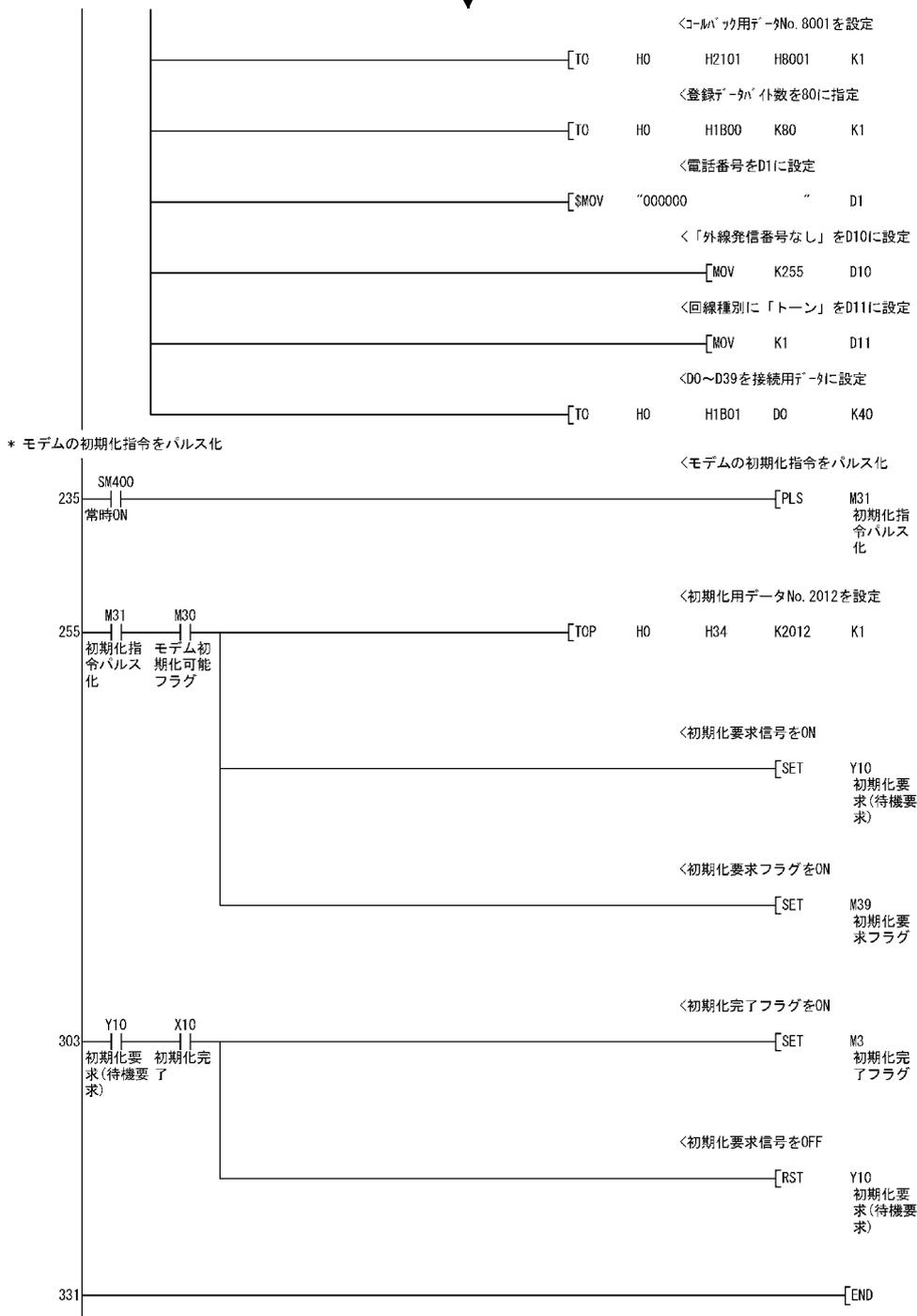
*1 : Qシリーズ対応CMO使用時は、モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。
 サンプルプログラムを使用する場合、以下に示す部分を削除して使用してください。



ポイント

本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。
 [ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [QJ71C24Callback]

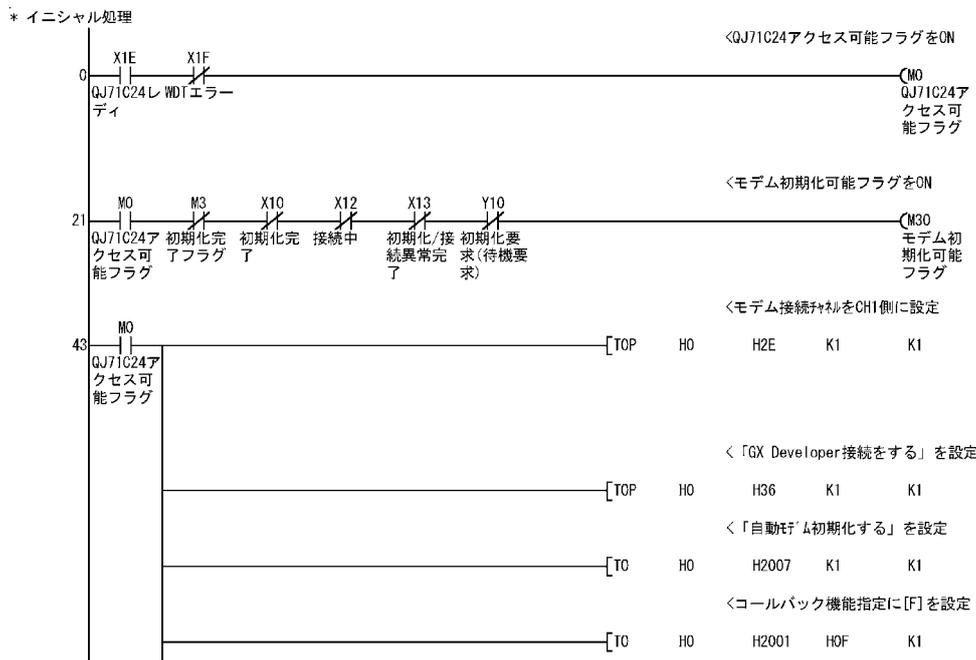
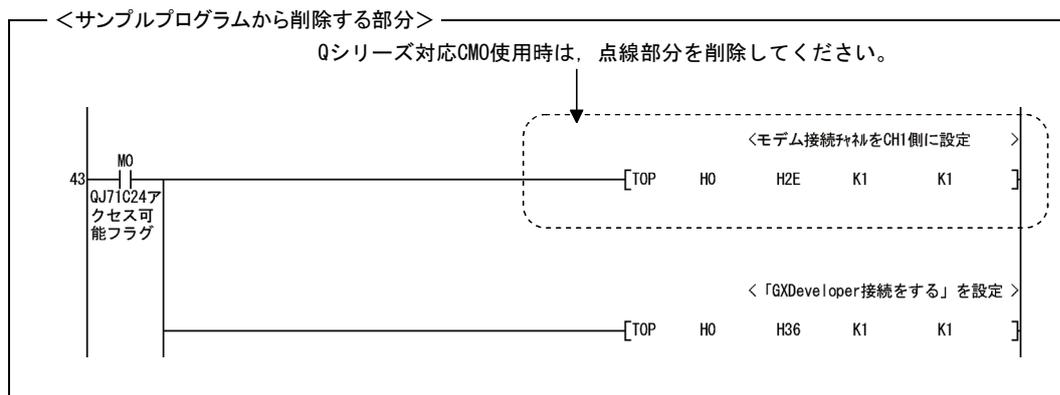
(前ページより)



③ コールバック機能に“自動（コールバック番号指定時（最大10台））”を使用する場合

設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容	設定項目(バッファメモリアドレス)	設定内容
モデム接続チャンネル指定(2Eh) *1	1(CH1)	GX Developer接続指定(36h)	1(接続する)
初期化用データNo. 指定(34h)	2012(No. 2012)	コールバック機能指定(2001h)	Fh(自動(コールバック番号指定時(最大10台)))

*1: Qシリーズ対応CMO使用時は、モデム接続チャンネル指定を設定する必要はありません。
 サンプルプログラムを使用する場合、以下に示す部分を削除してください。



(次のページへ)

ポイント
 本サンプルシーケンスプログラムは、MX Componentのインストール後に下記フォルダにインストールされます。
 [ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [Gppw] - [QJ71C24Callback_Number]

(前ページより)

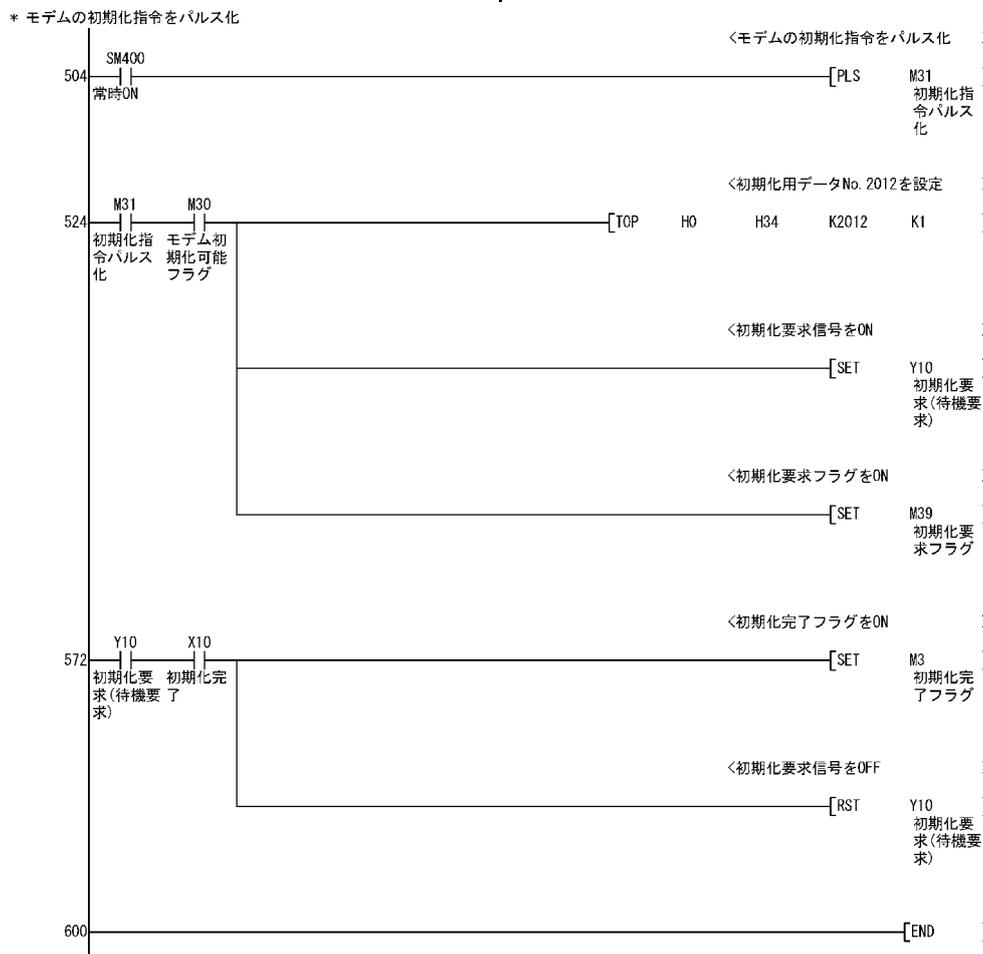


				<コールバック用ダイヤルNo. 8001を設定>	
[TO	HO	H2101	H8001	K1]
				<コールバック用ダイヤルNo. 8002を設定>	
[TO	HO	H2102	H8002	K1]
				<コールバック用ダイヤルNo. 8003を設定>	
[TO	HO	H2103	H8003	K1]
				<登録ダイヤル件数を801に指定>	
[TO	HO	H1B00	K80	K1]
				<電話番号をD11に設定>	
[\$MOV	"1			D1]
				<「外線発信番号なし」をD10に設定>	
[MOV	K255			D10]
				<回線種別に「トーン」をD11に設定>	
[MOV	K1			D11]
				<D0~D39の値を接続ダイヤルに設定>	
[TO	HO	H1B01	D0	K40]
				<登録ダイヤル件数を801に指定>	
[TO	HO	H1B29	K80	K1]
				<電話番号をD11に設定>	
[\$MOV	"2			D1]
				<「外線発信番号なし」をD10に設定>	
[MOV	K255			D10]
				<回線種別に「トーン」をD11に設定>	
[MOV	K1			D11]
				<D0~D39の値を接続ダイヤルに設定>	
[TO	HO	H1B2A	D0	K40]
				<登録ダイヤル件数を801に指定>	
[TO	HO	H1B52	K80	K1]
				<電話番号をD11に設定>	
[\$MOV	"3			D1]
				<「外線発信番号なし」をD10に設定>	
[MOV	K255			D10]
				<回線種別に「トーン」をD11に設定>	
[MOV	K1			D11]
				<D0~D39の値を接続ダイヤルに設定>	
[TO	HO	H1B53	D0	K40]



(次のページへ)

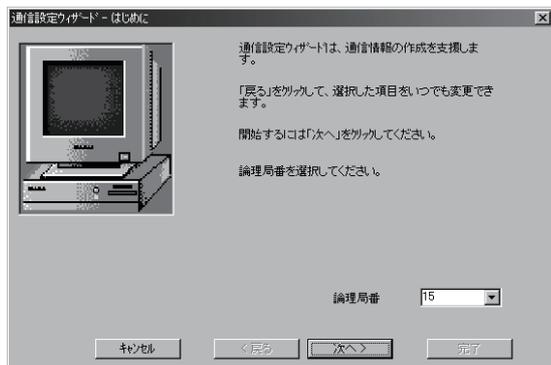
(前ページより)



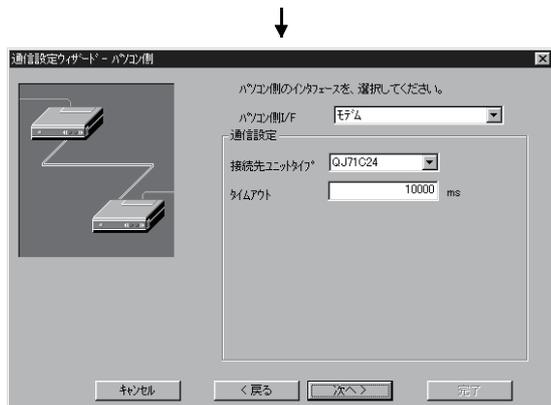
(5) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

Qシリーズ対応C24のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



- ② 論理局番に、“15”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

パソコン側I/F : モデム
 接続先ユニットタイプ : QJ71C24
 タイムアウト : 10000



- ④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

回線種別 : トーン
 外線発信番号 : なし
 ポート : COM1
 電話番号 : *****
 (シーケンサ側の電話番号を入力してください。)
 ATコマンド : モデム標準

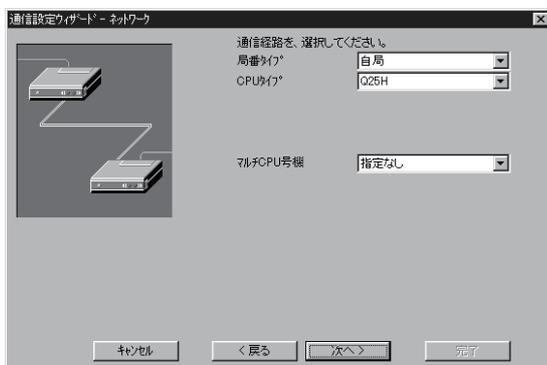
(次のページへ)

(前ページより)



⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

シーケンサ側I/F : モデム
 ユニットタイプ : QJ71C24
 局番 : 0
 伝送速度 : 19200



⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 自局
 CPUタイプ : Q25H
 マルチCPU号機 : 指定なし



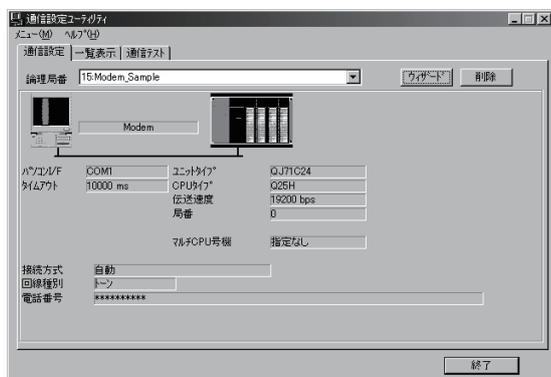
⑦ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



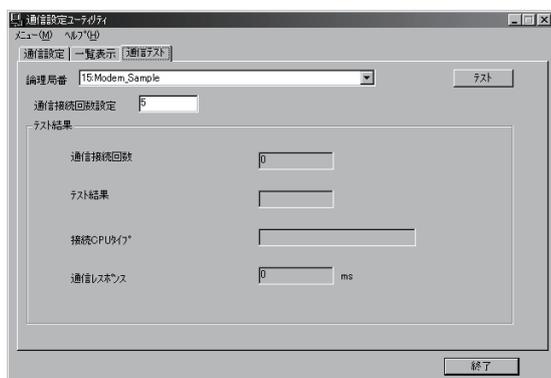
(登録完了)

(6) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

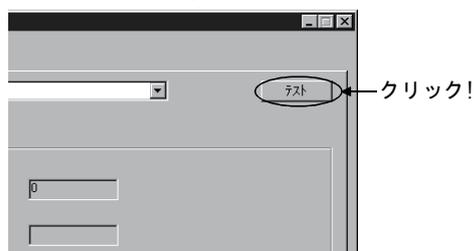
(5) で設定した論理局番を使用し、モデム通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“15”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“15”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。(正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。)
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

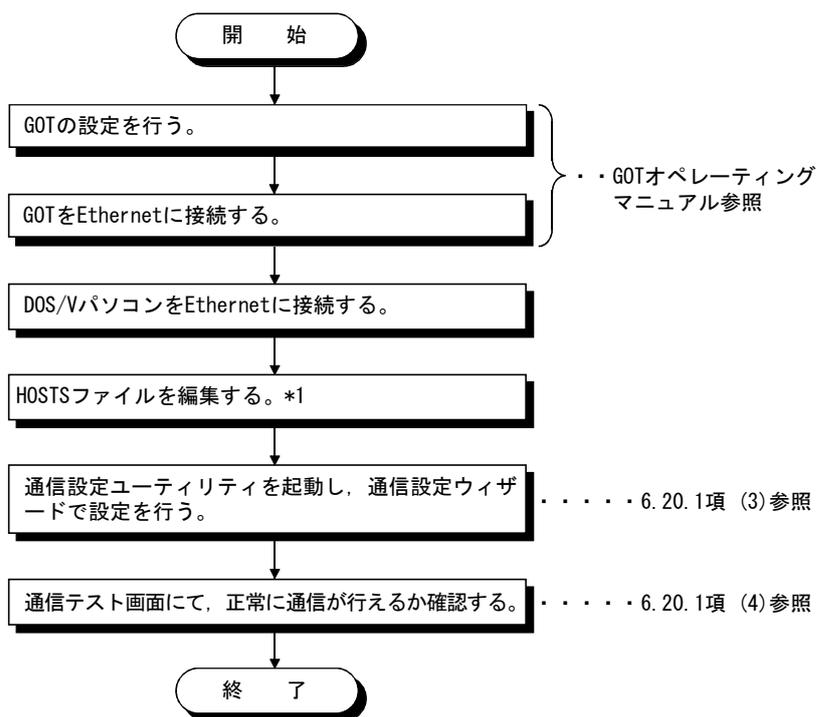
- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

6.20 ゲートウェイ機能通信

ユーティリティ設定タイプで、ゲートウェイ機能通信を行う手順、および設定例について説明します。

6.20.1 アクセスまでの手順

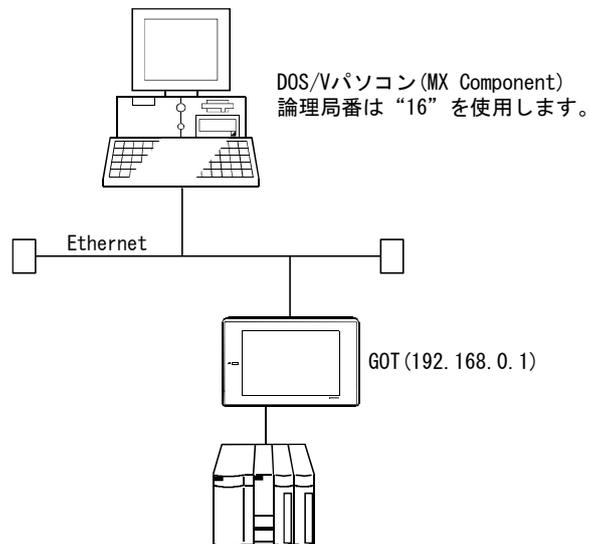
ゲートウェイ機能通信を使用してGOTにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



*1：通信設定ユーティリティのホスト名（IPアドレス）およびゲートウェイ機能通信制御のActHostAddressプロパティにIPアドレスを入力する場合は、HOSTSファイルを編集する必要はありません。

(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) 交信確認を行う

ゲートウェイ機能通信を行うための準備が完了したら、MX Componentで交信を行う前にMS-DOSモードでpingを実行して接続を確認してください。

正常時の場合

```
C:¥>ping 192.168.0.1
```

```
Reply from 192.168.0.1:bytes=32 time<10ms TTL=32
```

異常時の場合

```
C:¥>ping 192.168.0.1
```

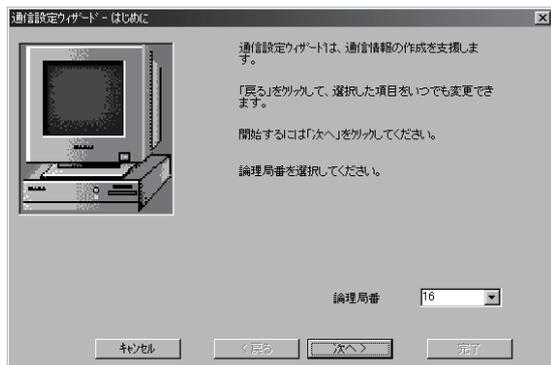
```
Request timed out.
```

pingが通らない場合は、ケーブルおよびGOTの設定や、Windows®側のIPアドレスなどの設定をチェックしてください。

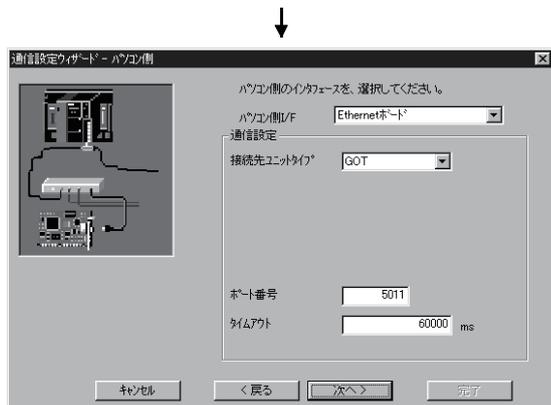
(3) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

- ① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。

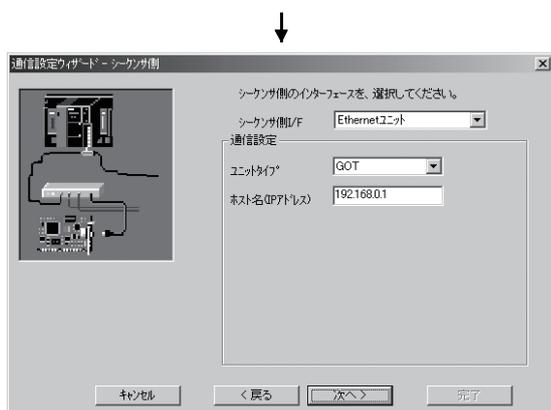


- ② 論理局番に、“16”を入力して、「次へ >」をクリックしてください。



- ③ 下記のように設定を行って、「次へ >」をクリックしてください。

パソコン側I/F	: Ethernetボード
接続先ユニットタイプ	: GOT
ポート番号	: 5011
タイムアウト	: 60000



- ④ 下記のように設定を行って、「次へ >」をクリックしてください。

シーケンサ側I/F	: Ethernetユニット
ユニットタイプ	: GOT
ホスト名 (IPアドレス)	: 192.168.0.1

(次のページへ)

(前ページより)



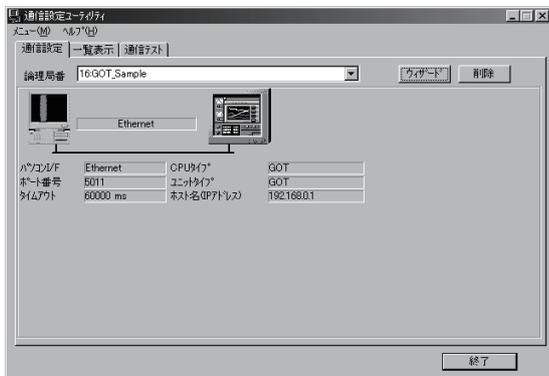
⑤ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



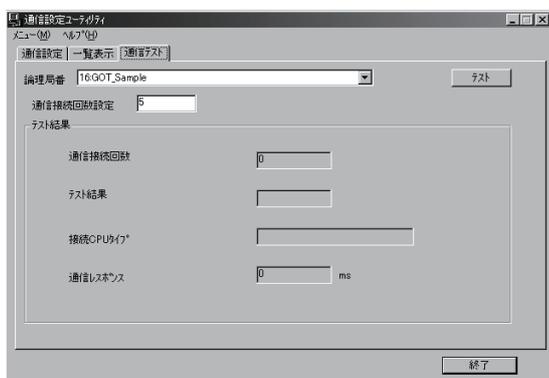
(登録完了)

(4) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

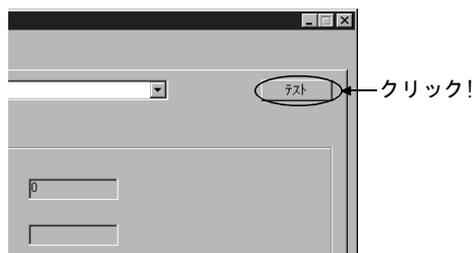
(3)で設定した論理局番を使用し、ゲートウェイ機能通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し、論理局番“16”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し、論理局番“16”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は、エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は、テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は、プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

- ④ 以上の設定で、論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し、デバイスデータの収集を行ってください。

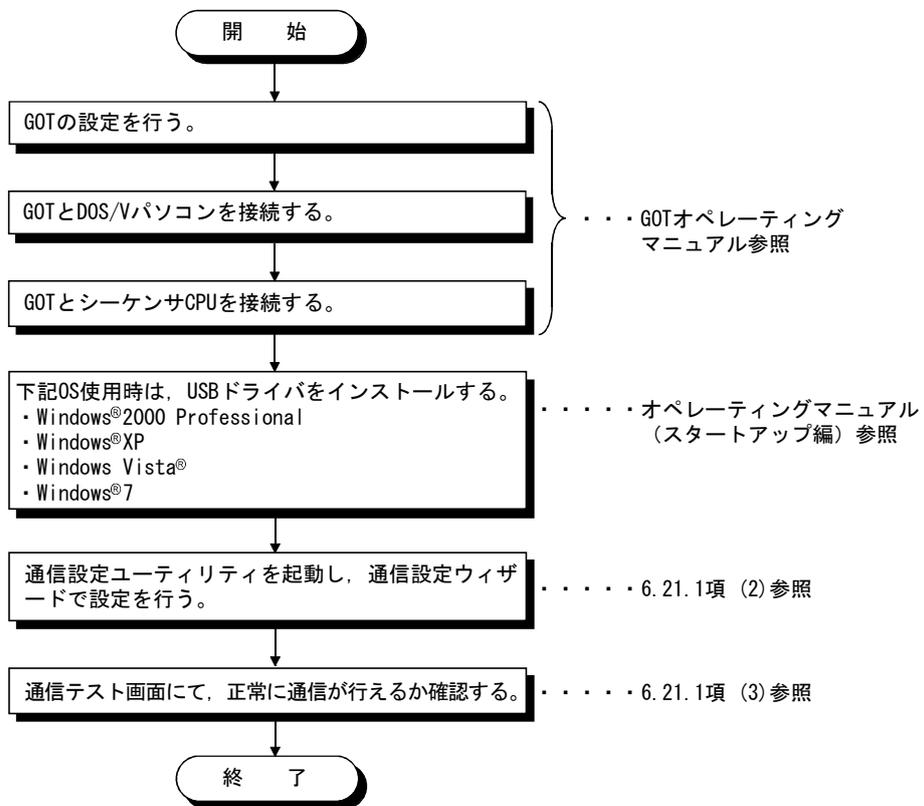
6.21 GOTトランスペアレント通信

ユーティリティ設定タイプで、GOTトランスペアレント通信を行う手順、および設定例について説明します。

ポイント
使用可能なシステム構成は、GOT1000シリーズ接続マニュアルを参照してください。

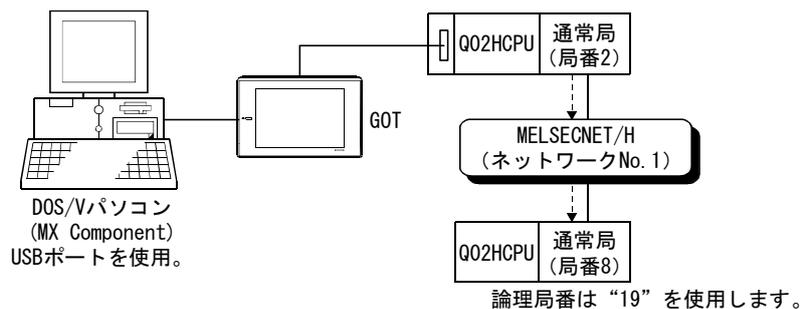
6.21.1 アクセスまでの手順

GOTのトランスペアレント機能を使用してGOTにアクセスするまでの手順を、下図の順序で説明します。



(1) システム例

本項で使用するシステム例を以下に示します。



(2) 論理局番を設定する（通信設定ウィザードの設定）

(1) のシステム例を使用し、論理局番の設定について説明します。

① 通信設定ユーティリティを起動し、通信設定ウィザードを選択します。



② 論理局番に、“19”を入力して、**次へ >** をクリックしてください。

③ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。



パソコン側I/F : USB (GOT経由)
タイムアウト : 10000

④ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。



GOT-シーケンサI/F : シリアル
接続先ユニットタイプ : CPUユニット

(次のページへ)

(前ページより)



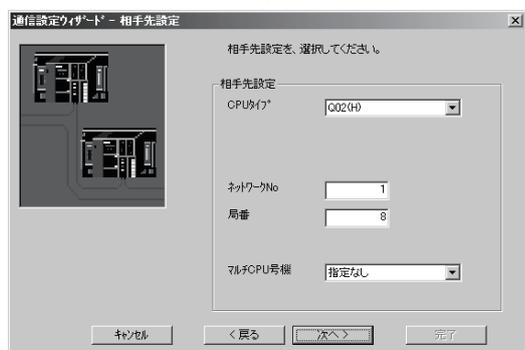
⑤ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

シーケンサ側I/F : CPUユニット
CPUタイプ : Q02 (H)



⑥ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

局番タイプ : 他局
通信経路 : MELSECNET/10 (H)
モード : MELSECNET/H



⑦ 下記のように設定を行って、**次へ >** をクリックしてください。

CPUタイプ : Q02 (H)
ネットワークNo : 1
局番 : 8
マルチCPU号機 : 指定なし



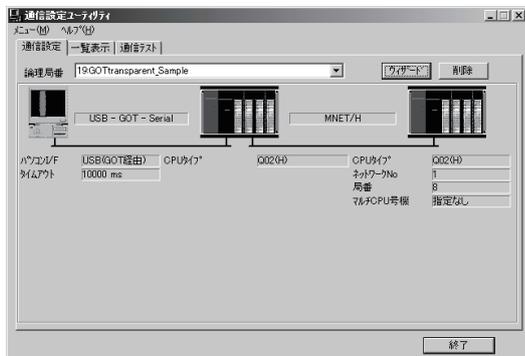
⑧ コメントを入力して、**完了** をクリックしてください。



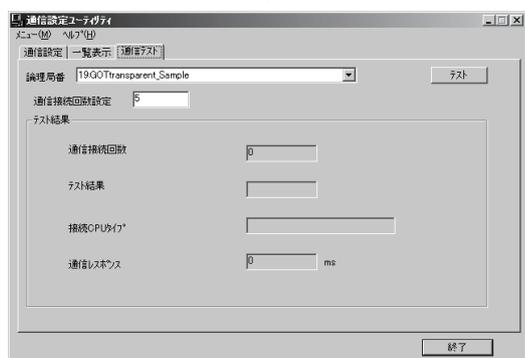
(登録完了)

(3) 論理局番の設定内容を確認する（通信テストを行う）

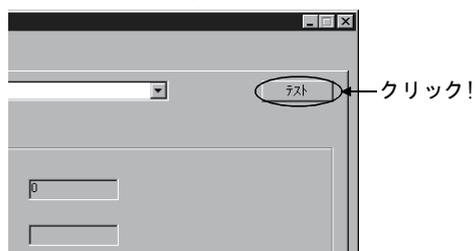
(2) で設定した論理局番を使用し，GOTトランスペアレント通信の設定が正しいか確認を行います。



- ① 通信設定画面を表示し，論理局番“19”を選択します。
論理局番の設定内容が正しいかどうか確認してください。



- ② 通信テスト画面を表示し，論理局番“19”を設定してください。



- ③ **テスト** をクリックして通信が正常に行われていることを確認します。
エラーが発生した場合は，エラーコードを確認してエラーを除去してください。
エラーコードはテスト結果に表示されます。（正常終了時は，テスト結果に“0x00000000”と表示されます。）
エラーコードの詳細は，プログラミングマニュアルを参照してください。

(通信テスト完了)

- ④ 以上の設定で，論理局番の設定が正しいことが確認できました。
ユーザプログラムの作成およびシーケンサモニタユーティリティで本論理局番が使用可能になります。
本論理局番を使用し，デバイスデータの収集を行ってください。

7 プログラム設定タイプの通信設定例

プログラム設定タイプで通信を行うためには、各ACTコントロールのプロパティを設定する必要があります。

各ACTコントロールのプロパティは、プロパティウィンドウで直接入力またはユーザプログラム内部でプロパティの設定変更を行ってください。

各ACTコントロールで設定必要なプロパティについての詳細は、MX Component プログラミングマニュアルを参照してください。

また、MX Componentを使用する際のユニットの設定については、以下に示す項目を参照してください。

- ・ 計算機リンク通信 : 6. 1節
- ・ Ethernet通信 (Ethernetインタフェースユニット使用時) : 6. 2節
- ・ CC-Link G4通信 : 6. 10節
- ・ モデム通信 : 6. 19節

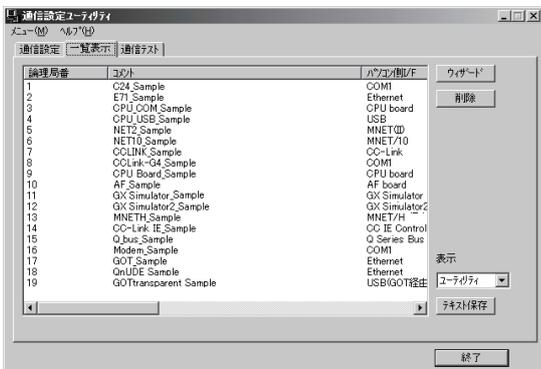
備 考

MX Componentでは、プロパティ設定に慣れていない人のために、以下に示すプロパティの設定方法を用意しています。

＜プロパティ設定変更手順＞



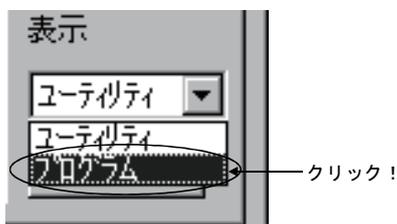
- ① 通信設定ユーティリティの“通信設定ウィザード”で、プロパティの設定を行いたい通信経路の設定を行います。通信設定ウィザードの詳細は、“5. 1. 6項 通信設定ウィザード画面の操作”を参照してください。



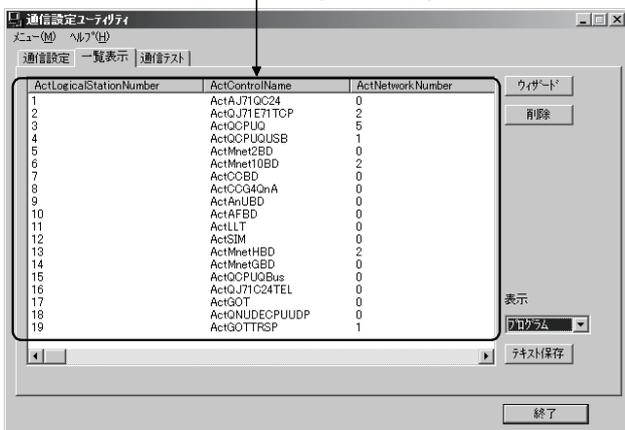
- ② 通信設定ユーティリティの一覧表示画面を表示します。一覧表示画面の詳細は、“5. 1. 2項 一覧表示画面の操作”を参照してください。

(次のページへ)

(前ページより)

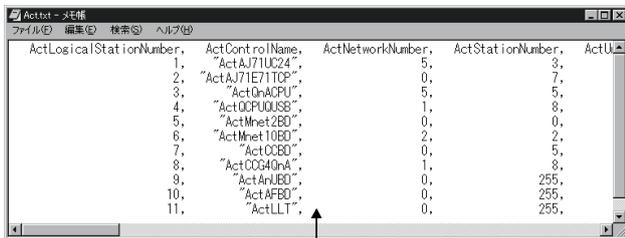


使用するべきコントロール名と、設定が必要なプロパティを表示します。



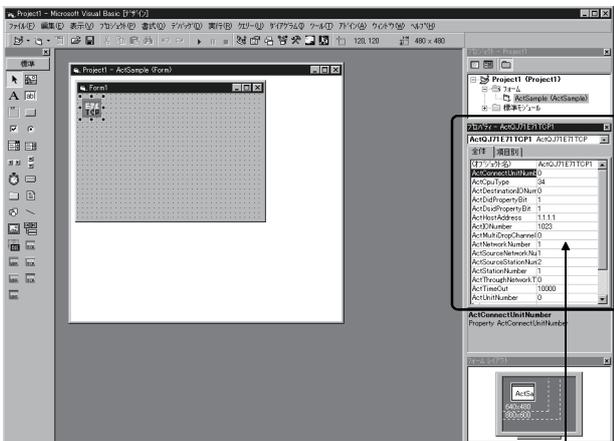
③ 一覧表示画面の表示を“プログラム”に設定してください。

④ 一覧表示画面のスクロールバーを操作し、プロパティの確認を行ってください。プログラム設定タイプで設定に必要なプロパティが表示されます。



txt形式でファイルに保存します。

一覧表示画面の「テキスト保存」をクリックすることにより、txt形式でファイルの保存を行うことが可能です。



プロパティウィンドウで直接入力またはユーザプログラム内部でプロパティの変更を行います。

⑤ ユーザプログラム作成の際に、確認を行ったプロパティ値をプロパティウィンドウのプロパティ値に直接入力またはユーザプログラム内部でプロパティの設定変更を行ってください。左記の画面は、Visual Basic® を使用しています。

8 アクセス可能デバイス・範囲

各通信形態におけるアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.1 デバイスアクセス時の注意事項

(1) アクセス可能デバイスについて

8.2節以降に示すアクセス可能デバイス一覧表に記載されていない、または×（アクセス不可）のデバイスは、MX Componentではサポートしておりません。アクセス不可のデバイスは、指定しないようにしてください。

(2) 拡張ファイルレジスタへアクセスする場合の注意事項について

存在しないブロックNo.を指定して読出し／書込みを行った場合でも、シーケンサCPUに装着されているメモ리카セットの種類によってはエラーが発生しないことがあります。

その場合、読み出したデータは正しいデータとなりません。

また、書込みを行った場合、シーケンサCPUのユーザメモリを壊すことがあります。メモ리카セットの種類、パラメータの設定内容などを十分に確認してから本機能を実行してください。

詳細については、AnACPU、AnUCPUユーザーズマニュアルを参照してください。

8.2 計算機リンク通信時

計算機リンク通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.2.1 アクセス可能デバイス

計算機リンク通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H) -A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力 (FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力 (FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ (FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー (SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
特殊レジスタ (SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
入力リレー (X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
出力リレー (Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
内部リレー (M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
ラッチリレー (L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシェータ (F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
エッジリレー (V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンクリレー (B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
データレジスタ (D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
リンクレジスタ (W)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
タイマ (T)	接点 (TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	コイル (TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	現在値 (TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
カウンタ (C)	接点 (CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	コイル (CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	現在値 (CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
積算タイマ (ST)	接点 (SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	コイル (SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	現在値 (SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ (SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ステップリレー (S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1	○	
ダイレクト入力 (DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力 (DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ (A)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1：FX拡張ポート使用時、FX0nCPU、FX1sCPU、FX1N(c)CPU、FX2N(c)CPU、FX3cCPU、FX3U(c)CPUに対してのみアクセス可能。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先										
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU
インデックスレジスタ	(Z)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	○*1*2	×
	(V)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○*1*2	×
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*3	○	×	×	○*4	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*3	○	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*YR)		○	○	○	○	○	×	×	×		×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*YX)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク出力 (J*YY)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクリレー (J*YB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*YSB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクレジスタ (J*YW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ(J*YSW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*YG)		×	×	×	×	×	○*5	○	○	○	×	×

*1: FX拡張ポート使用時, FX0N CPU, FX1S CPU, FX1N(C) CPU, FX2N(C) CPU, FX3G CPU, FX3U(C) CPUに対してのみアクセス可能。

*2: WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能)

*3: Q00J CPU, Q00UJ CPU使用時不可。

*4: FX3G CPU, FX3U(C) CPU以外でファイルレジスタを指定する場合, データレジスタ(D)を指定するようにしてください。
FX3G CPU, FX3U(C) CPUのみ, ファイルレジスタ(R)指定が可能です。

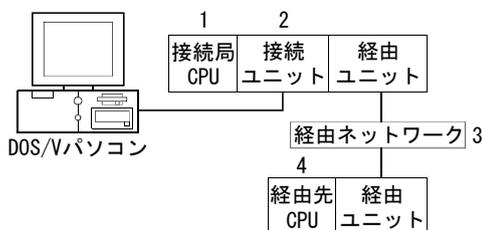
*5: マルチCPU構成時, 自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また, 自号機/他号機に関わらず, 共有メモリへの書き込みは行えません。

8.2.2 アクセス可能範囲

計算機リンク通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QS CPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Qモード)	Qシリーズ対応C24 (ActQJ71C24, ActMLQJ71C24)	CC IE Control	○	○*2	○*7	○*2	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*2	○*7	○*2	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○*3	×	×	○	×	○*3	×	×	×
		計算機リンク	○*4	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	○*5	○
		マルチドロップ (独立モード)	○*4	×	○	×	×	○	×	×	×
マルチドロップ (連動モード) *6	○*4	×	○	×	×	×	×	×	×		
LCPU	Lシリーズ対応C24 (ActLJ71C24, ActMLLJ71C24)	CC IE Field*7	○	×	○	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○*4	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○
		マルチドロップ (独立モード)	○*4	×	○	×	×	○	×	×	×
		マルチドロップ (連動モード)	○*4	×	○	×	×	×	×	×	×

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。
 *2 : Q12DCCPU-VおよびQS CPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *3 : ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *4 : 二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。
 *5 : FX3G CPUおよびFX3U(C) CPUのみアクセス可能。
 *6 : Qシリーズ対応C24のパラメータの伝送仕様ソフトウェアスイッチ設定“SW6 (サムチェック)”は、必ず“あり”にしてください。
 *7 : LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QnACPU	QC24(N) (ActAJ71QC24, ActMLAJ71QC24)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	○*3	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×
QCPU(Aモード), QnACPU*8, ACPU, モーション コントローラCPU	UC24 (ActAJ71UC24, ActMLAJ71UC24)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/10	×	×	×	×	○	○*8	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	○*8	○	×	○
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×
QCPU(Aモード)*9, QnACPU*10, ACPU*9, モーション コントローラCPU*9	C24 (ActAJ71C24, ActMLAJ71C24)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/10	×	×	×	×	○*9	○*10	○*9	×	○*9
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	○*9	○*10	○*9	×	○*9
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×
FXCPU	FX拡張ポート (ActFX485BD, ActMLFX485BD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	○*11	×
		CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×
マルチドロップ	×	×	×	×	×	×	×	○*11	×		

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。
 *3 : ネットワーク番号, 局番は対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定した値を設定してください。
 また, Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。
 その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には, IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *8 : AnACPU相当として動作します。(形名文字以外)
 下記デバイスを除き, AnACPUのデバイス範囲でアクセスできます。
 ・ファイルレジスタ(R), アキュムレータ(A), インデックスレジスタ(V), インデックスレジスタ(Z)
 ・ラッチリレー(L)およびステップリレー(S)は内部リレー(M)に対してアクセスする。
 *9 : AnUCPU, QCPU(Aモード), A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)の場合
 AnACPU相当として動作します。(形名文字列以外)
 下記デバイスを除き, AnACPUのデバイス範囲でアクセスできます。
 ・アキュムレータ(A), インデックスレジスタ(V), インデックスレジスタ(Z)
 *10 : AnA相当として動作します。
 下記デバイスを除き, AnACPUのデバイス範囲でアクセスできます。
 ・ファイルレジスタ(R), アキュムレータ(A), インデックスレジスタ(V), インデックスレジスタ(Z)
 ・ラッチリレー(L)およびステップリレー(S)は内部リレー(M)に対してアクセスする。
 *11 : FX0(C)CPU, FX1(C)CPU, FX1N(C)CPU, FX2N(C)CPU, FX3(C)CPU, FX3U(C)CPUのみアクセス可能。

8.3 Ethernet通信時

Ethernet通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.3.1 アクセス可能デバイス

Ethernet通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU*2	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力 (FX)	×	×	×	×	×	○*3	○	×	×	×	×	×
ファンクション出力 (FY)	×	×	×	×	×	○*3	○	×	×	×	×	×
ファンクションレジスタ (FD)	×	×	×	×	×	○*3	○	×	×	×	×	×
特殊リレー (SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○
特殊レジスタ (SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○
入力リレー (X)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
出力リレー (Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
内部リレー (M)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ラッチリレー (L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○
アナンシェータ (F)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○
エッジリレー (V)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
リンクリレー (B)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○
データレジスタ (D)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
リンクレジスタ (W)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○
タイマ (T)	接点 (TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	コイル (TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	現在値 (TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
カウンタ (C)	接点 (CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	コイル (CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
	現在値 (CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○
積算タイマ (ST)	接点 (SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
	コイル (SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
	現在値 (SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
リンク特殊リレー (SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	
リンク特殊レジスタ (SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	
ステップリレー (S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	
ダイレクト入力 (DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力 (DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュームレータ (A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	×	○

*1：書込みは不可。

*2：対応するFXCPUおよびデバイスについては、ご使用のEthernetユニットおよび設定ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

*3：QE71 (TCP/IP) 使用時不可。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先										
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU*2
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*4	○	×	×	○	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*4	○	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*YR)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*YX)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク出力 (J*YY)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクリレー (J*YB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*YSB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクレジスタ (J*YW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ(J*YSW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*YG)		×	×	×	×	×	○*5	○	○	○	○	×

*1：書込みは不可。

*2：対応するFXCPUおよびデバイスについては、ご使用のEthernetユニットおよび設定ソフトウェアのマニュアルを参照してください。

*4：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

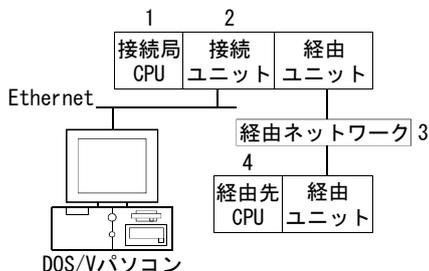
*5：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機／他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

8.3.2 アクセス可能範囲 (Ethernetインタフェースユニット使用時)

Ethernetインタフェースユニットを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能) , × (アクセス不可) で示します。

ポイント
 Qシリーズ対応E71, QE71(UDP/IP使用時)を使用する場合は, GX Developerのパラメータ設定でEthernetパラメータを設定する必要があります。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントローラ CPU*1
QCPU (Qモード), QSCPU*2	Qシリーズ対応E71 (ActQJ71E71TCP, ActMLQJ71E71TCP)	CC IE Control	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H*4	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10*4	○	○	×	○	○	○	○	×	○
		MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○*5	×	×	○	×	○*5	×	×	×
		計算機リンク	○*6	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	
QCPU (Qモード), QSCPU*2	Qシリーズ対応E71 (ActQJ71E71UDP, ActMLQJ71E71UDP)	CC IE Control	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H*4	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10*4	○	○	×	○	○	○	○	×	○
		MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○*5	×	×	○	×	○*5	×	×	×
		計算機リンク	○*6	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	○	×	○	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。
 *2 : QSCPUを経由して経由局にアクセスできません。
 *3 : Q12DCCPU-VおよびQSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *4 : 接続局側 (Qシリーズ対応E71) にEthernetパラメータで設定した局番を指定してください。
 *5 : ネットワーク番号および局番には, 対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また, Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番⇄IP関連情報”を設定してください。その際の“局番⇄IP関連情報設定方式”には, IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *6 : 二重化CPUの場合, 基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。
 *7 : LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QnACPU*8	QE71 (ActAJ71QE71TCP, ActMLAJ71QE71TCP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○*8	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
QnACPU	QE71 (ActAJ71QE71UDP, ActMLAJ71QE71UDP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	○*5*9	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	○*9	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
QCPU(Aモード)*10, QnACPU*11, ACPUCPU*10, モーションコント ローラCPU*10	E71 (ActAJ71E71TCP, ActMLAJ71E71TCP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	○*10	○*10	○*10	×	○*10
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	○*10	○*10	○*10	×	○*10
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
QCPU(Aモード)*10, QnACPU*11, ACPUCPU*10, モーションコント ローラCPU*10	E71 (ActAJ71E71UDP, ActMLAJ71E71UDP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	○*10	○*10	○*10	×	○*10
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	○*10	○*10	○*10	×	○*10
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×		

*1: A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*5: ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。

また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。

その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

*8: CPUコードを取得する場合、すべて0x21となります。

*9: TCP/IP選択時はアクセス不可。

*10: AnUCPU, QCPU(Aモード), A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)の場合
AnACPU相当として動作します。(形名文字列以外)

*11: AnACPU相当として動作します。(形名文字列以外)

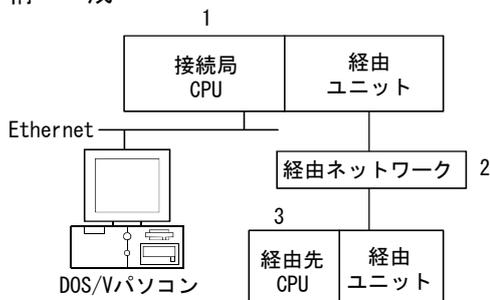
下記デバイスを除き、AnACPUのデバイス範囲でアクセスできます。

- ・ファイルレジスタ(R), アキュムレータ(A), インデックスレジスタ(V)
- ・ラッチリレー(L)およびステップリレー(S)は内部リレー(M)に対してアクセスする。

8.3.3 アクセス可能範囲 (Ethernetポート内蔵CPU使用時)

Ethernetポート内蔵CPUを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能), × (アクセス不可) で示します。

ポイント
 Ethernetポート内蔵CPUでTCP/IPを使用する場合は、GX DeveloperのPCパラメータ設定でEthernetパラメータを設定する必要があります。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QnUDE (H) CPU (ActQNUDEPUTCP, ActMLQNUDEPUTCP)	CC IE Control	○	○*2	○*5	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	○	×	×	×
	計算機リンク	○*3	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V*4	CC IE Control	○	○*2	○*5	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。
 *2 : Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *3 : 二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。
 *4 : Q12DCCPU-VはMELSOFT直結接続に対応していません。
 Ethernetポート直結接続ではアクセスできません。
 *5 : LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。
 (次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QnUDE (H) CPU (ActQNUDECPUUDP, ActMLQNUDECPUUDP)	CC IE Control	○	○*2	○*5	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○*5	○*2	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	○	×	×	×
	計算機リンク	○*3	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V*4 (ActQNUDECPUUDP, ActMLQNUDECPUUDP)	CC IE Control	○	○*2	○*5	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○*5	○*2	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
LCPU (ActLCPUTCP, ActMLLCPUTCP)	CC IE Field*5	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*3	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
LCPU (ActLCPUDP, ActMLLCPUDP)	CC IE Field*5	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*3	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*2 : Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3 : 二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*4 : Q12DCCPU-VはMELSOFT直結接続に対応していません。

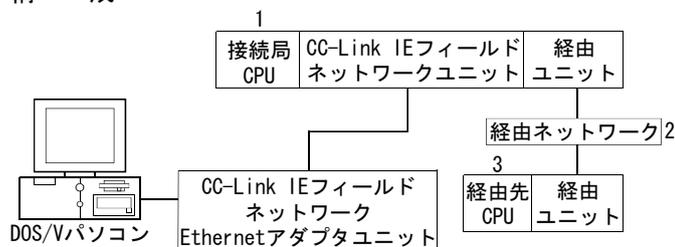
Ethernetポート直結接続ではアクセスできません。

*5 : LCPUsは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

8.3.4 アクセス可能範囲 (CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニット使用時)

CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニットを使用するEthernet通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能) , × (アクセス不可) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnUDE (H) CPU (ActCCIEFADPTCP, ActMLCCIEFADPTCP)	CC IE Control	○	○*1	○*2	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○*2	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
QnUDE (H) CPU (ActCCIEFADPUDP, ActMLCCIEFADPUDP)	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control	○	○*1	○*2	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○*2	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×	×	×	×
計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×	
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

*1 : Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*2 : LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
LCPU (ActCCIEFADPTCP, ActMLCCIEFADPTCP)	CC IE Field*2	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
LCPU (ActCCIEFADPUDP, ActMLCCIEFADPUDP)	CC IE Field*2	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×

*2：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

8.4 CPU COM通信時

CPU COM通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.4.1 アクセス可能デバイス

CPU COM通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュームレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1	○	
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*2	○	×	×	○*3	○	
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*2	○	×	×	×	×	
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンク特殊 リレー(J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンク特殊 レジスタ(J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*4	○	○	○	○*5	×	

*1: WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能)

*2: Q00JCPU, Q00UJCPU使用時不可。

*3: FX3GCPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。FX3GCPU, FX3U(C)CPUのみ、ファイルレジスタ(R)指定が可能です。

*4: マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

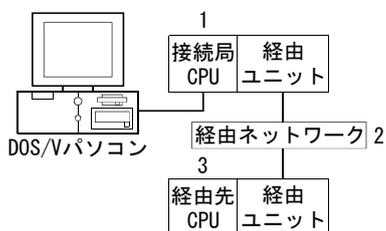
また、自号機/他号機に関わらず、共有メモリへの書き込みは行えません。

*5: FX3U(C)CPUの場合のみ、Read/WriteDeviceRandom, Read/WriteDeviceRandom2, Get/SetDevice, Get/SetDevice2で使用可。

8.4.2 アクセス可能範囲

CPU COM通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Qモード) (ActQCPUQ, ActMLQCPUQ)*2	CC IE Control	○	○*3	○*8	○*3	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*4	×	×	○	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	○*5	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○*6	○*6	○*6	○*7	○*6	
LCPU (ActLCPU, ActMLLCPU)	CC IE Field*8	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*5	×	○	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○*6	○*6	○*6	×	○*6

*1：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*2：Q00J/Q00UJ/Q00/Q00U/Q01/Q01UCPU時は、装着枚数に制約があるネットワークカードがあります。詳細は、付5を参照してください。

*3：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

*5：二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*6：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。

*7：FX3GCPUおよびFX3UC(CPU)のみアクセス可能。

*8：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。
(次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Aモード) (ActQCPUA, ActMLQCPUA)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
QnACPU (ActQnACPU, ActMLQnACPU)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ACPU, モーションコントローラCPU (ActACPU, ActMLACPU)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
FXCPU (ActFXCPU, ActMLFXCPU)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*4 : ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。
また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

8.5 CPU USB通信時

CPU USB通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.5.1 アクセス可能デバイス

CPU USB通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*2	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*2	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*2	○	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシユータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○*2	○	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○*2	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○*2	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○*2	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○*2	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○*2	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○*2	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*2	○	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

*1：書込みは不可。

*2：FX3₃CPUのみアクセス可能。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先										
		A1N	AOJ2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*2*3	○
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*2*3	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*4	○	×	×	○*2	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*4	○	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*5	○	○	○	○*2	×

*1：書込みは不可。

*2：FX3cCPUのみアクセス可能。

*3：WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で、2点以上を連続して書き込むことはできません。
(1点のみ書込み可能)

*4：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

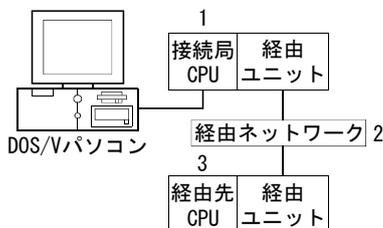
*5：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機/他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

8.5.2 アクセス可能範囲

CPU USB通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) , QSCPU*1 (ActQCPUQUSB, ActMLQCPUQUSB)	CC IE Control	○	○*2	○*6	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○*6	○*2	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*3	×	×	○	×	○*3	×	×	×
	計算機リンク	○*4	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	○*5	○*5	
Q12DCCPU-V (ActQCPUQUSB, ActMLQCPUQUSB)	CC IE Control	○	○*2	○*6	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*2	○*6	○*2	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5	

*1：QSCPUを経由して経由局にアクセスできません。

*2：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

*4：二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。

*6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
LCPU (ActLCPUSB, ActMLLCPUSB)	CC IE Field*6	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*4	×	○	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5
FXCPU (ActFXCPUUSB, ActMLFXCPUUSB)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*4：二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。

*6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

8.6 MELSECNET (II) 通信時

MELSECNET (II) 通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.6.1 アクセス可能デバイス

MELSECNET (II) 通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先												
	A1N	AOJ2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU	自ボード
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	○	○
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	○	○
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	○	○
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	○	○
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×	×
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×	×
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×	×
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	○	○
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×	×
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	○	○
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	×

*1: QCPU (Qモード) へはアクセスできません。
QnACPUへアクセスする場合、AnACPU相当の範囲となります。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	×
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
	(ZR)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

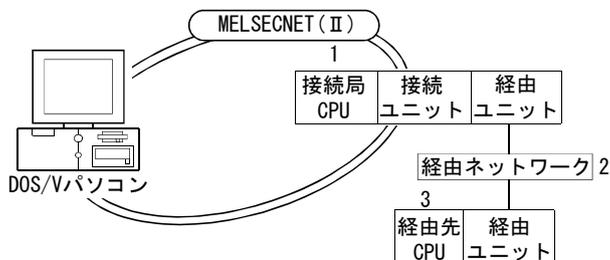
*1：QCPU (Qモード) へはアクセスできません。

QnACPUへアクセスする場合、AnACPU相当の範囲となります。

8.6.2 アクセス可能範囲

MELSECNET (II) 通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード (MELSECNET (II) ボード) はすべてアクセス可能です。経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能), × (アクセス不可) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーショ ンコント ローラ CPU
QCPU (Aモード) *1, QnACPU*2, ACPU*1, モーションコントローラCPU*1 (ActMnet2BD, ActMLMet2BD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1: AnUCPU, QCPU (Aモード), A173UHCPU (-S1), A273UHCPU (-S3) の場合

AnACPU相当として動作します。(形名文字列以外)

*2: AnACPU相当として動作します。(形名文字列以外)

下記デバイスを除き, AnACPUのデバイス範囲でアクセスできます。

- ・ファイルレジスタ (R), アク्यूムレータ (A), インデックスレジスタ (V)
- ・ラッチリレー (L) および ステップリレー (S) は内部リレー (M) に対してアクセスする。

8.7 MELSECNET/10通信時

MELSECNET/10通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.7.1 アクセス可能デバイス

MELSECNET/10通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先												
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU	自ボード
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	×	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	○	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*1	○	×	×	×	○	×
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*1	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*2	○	○	○	×	×	×

*1：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

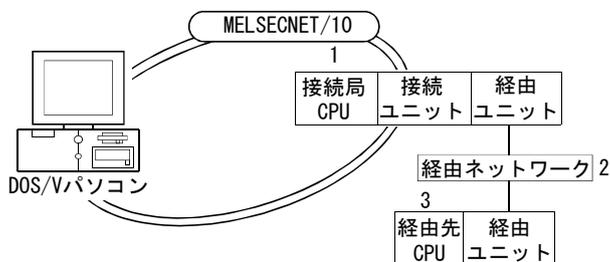
*2：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機/他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

8.7.2 アクセス可能範囲

MELSECNET/10通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード（MELSECNET/10ボード）はすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Qモード) (ActMnet10BD, ActMLMnet10BD)	CC IE Control	○	○*2	○*4	○*2	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*3	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActMnet10BD, ActMLMnet10BD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
QnACPU, (ActMnet10BD, ActMLMnet10BD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*2 : Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3 : 二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*4 : LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Aモード) , ACPU, モーションコントローラCPU (ActMnet10BD, ActMLMnet10BD)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

8.8 CC-Link通信時

CC-Link通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.8.1 アクセス可能デバイス

CC-Link通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

(1) 他局アクセス時

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1	○	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1*2	○	

*1: FX3G CPU, FX3U(C) CPUのみアクセス可能。

*2: WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書込み可能)
(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先										
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1*2	○
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1*3	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*4	○	×	×	×	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*4	○	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ(J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*5	○	○	×	○*1*6	×

*1：FX36CPU，FX3U(C)CPUのみアクセス可能。

*2：WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能)

*3：FX36CPU，FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合，データレジスタ(D)を指定するようにしてください。
FX36CPU，FX3U(C)CPUのみ，ファイルレジスタ(R)指定が可能です。

*4：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

*5：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機/他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

*6：FX3U(C)CPUの場合のみ，Read/WriteDeviceRandom，Read/WriteDeviceRandom2，Get/SetDevice，Get/SetDevice2で使用可能です。

(2) 自ボードアクセス時

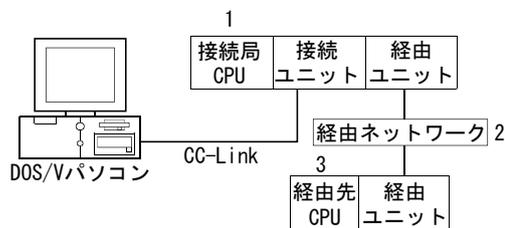
自ボードアクセス時のみ下記デバイスが使用可能です。

デバイス	デバイス名	備 考
特殊リレー	SM	自ボードの特殊リレー
特殊レジスタ	SD	自ボードの特殊レジスタ
リンク特殊リレー (CC-Link用)	SB	自ボードのリンク特殊リレー
リンク特殊レジスタ (CC-Link用)	SW	自ボードのリンク特殊レジスタ
リモート入力	X	RX
リモート出力	Y	RY
リンクレジスタ	W	—
リモートレジスタ (CC-Link用書込みエリア)	WW	RWw
リモートレジスタ (CC-Link用読出しエリア)	WR	RWr
バッファメモリ	ML	自局CC-Linkユニットのバッファメモリ
ランダムアクセスバッファ	MC	自局CC-Linkユニットのバッファメモリにあるランダムアクセスバッファ
自動リフレッシュバッファ	MF	自局CC-Linkユニットの自動リフレッシュバッファ

8.8.2 アクセス可能範囲

CC-Link通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード（CC-Linkボード）はすべてアクセス可能です。

経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経路 ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) (ActCCBD, ActMLCCBD)	CC IE Control	○	○*1	○*2	○*1	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActCCBD, ActMLCCBD)	CC IE Control	○	○*1	×	○*1	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	×	○*1	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
QnACPU (ActCCBD, ActMLCCBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
LCPU, QCPU (Aモード), ACPU, モーションコントローラCPU (ActCCBD, ActMLCCBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*2：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

8.9 CC-Link G4通信時

CC-Link G4通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.9.1 アクセス可能デバイス

CC-Link G4通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

(次ページへ)

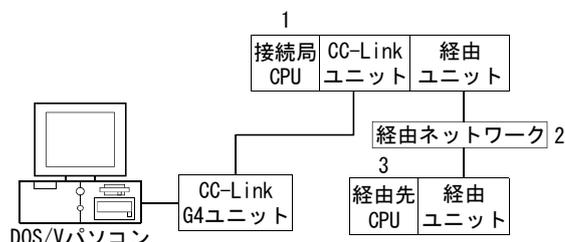
デバイス (デバイス名)		アクセス先										
		A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*1	○	×	×	×	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*1	○	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○	○	○	○	×	×

*1 : Q00JCPU, Q00UJCPU使用時不可。

8.9.2 アクセス可能範囲

CC-Link G4通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能), × (アクセス不可) で示します。

(a) CC-Link G4ユニットがQモード, LCPUの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) (ActCCG4Q, ActMLCCG4Q)	CC IE Control	○	○*1	○*2	○*1	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	○	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActCCG4Q, ActMLCCG4Q)	CC IE Control	○	○*1	○*2	○*1	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*1	○*2	○*1	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	×	○	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
LCPU (ActCCG4Q, ActMLCCG4Q)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1: Q12DCCPU-VおよびQSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*2: LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(b) CC-Link G4ユニットがQnAモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnACPU (ActCCG4QnA, ActMLCCG4QnA)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

(c) CC-Link G4ユニットがAモードの場合

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Aモード) , ACPU, モーションコントローラCPU (ActCCG4A, ActMLCCG4A)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

8.10 CPUボード通信時

CPUボード通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.10.1 アクセス可能デバイス

CPUボード通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○*1		×	×	×	×	×
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○*1		×	×	×	×	×
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○*1		×	×	×	×	×
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○*1		×	×	×	×	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×		×	×	×	×	○
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×		×	×	×	×	○

*1：QCPU (Qモード) へはアクセスできません。

QnACPUへアクセスする場合、AnACPU相当の範囲となります。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
	(V)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×

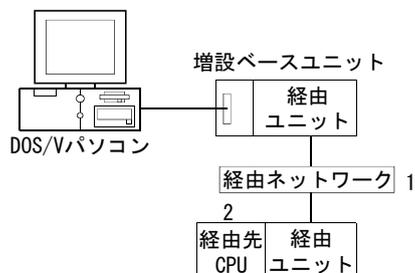
*1：QCPU (Qモード) へはアクセスできません。

QnACPUへアクセスする場合、AnACPU相当の範囲となります。

8.10.2 アクセス可能範囲

CPUボード通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

自ボード (CPUボード) はアクセス可能です。

経路先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能) , × (アクセス不可) で示します。

ネットワークボード (使用可能コントロール名)	1. 経路 ネットワーク	2. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
CPUボード (ActAnUBD, ActMLAnUBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	○*2	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	○	○*2	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*2 : AnACPU相当として動作します。(形名文字列以外)

下記デバイスを除き、AnACPUのデバイス範囲でアクセスできます。

- ・ファイルレジスタ(R), アキュムレータ(A), インデックスレジスタ(V)
- ・ラッチリレー(L)およびステップリレー(S)は内部リレー(M)に対してアクセスする。

8.11 AF通信時

AF通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.11.1 アクセス可能デバイス

AF通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

*1: QCPU (Qモード) へはアクセスできません。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーシヨ ン コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○*1	×	×	×	×	○
	(V)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○	○*1*2	×	×	×	×	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	×	○*1*2	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	×	○*1	×	×	×	×	×

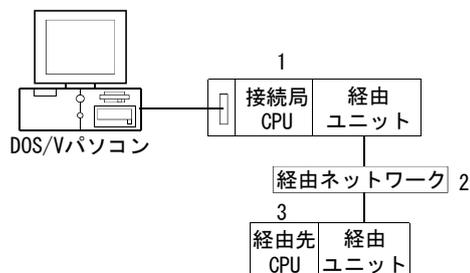
*1 : QCPU (Qモード) へはアクセスできません。

*2 : Q00JCPU, Q00UJCPU使用時不可。

8.11.2 アクセス可能範囲

AF通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経路 ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QnACPU (ActAFBD, ActMLAFBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×	
ACPU, モーションコントローラCPU (ActAFBD, ActMLAFBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

8.12 MELSECNET/H通信時

MELSECNET/H通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.12.1 アクセス可能デバイス

MELSECNET/H通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先												
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU	自ボード
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	○	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	○	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	

*1：書込みは不可。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*2	○	×	×	×	○	×
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*2	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*YR)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*YX)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク出力 (J*YY)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクリレー (J*YB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*YSB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*YW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ(J*YSW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*YG)		×	×	×	×	×	○*3	○	○	×	×	×	×

*1：書込みは不可。

*2：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

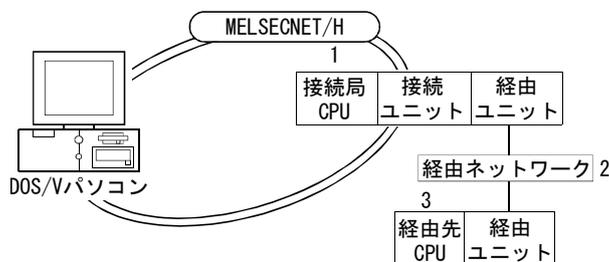
*3：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機／他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

8.12.2 アクセス可能範囲

MELSECNET/H通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード (MELSECNET/Hボード) はすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能), × (アクセス不可) で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Qモード), QSCPU*2 (ActMnetHBD, ActMLMnetHBD)	CC IE Control	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H*4	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10*5	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*6	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActMnetHBD, ActMLMnetHBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H*4	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10*5	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*2 : QSCPUを経由して経由局にアクセスできません。

*3 : Q12DCCPU-VおよびQSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*4 : 接続局のMELSECNET/HユニットがMELSECNET/Hモード時にアクセス可能。

*5 : 接続局のMELSECNET/HユニットがMELSECNET/10モード時にアクセス可能。

*6 : 二重化CPUの場合, 基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*7 : LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QnACPU*4 (ActMnetHBD, ActMLMnetHBD)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×
QCPU (Aモード) , ACPU, モーションコントローラCPU (ActMnetHBD, ActMLMnetHBD)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*1 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*4 : 接続局のMELSECNET/HユニットがMELSECNET/Hモード時にアクセス可能。

8.13 CC-Link IEコントローラネットワーク通信時

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.13.1 アクセス可能デバイス

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先												
	A1N	AOJ2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU	自ボード
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ (FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	○	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	○	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×	

*1：書込みは不可。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	AOJ2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*2	○	×	×	×	○	×
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*2	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*3	○	○	×	×	×	×

*1：書込みは不可。

*2：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

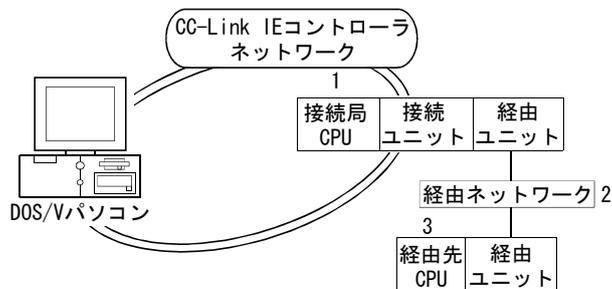
*3：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機／他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

8.13.2 アクセス可能範囲

CC-Link IEコントローラネットワーク通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード（CC-Link IEコントローラネットワークボード）はすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*1
QCPU (Qモード) , QSCPU*2 (ActMnetGBD, ActMLMnetGBD)	CC IE Control	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○*7	○*3	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H*4	○	○	×	○	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10*5	○	○	×	○	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	○	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○*6	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActMnetGBD, ActMLMnetGBD)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H*4	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10*5	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

*1：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*2：QSCPUを経由して経由局にアクセスできません。

*3：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*4：接続局のMELSECNET/10(H)ユニットがMELSECNET/Hモード時にアクセス可能。

*5：接続局のMELSECNET/10(H)HユニットがMELSECNET/10モード時にアクセス可能。

*6：二重化CPUの場合、基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*7：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

8.14 CC-Link IEフィールドネットワーク通信時

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.14.1 アクセス可能デバイス

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先												
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU	自ボード
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×		○	○	×	×	×	×	×
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×		○	○	×	×	×	×	×
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×		○	○	×	×	×	×	×
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	○
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	○
入力リレー(X)	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	○
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	○
内部リレー(M)	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	×
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○		○	○	×	×	×	○	×
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○		○	○	×	○	×	○	×
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×		○	○	×	○	×	×	×
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○		○	○	×	○	×	○	×
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○		○	○	○	×	○	○	×
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○		○	○	×	○	×	○	○
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	○	×
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	○	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×		○	○	×	○	×	○	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×		○	○	×	○	×	○	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○		×	×	×	×	○	×	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×		×	×	×	×	×	×	
アキュームレータ(A)	○	○	○	○	○		×	×	×	×	×	○	×

*1：書込みは不可。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	AOJ2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU*1	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*2	○	×	×	×	○	×
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*2	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*YR)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	×
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*YX)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク出力 (J*YY)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクリレー (J*YB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*YSB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*YW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ(J*YSW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*YG)		×	×	×	×	×	○*3	○	○	×	×	×	×

*1：書込みは不可。

*2：Q00JCPU，Q00UJCPU使用時不可。

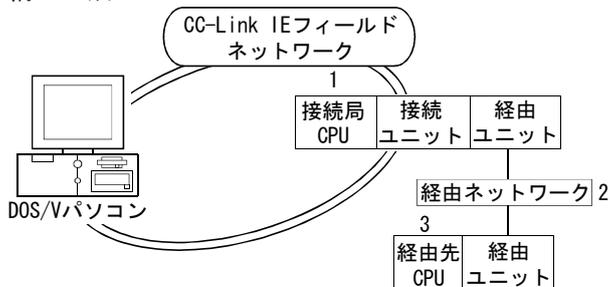
*3：マルチCPU構成時，自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また，自号機／他号機に関わらず，共有メモリへの書込みは行えません。

8.14.2 アクセス可能範囲

CC-Link IEフィールドネットワーク通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUおよび自ボード（CC-Link IEフィールドネットワークボード）はすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）、×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) (ActCCIEFBD, ActMLCCIEFBD)	CC IE Control	○	○*1	○*2	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
LCPU (ActMnetGBD, ActMLMnetGBD)	CC IE Field*2	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×

*1：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*2：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

8.15 Qシリーズバス通信時

Qシリーズバス通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.15.1 アクセス可能デバイス

Qシリーズバス通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先		デバイス (デバイス名)	アクセス先	
	Q02 (H), Q06H, Q12H, Q25H, Q02PH, Q06PH, Q12PH, Q25PH			Q02 (H), Q06H, Q12H, Q25H, Q02PH, Q06PH, Q12PH, Q25PH	
ファンクション入力 (FX)	○		リンク特殊リレー (SB)		○
ファンクション出力 (FY)	○		リンク特殊レジスタ (SW)		○
ファンクションレジスタ (FD)	○		ステップリレー (S)		×
特殊リレー (SM)	○		ダイレクト入力 (DX)		×
特殊レジスタ (SD)	○		ダイレクト出力 (DY)		×
入力リレー (X)	○		アキュムレータ (A)		×
出力リレー (Y)	○		インデックスレジスタ	(Z)	○
内部リレー (M)	○			(V)	×
ラッチリレー (L)	○		ファイルレジスタ	(R)	○
アナンシェータ (F)	○			(ZR)	○
エッジリレー (V)	○		拡張ファイルレジスタ (ER*YR)		×
リンクリレー (B)	○		ダイレクト リンク	リンク入力 (J*YX)	○
データレジスタ (D)	○			リンク出力 (J*YY)	○
リンクレジスタ (W)	○			リンクリレー (J*YB)	○
タイマ (T)	接点 (TS)	○		リンク特殊リレー (J*YSB)	○
	コイル (TC)	○		リンクレジスタ (J*YW)	○
	現在値 (TN)	○	リンク特殊レジスタ (J*YSW)	○	
カウンタ (C)	接点 (CS)	○	特殊ダイレクトバッファメモリ (U*YG)	○*1	
	コイル (CC)	○			
	現在値 (CN)	○			
積算タイマ (ST)	接点 (SS)	○			
	コイル (SC)	○			
	現在値 (SN)	○			

*1: マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機に関わらず、共有メモリへの書込みは行えません。

8.15.2 アクセス可能範囲

Qシリーズバス通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

- (1) 同一ベース上の他号機にアクセスできます。
ただし、他号機のネットワークを経由して他のCPUへアクセスすることはできません。
- (2) パソコンCPUユニットが管理するMELSECNET/Hユニット経由で、他のCPUへアクセスすることができます。
この場合のアクセス可能範囲は、MELSECNET/H通信時と同様になりますので、8.12.2項を参照してください。

MELSECNET/H通信時のDOS/VパソコンがパソコンCPUユニットにあたり、MELSECNET/HボードがMELSECNET/Hユニットにあたります。

- (3) パソコンCPUユニットが管理するCC-Linkユニット経由で、他のCPUへアクセスすることができます。
この場合のアクセス可能範囲は、CC-Link通信時と同様になりますので、8.8.2項を参照してください。

CC-Link通信時のDOS/VパソコンがパソコンCPUユニットにあたり、CC-LinkボードがCC-Linkユニットにあたります。

8.16 モデム通信時

モデム通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.16.1 アクセス可能デバイス

モデム通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力(FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力(FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ(FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー(SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
特殊レジスタ(SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
入力リレー(X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
出力リレー(Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
内部リレー(M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
ラッチリレー(L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシェータ(F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
エッジリレー(V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンクリレー(B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
データレジスタ(D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○*1	○	
リンクレジスタ(W)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
タイマ (T)	接点(TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	コイル(TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	現在値(TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
カウンタ (C)	接点(CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	コイル(CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	現在値(CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
積算タイマ (ST)	接点(SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	コイル(SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	現在値(SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
リンク特殊リレー(SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ(SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ステップリレー(S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1	○	
ダイレクト入力(DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力(DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ(A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

*1: FX1sCPU, FX1nCPU, FX1ncCPU, FX2nCPU, FX2ncCPU, FX3cCPU, FX3uCPU, FX3ucCPUのみ使用可能です。

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1*2	○
	(V)	○	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1*2	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*3	○	×	×	○*4	○	
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*3	○	×	×	×	×	
拡張ファイルレジスタ (ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンク特殊 リレー (J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
	リンク特殊 レジスタ (J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*5	○	○	×	○*6	×	

*1: FX1sCPU, FX1nCPU, FX1ncCPU, FX2nCPU, FX2ncCPU, FX3uCPU, FX3ucCPUのみ使用可能です。

*2: WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点以上を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能)

*3: Q00JCPU, Q00UJCPU使用時不可。

*4: FX3gCPU, FX3u(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。

FX3gCPU, FX3u(C)CPUのみ、ファイルレジスタ(R)指定が可能です。

*5: マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読出しは行えません。

また、自号機/他号機に関わらず、共有メモリへの書き込みは行えません。

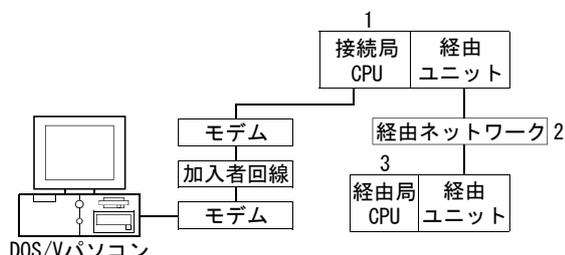
*6: FX3u(C)CPUの場合のみ、Read/WriteDeviceRandom, Read/WriteDeviceRandom2, Get/SetDevice, Get/SetDevice2で使用可能です。

8.16.2 アクセス可能範囲

モデム通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) A6TEL, Q6TEL使用時

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

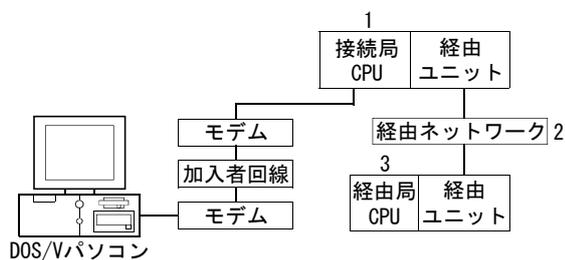
接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経路先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能), × (アクセス不可) で示します。

接続局		2. 経路ネットワーク	3. 経路先CPU								
1. CPU	接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnACPU	Q6TEL (QnAモード) (ActQ6TEL)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×		
ACPU, モーション コントローラ CPU	A6TEL, Q6TEL (Aモード) (ActA6TEL)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×		

(2) FXCPU使用時

(a) 構成



(b) アクセス可否表

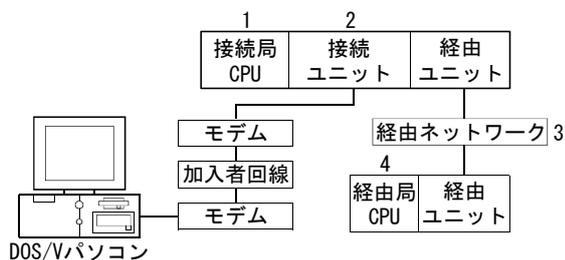
アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経路 ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーシヨ ンコント ローラ CPU
FXCPU*1 (ActFXCPUTEL)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1 : FX1sCPU, FX1nCPU, FX1ncCPU, FX2nCPU, FX2ncCPU, FX3nCPU, FX3ncCPUのみ使用可能です。

(3) Qシリーズ対応C24, Qシリーズ対応CM0, Lシリーズ対応C24, QC24N使用時

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能), × (アクセス不可) で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応C24 (ActQJ71C24TEL)	CC IE Control	○	○*1	○*4	○*1	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
		MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	○	×	○	×	×	×
		計算機リンク	○*2	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○		
	マルチドロップ (独立モード)*3	○*2	×	○	×	×	○	×	×	×	
QCPU (Qモード)	Qシリーズ 対応CM0 (ActQJ71C24TEL)	CC IE Control	○	○*1	○*4	○*1	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	○	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	○	○	○	○	×	○
		MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	○	×	○	×	×	×
		計算機リンク	○*2	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	×	×	○	○	○	×	○		
LCPU	Lシリーズ 対応C24 (ActLJ71C24TEL)	CC IE Field*4	○	×	○	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○*2	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○
	マルチドロップ (独立モード)*3	○*2	×	○	×	×	○	×	×	×	

*1: Q12DC CPU-VおよびQSCPUは, CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため, CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*2: 二重化CPUの場合, 基本ベース上にある計算機リンクユニットにはアクセスできません。

*3: CH2側の設定を示します。(CH1側は独立モード固定)

*4: LCPUは, CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため, CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。
(次ページへ)

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnACPU	QC24N (ActAJ71QC24TEL)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	○	×	×	×
		計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×		
		マルチドロップ (独立モード) ^{*3}	×	×	×	×	×	○	×	×	×

*3 : CH2側の設定を示します。(CH1側は独立モード固定)

8.17 ゲートウェイ機能通信時

ゲートウェイ機能通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.17.1 アクセス可能デバイス

ゲートウェイ機能通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

(1) アクセス可能デバイス

ゲートウェイ機能通信時は、下記デバイスのみアクセス可能です。

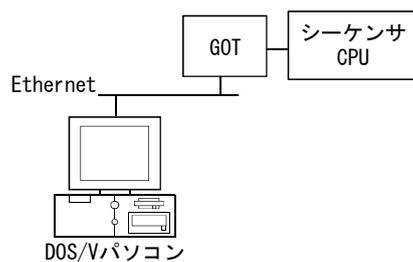
デバイス : ゲートウェイデバイス

デバイス名 : EG

8.17.2 アクセス可能範囲

ゲートウェイ機能通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

(1) 構成



(2) アクセス可能範囲

接続しているGOTにのみアクセス可能です。

8.18 GX Simulator通信時

GX Simulator通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.18.1 アクセス可能デバイス

GX Simulator通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulatorのデバイスマネージャの他局デバイス設定に依存します。

他局デバイス設定については、「GX Simulator Version 7 オペレーティングマニュアル」を参照してください。

8.18.2 アクセス可能範囲

GX Simulator通信時におけるアクセス可能範囲を下表に示します。

接続先CPUのアクセス可否を○（アクセス可能）、×（アクセス不可）で示します。

対象局 (使用可能コントロール名)	接続先CPU								
	QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)*1	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラCPU*1
自局 (ActLLT, ActMLLLT)	○	×	×	×	○	○	○	○	○
他局 (ActLLT, ActMLLLT)	○	×	×	×	○	○	○	×	○

*1：他局アクセス時は、ACPUとして設定してください。

8.19 GX Simulator2通信時

GX Simulator2通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.19.1 アクセス可能デバイス

GX Simulator2通信時における他局のアクセス可能デバイスは、GX Simulator2がサポートするデバイスに依存します。

詳細については、「GX Works2 Version 1 オペレーティングマニュアル（共通編）」を参照してください。

8.19.2 アクセス可能範囲

GX Simulator2通信時におけるアクセス可能範囲を下表に示します。

接続先CPUのアクセス可否を○（アクセス可能）、×（アクセス不可）で示します。

使用可能コントロール名	接続先CPU								
	QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラCPU
ActSIM, ActMLSIM	○	×	○	×	×	×	×	○	×

8.20 GOTトランスペアレント通信時

GOTトランスペアレント通信時のアクセス可能デバイスおよびアクセス可能範囲について説明します。

8.20.1 アクセス可能デバイス

GOTトランスペアレント通信時におけるアクセス可能デバイスを次に示します。

デバイス (デバイス名)	アクセス先											
	A1N	A0J2H A1S (H) A1SJ (H) A2C (J) A2N (-S1) A2S (H) A1FX	A2A (-S1) A2U (-S1) A2US (-S1) A2USH-S1 Q02 (H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
ファンクション入力 (FX)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクション出力 (FY)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ファンクションレジスタ (FD)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
特殊リレー (SM)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
特殊レジスタ (SD)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	
入力リレー (X)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
出力リレー (Y)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
内部リレー (M)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
ラッチリレー (L)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
アナンシェータ (F)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
エッジリレー (V)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンクリレー (B)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
データレジスタ (D)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	
リンクレジスタ (W)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	
タイマ (T)	接点 (TS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	コイル (TC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	現在値 (TN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
カウンタ (C)	接点 (CS)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	コイル (CC)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
	現在値 (CN)	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○
積算タイマ (ST)	接点 (SS)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	コイル (SC)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
	現在値 (SN)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×
リンク特殊リレー (SB)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
リンク特殊レジスタ (SW)	×	×	×	×	×	○	○	×	×	×	×	
ステップリレー (S)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○	○	
ダイレクト入力 (DX)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
ダイレクト出力 (DY)	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
アキュムレータ (A)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	

(次ページへ)

デバイス (デバイス名)		アクセス先											
		A1N	A0J2H A1S(H) A1SJ(H) A2C(J) A2N(-S1) A2S(H) A1FX	A2A(-S1) A2U(-S1) A2US(-S1) A2USH-S1 Q02(H)-A Q06H-A	A3N A3A A3U	A4U	QnACPU	QCPU (Qモード)	LCPU	Q12DCCPU-V	QSCPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
インデックスレジスタ	(Z)	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○*1	○
	(V)	○	○	○	○	○	×	×	×	×	○*1	○	○
ファイルレジスタ	(R)	○	○	○	○	○	○*2	○	×	×	○*3	○	○
	(ZR)	×	×	×	×	×	○*2	○	×	×	×	×	×
拡張ファイルレジスタ(ER*¥R)		○	○	○	○	○	×	×	×	×	×	○	○
ダイレクト リンク	リンク入力 (J*¥X)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク出力 (J*¥Y)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクリレー (J*¥B)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 リレー(J*¥SB)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンクレジスタ (J*¥W)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
	リンク特殊 レジスタ(J*¥SW)	×	×	×	×	×	○	○	○	×	×	×	×
特殊ダイレクトバッファメモリ (U*¥G)		×	×	×	×	×	○*4	○	○	○	○*5	×	×

*1：WriteDeviceBlockまたはWriteDeviceBlock2で2点を連続して書き込むことはできません。(1点のみ書き込み可能)

*2：Q00JCPU, Q00UJCPU使用時不可。

*3：FX36CPU, FX3U(C)CPU以外でファイルレジスタを指定する場合、データレジスタ(D)を指定するようにしてください。
FX36CPU, FX3U(C)CPUのみ、ファイルレジスタ(R)指定が可能です。

*4：マルチCPU構成時、自号機の共有メモリから読み出しは行えません。

また、自号機/他号機に関わらず、共有メモリへの書き込みは行えません。

*5：FX3U(C)CPUの場合のみ、Read/WriteDeviceRandom, Read/WriteDeviceRandom2, Get/SetDevice, Get/SetDevice2で使用可。

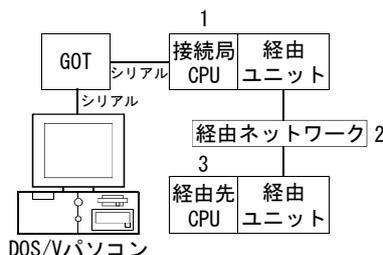
8.20.2 アクセス可能範囲

GOTトランスペアレント通信時におけるアクセス可能範囲を次に示します。

ポイント
使用可能なシステム構成は、GOT1000シリーズ接続マニュアルを参照してください。

(1) パソコン側ポート：シリアル， GOT1000側ポート：シリアル， CPU側ポート：直結

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）， ×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*2
QCPU (Qモード)*1 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*3	○*6	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*4	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5	

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*3：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

*5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。

*6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(次ページへ)

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*2
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Field*6	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5
QCPU (Aモード) (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
QnACPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×	
ACPU, モーションコントローラCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	
FXCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×	

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

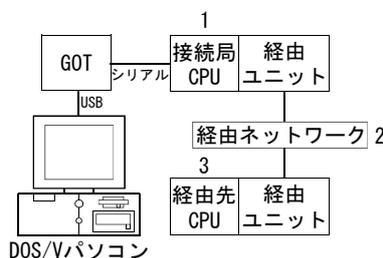
*4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。
また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

*5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。

*6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(2) パソコン側ポート：USB, GOT1000側ポート：USB, CPU側ポート：直結

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）、×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*2
QCPU (Qモード)*1 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*3	○*6	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*4	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5	
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Field*6	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。
 *2：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。
 *3：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。
 *6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。
 (次ページへ)

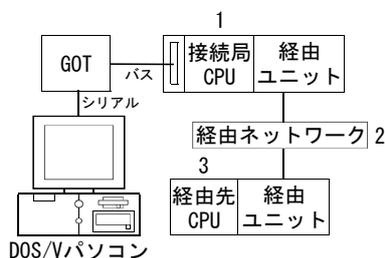
1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*2
QnACPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×
ACPU, モーションコントローラCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×
FXCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*2 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*4 : ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。
また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

(3) パソコン側ポート：シリアル， GOT1000側ポート：シリアル， CPU側ポート：バス

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード) *1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーシ ョン コント ローラ CPU*2
QCPU (Qモード) *1 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*6	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*4	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5
Q12DCCPU-V (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*3	○*6	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	○*5	○*5	○*5	×	○*5

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。
 *2：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。
 *3：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。
 *6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。
 (次ページへ)

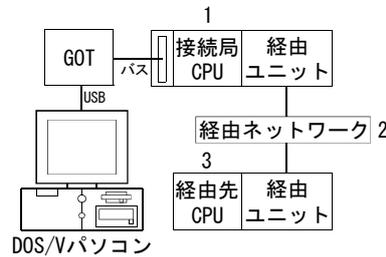
1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*2
QnACPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×
ACPU, モーションコントローラCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*2 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*4 : ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。
また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

(4) パソコン側ポート：USB, GOT1000側ポート：USB, CPU側ポート：バス

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。

接続局CPUはすべてアクセス可能です。

経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）、×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード) ^{*1}	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU ^{*2}
QCPU (Qモード) ^{*1} (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○ ^{*3}	○ ^{*6}	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○ ^{*4}	×	×	×	×	○ ^{*4}	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○ ^{*5}	○ ^{*5}	○ ^{*5}	×	○ ^{*5}	
Q12DCCPU-V (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○ ^{*3}	○ ^{*6}	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○ ^{*5}	○ ^{*5}	○ ^{*5}	×	○ ^{*5}	

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*3：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

*5：経由局CPU側のCC-Linkシステムマスタ・ローカルユニットは、ソフトウェアバージョン“S”以降のユニットを使用してください。

*6：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。
(次ページへ)

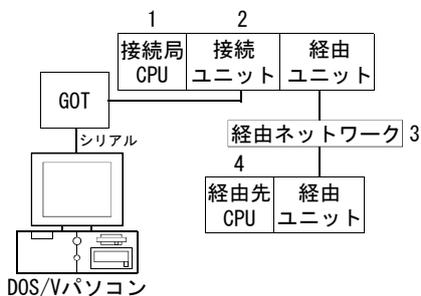
1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU*2
QnACPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	○	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	○	×	×	×
ACPU, モーションコントローラCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	○	×	○	×	○
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*2 : A171SHCPU, A172SHCPU, A173UHCPU(-S1), A273UHCPU(-S3)のみアクセス可能。

*4 : ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。
また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。

(5) パソコン側ポート：シリアル， GOT1000側ポート：シリアル， CPU側ポート：Qシリーズ対応C24またはLシリーズ対応C24

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）， ×（アクセス不可）で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)*1	Qシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*2	○*4	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×	○	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○
LCPU	Lシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	マルチドロップ (独立モード)*3	○	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC IE Field*4	○	×	○	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	×

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

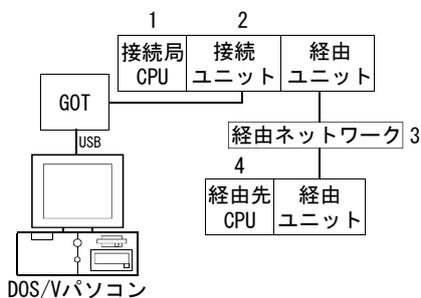
*2：Q12DCCPU-Vは， CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため， CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：CH2側の設定を示します。（CH1側は独立モード固定）

*4：LCPUは， CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため， CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(6) パソコン側ポート：USB, GOT1000側ポート：USB,
CPU側ポート：Qシリーズ対応C24またはLシリーズ対応C24

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
接続局CPUはすべてアクセス可能です。
経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーショ ンコント ローラ CPU
QCPU (Qモード)*1	Qシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*2	○*4	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	○	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×	○	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○
LCPU	Lシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	マルチドロップ (独立モード)*3	○	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC IE Field*4	○	×	○	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	×

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

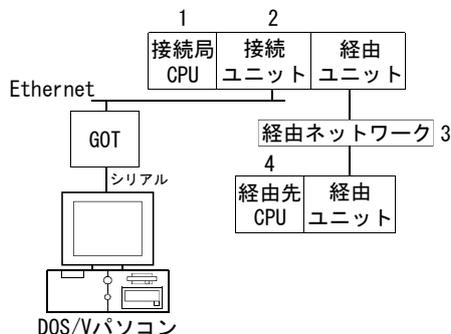
*2：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：CH2側の設定を示します。（CH1側は独立モード固定）

*4：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(7) パソコン側ポート：シリアル， GOT1000側ポート：シリアル， CPU側ポート：Qシリーズ対応E71

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

接続局		3. 経路ネットワーク	4. 経路先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)*1, QSCPU	Qシリーズ 対応E71*2 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*3	○*4	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	○	○	○	×	○
		MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×	○	×	×	×
計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×		
CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○		

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

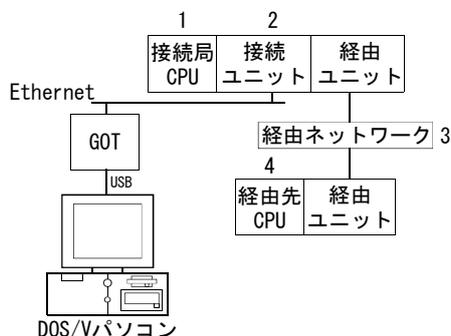
*2：接続局のQシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。

*3：Q12DCCPU-Vは，CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため，CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*4：LCPUは，CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため，CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(8) パソコン側ポート：USB, GOT1000側ポート：USB, CPU側ポート：Qシリーズ対応E71

(a) 構成



(b) アクセス可否表

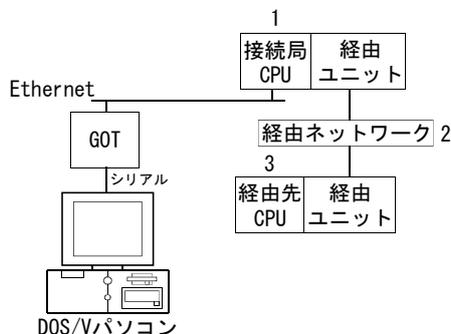
アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード) ^{*1}	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード) ^{*1} , QSCPU	Qシリーズ 対応E71 ^{*2} (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○ ^{*3}	○ ^{*4}	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	○	○	○	×	○
		MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	○	×	×	×	×	○	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	○	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	○	○	○	×	○		

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。
 *2：接続局のQシリーズ対応E71にリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。
 *3：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *4：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(9) パソコン側ポート：シリアル， GOT1000側ポート：シリアル， CPU側ポート：Ethernetポート

(a) 構成



(b) アクセス可否表

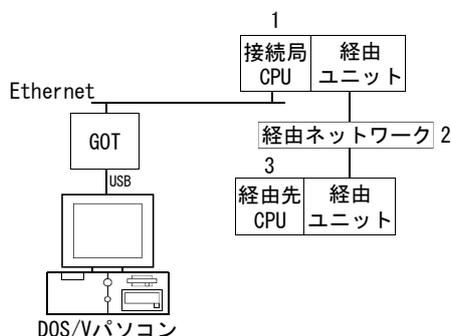
アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU*1 (使用可能コントロール名)	2. 経路ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)*2	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントローラCPU
QnUDE (H) CPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*4	×	×	×	×	○*4	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Field*5	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×

*1：接続先CPUにリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。
 *2：二重化CPUの場合はアクセス不可。
 *3：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *4：ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *5：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(10) パソコン側ポート : USB, GOT1000側ポート : USB, CPU側ポート : Ethernetポート

(a) 構成



(b) アクセス可否表

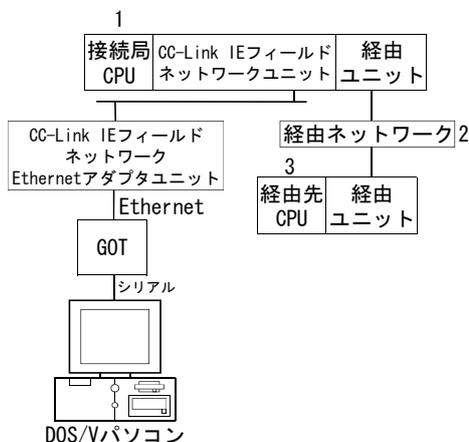
アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経路先CPUのアクセスの可否を○ (アクセス可能) , × (アクセス不可) で示します。

1. 接続局CPU*1 (使用可能コントロール名)	2. 経路ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)*2	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーションコントローラCPU
QnUDE (H) CPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○*4	×	×	×	×	○*4	×	×	×
Q12DCCPU-V (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	CC IE Control	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field	○	○*3	○*5	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	○	○	○	×	○
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*5	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×

*1 : 接続先CPUにリモートパスワードが設定されている場合は通信できません。
 *2 : 二重化CPUの場合はアクセス不可。
 *3 : Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
 *4 : ネットワーク番号および局番には、対象局側のQシリーズ対応E71, QE71のパラメータで設定した値を設定してください。また、Qシリーズ対応E71, QE71のパラメータ設定の“局番↔IP関連情報”を設定してください。その際の“局番↔IP関連情報設定方式”には、IPアドレス算出方式/テーブル変換方式/併用方式のいずれかを指定してください。
 *5 : LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(11) パソコン側ポート：シリアル， GOT1000側ポート：シリアル，
CPU側ポート：CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニット

(a) 構成



(b) アクセス可否表

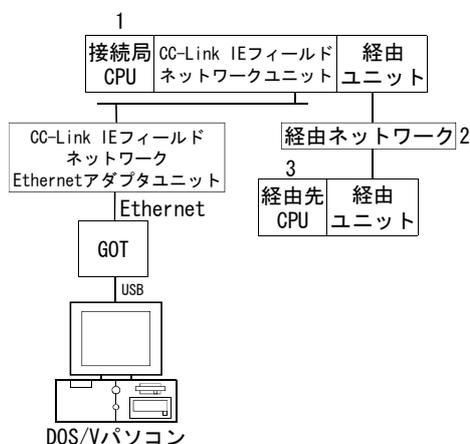
アクセスの可否を下表に示します。
接続局CPUはすべてアクセス可能です。
経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経路 ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnUDE (H) CPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
	CC IE Field*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×	
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。
*2：Q12DCCPU-Vは，CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため，CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。
*3：LCPUは，CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため，CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(12) パソコン側ポート：USB, GOT1000側ポート：USB,
CPU側ポート：CC-Link IEフィールドネットワークEthernetアダプタユニット

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
接続局CPUはすべてアクセス可能です。
経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経路 ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QnUDE (H) CPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	○	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Field*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET (II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

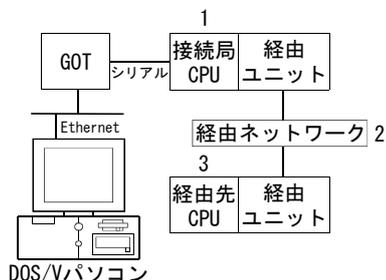
*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：Q12DCCPU-Vは、CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため、CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：LCPUは、CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため、CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(13) パソコン側ポート：Ethernetボード， GOT1000側ポート：Ethernetポート， CPU側ポート：シリアル

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能），×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経由 ネットワーク	3. 経由先CPU								
		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU(Qモード)*1 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
Q12DCCPU-V (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	
LCPU (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Field*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(Ⅱ)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×	

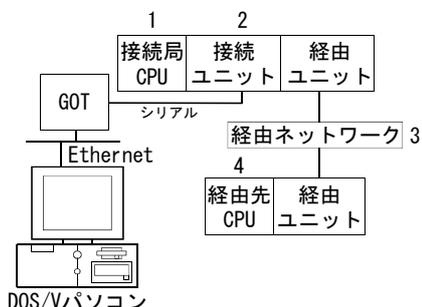
*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは，CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため，CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：LCPUは，CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため，CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(14) パソコン側ポート：Ethernetボード， GOT1000側ポート：Ethernetポート， CPU側ポート：Qシリーズ対応C24またはLシリーズ対応C24

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経由先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）， ×（アクセス不可）で示します。

接続局		3. 経由ネットワーク	4. 経由先CPU								
1. CPU	2. 接続ユニット (使用可能コントロール名)		QCPU (Qモード)*1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU (Qモード)*1	Qシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×		
Q12DCCPU-V	Qシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
		CC IE Field	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×		
LCPU	Lシリーズ 対応C24 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Field*3	○	×	○	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/H	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET/10	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
		計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
		CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×

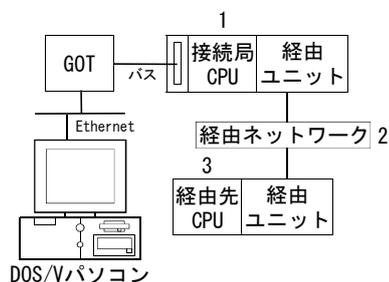
*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは， CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため， CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：LCPUは， CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため， CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

(15) パソコン側ポート：Ethernetボード， GOT1000側ポート：Ethernetポート， CPU側ポート：バス

(a) 構成



(b) アクセス可否表

アクセスの可否を下表に示します。
 接続局CPUはすべてアクセス可能です。
 経路先CPUのアクセスの可否を○（アクセス可能）， ×（アクセス不可）で示します。

1. 接続局CPU (使用可能コントロール名)	2. 経路 ネットワーク	3. 経路先CPU								
		QCPU (Qモード) *1	Q12DC CPU-V	LCPU	QSCPU	QCPU (Aモード)	QnACPU	ACPU	FXCPU	モーション コントローラ CPU
QCPU(Qモード) *1 (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	○	×	○	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×
Q12DCCPU-V (ActGOTTRSP, ActMLGOTTRSP)	CC IE Control CC IE Field	○	○*2	○*3	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/H	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET/10	○	○	×	×	×	×	×	×	×
	MELSECNET(II)	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	Ethernet	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	計算機リンク	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	CC-Link	○	○	○	×	×	×	×	×	×

*1：二重化CPUの場合はアクセス不可。

*2：Q12DCCPU-VおよびQSCPUは， CC-Link IEフィールドネットワーク未サポートのため， CC-Link IEフィールドネットワークはアクセス不可。

*3：LCPUは， CC-Link IEコントローラネットワーク未サポートのため， CC-Link IEコントローラネットワークはアクセス不可。

付 録

付1 ルーティングパラメータの考え方

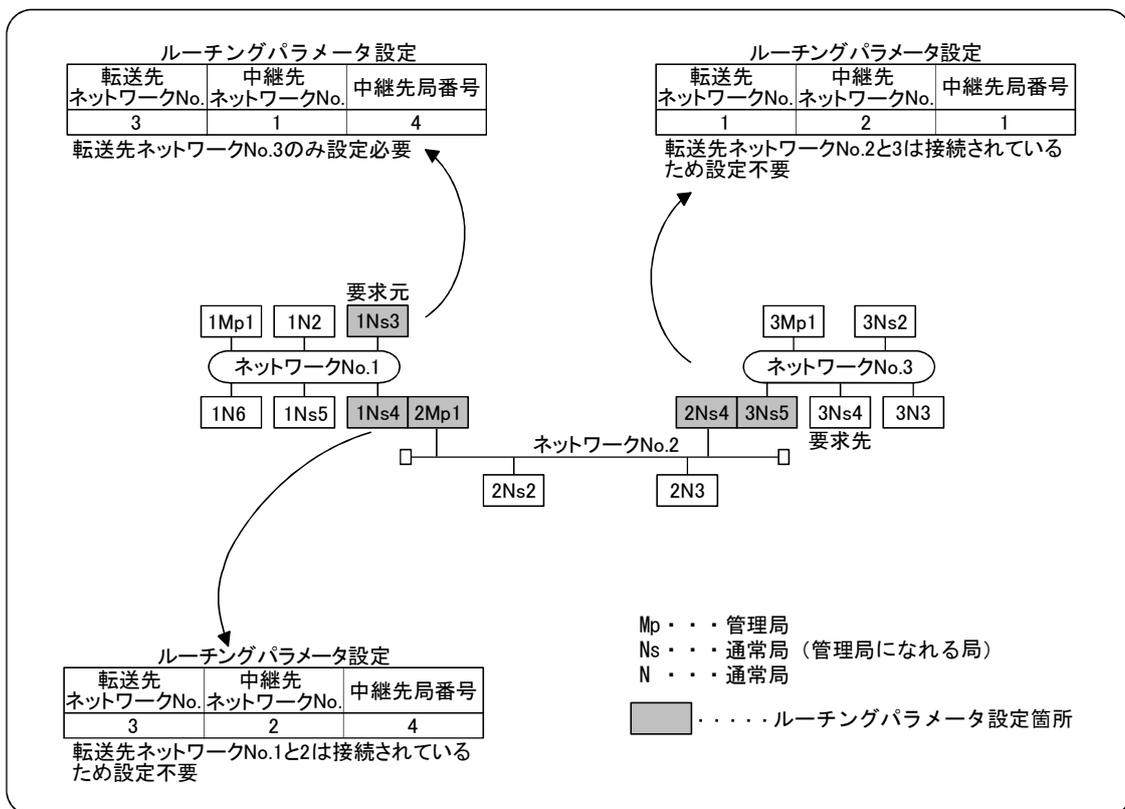
ルーティング機能とは、多階層システムにおいてシーケンサCPUの局が他のネットワークNo.の局へトランジェント伝送する機能です。

ルーティング機能を実行するには、“ルーティングパラメータ”を設定し、ネットワークNo.とブリッジの役割を行う局の対応付けが必要です。

なお、MELSECNET IIを経由したルーティング機能は使用できません。

- (1) ルーティングパラメータは、シーケンサCPUの要求元と中継局に設定が必要です。
 - (a) 要求元には、要求先へ行くための設定が必要です。
 - (b) 中継局には、要求元から要求先へ行くための設定と、要求先から要求元へ行くための設定が必要です。
 - (c) 要求先には設定が不要です。

たとえば、下図の1Ns3から3Ns4に対してトランジェント伝送するためには、トランジェント伝送を実行する1Ns3とブリッジの役割をする1Ns4および2Mp1のシーケンサCPU、2Ns4および3Ns5のシーケンサCPUにルーティングパラメータの設定が必要です。



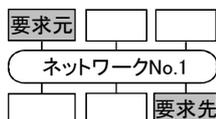
- (2) シーケンサCPUには、最大16個の“転送先ネットワークNo.”が設定できます。自局が要求元になったり、自局を経由して他局へアクセスできたりするのは、16種類のネットワークNo.です。

(3) ルーチングパラメータの設定箇所と内容

トランジェント伝送を行う場合、システムによりルーティングパラメータの設定箇所が異なります。

(a) 2階層システム

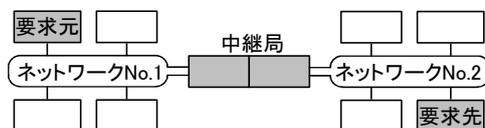
同一ネットワーク内へのトランジェント伝送のため、ルーティングパラメータは設定不要です。



(b) 多階層1 (2つのネットワーク)

要求元の局にのみルーティングパラメータを設定します。*1

要求元には、要求先 (ネットワークNo. 2) へ行くための内容を設定します。



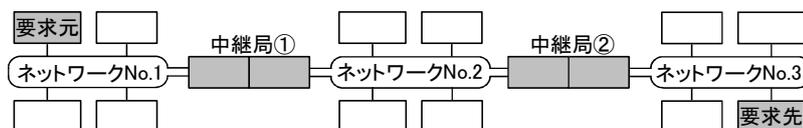
(c) 多階層2 (3つのネットワーク)

要求元と中継局にルーティングパラメータを設定します。*1

要求元には、要求先 (ネットワークNo. 3) へ行くための内容を設定します。

中継局①には、要求先 (ネットワークNo. 3) へ行くための内容を設定します。

中継局②には、要求元 (ネットワークNo. 1) へ行くための内容を設定します。



(d) 多階層3 (4つ以上のネットワーク)

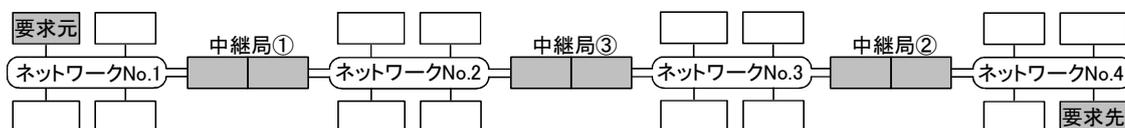
要求元と中継局にルーティングパラメータを設定します。*1

要求元には、要求先 (ネットワークNo. 4) へ行くための内容を設定します。

中継局① (要求元に一番近い中継局) には、要求先 (ネットワークNo. 4) へ行くための内容を設定します。

中継局② (要求先に一番近い中継局) には、要求元 (ネットワークNo. 1) へ行くための内容を設定します。

中継局③ (中継局①と中継局②以外の中継局) には、要求先 (ネットワークNo. 4) と要求元 (ネットワークNo. 1) へ行くための内容を設定します。



*1 Ethernetに接続されたパソコンが要求元の場合について示します。

要求元へのルーティングパラメータの設定は不要です。

中継局には、要求先へ行くためのルーティングパラメータの設定が必要です。接続先のシーケンサに応じた、以下マニュアルを参照し設定してください。

- Qシリーズ対応E71と接続時

- Q対応Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (応用編)

- QE71と接続時

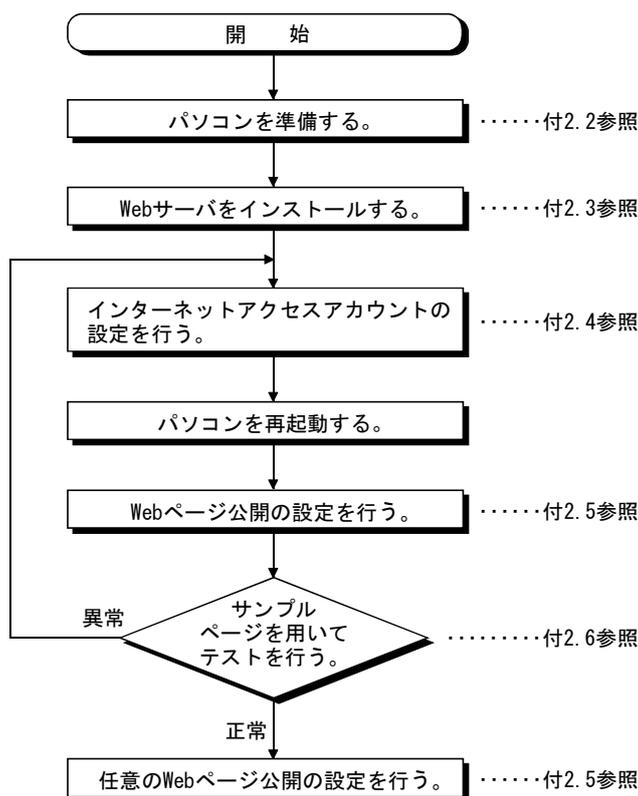
- QnA対応Ethernetインタフェースユニットユーザーズマニュアル (詳細編)

付2 インターネット/イントラネット環境の立上げ方法

MX Componentを使用してシーケンサCPUと通信を行うホームページ(HTML, ASP)を作成し、インターネット/イントラネットを経由して、ブラウザ(Internet Explorer)で表示するシステムの構築例について説明します。

付2.1 操作手順

インターネット/イントラネット環境を立ち上げるまでの手順を以下に示します。

**ポイント**

サンプルページを用いたテストが正常に動作しない環境では、MX Componentを利用したWebページでも正常に動作しません。通信回線の混み具合(トラフィック)やノイズなどを確認し、サンプルページが正常に動作するようにしてください。

付2.2 使用可能なパソコンの条件

Webサーバ、Webクライアントとして使用できるパソコンの条件を以下に示します。

(1) Webサーバとして使用できるパソコン（工場側）

Webサーバとして使用する場合、以下に示す条件1～4をすべて満たしたパソコンを使用してください。

	内 容
条件1	下記のいずれかのOSが動作していること。 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft® Windows® 98 Operating System ・Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 ・Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System ・Microsoft® Windows® XP Professional Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Home Premium Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Business Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Enterprise Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Ultimate Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Home Premium Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Professional Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Ultimate Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Enterprise Operating System
条件2	インターネットまたはイントラネットに接続できること。
条件3	インターネットにWebページを公開する場合は、ファイアウォールなどによって外部からのアクセスが禁止されていないこと。
条件4	MX Componentがインストールされていて、シーケンサCPUと通信を行うための設定がされていること。

(2) Webクライアントとして使用できるパソコン（事務所側）

Webクライアントとして使用する場合、以下に示す条件1、条件2を共に満たすパソコンを使用してください。

	内 容
条件1	下記のいずれかのOSが動作していること。 <ul style="list-style-type: none"> ・Microsoft® Windows® 95 Operating System ・Microsoft® Windows® 98 Operating System ・Microsoft® Windows® Millennium Edition Operating System ・Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0 ・Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System ・Microsoft® Windows® XP Professional Operating System ・Microsoft® Windows® XP Home Edition Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Home Basic Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Home Premium Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Business Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Ultimate Operating System ・Microsoft® Windows Vista® Enterprise Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Starter Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Home Premium Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Professional Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Ultimate Operating System ・Microsoft® Windows® 7 Enterprise Operating System
条件2	インターネットまたはイントラネットに接続できること。

付2.3 Webサーバのインストール方法

Webサーバのインストール方法は以下のとおりです。

(1) Windows® 98 使用時

Windows® 98のセットアップCDに格納されているPersonal Web Serverをインストールしてください。

CDドライブ：¥add-ons¥pws¥setup.exeにてインストールが行えます。

(2) Windows NT® Workstation 4.0 使用時

“Windows NT® Option Pack 4.0” を入手して、Peer Web Services 4.0をインストールしてください。

CDドライブ：¥setup.exeにてインストールが行えます。

(3) Windows® 2000 Professional 使用時

「コントロールパネル」－「アプリケーションの追加と削除」を起動して、Windowsコンポーネントの「インターネットインフォメーションサービス(IIS)」をインストールしてください。

インストール時には、Windows® 2000 ProfessionalセットアップCDが必要です。

(4) Windows® XP Professional 使用時

「コントロールパネル」－「プログラムの追加と削除」を起動して、Windowsコンポーネントの「インターネットインフォメーションサービス(IIS)」をインストールしてください。

インストール時には、Windows® XP ProfessionalセットアップCDが必要です。

(5) Windows Vista® およびWindows® 7 使用時

「コントロールパネル」－「プログラム」－「Windows機能の有効化または無効化」を起動して、「Internet Information Services」をインストールしてください。

ポイント
各OSに対応したWebサーバの詳しいインストール方法については、各OSに添付されているインストール手順を参照してください。

付2.4 インターネットアクセスアカウントの設定

Webサーバが動作しているパソコンOSがWindows NT® Workstation 4.0, Windows® 2000 Professional, Windows® XP Professional, Windows Vista® およびWindows® 7の場合は、インターネットアクセスアカウントに特別な権利の設定が必要となります。

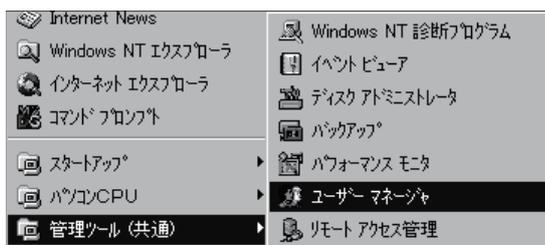
ポイント

Webサーバが動作しているパソコンOSがWindows® 98の場合は、本項の設定は不要です。

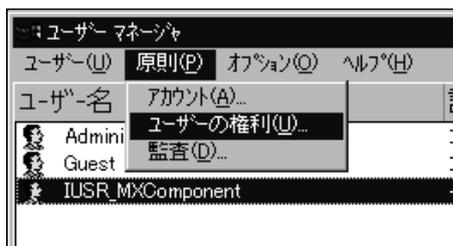
(1) Windows NT® Workstation 4.0を使用する場合

MX Componentを利用したActive Server Pages (ASP) ページを公開する場合は、IUSR_コンピュータ名(インターネットサーバ匿名アクセス)に「プログラムのデバッグ」権利を与える必要があります。

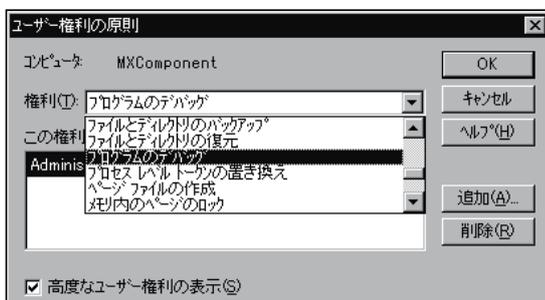
下記の手順にて設定してください。



- ① [スタート]—[プログラム]—[管理ツール(共通)]—[ユーザーマネージャ]メニューを選択します。



- ② ユーザーマネージャが起動しますので、[原則]—[ユーザーの権利]メニューを選択します。



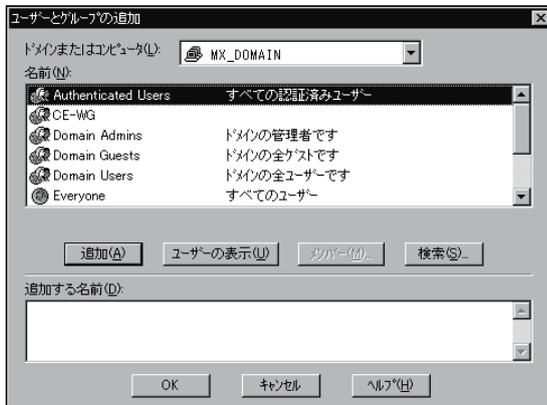
- ③ “高度なユーザー権利の表示”にチェックを入れ，“権利”のリストボックスから“プログラムのデバッグ”を選択します。

- ④ **追加(A)...** をクリックします。



(次のページへ)

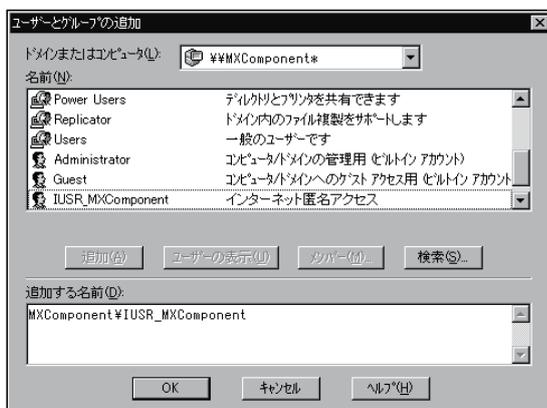
(前ページより)



⑤ “ユーザーとグループの追加” ダイアログボックスが表示されます。

このとき，“ドメインまたはコンピュータ”の表示がコンピュータ名 (Peer Web Server 4.0をセットアップしたコンピュータ名) になっていない場合は，コンピュータ名を選択します。

⑥ コンピュータ名が選択されている状態で，**ユーザーの表示 (U)** をクリックします。



⑦ “名前” リストボックスから，“IUSR_コンピュータ名 (インターネットサーバ匿名アクセス)” アカウントを選択し，**追加 (A)** をクリックします。

⑧ **OK** をクリックします。



⑨ アカウントが追加されていることを確認してから，パソコンの再起動を行います。

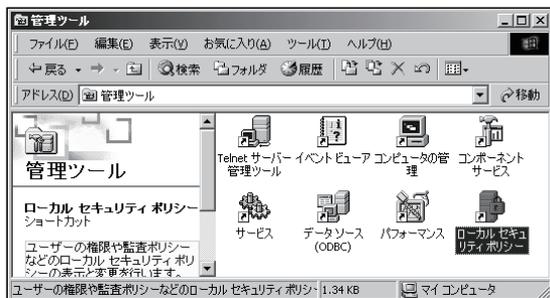


(設定完了)

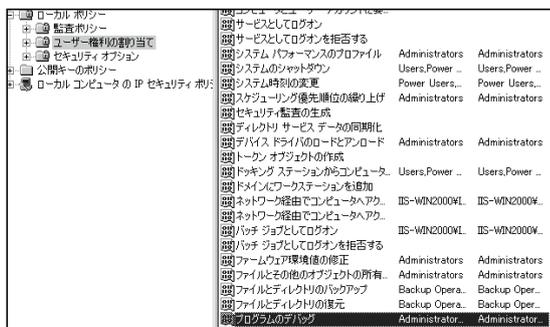
(2) Windows® 2000 Professionalを使用する場合

MX Componentを利用したActive Server Pages (ASP) ページを公開する場合は, IUSR_コンピュータ名(インターネットサーバ匿名アクセス)に「プログラムのデバッグ」権利を与える必要があります。

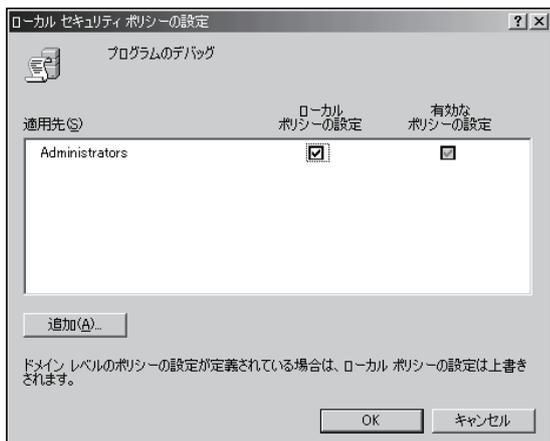
下記の手順にて設定してください。



① [管理ツール]の[ローカルセキュリティポリシー]を選択します。



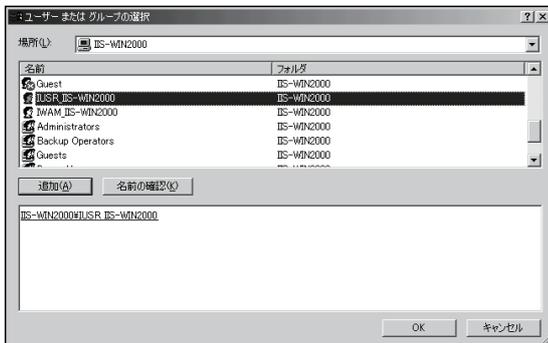
② ツリーの[ローカルポリシー]－[ユーザー権利の割り当て]の“プログラムのデバッグ”をダブルクリックします。



③ “ローカルセキュリティポリシーの設定”ダイアログボックスが表示されますので、追加(A)...をクリックします。

↓
(次のページへ)

(前ページより)

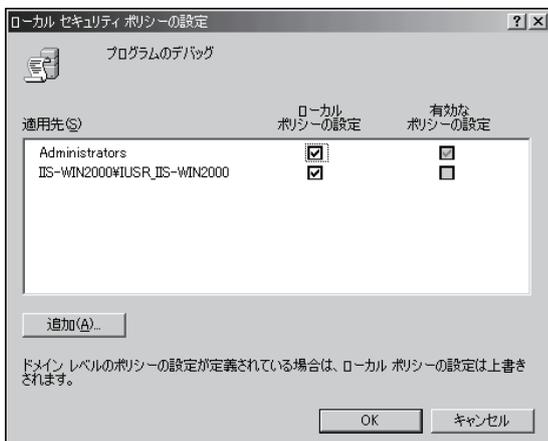


④ “ユーザーまたはグループの選択” ダイアログボックスが表示されます。

このとき、“場所” の表示がコンピュータ名（インターネットインフォメーションサービスをセットアップしたコンピュータ名）になっていない場合は、コンピュータ名を選択します。

⑤ “名前” リストボックスから、“IUSR_コンピュータ名（インターネットサーバ匿名アクセス）” アカウントを選択し、**追加(A)** をクリックします。

⑥ **OK** をクリックします。



⑦ アカウントが追加されていることを確認してから、パソコンの再起動を行います。



(設定完了)

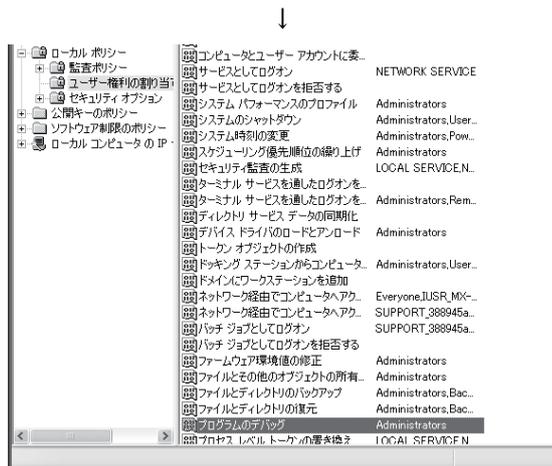
(3) Windows® XP Professionalを使用する場合

MX Componentを利用したActive Server Pages (ASP) ページを公開する場合は、IUSR_コンピュータ名(インターネットサーバ匿名アクセス)に「プログラムのデバッグ」権利を与える必要があります。

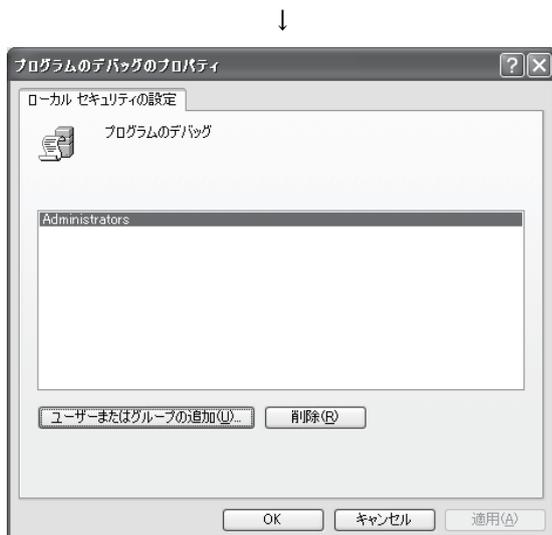
下記の手順にて設定してください。



① [管理ツール]－[ローカルセキュリティポリシー]を選択します。



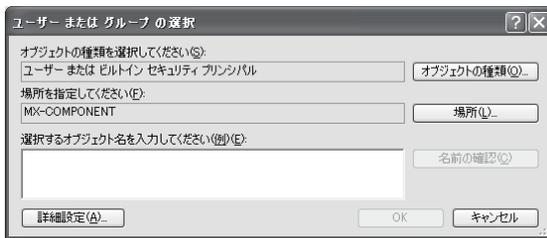
② ツリーの[ローカルポリシー]－[ユーザー権利の割り当て]の“プログラムのデバッグ”をダブルクリックします。



③ “プログラムのデバッグのプロパティ”ダイアログボックスが表示されますので、**ユーザまたはグループの追加(U)...**をクリックします。

↓
(次のページへ)

(前ページより)



④ “ユーザーまたはグループの選択” ダイアログボックスが表示されます。

このとき，“場所”の表示がコンピュータ名（インターネットインフォメーションサービスをセットアップしたコンピュータ名）になっていない場合は，コンピュータ名を選択します。

上記設定を確認後，**詳細設定(A)...**をクリックします。



⑤ **今すぐ検索(N)**をクリックし，“名前”リストボックスから，“IUSR_コンピュータ名（インターネットサーバ匿名アクセス）”アカウントを選択して**OK**をクリックします。



⑥ アカウントが追加されていることを確認してから，パソコンの再起動を行います。

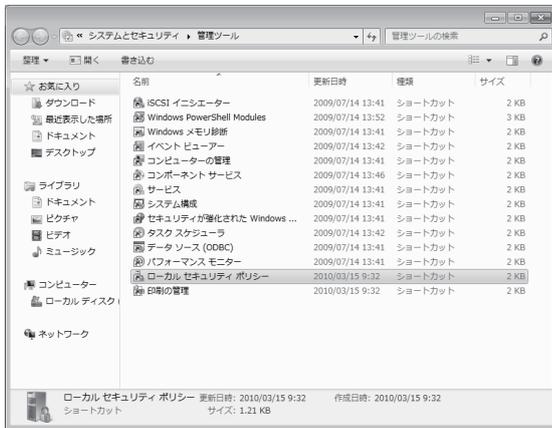


(設定完了)

(4) Windows Vista® およびWindows® 7を使用する場合

MX Componentを利用したActive Server Pages (ASP) ページを公開する場合は、IUSR に「プログラムのデバッグ」権利を与える必要があります。

下記の手順にて設定してください。



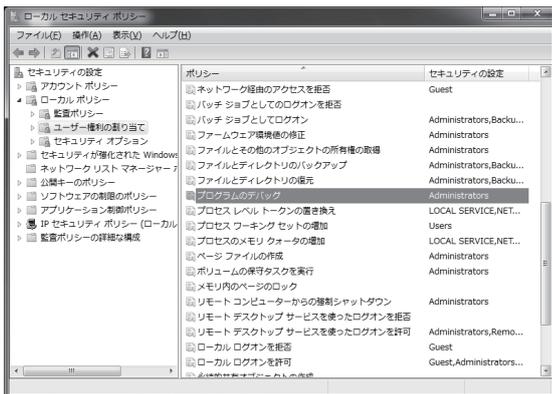
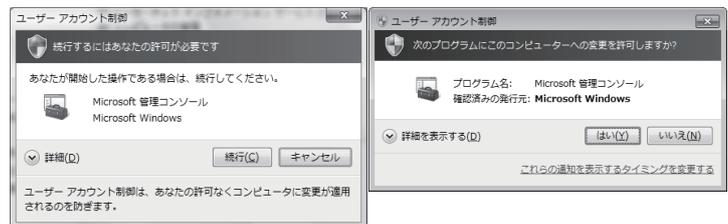
① [管理ツール]—[ローカルセキュリティポリシー]を選択します。

* ユーザーアカウント制御が有効な場合は以下の画面が表示されます。

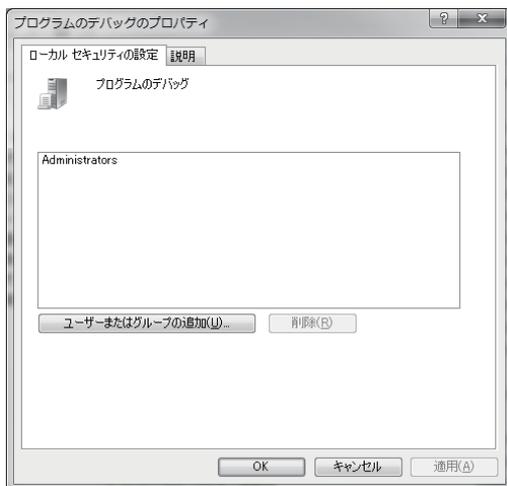
「続行(C)」または「はい(Y)」をクリックします。

<Windows Vista® 使用時>

<Windows® 7使用時>



② ツリーの[ローカルポリシー]—[ユーザー権利の割り当て]の“プログラムのデバッグ”をダブルクリックします。

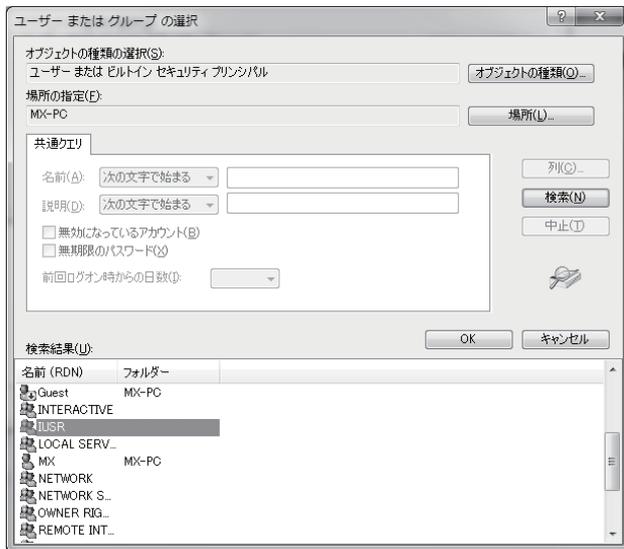
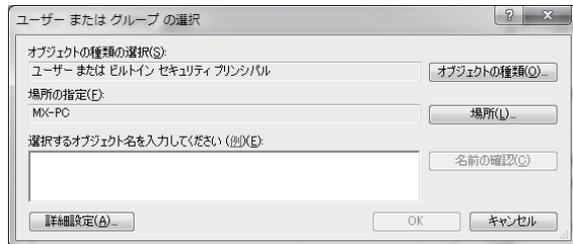


③ “プログラムのデバッグのプロパティ” ダイアログボックスが表示されますので、「ユーザーまたはグループの追加(U)…」をクリックします。



(次のページへ)

(前ページより)



(設定完了)

- ④ “ユーザーまたはグループの選択” ダイアログボックスが表示されます。

このとき、“場所”の表示がコンピュータ名（インターネットインフォメーションサービスをセットアップしたコンピュータ名）になっていない場合は、コンピュータ名を選択します。

上記設定を確認後、**詳細設定(A)...**をクリックします。

- ⑤ **検索(N)**をクリックし、“名前”リストボックスから、“IUSR”アカウントを選択して**OK**をクリックします。

Windows Vista® 使用時は、**今すぐ検索(N)**をクリックしてください。

- ⑥ アカウントが追加されていることを確認してから、パソコンの再起動を行います。

付2.5 Webページの公開

Webページをインターネット／イントラネットで公開するためには、フォルダをWeb共有にする必要があります。

フォルダをWeb共有する手順を以下に示します。

なお、WebサーバのOSにより画面が若干異なりますが、設定手順は同様です。

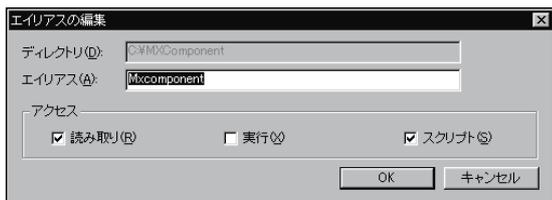
- (1) Microsoft® Windows® 98 Operating System,
Microsoft® Windows NT® Workstation Operating System Version 4.0,
Microsoft® Windows® 2000 Professional Operating System,
Microsoft® Windows® XP Professional Operating Systemを使用する場合



- ① エクスプローラを起動して、公開するWebファイル(*.html, *.asp)が格納されている任意のフォルダを右クリックします。



- ② プロパティ画面が表示されますので、「Web共有」タブを選択し、「このフォルダを共有する」を選択します。



- ③ “エイリアスの編集” ダイアログボックスが表示されますので、エイリアスを変更する場合はここで変更します。

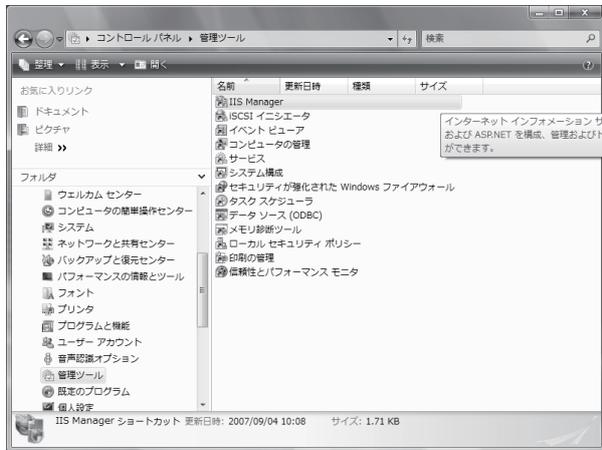
エイリアスとは、WebブラウザにてURLを指定する場合の下線部分にあたります。

http://**. **. **. **/Mxcomponent/NetTest.asp



(設定完了)

(2) Windows Vista® を使用する場合



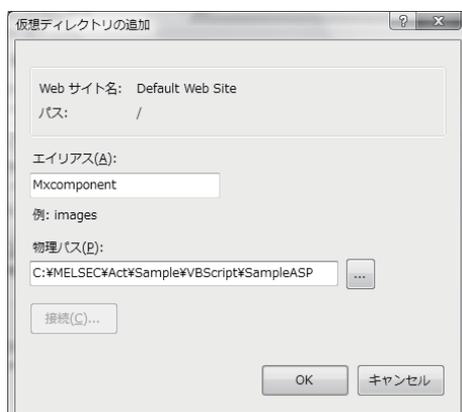
- ① [コントロールパネル] - [クラシック表示] - [管理ツール] - [インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ] をダブルクリックします。

* ユーザーアカウント制御が有効な場合は以下の画面が表示されます。

[続行(C)] をクリックします。



- ② インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャが起動されるので、[接続] ウィンドウのツリーを展開し、「Default Web Site」を右クリックし、「仮想ディレクトリの追加」をクリックします。



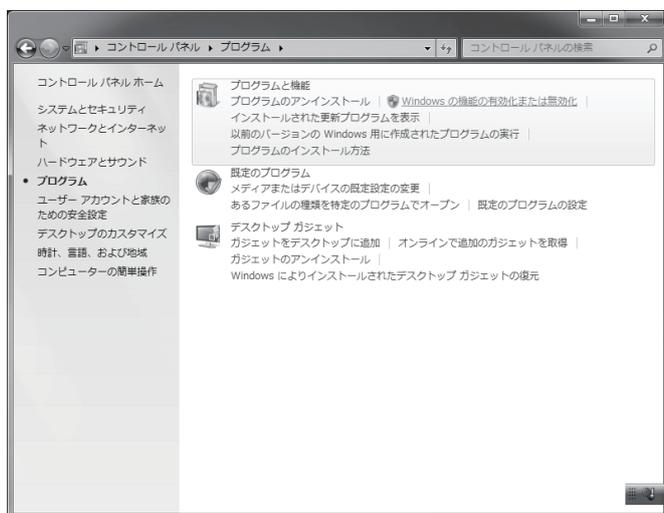
(設定完了)

- ③ “仮想ディレクトリの追加” ダイアログボックスが表示されますので、「エイリアス」に任意の名前を指定し、「物理パス」に公開するフォルダのパス名を指定して [OK] をクリックします。

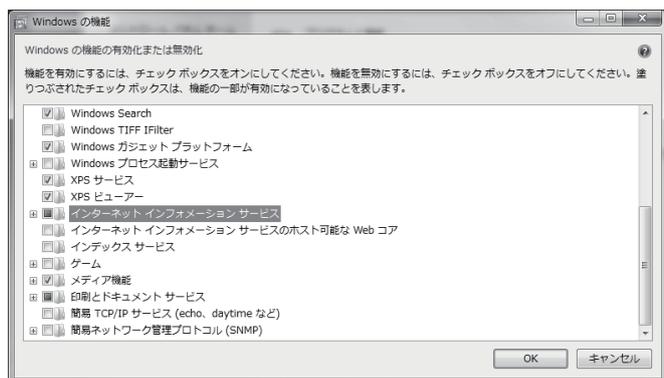
エイリアスとは、WebブラウザにてURLを指定する場合の下線部分にあたります。

http://**.**.**.*/Mxcomponent/NetTest.asp

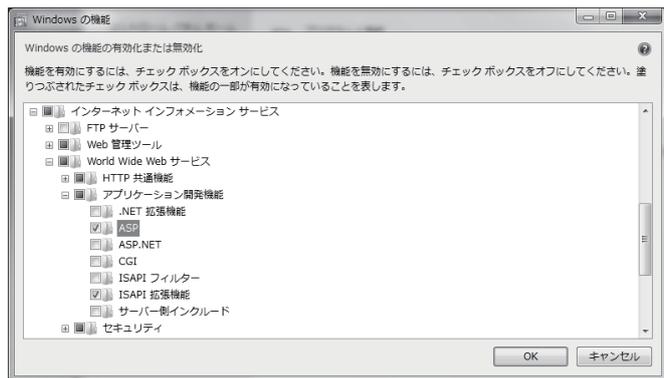
(3) Windows® 7を使用する場合



① [コントロールパネル] - [プログラム] - [Windows の有効化または無効化] を選択します。



② [インターネットインフォメーションサービス] にチェックを入れます。



③ [インターネットインフォメーションサービス] - [World Wide Webサービス] - [アプリケーション開発機能] のツリーを展開し、“ASP” にチェックを入れて **OK** をクリックします。

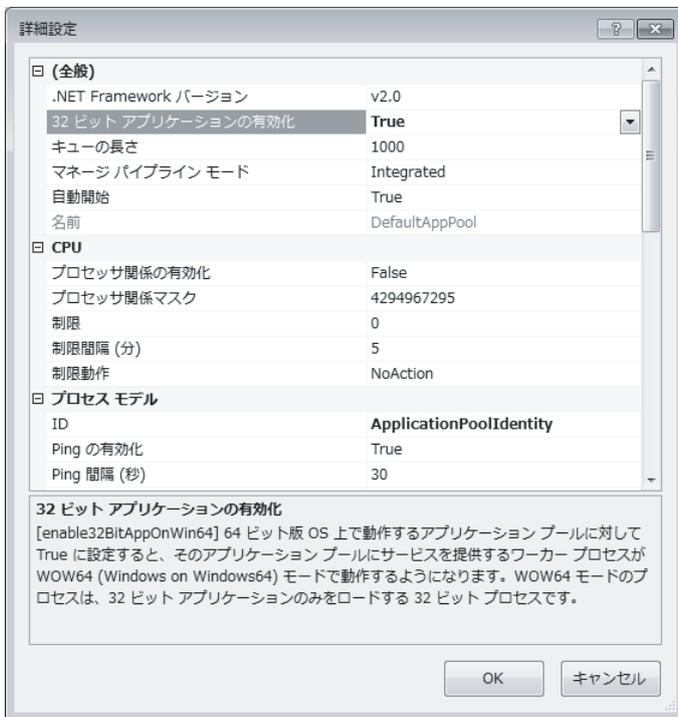
*Windows® 7 (64ビット版) を使用する場合は、次ページの設定も行ってください。

(設定完了)

(4) Windows® 7 (64ビット版) を使用する場合



- ① [スタート]–[管理ツール]–[インターネット インフォメーション サービス (IIS) マネージャー] を起動し、左側のペインから [アプリケーション プール] を選択します。変更するアプリケーション プールを選択し、右側のペインから [詳細設定] を選択します。



- ② [32ビット アプリケーションの有効化] を “True” に設定し、**OK** をクリックします。



(設定完了)

付2.6 Webサーバに正常にアクセスできるかを確認する

インターネット経由にて確認を行う場合は、Webサーバをインストールしたパソコンをインターネットに接続する必要があります。

Webサーバがインターネット/イントラネットに接続されたことを確認後、Webクライアント側のパソコンでWebブラウザ(Internet Explorer)を起動して次のようにURLを入力し、Webページが正常に表示されることを確認してください。

(URL入力例) `http://10.97.85.10/Mxcomponent/NetTest.asp`

↑ WebサーバのIPアドレス

↑ 付2.5にて設定したエイリアス

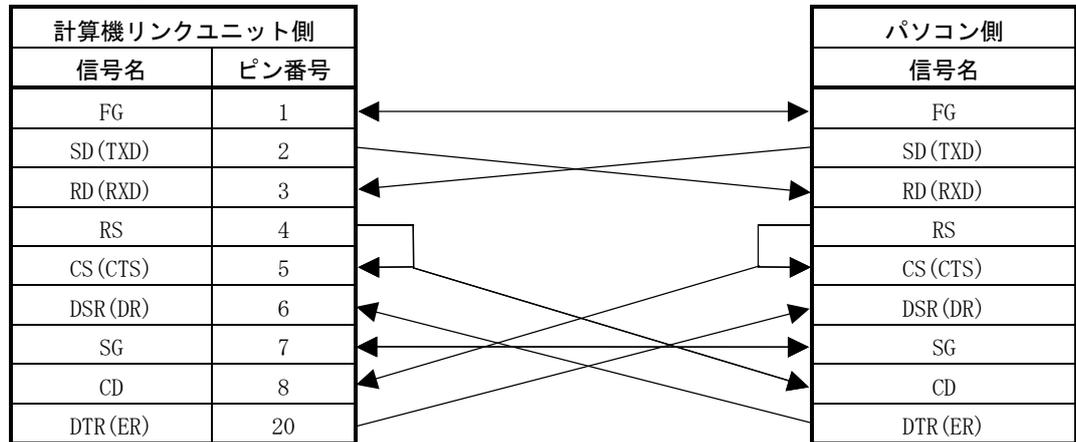
NetTest.aspはMX Componentが提供しているWebサーバ動作確認用テストページです。Webブラウザ上に、サーバのシステム日時が表示されることを確認してください。

ポイント
(1) NetTest.aspへ正常にアクセスできない場合は、MX Componentを使用したWebページへもアクセスできません。 このような場合は、Webサーバの設定やWebクライアントのブラウザの設定を再度確認してください。 また、各設定は正しい場合でも、通信回線の混雑度などにより正常に通信が行えないため、Webページが表示できない場合もあります。 この場合は、通信回線の状態を確認してください。
(2) NetTest.aspは、下記のフォルダに格納されています。 [ユーザ指定フォルダ] - [Act] - [Sample] - [VBScript] - [SampleASP]

付3 計算機リンク通信をする場合のRS-232ケーブルの配線例

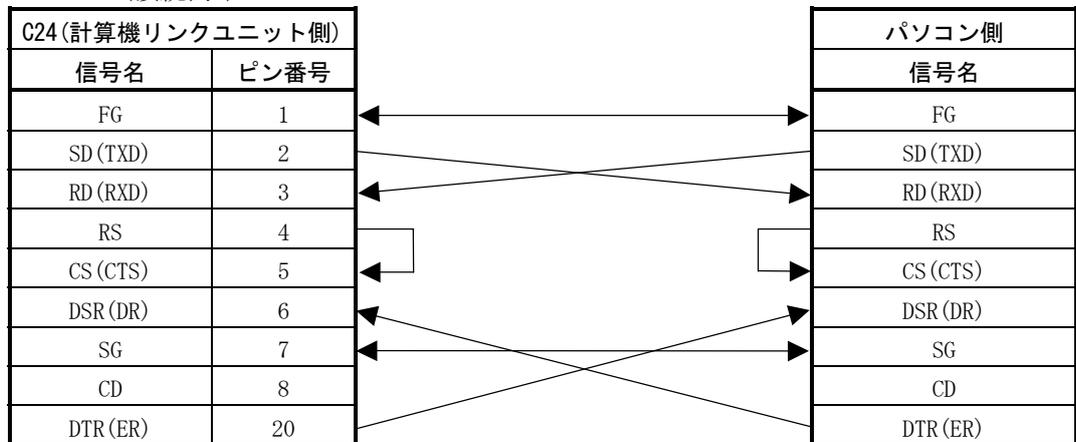
付3.1 Aシリーズの場合

(1) C24(計算機リンクユニット)が25ピンコネクタの場合
(接続例1)

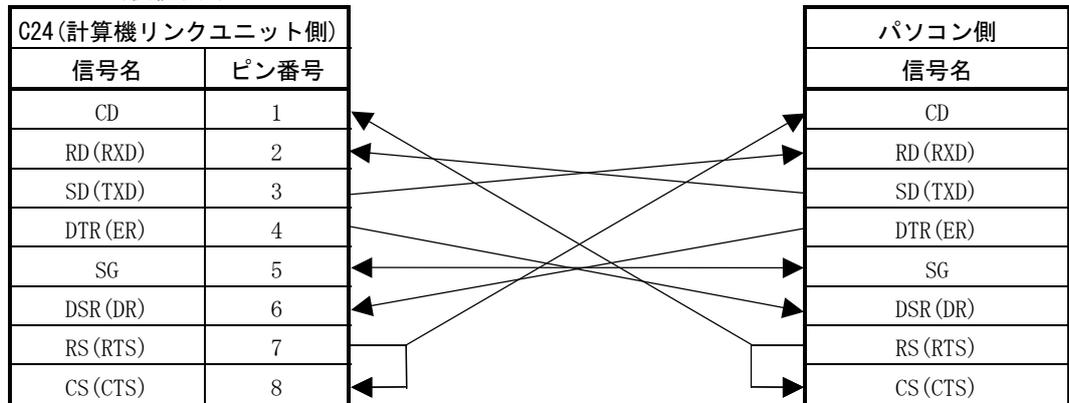


下記接続で交信を行う場合、CD信号の接続は不要です。RS-232 CD端子チェック設定（バッファメモリのアドレス10BHで設定）は、CD端子チェックなし（1を書き込む）を設定してください。

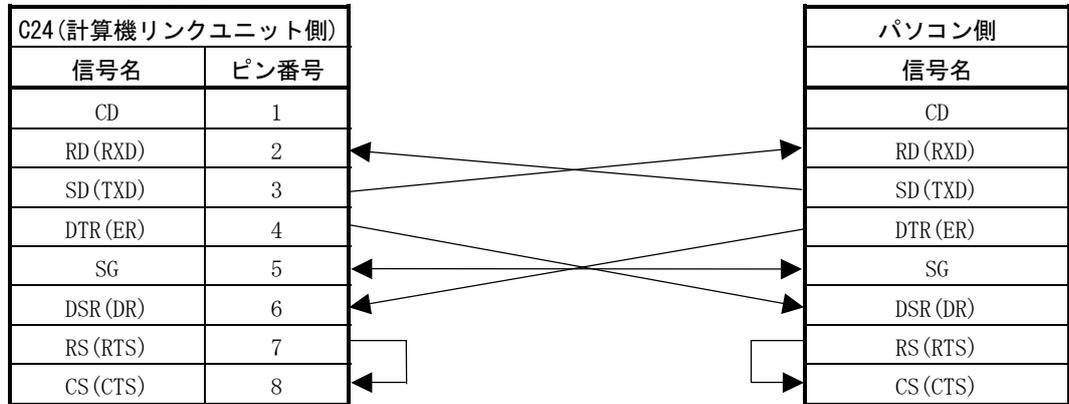
(接続例2)



(2) C24(計算機リンクユニット)が9ピンコネクタの場合
(接続例1)



(接続例2)



* 上図のように、C24(計算機リンクユニット)のDTR信号およびDSR信号を外部機器と接続することにより、DCコード制御またはDTR/DSR制御が可能となります。

付3.2 QnAシリーズの場合

(1) 大形QC24(N)の場合

(a) CD信号(8番ピン)をON/OFFできる接続例

大形QC24(N)側		ケーブル接続と信号方向 (全二重/半二重通信用)	パソコン側
信号名	ピン番号		信号名
FG	1		FG
SD(TXD)	2		SD(TXD)
RD(RXD)	3		RD(RXD)
RS	4		RS
CS(CTS)	5		CS(CTS)
DSR(DR)	6		DSR(DR)
SG	7		SG
CD	8		CD
DTR(ER)	20		DTR(ER)

本配線接続する場合は、QC24(N)の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

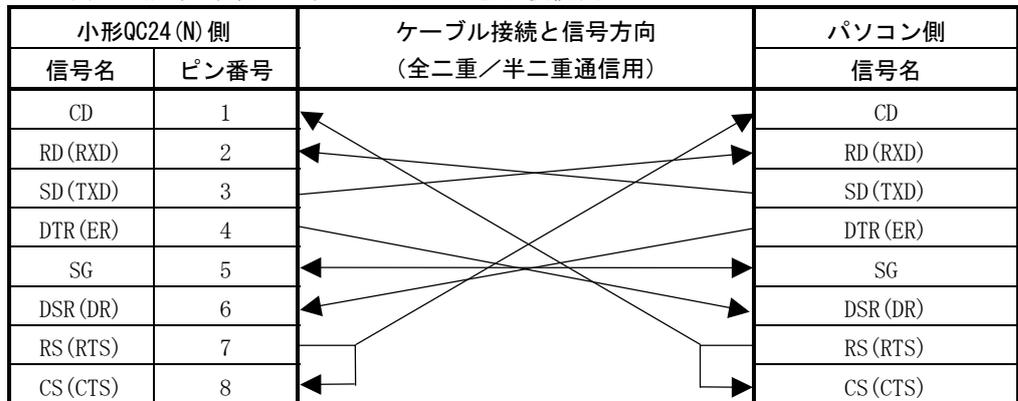
(b) CD信号(8番ピン)をON/OFFできない接続例

大形QC24(N)側		ケーブル接続と信号方向 (全二重通信用)	パソコン側
信号名	ピン番号		信号名
FG	1		FG
SD(TXD)	2		SD(TXD)
RD(RXD)	3		RD(RXD)
RS	4		RS
CS(CTS)	5		CS(CTS)
DSR(DR)	6		DSR(DR)
SG	7		SG
CD	8		CD
DTR(ER)	20		DTR(ER)

本配線接続する場合は、QC24(N)の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

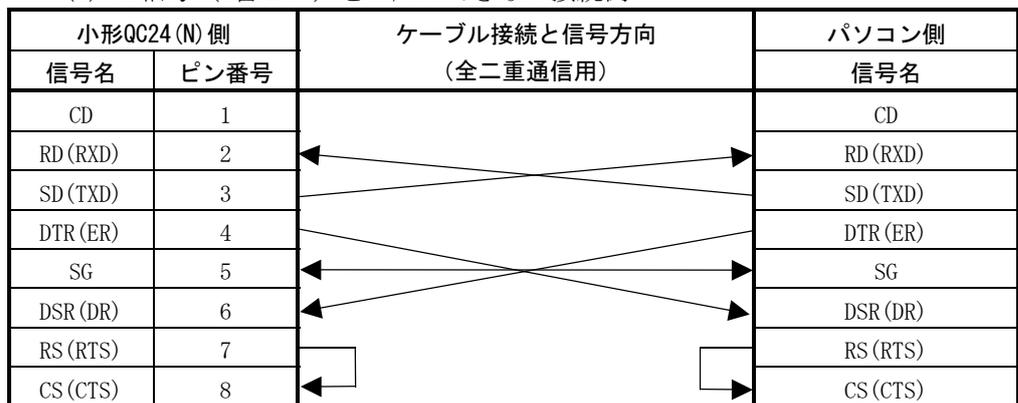
(2) 小形QC24 (N) の場合

(a) CD信号 (1番ピン) をON/OFFできる接続例



本配線接続する場合は、QC24(N) の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

(b) CD信号 (1番ピン) をON/OFFできない接続例



本配線接続する場合は、QC24(N) の伝送制御としてDCコード制御またはDTR/DSR制御を行うことが可能です。

付3.3 Qシリーズの場合

コネクタ仕様を以下に示します。

ピン番号	信号名		信号方向
			Qシリーズ対応C24←→パソコン
1	CD	受信キャリア検出	←
2	RD (RXD)	受信データ	←
3	SD (TXD)	送信データ	→
4	DTR (ER)	データターミナルレディ	→
5	SG	送信グラウンド	←
6	DSR (DR)	データセットレディ	←
7	RS (RTS)	送信要求	→
8	CS (CTS)	送信可	←
9	RI (CI)	被呼表示	←

(1) CD信号(1番ピン)をON/OFFできる接続例

Qシリーズ対応C24側		ケーブル接続と信号方向 (全二重/半二重通信用接続例)	パソコン側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD (RXD)	2		RD (RXD)
SD (TXD)	3		SD (TXD)
DTR (ER)	4		DTR (ER)
SG	5		SG
DSR (DR)	6		DSR (DR)
RS (RTS)	7		RS (RTS)
CS (CTS)	8		CS (CTS)
RI (CI)	9		

(2) CD信号(1番ピン)をON/OFFできない接続例

DCコード制御またはDTR/DSR制御を行うときの接続例

Qシリーズ対応C24側		ケーブル接続と信号方向 (全二重通信用接続例)	パソコン側
信号名	ピン番号		信号名
CD	1		CD
RD (RXD)	2		RD (RXD)
SD (TXD)	3		SD (TXD)
DTR (ER)	4		DTR (ER)
SG	5		SG
DSR (DR)	6		DSR (DR)
RS (RTS)	7		RS (RTS)
CS (CTS)	8		CS (CTS)
RI (CI)	9		

付3.4 FXシリーズの場合

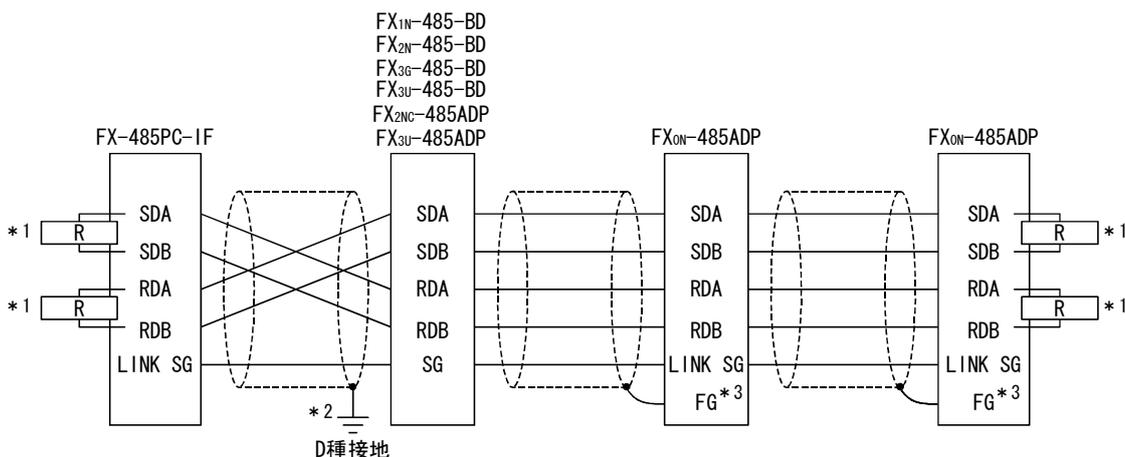
パソコンとFX拡張ポートの接続例を以下に示します。

FX-485PC-IF変換器の詳細については、「FXシリーズユーザーズマニュアル[通信制御編]」を参照してください。

(1) パソコンとFX-485PC-IF変換器間のRS-232ケーブル接続例

パソコン側 信号名	ケーブル接続と信号方向 (全二重/半二重通信用)	FX-485PC-IF側	
		信号名	ピン番号
SD (TXD)	→	SD (TXD)	2
RD (RXD)	←	RD (RXD)	3
RS (RTS)	→	RS (RTS)	4
CS (CTS)	←	CS (CTS)	5
DR (DSR)	→	DR (DSR)	6
SG (GND)	←	SG (GND)	7
ER (DTR)	→	ER (DTR)	20

(2) FX-485PC-IF変換器とFX拡張ポート間の接続例 (2ペア配線の場合)



- *1: R は、終端抵抗を示します。
終端抵抗は、必ず回線の両端に設けてください。
(2ペア配線時は330Ω 1/4Wの終端抵抗を使用します。)
FX_{3G}-485-BD, FX_{3U}-485-BD, FX_{3U}-485ADPは、終端抵抗を内蔵しています。
終端抵抗を切換えスイッチにより設定してください。
FX_{0N}-485ADP, FX_{1N}-485-BD, FX_{2N}-485-BD, FX_{2NC}-485ADPは、付属の終端抵抗を使用してください。
- *2: FX_{1N}-485-BD, FX_{2N}-485-BD, FX_{2NC}-485ADP, FX_{3G}-485-BD, FX_{3U}-485-BD, FX_{3U}-485ADPに接続されるシールド線のシールドは、必ずD種接地してください。
- *3: FG端子は、必ずD種接地されたシーケンサ本体のアース端子に接続してください。

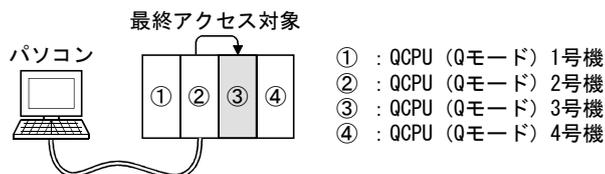
付4 マルチCPUシステムについて

マルチCPUの号機指定は、最終アクセス局に対してのみ有効となります。

また、アクセス局の経由ユニットの非管理CPUへアクセスする場合は、自局、すべての中継局およびアクセス局の経由ユニットとQCPU（Qモード）を機能バージョンBのユニットにしてください。

(例1) CPU COM通信の場合

シーケンサCPUの3号機(0x3E2)を指定してアクセスした場合は、③のCPUに対してアクセスします。

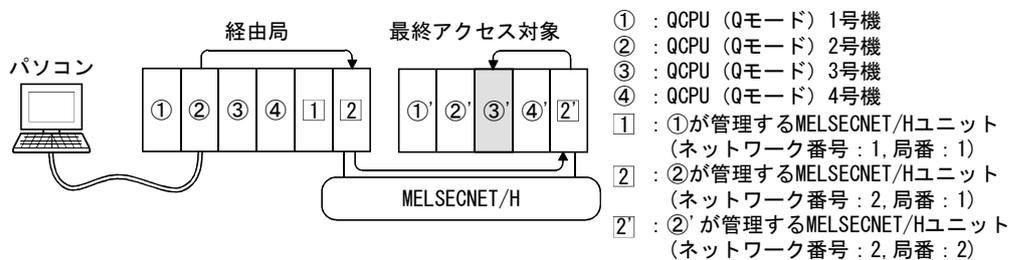


(例2) CPU COM通信 (MELSECNET/H経由) の場合

シーケンサCPUの3号機(0x3E2), ネットワーク番号: 2, 局番: 2を指定してアクセスした場合は、③' のCPUに対してアクセスします。

経由局に対しては、CPU号機指定はできません。

したがって、下記の場合にネットワーク番号: 1に対してアクセスしても、②のCPUに管理されたネットワーク番号は“2”しか存在しないため、エラーとなります。



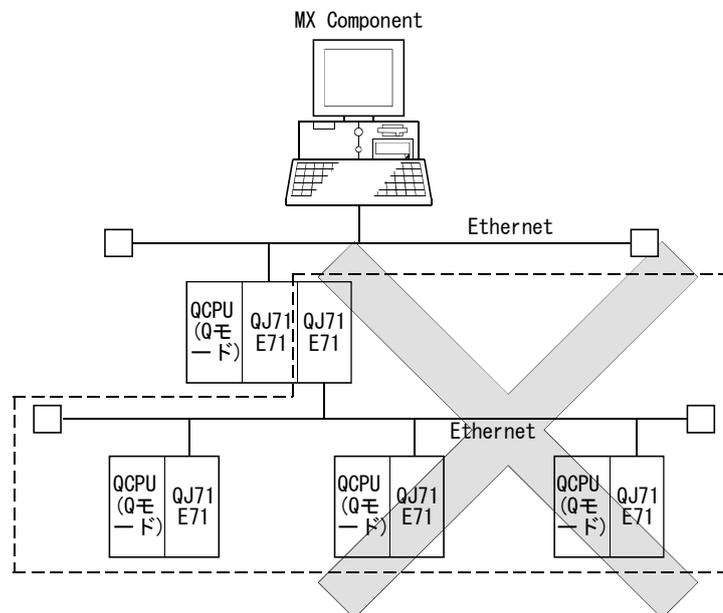
付5 Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU使用時のネットワークユニットの装着可能枚数について

Q00JCPU, Q00UJCPU, Q00CPU, Q00UCPU, Q01CPU, Q01UCPU使用時に接続できるネットワークユニットの装着可能枚数を以下に示します。

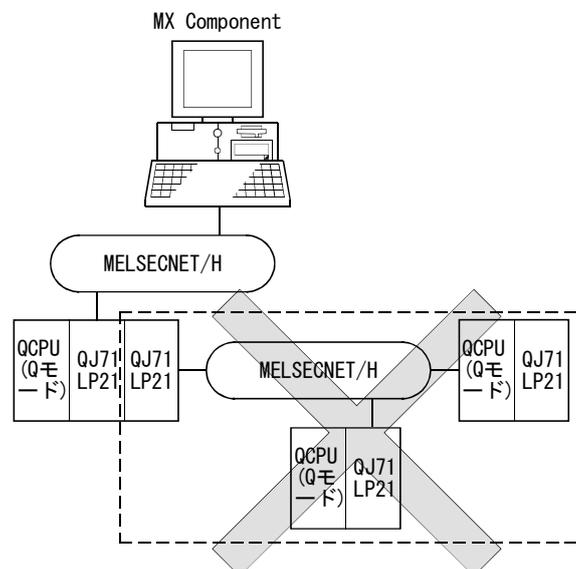
ネットワークユニット	装着可能枚数
MELSECNET/Hユニット	1枚
Ethernetユニット	1枚
CC-Linkユニット (機能バージョンB以降品)	2枚
CC-Link IEコントローラネットワークユニット	1枚

したがって、下記のようなシステムは構築することができません。

(例1) Ethernetユニットは装着可能枚数が1枚のため、破線部のシステム構築は不可。

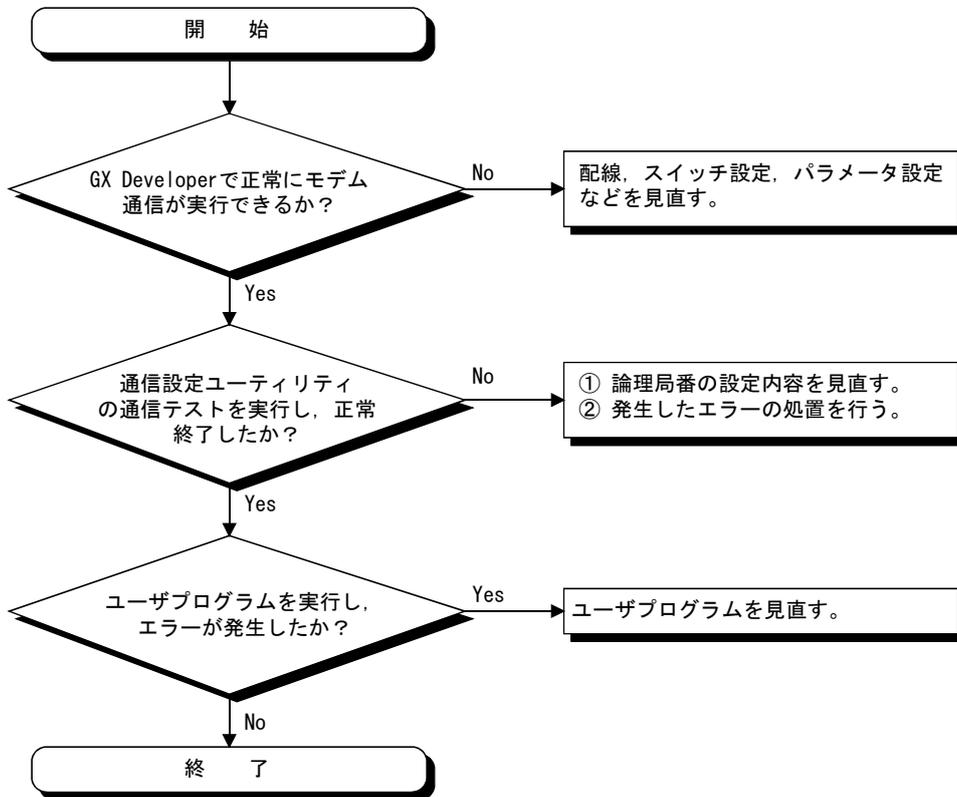


(例2) MELSECNET/Hユニットは装着可能枚数が1枚のため、破線部のシステム構築は不可。



付6 モデム通信時にアクセスできない場合のフロー

モデム通信を使用してシーケンサCPUへアクセスできない場合、下記フローを参考に対処を行ってください。



付7 二重化CPUへの対応について

MX Componentの二重化CPU(Q12PRHCPU, Q25PRHCPU)への対応について説明します。

(1) 二重化CPU指定

二重化CPU指定*1では、「制御系」, 「指定なし」のいずれかを選択して, 対応する二重化CPUにアクセスすることができます。

制御系 : 制御系に接続し, 系切替えに追従して制御系へのアクセスを継続します。

指定なし : 従来と同様に, 接続先のシーケンサCPUに接続します。

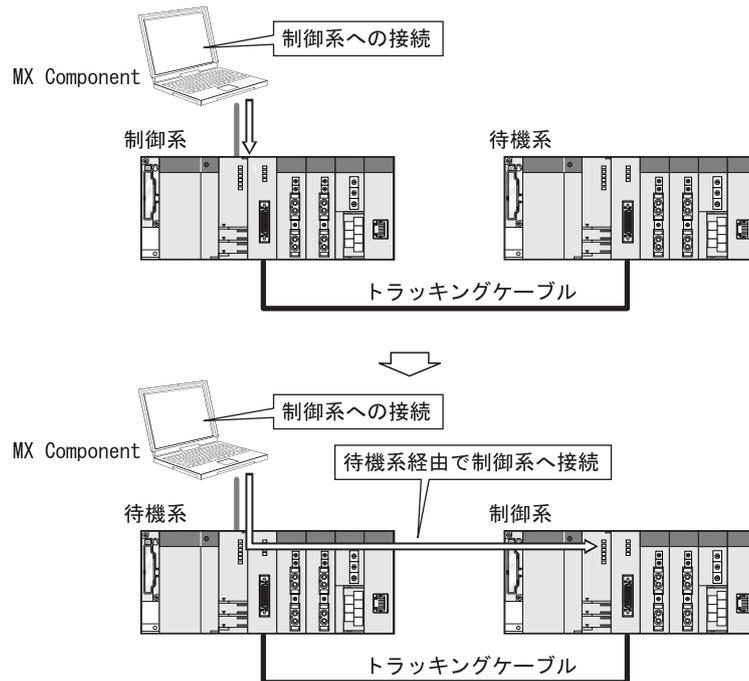
*1 : 二重化CPU指定の設定は, ユーティリティ設定タイプの通信設定ウィザード画面によるものと, プログラム設定タイプのコントロールのプロパティによるものがあります。

ポイント					
MX Componentが二重化CPUシステムにアクセスしている場合, どちらの系にアクセスしているかを判断するには, 以下に示す特殊リレーをモニタしてください。					
(1) A系/B系のどちらであるかを確認するとき					
SM1511	A系判別フラグ	・二重化システムのA系/B系を示す。 ・トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しない。			
			A系	B系	TRK. CABLE ERR. (エラーコード : 6120) 発生時(系未決定)
SM1512	B系判別フラグ	SM1511	ON	OFF	OFF
		SM1512	OFF	ON	OFF
(2) 運転系状態を確認するとき					
SM1515	運転系状態	・CPUユニットの運転状態を示す。 ・トラッキングケーブルが途中で抜けても変化しない。			
			制御系	待機系	TRK. CABLE ERR. (エラーコード : 6120) 発生時(系未決定)
SM1516	運転系状態	SM1515	ON	OFF	OFF
		SM1516	OFF	ON	OFF

(2) 系切替えが発生したときの動作

「制御系」を選択して二重化CPUにアクセスしているときに系切替えが発生した場合は、次のようにアクセスを継続します。

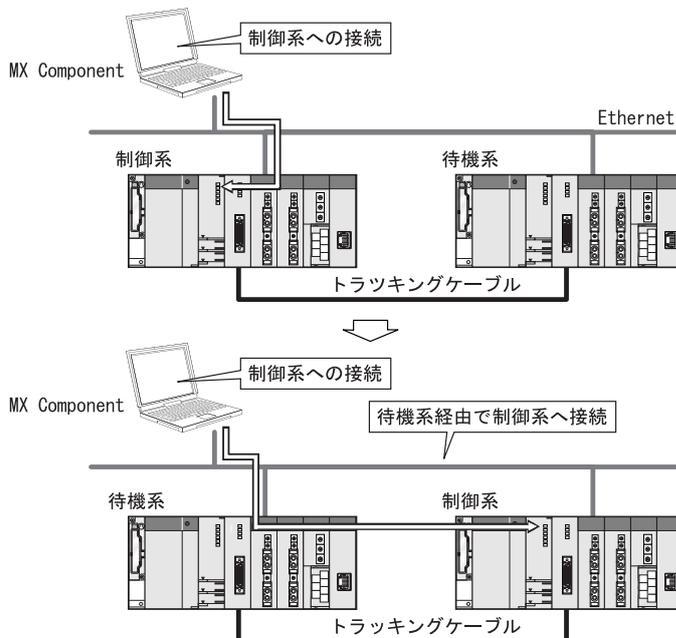
- (a) MELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワーク以外で接続している場合
系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。
CPU直結時の例を以下に示します。



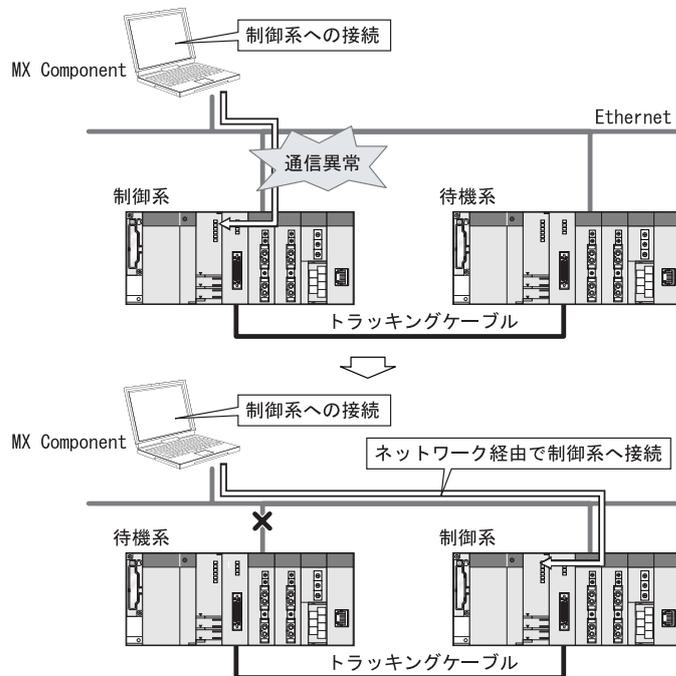
(b) MELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワークに接続している場合
 通信異常の有無により、以下のように系切替え後の制御系へのアクセスを継続します。

Ethernet接続時の例を以下に示します。

<通信が正常に行われているとき>



<通信異常が発生したとき>



ポイント
 Ethernet接続の場合、通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間がかかる場合があります。

(3) 通信経路の自動切替え

制御系指定でMELSECNET/H, Ethernet, CC-Link IEコントローラネットワークに接続されている二重化CPUに対してアクセスしている場合、通信異常が発生すると通信経路を自動的に切り替え、制御系へのアクセスを継続します。

この通信経路の自動切替えを以下、経路切替えと言います。

以下に、経路切替えが行われる条件、経路切替え発生有無の確認方法と経路切替えによるアクセス例を示します。

(a) 経路切替えが行われる条件

以下の条件でアクセスしているときは、通信異常が発生しても経路切替えにより、二重化CPUへのアクセスが継続されます。

	アクセスの継続が可能な条件
運転モード	バックアップモード、セパレートモード
二重化CPU指定	制御系

ただし、通信を開始時にトラッキング異常*が発生していた場合、その後にトラッキングが復旧しても、経路切替えによる制御系へのアクセスの継続は行われません。

*1：どちらか一方の二重化CPUが電源OFFまたはリセット状態も含まれます。

(b) 経路切替え発生有無の確認方法と経路切替えによるアクセス例

① 経路切替え発生有無の確認方法

二重化CPU指定で通信している場合、通信異常の発生による経路切替えで通信が継続されているか否かを推測することができます。

<モニタする特殊リレー・特殊レジスタと推測される経路切替えの可能性>

SM1600*1	SD1590*2	SD1690*2	経路切替えの発生の可能性	参照
OFF	いずれかが0以外		ネットワークユニットからの系切替え要求が検出されたため、経路切替えが行われた可能性があります。	② 図1
ON	0	0	他系異常が発生しているため、経路切替えが行われた可能性があります。	② 図2
ON	いずれかが0以外		他系異常が発生している、もしくはネットワークユニットからの系切替え要求が検出されたため経路切替えが行われた可能性があります。	② 図2 ② 図1

*1：SM1600がONしていても、トラッキングケーブル経由でCPUにアクセスしていない場合は、経路切替えは発生しません。

*2：Ethernetに接続されている二重化CPUに対して、SM1600, SD1590, SD1690により経路切替えの発生の有無を推測するときは、GX Developerのネットワークパラメータの二重化設定で以下の項目をチェックしてください。

- ・断線検出で系切替え要求を発行する
- ・通信異常で系切替え要求を発行する

上記特殊リレーと特殊レジスタの状態をもとに以下の確認を行い、異常の要因を取り除いてください。

- ・二重化CPUでエラーが発生していないか。
- ・トラッキングケーブルの状態、およびトラッキングケーブルが正しく接続されているか。
- ・該当ネットワークユニットでエラーが発生していないか、および該当ネットワークユニットが接続されているネットワークでエラーが発生していないか。

② 経路切替えによるアクセス例

Ethernet接続にて制御系へアクセスしている場合の経路切替えの例を以下に示します

<通信異常で系切替えが発生した場合>

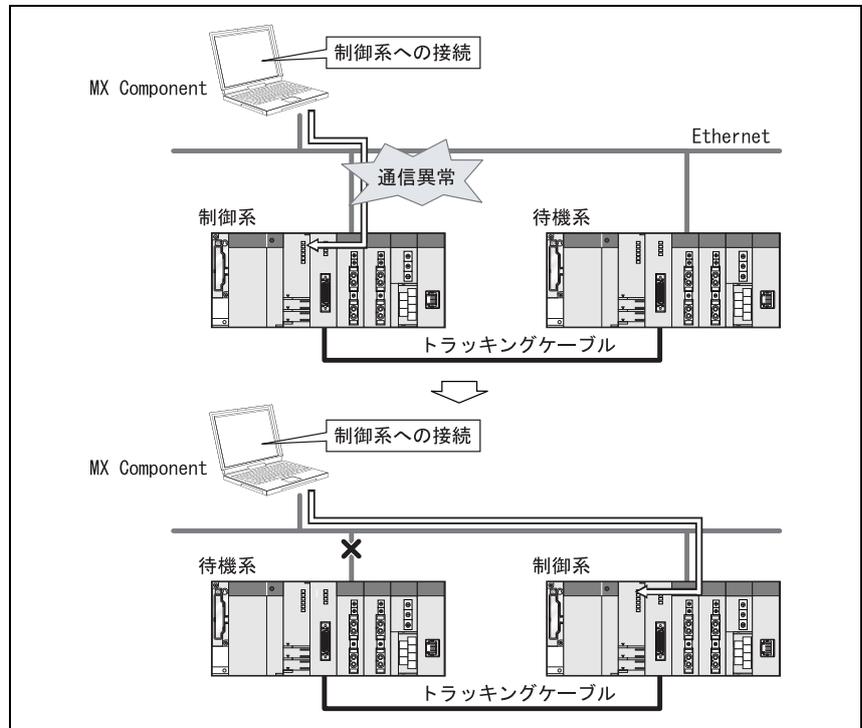


図1 経路切替え例1

<待機系異常が発生した場合>

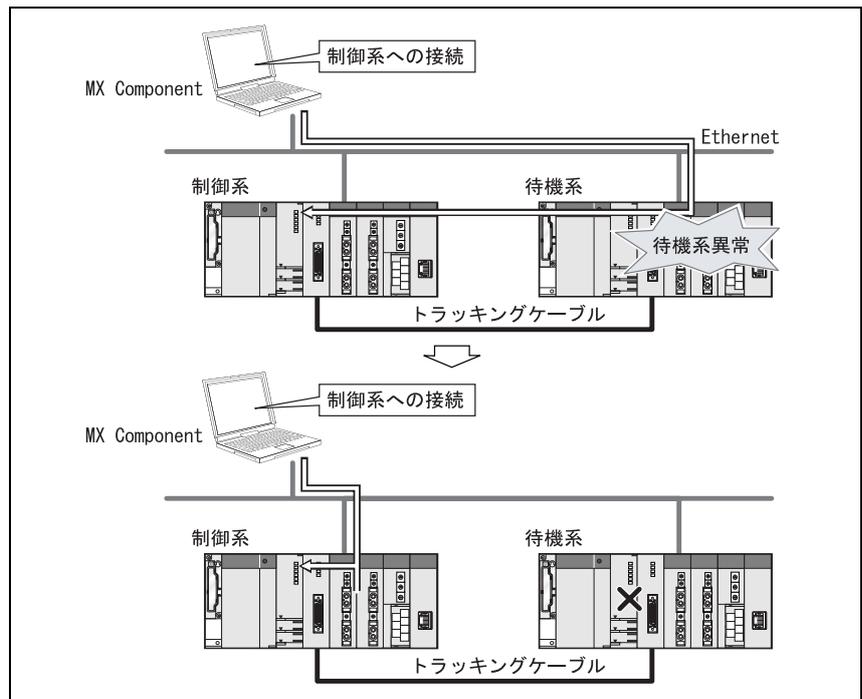


図2 経路切替え例2

ポイント
<ul style="list-style-type: none"> 通信を開始する時点で相手先指定の二重化CPUに対して通信異常が発生している場合は、経路切替えが行われません。(通信エラーとなります。) Ethernet接続の場合、通信異常の発生から制御系へ接続して通信を開始するまでに、時間が掛かる場合があります。 通信異常が発生している場合は、(3) 通信経路の自動切替えの(b)を参照し、通信の障害を取り除いてください。

備 考

経路切替えの発生の有無を推測するときにモニタする特殊リレー、特殊レジスタの詳細を示します。

番号	名称	内容	内容詳細
SM1600	他系異常フラグ	OFF : 異常なし ON : 異常あり	<ul style="list-style-type: none"> 二重化システム用エラーチェックでエラーが生じればONする。(SD1600のいずれかのビットONでONする。) 以後、異常がなくなればOFFする。
SD1590	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	<ul style="list-style-type: none"> 自系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニットNo. ごとに下記ビットがONする。 ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いたあと、システムにてOFFする。 <div style="text-align: center;"> <p>各ビット 0 : OFF 1 : ON</p> <p>ユニット0 : CPUユニットは2スロット品のため無効 ユニット1 : CPUユニットの右隣のユニット } ユニット11 : 12スロットベース(Q312B)の最右端のユニット</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo. はSD1690を参照する。
SD1690	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	他系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo.	<ul style="list-style-type: none"> 他系のネットワークユニットからの系切替え要求が発行されたユニットNo. ごとに下記ビットがONする。 ユーザにより該当ユニットの異常を取り除いたあと、システムにてOFFする。 <div style="text-align: center;"> <p>各ビット 0 : OFF 1 : ON</p> <p>ユニット0 : CPUユニットは2スロット品のため無効 ユニット1 : CPUユニットの右隣のユニット } ユニット11 : 12スロットベース(Q312B)の最右端のユニット</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 自系のネットワークユニットからの系切替え要求発行ユニットNo. はSD1590を参照する。

(4) 組合せ可否表

二重化増設ベース(Q65WRB)経由の通信をサポートします。
組合せの可否を以下に示します。

品名	型名	機能バージョン	組合せ可否	
			基本ベース装着の場合	増設ベース装着の場合
MELSECNET/Hユニット	QJ71LP21-25	D以降	○	×
	QJ71LP21S-25	D以降	○	×
	QJ71LP21G	D以降	○	×
	QJ71BR11	D以降	○	×
	QJ72LP25-25		×	×
	QJ72LP25G		×	×
	QJ72BR15		×	×
	QJ71LP21		×	×
Ethernetユニット	QJ71E71		×	×
	QJ71E71(N1)-B2	D以降	○	○
	QJ71E71(N1)-B5	D以降	○	○
	QJ71E71-100	D以降	○	○
モデムユニット	QJ71CM0	B以降	×	○
シリアルコミュニケーションユニット	QJ71C24N		×	○
	QJ71C24N-R2		×	○
	QJ71C24N-R4		×	○
CC-Linkユニット	QJ61BT11		×	○
	QJ61BT11N		○*1	○
CC-Link IEコントローラネットワークユニット	QJ71GP21-SX	D以降	○	×
	QJ71GP21S-SX	D以降	○	×

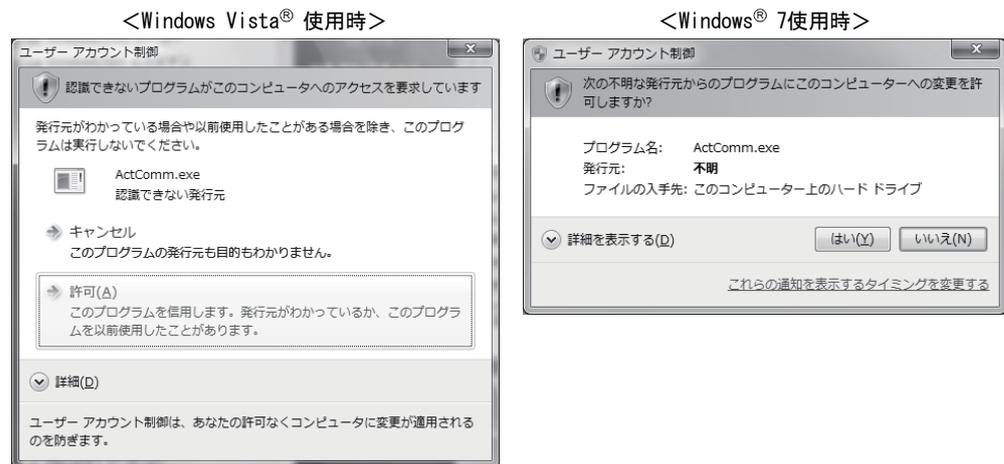
○：使用可能，×：使用不可

*1：シリアルNo. の上5桁が06052未満の場合は使用不可。

付8 Windows Vista® およびWindows® 7で表示される警告メッセージについて

付8.1 警告メッセージの概要

Windows Vista® およびWindows® 7では、ユーザーアカウント制御機能が追加されており、通信設定ユーティリティ、シーケンサモニタユーティリティを管理者として実行するときに、警告メッセージが表示されます。(4.1節参照)



付8.2 警告メッセージの抑止方法

ポイント

ユーザーアカウント制御(UAC)は、ユーザの意図しない操作を実行するプログラムの起動を防止するなど、システムの破壊などを防ぐための機能です。本設定を行う場合は、UACが提供するセキュリティ機能が働かなくなることを認識し、リスクを十分理解したうえで運用してください。

警告メッセージを抑止する方法は2つあります。

(1) ユーザーアカウント制御機能をオフする方法

ユーザーアカウント制御機能をオフする手順を以下に示します。

(a) Windows Vista® を使用する場合



① [スタート]－[コントロールパネル]を選択します。



② [ユーザーアカウント]を選択します。

(次のページへ)

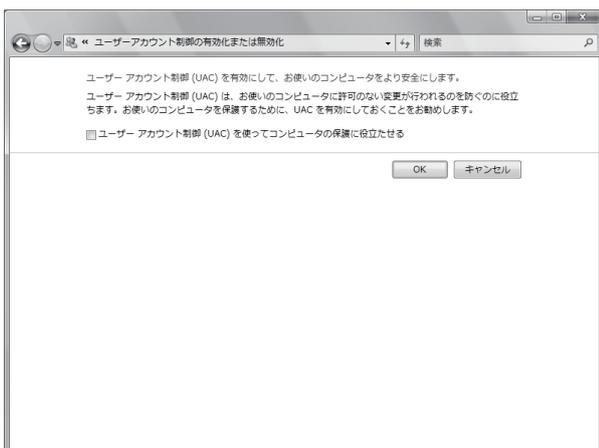
(前ページより)



③ [ユーザーアカウント]を選択します。



④ [ユーザーアカウント制御の有効化または無効化]を選択します。



⑤ [ユーザーアカウント制御 (UAC) を使ってコンピュータの保護に役立たせる]のチェックをはずし、[OK]をクリックします。



(設定完了)

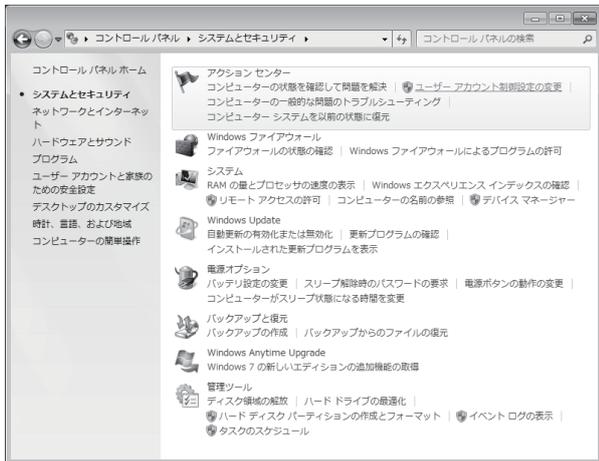
(b) Windows® 7を使用する場合



① [スタート]—[コントロールパネル]を選択します。



② [システムとセキュリティ]を選択します。

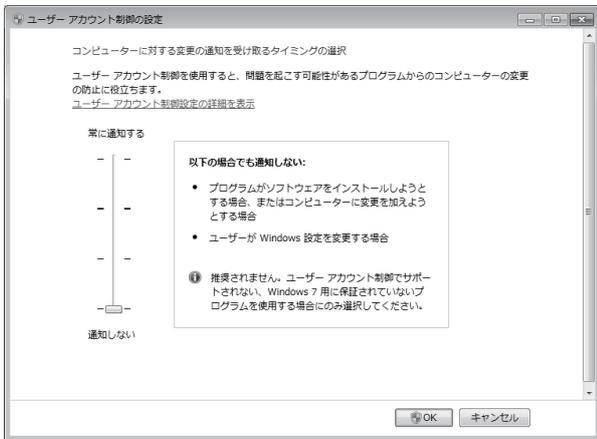


③ [ユーザーアカウント制御設定の変更]を選択します。



(次のページへ)

(前ページより)



- ④ スライダーを“通知しない”にして **OK** をクリックします。



(設定完了)

(2) 警告メッセージを出さずに許可する方法

警告メッセージを出さずに許可する手順を以下に示します。



- ① [スタート]－[コントロールパネル]を選択します。



- ② [システムとセキュリティ]を選択します。

Windows Vista® 使用時は、[クラシック表示]を選択します。

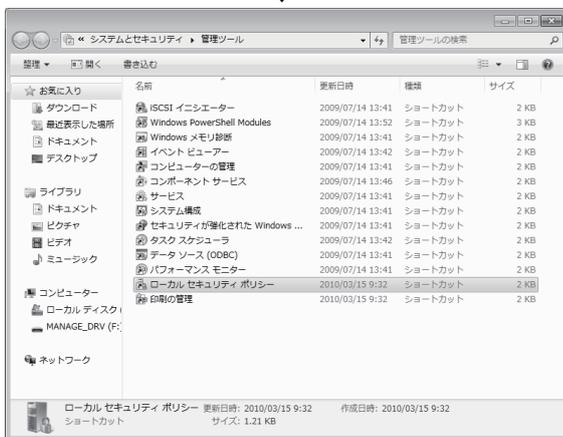


(次のページへ)

(前ページより)



③ [管理ツール]を選択します。



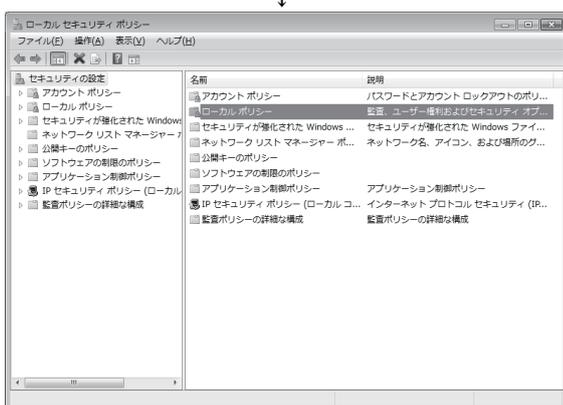
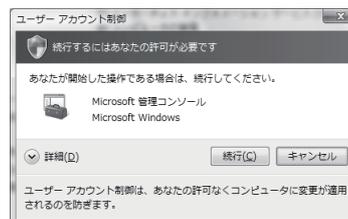
④ [ローカルセキュリティポリシー]を選択します。

*ユーザーアカウント制御が有効な場合は以下の画面が表示されます。

続行(C)またははい(Y)をクリックします。

<Windows Vista® 使用時>

<Windows® 7使用時>



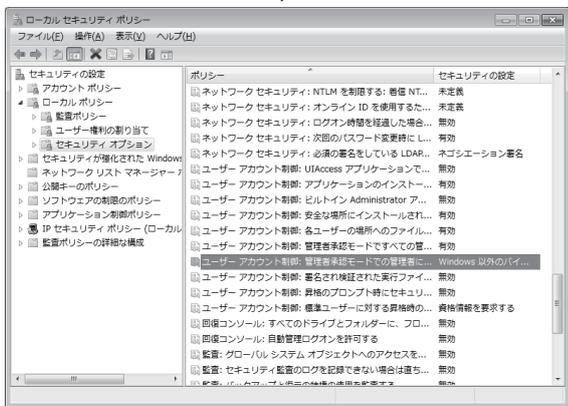
⑤ [ローカルポリシー]を選択します。

(次のページへ)

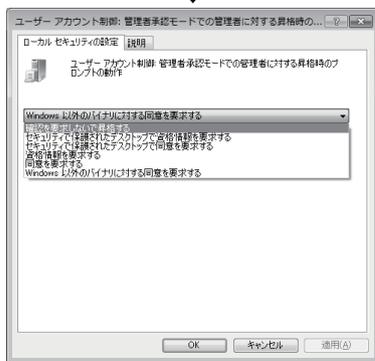
(前ページより)



⑥ [セキュリティオプション]を選択します。



⑦ [ユーザーアカウント制御:管理者承認モードでの管理者に対する昇格時のプロンプトの動作]を選択します。



⑧ 《ローカルセキュリティの設定》タブで[確認を要求しないで昇格する]を選択し、**OK** をクリックします。



(設定完了)

付9 DEP(Data Execution Prevention: データ実行防止)機能に関する制限事項

付9.1 DEPとは

DEPは、Microsoft® 社がセキュリティ向上のために、Windows® XP SP2から追加した機能です。DEPに関する詳細は、Microsoft® 社の以下の文書を参照してください。

- ① TechNet セキュリティ センターの「[HOWTO] Windows® XP SP2 におけるメモリ保護の構成方法」
<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/prodtech/windowsxp/depconfxp.msp>
- ② Microsoft® サポートオンライン 文書番号：875352
<http://support.microsoft.com/kb/875352/ja>
 (上記は2008/11/13時点のURLです。)

付9.2 発生する現象

ACTコントロールを使用したユーザアプリケーションを作成するとき、および作成したユーザアプリケーションを実行するときに、DEPの影響により問題が発生することがあります。

DEPの影響により以下の現象が発生することを確認しています。

各現象の詳細については、“付9.5 問題発生時の回避方法”を参照してください。

状況	No	現象	内容
ユーザアプリケーション作成時	1	フォームに貼り付けたACTコントロールが表示されない	Visual Studio® .NETプロジェクトを作成し、フォームにACTコントロールを貼り付けた場合、ACTコントロールが表示されません。
	2	フォームにACTコントロールを貼り付けるとVisual Studio® が終了する	Visual Studio® .NETプロジェクトを作成し、フォームにACTコントロールを貼り付けると、Visual Studio® がエラー終了します。
	3	デザイナの表示がエラーとなる	Visual Studio® .NETプロジェクトで、ACTコントロールを貼り付けたフォームを開くとエラーが発生します。
	4	デザイナの表示を行うとACTコントロールが表示されない	Visual Studio® .NETプロジェクトで、ACTコントロールを貼り付けたフォームを開くと、ACTコントロールが表示されません。
	5	デザイナの表示を行うとVisual Studio® が終了する	Visual Studio® .NETプロジェクトで、ACTコントロールを貼り付けたフォームを開くと、Visual Studio® がエラー終了します。
	6	ダイアログのテストを行うとVisual Studio® が終了する	MFCプロジェクトを作成し、ACTコントロールの貼付け後にダイアログのテストを行うと、Visual Studio® がエラー終了します。
ユーザアプリケーション実行時	7	MFCプロジェクトのプログラムを実行するとエラーが発生する	MFCプロジェクトで、フォームにACTコントロールを貼り付けたプログラムを作成し、そのプログラムを実行するとエラーが発生します。

付9.3 問題が発生するDEPの設定内容

ユーザアプリケーションの作成環境と実行環境において、使用するOS、Visual Studio® のバージョンとDEPの設定内容の組合せによっては問題が発生します。

問題が発生する組合せを以下に示します。

以下の組合せに該当する場合は、問題を回避するためのフローチャート(“付9.4 DEPの影響による問題を回避するための設定”を参照)に従い設定を行ってください。

ポイント
Windows® XP, Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版/64ビット版) とともに、変更を行っていない場合のDEPの設定は「OptIn」です。 現在の設定内容が不明な場合は、設定内容を確認してください。 (確認方法については、付9.4を参照してください。)

(1) ユーザアプリケーションの作成環境

ユーザアプリケーションの作成環境で問題が発生するDEPの設定を以下に示します。

作成環境		問題が発生するDEPの設定
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版/64ビット版)	Visual Studio® 2010	OptIn, OptOut, AlwaysOn
	Visual Studio® 2008	
	Visual Studio® 2005	AlwaysOn
Windows® XP	Visual Studio® 2010	
	Visual Studio® 2008	
	Visual Studio® 2005	

(2) ユーザアプリケーションの実行環境

Visual Studio® 2008, Visual Studio® 2010のMFCプロジェクトでユーザアプリケーションを作成した場合は、実行環境によって問題が発生します。(MFCプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)

ユーザアプリケーションの実行環境で問題が発生するDEPの設定を以下に示します。

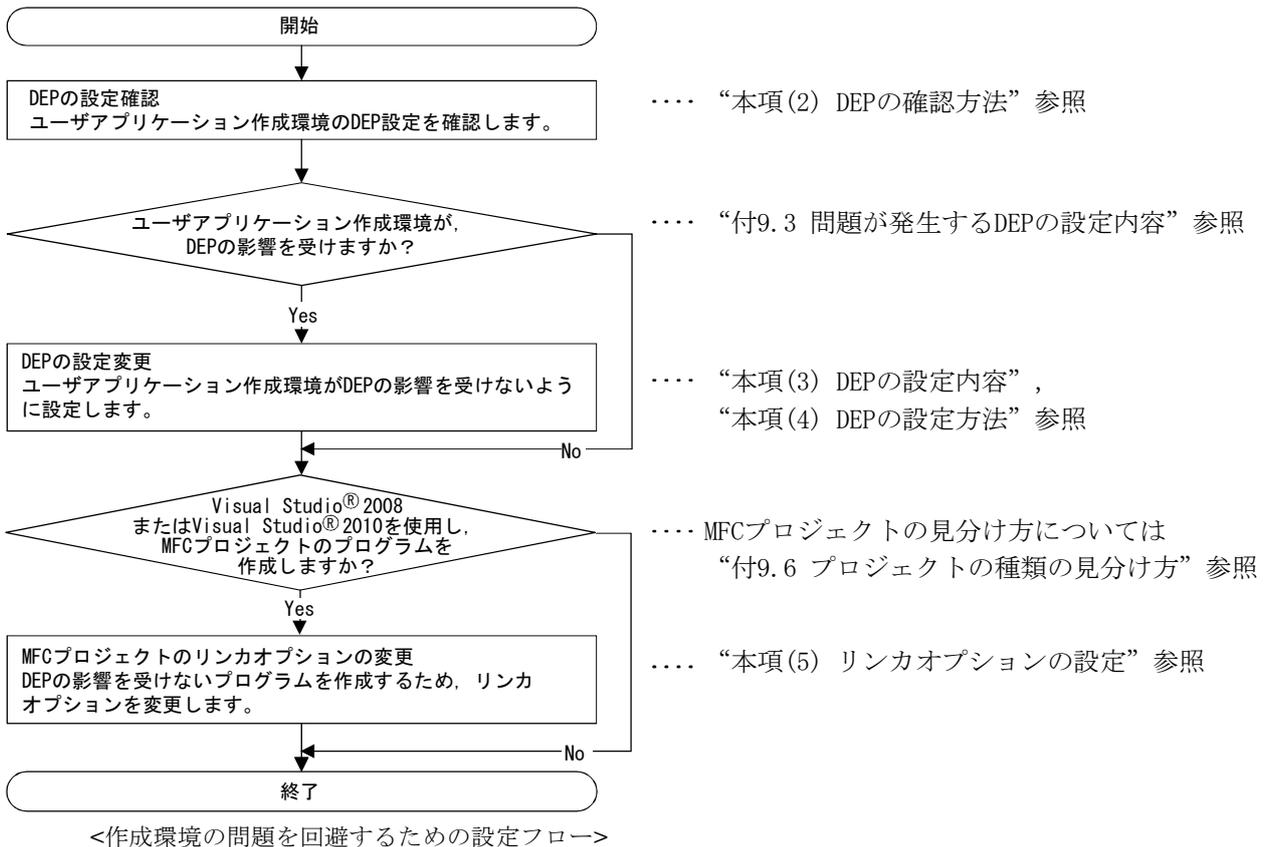
実行環境	問題が発生するDEPの設定
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	OptIn, OptOut, AlwaysOn
Windows® XP	AlwaysOn

付9.4 DEPの影響による問題を回避するための設定

(1) 問題を回避するためのフローチャート

DEPの影響による問題を回避するために、以下のフローに従い設定を行ってください。

(a) ユーザアプリケーションの作成環境



.... “本項(2) DEPの確認方法” 参照

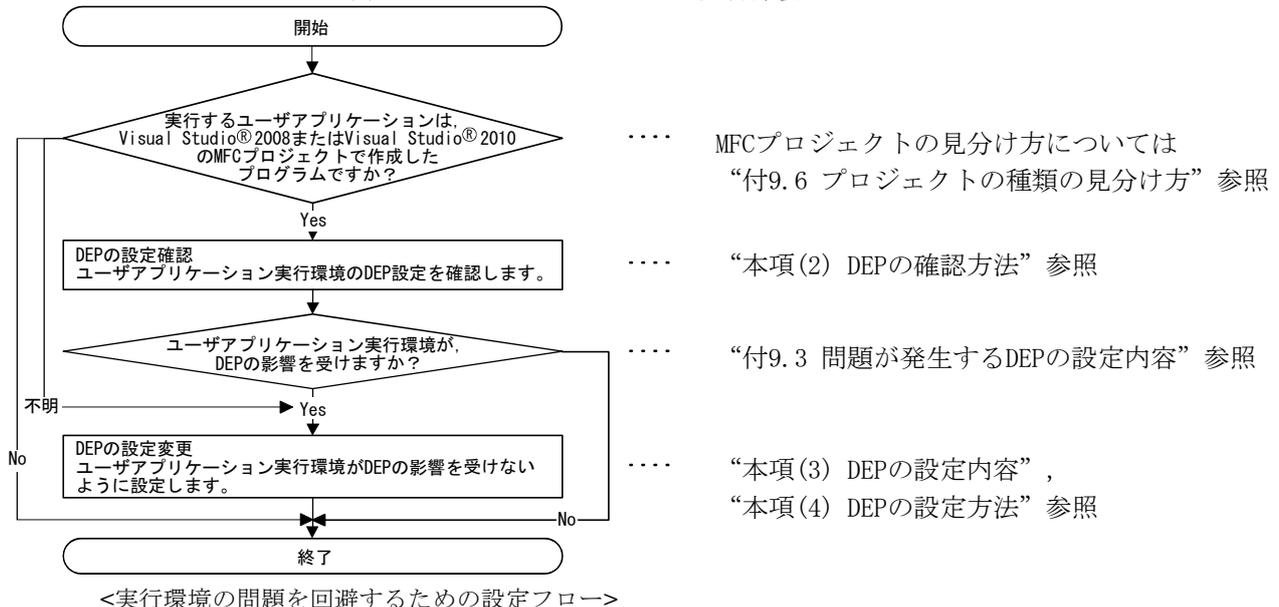
.... “付9.3 問題が発生するDEPの設定内容” 参照

.... “本項(3) DEPの設定内容” ,
“本項(4) DEPの設定方法” 参照

.... MFCプロジェクトの見分け方については
“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方” 参照

.... “本項(5) リンカオプションの設定” 参照

(b) ユーザアプリケーションの実行環境



.... MFCプロジェクトの見分け方については
“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方” 参照

.... “本項(2) DEPの確認方法” 参照

.... “付9.3 問題が発生するDEPの設定内容” 参照

.... “本項(3) DEPの設定内容” ,
“本項(4) DEPの設定方法” 参照

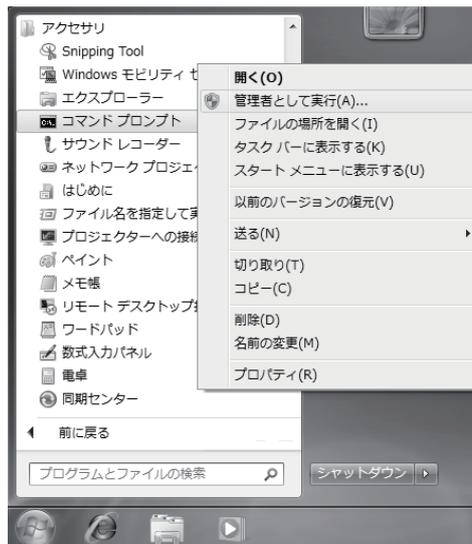
(2) DEPの確認方法

Windows® XP, Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版/64ビット版) とともに、変更を行っていない場合のDEPの設定は「OptIn」です。

現在の設定内容が不明な場合は、以下の方法で設定内容を確認してください。

(a) Windows Vista® およびWindows® 7 (32ビット版/64ビット版) の場合 Administrator権限で、以下の操作を行ってください。

- ① [スタート]—[すべてのプログラム]—[アクセサリ]を選択します。
- ② [コマンドプロンプト]で右クリックし、[管理者として実行]を選択します。



- ③ 以下のように入力します。

```
BCDEDIT
```

- ④ 下図の「nx」の行に、現在のDEPの状態が表示されます。

```

管理: コマンド プロンプト
device          partition=C:
description     Windows Boot Manager
locale          ja-JP
inherit         [globalsettings]
default         [current]
resumeobject    {4ab403b3-4d9c-11dd-9ca4-f855e80d241b}
displayorder   [current]
toolsdisplayorder [mendiag]
timeout        30

Windows ブート ローダー
-----
identifier     [current]
device         partition=C:
path           %Windows%system32%winload.exe
description    Microsoft Windows Vista
locale         ja-JP
inherit        [bootloadersettings]
osdevice       partition=C:
systemroot     %Windows%
resumeobject   {4ab403b3-4d9c-11dd-9ca4-f855e80d241b}
nx             OptIn
paef           Default

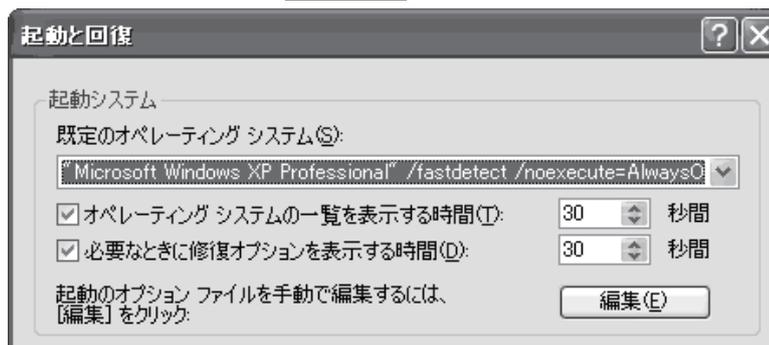
C:\%Windows%system32>

```

(b) Windows® XPの場合

Administrator権限で、以下の操作を行ってください。

- ① [スタート]—[コントロールパネル]を選択します。
- ② “作業する分野を選びます”の“パフォーマンスとメンテナンス”を選択します。
- ③ “コントロールパネルを選んで実行します”の“システム”を選択します。
- ④ 《詳細設定》タブの“起動と回復”の **設定(I)** をクリックします。
- ⑤ “起動システム”の **編集(E)** をクリックします。



⑥ boot.iniファイルの[operating systems]の次の行を参照してください。

```
boot.ini - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINDOWS
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINDOWS="Microsoft Windows XP Professional" /fastdetect /noexecute=AlwaysOff
```

*1

*1：環境により異なる場合があります。

「multi...」の行の記述内容からDEPの状態を調べます。以下の表を参照してください。

boot.iniの記述	DEPの状態
「/noexecute=」の記述がない場合	OptIn
「/noexecute=OptIn」の場合	OptIn
「/noexecute=OptOut」の場合	OptOut
「/noexecute=AlwaysOn」の場合	AlwaysOn
「/noexecute=AlwaysOff」の場合	AlwaysOff

(3) DEPの設定内容

DEPの影響による問題を回避するための設定内容を以下に示します。

(a) ユーザアプリケーションの作成環境

ユーザアプリケーションを作成する環境では、DEPを以下のように設定してください。

作成環境		DEPの設定
Windows Vista [®] , Windows [®] 7 (32ビット版/64ビット版)	Visual Studio [®] 2010	AlwaysOff
	Visual Studio [®] 2008	
	Visual Studio [®] 2005	
Windows [®] XP	Visual Studio [®] 2010	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)
	Visual Studio [®] 2008	
	Visual Studio [®] 2005	

(b) ユーザアプリケーションの実行環境

Visual Studio[®] 2008, Visual Studio[®] 2010のMFCプロジェクトでユーザアプリケーションを作成した場合は、実行環境のDEPを以下のように設定してください。

DEPの設定とリンカオプションの変更（プログラムを再作成します）により、問題を回避できます。

- ① リンカオプションを変更してユーザアプリケーションを作成できる場合
MFCプロジェクトのプロパティページ（[リンカ]－[詳細]－[データ実行防止 (DEP)]）で“イメージはDEPと互換性がない（/NXCOMPAT:NO）”を設定し、ユーザアプリケーションを作成します。

DEPは以下のように設定してください。

実行環境	DEPの設定
Windows Vista [®] , Windows [®] 7 (32ビット版)	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)
Windows [®] XP	

- ② リンカオプションの変更ができない場合

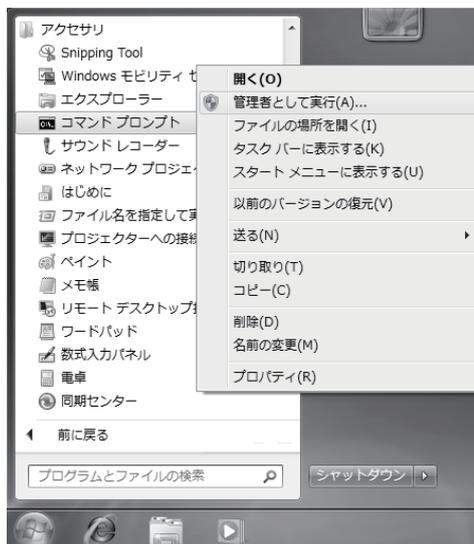
リンカオプションの変更ができない場合（プログラムの再作成ができない場合）は、DEPを“AlwaysOff”に設定してください。

実行環境	DEPの設定
Windows Vista [®] , Windows [®] 7 (32ビット版)	AlwaysOff
Windows [®] XP	

(4) DEPの設定方法

(a) Windows Vista® およびWindows® 7 (32ビット版/64ビット版) の場合 Administrator権限で、以下の操作を行ってください。

- ① [スタート]—[すべてのプログラム]—[アクセサリ]を選択します。
- ② [コマンドプロンプト]で右クリックし、[管理者として実行]を選択します。



③ 以下のコマンドを実行します。

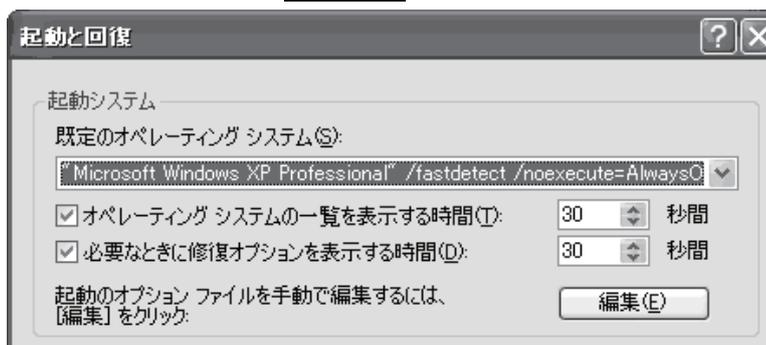
設定するDEPの状態	実行するコマンド
OptInに設定する場合	BCDEDIT /SET nx OptIn
OptOutに設定する場合	BCDEDIT /SET nx OptOut
AlwaysOffに設定する場合	BCDEDIT /SET nx AlwaysOff

④ パソコンを再起動します。

(b) Windows® XPの場合

Administrator権限で、以下の操作を行ってください。

- ① [スタート]—[コントロールパネル]を選択します。
- ② “作業する分野を選びます”の“パフォーマンスとメンテナンス”を選択します。
- ③ “コントロールパネルを選んで実行します”の“システム”を選択します。
- ④ 《詳細設定》タブの“起動と回復”の **設定(T)** をクリックします。
- ⑤ “起動システム”の **編集(E)** をクリックします。



```

boot.ini - メモ帳
ファイル(F) 編集(E) 書式(O) 表示(V) ヘルプ(H)
[boot loader]
timeout=30
default=multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINDOWS
[operating systems]
multi(0)disk(0)rdisk(0)partition(1)¥WINDOWS="Microsoft Windows XP Professional" /fastdetect /noexecute=AlwaysOff

```

*1

*1：環境により異なる場合があります。

⑥ boot.iniファイルを以下のように編集します。

boot.iniの記述	編集方法
「/noexecute=」の記述がない場合	[operating systems]の次の行、「multi...」の最後に、以下の記述を追加します。 OptOutに変える場合「/noexecute=OptOut」 AlwaysOffに変える場合「/noexecute=AlwaysOff」
「/noexecute=」の記述がある場合	「/noexecute=」の後を、設定するDEP状態に置き換えます。 OptInに変える場合「/noexecute=OptIn」 OptOutに変える場合「/noexecute=OptOut」 AlwaysOffに変える場合「/noexecute=AlwaysOff」

ポイント

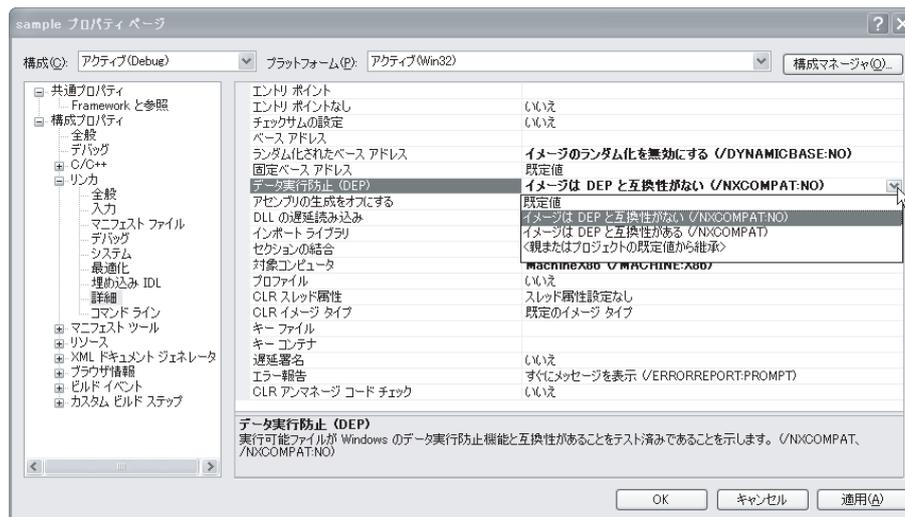
boot.ini編集は、間違えないように行ってください。間違えた場合、DEPはデフォルト値 (OptIn) となります。
また、上記以外の部分を編集しないでください。編集した場合、Windows® XPが起動できなくなる場合があります。

- ⑦ メモ帳の[ファイル]－[上書き保存]を選択します。
- ⑧ メモ帳を終了します。
- ⑨ 起動と回復ダイアログボックスの をクリックして閉じます。
- ⑩ システムのプロパティダイアログボックスの をクリックして閉じます。
- ⑪ パソコンを再起動します。

(5) リンカオプションの設定

Visual Studio® 2008, Visual Studio® 2010でMFCプロジェクトのプログラムを作成する場合は、以下の設定を行ったあとにプログラムのビルドを行います。(MFCプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)

- ① MFCプロジェクトのプロパティページにてデータ実行防止 (DEP) を設定します。
 <Visual Studio® 2008の場合>
 [リンカ] - [詳細] - [データ実行防止 (DEP)] で “イメージはDEPと互換性がない (/NXCOMPAT:NO)” を設定します。



- <Visual Studio® 2010の場合>
 [リンカ] - [詳細設定] - [データ実行防止 (DEP)] で, “いいえ (/NXCOMPAT:NO)” を設定します。



- ② プログラムのビルドを行います。

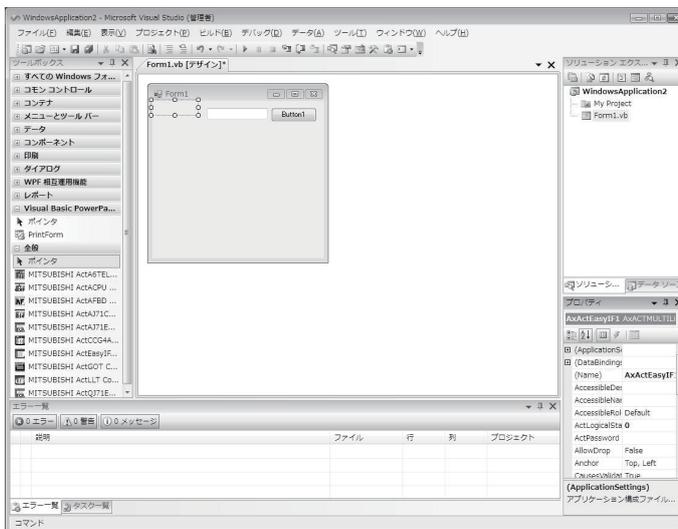
付9.5 問題発生時の回避方法

DEPの影響により発生する現象ごとに、問題の発生条件と回避方法を示します。

(1) フォームに貼り付けたACTコントロールが表示されない現象

(a) 現象

Visual Studio® .NETプロジェクトのプログラムを作成する場合に、デザイナーでACTコントロールをフォームに貼り付けても、ACTコントロールは表示されません。選択時に枠線のみが表示されます。(Visual Studio® .NETプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



(b) 発生条件

DEPがACTコントロールに対して有効な場合に、Visual Studio® .NETプロジェクトでACTコントロールをフォームに貼り付けると発生します。DEPが有効な場合を以下に示します。

作成環境		DEPの設定	
		OptIn, OptOut	AlwaysOn
Windows® 7 (64ビット版)	Visual Studio® 2010	○	○
	Visual Studio® 2008	○	
	Visual Studio® 2005	—	
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2008	○	○
	Visual Studio® 2005	—	
Windows® XP	Visual Studio® 2008	—	○
	Visual Studio® 2005	—	

○：発生する —：発生しない

(c) 回避方法

DEPを以下のように設定し、回避してください。

作成環境		DEPの設定
Windows® 7 (64ビット版)	Visual Studio® 2010	AlwaysOff
	Visual Studio® 2008	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)
	Visual Studio® 2005	
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2008	AlwaysOff
	Visual Studio® 2005	AlwaysOn以外
Windows® XP	Visual Studio® 2008	AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)
	Visual Studio® 2005	

DEPの設定を変更できない場合は、ACTコントロールを貼り付けない方法（参照設定）で作成すると回避できます。

(2) フォームにACTコントロールを貼り付けるとVisual Studio® が終了する現象

(a) 現象

Visual Studio® .NETプロジェクトのプログラムを作成する場合に、デザイナーで、ACTコントロールをフォームに貼り付けると、以下のダイアログボックスが表示され、Visual Studio® が終了します。

デバッグを実行した場合は、例外 (0xC0000005:Access violation) が発生し終了します。(Visual Studio® .NETプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



(b) 発生条件

DEPがACTコントロールに対して有効な場合に、Visual Studio® .NETプロジェクトで、ACTコントロールをフォームに貼り付けると発生します。

DEPが有効なため問題が発生する場合を以下に示します。

作成環境		DEPの設定	
		OptIn, OptOut	AlwaysOn
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2010	○	○
Windows® XP	Visual Studio® 2010	—	

○：発生する —：発生しない

(c) 回避方法

DEPを以下のように設定して回避してください。

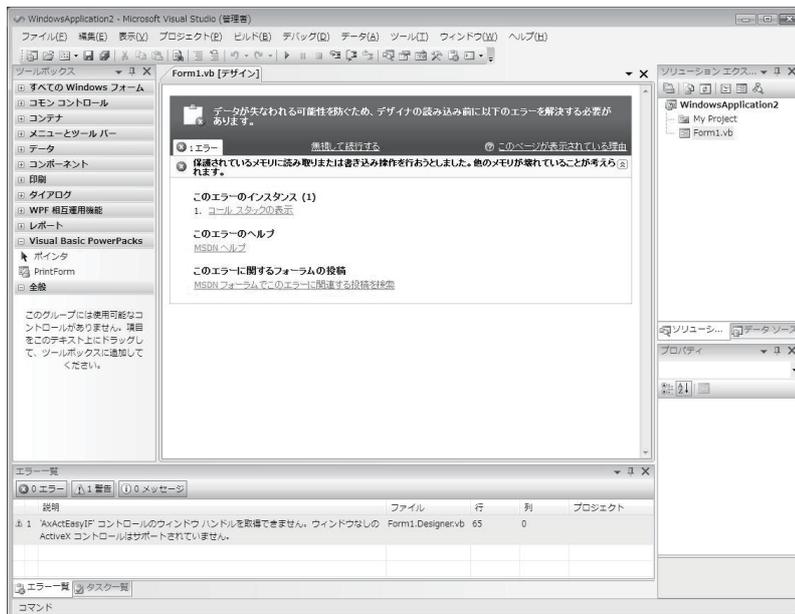
作成環境		DEPの設定
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2010	AlwaysOff
Windows® XP	Visual Studio® 2010	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)

DEPの設定を変更できない場合は、ACTコントロールを貼り付けない方法（参照設定）で作成すると回避できます。

(3) デザイナの表示がエラーとなる現象

(a) 現象

Visual Studio® .NETプロジェクトのプログラムを作成する場合に、ACTコントロールを貼り付けたフォームをデザイナーで開くとエラーとなる現象が発生します。(Visual Studio® .NETプロジェクトの見分け方については、“付9.6プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



(b) 発生条件

DEPがACTコントロールに対して有効な場合に、Visual Studio® .NETプロジェクトでACTコントロールが貼り付けてあるフォームをデザイナーで表示すると発生します。

DEPが有効な場合を以下に示します。

作成環境		DEP設定	
		OptIn, OptOut	AlwaysOn
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2008	○	○
	Visual Studio® 2005		
Windows® XP	Visual Studio® 2008	—	○
	Visual Studio® 2005		

○：発生する —：発生しない

(c) 回避方法

DEPを以下のように設定し、回避してください。

作成環境		DEPの設定
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2008	AlwaysOff
	Visual Studio® 2005	AlwaysOn以外
Windows® XP	Visual Studio® 2008	(AlwaysOnの場合:OptInに変更する
	Visual Studio® 2005	AlwaysOn以外の場合:変更不要)

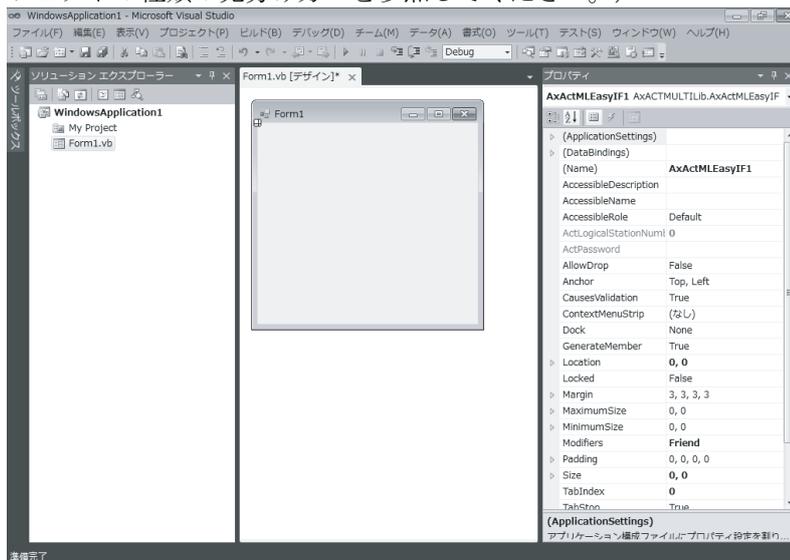
DEPの設定を変更できない場合は、ACTコントロールを貼り付けない方法（参照設定）で作成すると回避できます。

(4) デザイナの表示を行うとACTコントロールが表示されない現象

(a) 現象

Visual Studio® .NETプロジェクトのプログラムを作成する場合に、ACTコントロールを貼り付けたフォームをデザイナーで開くと、ACTコントロールが表示されません。選択時に枠線のみが表示されます。

(Visual Studio® .NETプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



(b) 発生条件

DEPがACTコントロールに対して有効な場合に、Visual Studio® .NETプロジェクトで、ACTコントロールが貼り付けてあるフォームをデザイナーで表示すると発生します。

DEPが有効なため問題が発生する場合を以下に示します。

作成環境		DEP設定	
		Opt In, OptOut	AlwaysOn
Windows® 7 (64ビット版)	Visual Studio® 2010	○	○
	Visual Studio® 2008		
	Visual Studio® 2005	—	

(c) 回避方法

DEPを以下のように設定し回避してください。

作成環境		DEPの設定
Windows® 7 (64ビット版)	Visual Studio® 2010	AlwaysOff
	Visual Studio® 2008	
	Visual Studio® 2005	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:Opt Inに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)

DEPの設定を変更できない場合は、ACTコントロールを貼り付けない方法（参照設定）で作成すると回避できます。

(5) デザイナの表示を行うとVisual Studio® が終了する現象

(a) 現象

Visual Studio® .NETプロジェクトのプログラムを作成する場合に、ACTコントロールを貼り付けたフォームをデザイナーで開くと以下のダイアログボックスが表示され、Visual Studio® が終了します。

デバッグを実行した場合は、例外 (0xC0000005:Access violation) が発生し終了します。

(Visual Studio® .NETプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



(b) 発生条件

DEPがACTコントロールに対して有効な場合に、Visual Studio® .NETプロジェクトで、ACTコントロールが貼り付けてあるフォームをデザイナーで表示すると発生します。

DEPが有効なため問題が発生する場合を以下に示します。

作成環境		DEP設定	
		OptIn, OptOut	AlwaysOn
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2010	○	○
Windows® XP	Visual Studio® 2010	—	

(c) 回避方法

DEPを以下のように設定し、回避してください。

作成環境		DEPの設定
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2010	AlwaysOff
Windows® XP	Visual Studio® 2010	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)

DEPの設定を変更できない場合は、ACTコントロールを貼り付けない方法 (参照設定) で作成すると回避できます。

(6) ダイアログのテストを行うとVisual Studio® が終了する現象

(a) 現象

MFCプロジェクトのプログラムを作成する場合に、ダイアログのテストを行うとVisual Studio® が終了します。(MFCプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



(b) 発生条件

DEPがACTコントロールに対して有効な場合に、MFCプロジェクトのプログラムを作成し、ACTコントロールをフォームに貼り付けたあとにダイアログのテストを行うと発生します。

DEPが有効な場合を以下に示します。

作成環境		DEP設定	
		OptIn, OptOut	AlwaysOn
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2010	○	○
	Visual Studio® 2008		
	Visual Studio® 2005		
Windows® XP	Visual Studio® 2010	-	
	Visual Studio® 2008		
	Visual Studio® 2005		

○：発生する -：発生しない

(c) 回避方法

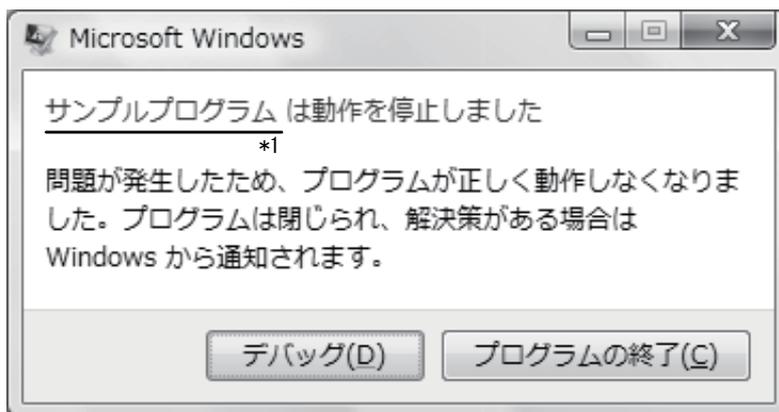
DEPを以下のように設定し、回避してください。

作成環境		DEP設定
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	Visual Studio® 2010	AlwaysOff
	Visual Studio® 2008	
	Visual Studio® 2005	
Windows® XP	Visual Studio® 2010	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)
	Visual Studio® 2008	
	Visual Studio® 2005	

(7) MFCプロジェクトのプログラムを実行するとエラーが発生する現象

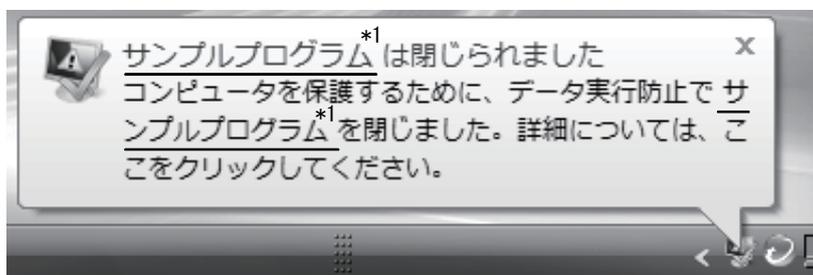
(a) 現象

MFCプロジェクトでフォームにACTコントロールを貼り付けたプログラムを作成して実行すると、以下のダイアログボックスが表示され動作が停止します。また、Visual Studio® 2008, Visual Studio® 2010でデバッグを実行した場合は、例外 (0xC0000005:Access violation) が発生して終了します。(MFCプロジェクトの見分け方については、“付9.6 プロジェクトの種類の見分け方”を参照してください。)



*1：プログラム名は、リソースのVS_VERSION_INFOのFileDescriptionで設定した文字列となります。

「プログラムの終了(C)」をクリックすると、タスクバーに「コンピュータを保護するために、データ実行防止でプログラム*1を閉じました」と表示されます。



*1：プログラム名は、リソースのVS_VERSION_INFOのFileDescriptionで設定した文字列となります。

(b) 発生条件

MFCプロジェクトでフォームにACTコントロールを貼り付けてプログラムを作成した場合、以下の条件に該当すると発生します。

実行環境	DEPの設定	
	OptIn, OptOut	AlwaysOn
Windows Vista®, Windows® 7 (32ビット版)	プログラム作成 (ビルド) 時に、プロジェクトのプロパティページでリンカの設定「データ実行防止 (DEP)」が「イメージはDEPと互換性がある」となっていた場合のみ発生	○
Windows® XP	—	

○：発生する —：発生しない

(c) 回避方法

DEPの設定とリンカオプションの変更（プログラムを再作成します）により、回避してください。

- ① リンカオプションを変更してユーザアプリケーションを作成できる場合
MFCプロジェクトのプロパティページ（[リンカ]－[詳細]－[データ実行防止 (DEP)]）で“イメージはDEPと互換性がない（/NXCOMPAT:NO）”を設定し、ユーザアプリケーションを作成します。

DEPは以下のように設定してください。

実行環境	DEPの設定
Windows Vista [®] , Windows [®] 7 (32ビット版)	AlwaysOn以外 (AlwaysOnの場合:OptInに変更する AlwaysOn以外の場合:変更不要)
Windows [®] XP	

- ② リンカオプションの変更ができない場合
リンカオプションの変更ができない（プログラムの再作成ができない）場合は、DEPを“AlwaysOff”に設定してください。

実行環境	DEPの設定
Windows Vista [®] , Windows [®] 7 (32ビット版)	AlwaysOff
Windows [®] XP	

付9.6 プロジェクトの種類の見分け方

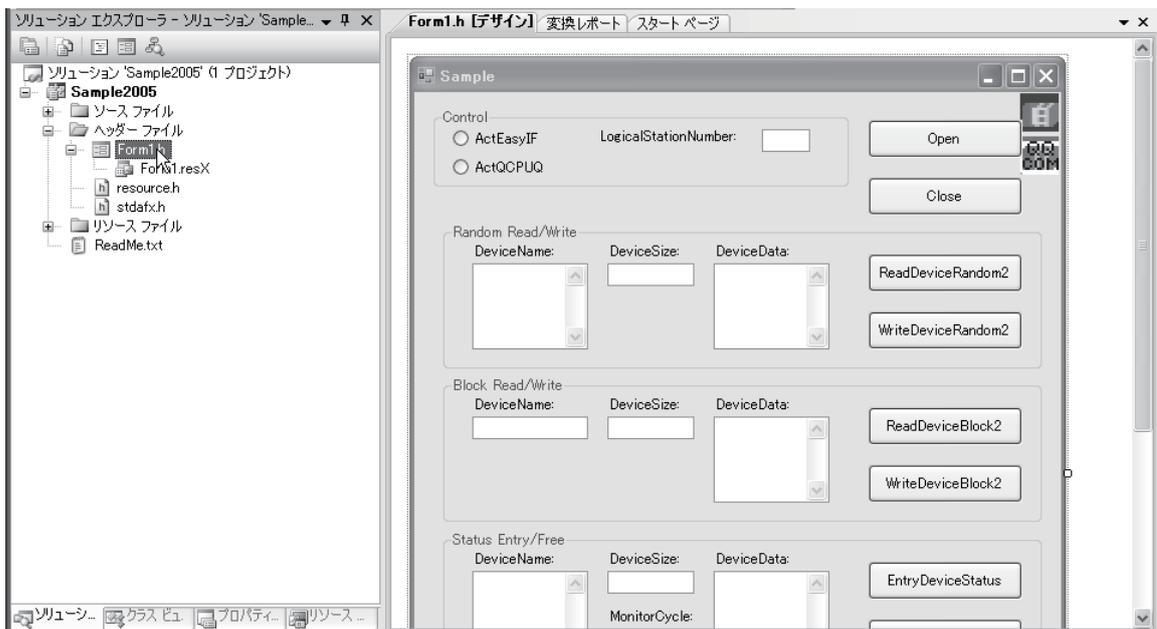
プロジェクトの種類は、デザイナのフォームの開き方で見分けます。

以下に、Visual Studio® .NETプロジェクトとMFCプロジェクトの場合をそれぞれ示します。

(1) Visual Studio® .NETプロジェクト

「ソリューションエクスプローラ」でフォーム (.hファイルまたは.vbファイル) をダブルクリックします。

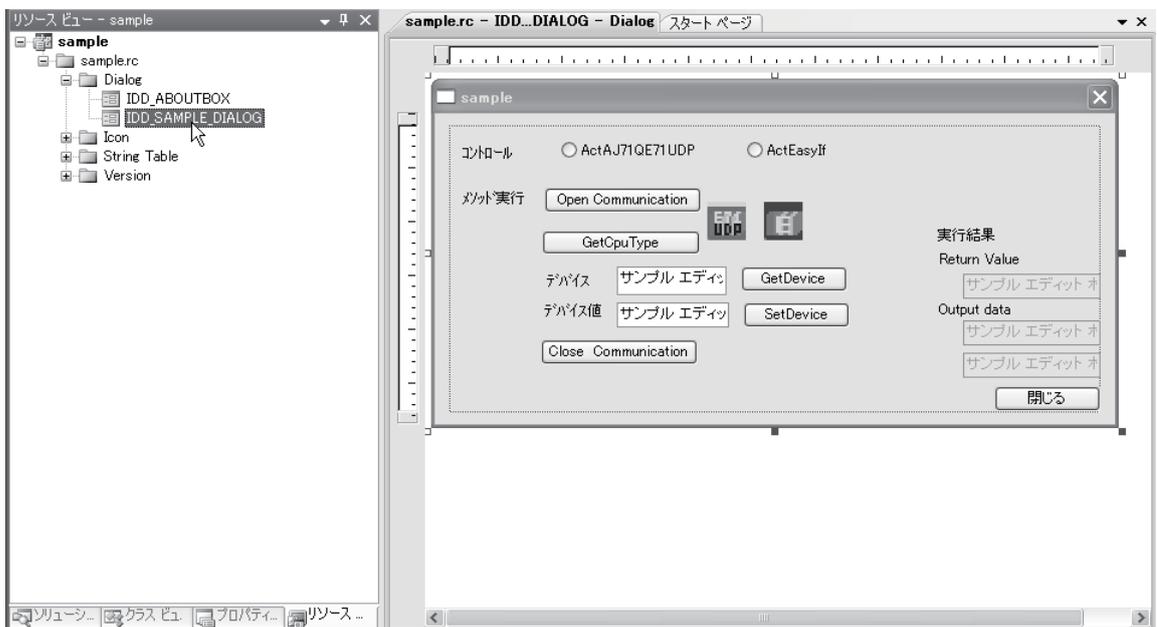
本方法でフォームを開く場合は、Visual Studio® .NETプロジェクトです。



(2) MFCプロジェクト

「リソースビュー」で、ダイアログのリソースIDをダブルクリックします。

本方法でフォームを開く場合は、MFCプロジェクトです。

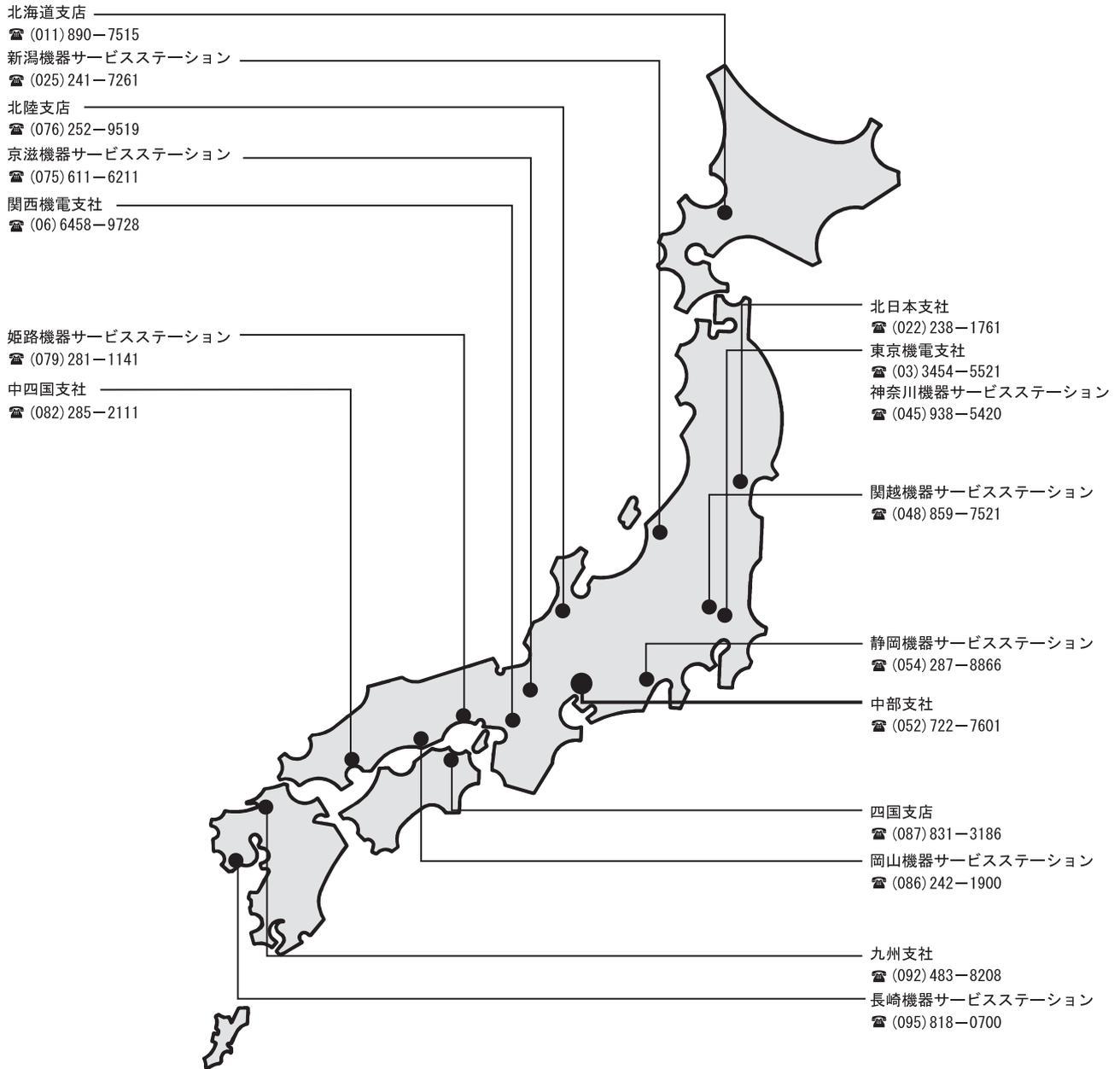


付10 参考図書

参考図書を以下に示します。

タイトル	発行所	ISBN
パワープログラミングDCOM	ソフトバンク株式会社	ISBN 4-7973-0586-X
Inside COM	株式会社アスキー	ISBN 4-7561-2176-4
ActiveX Controls Inside Out	株式会社アスキー	ISBN 4-7561-2180-2
ATLプログラミング	ソフトバンク株式会社	ISBN 4-7973-0689-0
Essential COM	株式会社アスキー	ISBN 4-7561-3066-6
Effective COM	株式会社アスキー	ISBN 4-7561-3166-2

サービスネットワーク（三菱電機システムサービス株式会社）



Microsoft, Windows, Windows NT, Windows Vistaは、米国Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標です。
Pentiumは、Intel Corporationの米国およびその他の国における商標です。
Ethernetは、米国Xerox Corporationの商標です。
PC98-NXは、日本電気株式会社の登録商標です。
その他、本文中における会社名、商品名は、各社の商標または登録商標です。

MX Component Version 3

オペレーティングマニュアル



三菱電機株式会社

〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)

お問い合わせは下記へどうぞ

本社機器営業部	〒100-8310 東京都千代田区丸の内2-7-3(東京ビル)	(03)3218-6760
北海道支社	〒060-8693 札幌市中央区北二条西4-1(北海道ビル)	(011)212-3794
東北支社	〒980-0011 仙台市青葉区上杉1-17-7(仙台上杉ビル)	(022)216-4546
関東支社	〒330-6034 さいたま市中央区新都心11-2(明治安田生命さいたま新都心ビル)	(048)600-5835
新潟支店	〒950-8504 新潟市中央区東大通2-4-10(日本生命ビル)	(025)241-7227
神奈川支社	〒220-8118 横浜市西区みなとみらい2-2-1(横浜ランドマークタワー)	(045)224-2624
北陸支社	〒920-0031 金沢市広岡3-1-1(金沢パークビル)	(076)233-5502
中部支社	〒451-8522 名古屋市西区牛島町6-1(名古屋ルーセントタワー)	(052)565-3314
豊田支店	〒471-0034 豊田市小坂本町1-5-10(矢作豊田ビル)	(0565)34-4112
関西支社	〒530-8206 大阪市北区堂島2-2-2(近鉄堂島ビル)	(06)6347-2771
中国支社	〒730-8657 広島市中区中町7-32(ニッセイ広島ビル)	(082)248-5348
四国支社	〒760-8654 高松市寿町1-1-8(日本生命高松駅前ビル)	(087)825-0055
九州支社	〒810-8686 福岡市中央区天神2-12-1(天神ビル)	(092)721-2247

三菱 FA

www.MitsubishiElectric.co.jp/fa/

メンバー
登録無料!

インターネットによる情報サービス「三菱電機FAサイト」

三菱電機FAサイトでは、製品や事例などの技術情報に加え、トレーニングスクール情報や各種お問い合わせ窓口をご提供しています。また、メンバー登録いただくとマニュアルやCADデータ等のダウンロード、eラーニングなどの各種サービスをご利用いただけます。

三菱電機FA機器電話、FAX技術相談

●電話技術相談窓口 受付時間※1 月曜～金曜 9:00～19:00、土曜・日曜・祝日 9:00～17:00

対象機種	電話番号
MELSEC-Q/L/QnA/Aシーケンサー一般(下記以外)	052-711-5111
MELSEC-F FX/Fシーケンサー全般	052-725-2271※2
ネットワークユニット/シリアルコミュニケーションユニット	052-712-2578
アナログユニット/温調ユニット/温度入力ユニット/高速カウンタユニット	052-712-2579
MELSOFT シーケンサプログラミングツール	MELSOFT GXシリーズ SW□IVD-GPPA/GPPQなど
MELSOFT 統合エンジニアリング環境	MELSOFT iQ Works (Navigator)
MELSOFT 通信支援ソフトウェアツール	MELSOFT MXシリーズ SW□D5F-CSKP/OLEX/XMOPなど
MELSEC/パソコンボード	Q80BDシリーズなど
C言語コントローラ/MESインタフェースユニット/高速データロガーユニット	
MELSEC計装/Q二重化	プロセスCPU 二重化CPU
MELSEC Safety	MELSOFT PXシリーズ 安全シーケンサ(MELSEC-QSシリーズ) 安全コントローラ(MELSEC-WSシリーズ)
電力計測/絶縁監視ユニット	QE8□シリーズ GOT-F900/DUシリーズ GOT1000/A900シリーズなど
表示器	MELSOFT GTシリーズ MELSERVOシリーズ
サーボ/位置決めユニット/モーションコントローラ	位置決めユニット/シンプルモーションユニット モーションCPU(Q/Aシリーズ)
インバータ	MELSOFT MTシリーズ/MRシリーズ
ロボット	FREQROLシリーズ MELFAシリーズ

※1: 春季・夏季・年末年始の休日を除く ※2: 金曜は17:00まで ※3: 土曜・日曜・祝日を除く

●FAX技術相談窓口 受付時間※4 9:00～16:00(受信は常時※5)

対象機種	FAX番号
上記電話技術相談対象機種	052-719-6762
電力計測/絶縁監視ユニット(QE8□シリーズ)	084-926-8340

三菱電機FAサイトの「仕様・機能に関するお問い合わせ」もご利用ください。
※4: 土曜・日曜・祝日、春季・夏季・年末年始の休日を除く ※5: 春季・夏季・年末年始の休日を除く

形名	MELS3-ACTJ-O-J
形名コード	13JV60
SH(名)-080274-S(1305)KWIX	

本マニュアルは、輸出する場合、経済産業省への役務取引許可申請は不要です。